

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第146集

や ま だ
山 田 遺 跡

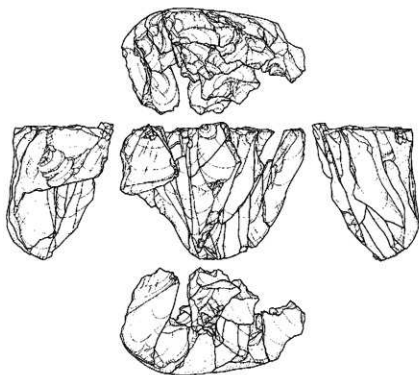
一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

やま だ
山 田 遺 跡

一般国道 218 号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (3)



2007



巻頭図版1 南上空からの山田遺跡（右後方は行轅山）



巻頭図版2 弥生時代 1号周溝墓と竪穴住居跡



巻頭図版3 調査区北部の出土状況（橙色火山灰層は上位K-Ah、下位AT）
 手前：旧石器時代Ⅲ期の遺構・遺物、奥：旧石器時代Ⅰ期の遺物、土層：縄文時代早期の炉穴群断面



巻頭図版4 石器接合資料
 左 旧石器時代Ⅰ期出土 右 旧石器時代Ⅲ期出土

序

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

宮崎県教育委員会では、一般国道218号北方延岡道路建設事業に伴い、山田遺跡の発掘調査を行いました。本書はその報告書です。山田遺跡では旧石器時代、縄文時代、弥生時代、中世の遺構・遺物が検出されました。特に弥生時代の周溝墓や多数の旧石器時代の遺物を検出したことは注目されます。

こうした先人の歩みを振り返り、郷土の歴史を解明する貴重な資料が得られたことは、大きな成果と言えるでしょう。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々々に心からの謝意を表します。

平成19年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 清野 勉

例 言

1. 本書は一般国道218号北方延岡道路の建設に伴い、宮崎県教育委員会が主体となり宮崎県埋蔵文化財センターが行った山田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国土交通省九州地方建設局延岡工事事務所（現国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所）の依頼を受けた宮崎県教育委員会が主となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査の期間は次のとおりである。

山田遺跡	第一次調査	平成14年 9月25日から平成15年 3月27日
	第二次調査	平成15年 5月 8日から平成15年10月 7日
	第三次調査	平成15年10月28日から平成16年 3月26日
	第四次調査	平成16年 5月14日から平成16年 7月28日
4. 現地での実測、写真撮影等の記録はおもに赤崎広志、柳田裕三、佐竹智光が行い、本書に使用した遺物写真は、赤崎が撮影した。遺跡全景や遺構の空中写真は九州航空株式会社、有限会社スカイサーベイに委託し、基準点測量、グリッド杭設定は株式会社エースコンサルタントに委託した。
5. 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。遺構図面の作成、トレースはおもに赤崎、佐竹が行い、遺物実測、トレースは整理作業員の協力を得て赤崎が行った。また、一部の石器実測を大成エンジニアリング株式会社とアジア航測株式会社に委託し、自然科学分析については古環境研究所に委託した。フローテーション作業については整理作業員の協力を得て柳田が行い、土器胎土鉱物分析については測定を宮崎県工業技術センターに依頼し赤崎が分析した。
6. 本書で使用した位置図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図を基に作成し、周辺地形図は延岡市発行の2千5百分の1延岡都市計画基本図を基に作成した。
7. 土層断面および土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局ならびに財団法人日本色彩研究所監修の『新版標準土色帖』に拠った。
8. 本書で使用した方位は、磁北であり、座標北を用いたものはGNと表記する。レベルは海拔絶対高である。国土座標は世界測地系を使用している。
9. 本書では、遺構に次の略号を使用している。

堅穴住居跡-S A	掘立柱建物跡-S B	土坑-S C	土壇墓-S D	溝状遺構-S E
集石遺構・礫群-S I	周溝墓-S M	炉穴-S P	不明遺構-S Z	
10. 本書では、石器観察表等に使用する石材に次の略号を使用している。

頁岩源ホルンフェルス-H 1	砂岩源ホルンフェルス-H 2	砂泥互層源ホルンフェルス-H 3			
砂岩-S S	頁岩-S h	千枚岩-P h	緑色凝灰岩類-G T	赤色頁岩-R S	チャート-C h
白色系流紋岩類-R 1	黒色系流紋岩類-R 2 a	R 2 b	R 2 c	暗灰色系流紋岩類-R 3, R 3 s	
流紋岩源ホルンフェルス-R 1 f	黒曜石-O b	行轡山花崗斑岩-G P	無斑晶安山岩-S n		
水晶(透明)-Q z A	石英(乳白色)-Q z B	阿蘇溶結凝灰岩-W T			
11. 本書の執筆は第I章第1節を松林豊樹が行い、そのほかの執筆と編集は赤崎がおこなった。
12. 出土遺物・その他諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第I章	はじめに	
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織	1
第3節	位置と環境	2
第II章	遺跡の概要	
第1節	調査の経過	6
第2節	遺跡の層序	8
第III章	調査の記録	
第1節	旧石器時代I期(Xb~XI層)の遺構と遺物	
1	炭化物集中部	13
2	石器	13
第2節	旧石器時代II期(Xa層)の遺構と遺物	
1	磔群	37
2	石器	37
第3節	旧石器時代III期(VII~VIII層)の遺構と遺物	
1	炭化物集中部	41
2	磔群	46
3	石器	47
第4節	旧石器時代IV期(VI層)の遺構と遺物	
1	陥し穴状遺構	74
2	石器	84
第5節	縄文時代早期の遺構と遺物	
1	集石遺構と散磔	89
2	炉穴群	110
3	円形配石遺構	138
4	竪穴状遺構	143
5	土坑、配石・集石遺構など	146
6	包含層出土の遺物	152
第6節	縄文時代晩期の遺構と遺物	
1	土坑	176
2	遺物	176
第7節	弥生時代の遺構と遺物	
1	竪穴住居跡	183
2	周溝墓	183
3	土塚墓	192
4	土坑	193
5	土坑・包含層出土の遺物	193
第8節	中世の遺構と遺物	
1	掘立柱建物跡	195
2	溝状遺構	195
3	中世の遺物	195
第9節	その他の遺構と遺物	
1	不明遺構	200
2	その他の遺物	202
第IV章	自然科学分析	
1	第一次調査における自然科学分析	206
2	第二次調査における自然科学分析	207
3	第三次調査における自然科学分析	209
4	第四次調査における自然科学分析	211
5	縄文時代早期土器の胎土鉱物分析	214
第V章	まとめ	217

挿 図 目 次

第 1 図	山田遺跡位置図	5	第 39 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 8	56	
第 2 図	山田遺跡周辺地形図及び調査区図	8	第 40 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 9	57	
第 3 図	土層断面図 1	11	第 41 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 10	59	
第 4 図	土層断面図 2	12	第 42 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 11	61	
第 5 図	旧石器時代Ⅰ期	炭化物集中部実測図	14	第 43 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 12	63
第 6 図	旧石器時代Ⅰ期	遺構・遺物分布図	15	第 44 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 13	65
第 7 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 1	17	第 45 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 14	66
第 8 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 2	18	第 46 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 15	67
第 9 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 3	19	第 47 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 16	68
第 10 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 4	21	第 48 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 17	69
第 11 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 5	22	第 49 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 18	71
第 12 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 6	23	第 50 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 19	73
第 13 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 7	25	第 51 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 20	75
第 14 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 8	26	第 52 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 21	77
第 15 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 9	27	第 53 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 22	78
第 16 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 10	28	第 54 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 23	79
第 17 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 11	29	第 55 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 24	81
第 18 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 12	30	第 56 図	旧石器時代Ⅳ期	遺構・遺物分布図	82
第 19 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 13	31	第 57 図	陥し穴状遺構実測図 1	83	
第 20 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 14	32	第 58 図	陥し穴状遺構実測図 2	84	
第 21 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 15	33	第 59 図	旧石器時代Ⅳ期	石器実測図 1	85
第 22 図	旧石器時代Ⅰ期	石器実測図 16	35	第 60 図	旧石器時代Ⅳ期	石器実測図 2	86
第 23 図	旧石器時代Ⅱ期	礫群実測図	37	第 61 図	旧石器時代Ⅳ期	石器実測図 3	87
第 24 図	旧石器時代Ⅱ期	遺構・遺物分布図	38	第 62 図	旧石器時代Ⅳ期	石器実測図 4	88
第 25 図	旧石器時代Ⅱ期	石器実測図 1	39	第 63 図	縄文時代早期	遺構分布図	90
第 26 図	旧石器時代Ⅱ期	石器実測図 2	40	第 64 図	縄文時代早期	Ⅲ～Ⅳ層散礫分布図	91
第 27 図	旧石器時代Ⅲ期	層別遺物分布図	42	第 65 図	縄文時代早期	集石遺構分布図	92
第 28 図	旧石器時代Ⅲ期	遺構・遺物分布図	43	第 66 図	集石遺構実測図 1	94	
第 29 図	旧石器時代Ⅲ期	炭化物集中部実測図	44	第 67 図	集石遺構実測図 2	95	
第 30 図	旧石器時代Ⅲ期	礫群実測図 1	45	第 68 図	集石遺構実測図 3	96	
第 31 図	旧石器時代Ⅲ期	礫群実測図 2	46	第 69 図	集石遺構実測図 4	97	
第 32 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 1	48	第 70 図	集石遺構実測図 5	98	
第 33 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 2	49	第 71 図	集石遺構実測図 6	99	
第 34 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 3	50	第 72 図	集石遺構実測図 7	100	
第 35 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 4	51	第 73 図	集石遺構実測図 8	101	
第 36 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 5	53	第 74 図	集石遺構実測図 9	102	
第 37 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 6	54	第 75 図	集石遺構実測図 10	103	
第 38 図	旧石器時代Ⅲ期	石器実測図 7	55	第 76 図	集石遺構実測図 11	104	

第 77 回	集石遺構実測図 12	105	第 117 回	縄文時代早期	土器分布図	148	
第 78 回	集石遺構実測図 13	106	第 118 回	縄文時代早期	土器実測図 1	149	
第 79 回	集石遺構実測図 14	107	第 119 回	縄文時代早期	土器実測図 2	150	
第 80 回	集石遺構実測図 15	108	第 120 回	縄文時代早期	土器実測図 3	151	
第 81 回	縄文時代早期	炉穴群分布図	109	第 121 回	縄文時代早期	土器実測図 4	152
第 82 回	1号炉穴群実測図 1	111	第 122 回	縄文時代早期	石器分布図	154	
第 83 回	1号炉穴群実測図 2	113	第 123 回	縄文時代早期	石器実測図 1	156	
第 84 回	2号炉穴群実測図 1	114	第 124 回	縄文時代早期	石器実測図 2	157	
第 85 回	2号炉穴群実測図 2	115	第 125 回	縄文時代早期	石器実測図 3	159	
第 86 回	3号炉穴群実測図 1	117	第 126 回	縄文時代早期	石器実測図 4	160	
第 87 回	3号炉穴群実測図 2	118	第 127 回	縄文時代早期	石器実測図 5	161	
第 88 回	4号炉穴群実測図	119	第 128 回	縄文時代早期	石器実測図 6	162	
第 89 回	5号炉穴群実測図 1	120	第 129 回	縄文時代早期	石器実測図 7	163	
第 90 回	5号炉穴群実測図 2	121	第 130 回	縄文時代早期	石器実測図 8	164	
第 91 回	6号・7号炉穴群実測図	122	第 131 回	縄文時代早期	石器実測図 9	165	
第 92 回	8号炉穴群実測図	123	第 132 回	縄文時代早期	石器実測図 10	166	
第 93 回	10号炉穴群実測図	124	第 133 回	縄文時代早期	石器実測図 11	167	
第 94 回	9号炉穴群実測図	125	第 134 回	縄文時代早期	石器実測図 12	168	
第 95 回	11号炉穴群実測図 1	127	第 135 回	縄文時代早期	石器実測図 13	169	
第 96 回	11号炉穴群実測図 2	127	第 136 回	縄文時代早期	石器実測図 14	170	
第 97 回	炉穴群出土土器実測図 1	128	第 137 回	縄文時代早期	石器実測図 15	171	
第 98 回	炉穴群出土土器実測図 2	129	第 138 回	縄文時代早期	石器実測図 16	172	
第 99 回	炉穴群出土土器実測図 3	130	第 139 回	縄文時代早期	石器実測図 17	173	
第 100 回	炉穴群出土土器実測図 4	131	第 140 回	縄文時代早期	石器実測図 18	174	
第 101 回	円形配石遺構出土土器実測図	132	第 141 回	縄文時代早期	石器実測図 19	175	
第 102 回	炉穴群出土土器実測図 1	133	第 142 回	鬼界アカホヤ火山灰層上面	検出遺構分布図	177	
第 103 回	炉穴群出土土器実測図 2	134	第 143 回	縄文時代晚期	土坑実測図	178	
第 104 回	炉穴群出土土器実測図 3	135	第 144 回	縄文時代晚期	土器実測図 1	179	
第 105 回	炉穴群出土土器実測図 4	136	第 145 回	縄文時代晚期	土器実測図 2	180	
第 106 回	円形配石遺構出土土器実測図	137	第 146 回	縄文時代晚期	土器実測図 3	181	
第 107 回	円形配石遺構実測図 1	139	第 147 回	縄文時代晚期	土器実測図 4	182	
第 108 回	円形配石遺構実測図 2	140	第 148 回	竪穴住居跡実測図	184		
第 109 回	円形配石遺構実測図 3	141	第 149 回	竪穴住居跡出土土器実測図	185		
第 110 回	縄文時代早期	土坑等分布図	142	第 150 回	竪穴住居跡出土土器実測図	186	
第 111 回	竪穴遺構実測図	143	第 151 回	1号周溝墓実測図	187		
第 112 回	Ⅳ・Ⅴ層土坑実測図	144	第 152 回	2号周溝墓実測図	188		
第 113 回	Ⅳ層配石・Ⅵ層集石遺構実測図	144	第 153 回	土壇墓実測図 1	189		
第 114 回	Ⅵ層土坑実測図 1	145	第 154 回	土壇墓実測図 2	190		
第 115 回	Ⅵ層土坑実測図 2	146	第 155 回	周溝墓・土壇墓出土遺物実測図	191		
第 116 回	Ⅵ層土坑実測図 3	147					

第156図	弥生時代 土坑実測図	192
第157図	弥生時代 土坑・包含層出土 土器実測図	194
第158図	掘立柱建物跡実測図	196
第159図	溝状遺構実測図	197
第160図	中世 石製品実測図	198
第161図	中世 陶磁器実測図	199
第162図	土錘実測図	200
第163図	不明遺構実測図1	201
第164図	不明遺構実測図2	202
第165図	不明遺構実測図3	203
第166図	時期不明石器実測図1	204
第167図	時期不明石器実測図2	205
第168図	周溝墓リン・カルシウム含量図	207
第169図	赤色顔料主要元素含量比較図	209
第170図	主要成分別X線強度比較図	216
第171図	旧石器時代I期 重量分類図	218
第172図	旧石器時代II期 重量分類図	219
第173図	旧石器時代III期 北部水平・垂直分布図	219
第174図	旧石器時代III期 重量分類図	220
第175図	旧石器時代IV期 重量分類図	221

表 目 次

第1表	集石遺構の形態による分類表	93
第2表	炉穴部ごとの炉穴基数推定表	110
第3表	縄文時代早期石器形態別点数一覧表	155
第4表	チャート・水晶・石英の出土量分析表	158
第5表	周溝墓・土壇墓主体部観察表	193
第6表	周溝墓土壇蛍光X線分析値	207
第7表	赤色顔料蛍光X線分析値	209
第8表	樹種同定結果表	210
第9表	山田遺跡における炭化種実同定結果	212
第10表	主要成分のX線強度表	215
第11表	旧石器時代I期 石材・器種別重量表	217
第12表	旧石器時代II期 石材・器種別重量表	218
第13表	旧石器時代III期 石材・器種別重量表	220
第14表	旧石器時代IV期 石材・器種別重量表	221
第15表	縄文時代早期の出土頻度表	222
第16表	縄文時代早期土器分類表1	223
第17表	縄文時代早期土器分類表2	224
第18表	縄文時代早期石器 重量一覧表	225
第19表	石器観察表1	228
第20表	石器観察表2	229
第21表	石器観察表3	230
第22表	石器観察表4	231
第23表	石器観察表5	232
第24表	石器観察表6	233
第25表	石器観察表7	234
第26表	石器観察表8	235
第27表	石器観察表9	236
第28表	石器観察表10	237
第29表	鉄器・石器観察表	238
第30表	土器観察表1	239
第31表	土器観察表2	240
第32表	土器観察表3	241
第33表	土器観察表4	242
第34表	土器観察表5	243
第35表	土器・陶磁器・土錘観察表	244

図 版 目 次

図版 1	山田遺跡の炭化材	245	図版 26	旧石器時代Ⅲ期遺物 (172～220)	270
図版 2	山田遺跡の炭化種実	246	図版 27	旧石器時代Ⅲ期遺物 (221～242)	
図版 3	旧石器時代Ⅰ～Ⅲ期遺構	247	接合資料Ⅲ-④、⑤、⑥	271	
図版 4	旧石器時代Ⅲ期遺構	248	図版 28	旧石器時代Ⅲ期遺物 (243～300)	272
図版 5	旧石器時代Ⅲ期炭化物集中部 IV期陥し穴状遺構	249	図版 29	旧石器時代Ⅲ期遺物 接合資料Ⅲ-⑦、⑧、⑨	273
図版 6	旧石器時代Ⅳ期陥し穴状遺構		図版 30	旧石器時代Ⅲ期遺物 (301～330) 接合資料Ⅲ-⑩	274
縄文時代早期散礫・集石遺構 (SI1～5)	250	図版 31	旧石器時代Ⅲ期遺物 (331～372)	275	
図版 7	縄文時代早期集石遺構 (SI6～12)	251	図版 32	旧石器時代Ⅲ期遺物 (373～381) 接合資料Ⅲ-⑪	276
図版 8	縄文時代早期集石遺構 (SI10～20)	252	旧石器時代Ⅳ期遺物 (382～407)		
図版 9	縄文時代早期集石遺構 (SI21～25)	253	図版 33	旧石器時代Ⅳ期遺物 (408～417) 卯穴群出土土器 (418～429)	277
図版 10	縄文時代早期集石遺構 (SI26～32)	254	図版 34	卯穴群出土土器 (430～464)	278
図版 11	縄文時代早期集石遺構 (SI33～38)	255	図版 35	卯穴群出土土器 (465～487)	279
図版 12	縄文時代早期集石遺構 (SI39～44)	256	図版 36	縄文時代早期出土土器 (488～508, 510～530)	280
図版 13	縄文時代早期卯穴群 (SP1～4)	257	図版 37	縄文時代早期出土土器 (509/531～544) 石器 (545～613)	281
図版 14	縄文時代早期卯穴群 (SP5～11)	258	図版 38	縄文時代早期出土土器 (614～642, 645～660)	282
図版 15	縄文時代早期円形配石遺構 1号～4号 竪穴状遺構	259	図版 39	縄文時代早期出土土器 (643, 644, 661～679)	283
図版 16	縄文時代早期陥し穴・土坑、 弥生時代周溝墓・土塚墓	260	図版 40	縄文時代早期出土土器 (680～724)	284
図版 17	弥生時代土塚墓	261	図版 41	縄文時代晩期土器 (725～750, 752～757)	285
図版 18	中世竪立柱建物跡、柱穴、溝状遺構 不明遺構	262	図版 42	縄文時代晩期土器 (751, 758)	286
図版 19	旧石器時代Ⅰ期遺物 (1～19) 接合資料Ⅰ-①	263	図版 43	弥生時代壘穴住居跡出土土器・石器 (759～776)	287
図版 20	旧石器時代Ⅰ期遺物 (20～28) 接合資料Ⅰ-②、③	264	図版 44	弥生時代周溝墓、土塚墓、土坑、包含層出土 遺物 (777～796)	288
図版 21	旧石器時代Ⅰ期遺物 (29～42)	265	図版 45	中世石臼 (797～800)、傘状石製品 (801) 時代不明遺物 (836～838)	289
図版 22	旧石器時代Ⅰ期遺物 (43～56)	266	図版 46	中世陶磁器、土錘 (802～829) 時代不明遺物 (830～835, 839～844)	290
図版 23	旧石器時代Ⅰ期遺物 (57～80) 接合資料Ⅰ-⑥、⑦、Ⅱ-①	267			
図版 24	旧石器時代Ⅰ期遺物 (81～86) 旧石器時代Ⅱ期遺物 (87～113) 旧石器時代Ⅲ期遺物 (114～143)	268			
図版 25	旧石器時代Ⅲ期遺物 (144～171) 接合資料Ⅲ-②、③	269			

第I章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所（旧建設省九州地方建設局延岡工事事務所）は、高規格幹線道路整備事業として、延岡市天下町（延岡JCT）から北方町子（北方IC）に至る延長11kmに及ぶ一般国道218号北方延岡道路の整備を計画し、平成8年度から同事業を実施している。

宮崎県教育委員会では、同事業の計画を受けて路線内の踏査を実施し、複数の埋蔵文化財包蔵地を確認した。この成果をもとに、県教育委員会は、延岡河川国道事務所と埋蔵文化財の保護に関する協議を行った結果、現状保存が困難ないくつかの地点において、やむを得ず、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

山田遺跡が所在する延岡市小川町から細見町付近では、平成元年から同3年にかけて圃場整備事業が実施され、同事業に伴う発掘調査が行われている。この調査において、今回の調査地を含む丘陵の南西部（畑山遺跡）が調査され、旧石器時代から中世に及ぶ遺構・遺物が検出されていた。そこで、宮崎県教育委員会文化課は、平成14年7月29日から8月1日まで確認調査を実施し、畑山遺跡と同様に旧石器時代から中世に及ぶ遺構・遺物を確認し、本発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、用地買収の進捗状況や調査事務所、作業員駐車場等の制約により、都合四次に分けて平成14年9月25日から平成16年7月28日まで、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

第2節 調査の組織

山田遺跡 発掘調査（第一次）（平成14年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所	長	米良 弘康
副所長兼総務課長	大藪 和博	
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫	
総務課総務係長	野邊 文博	
調査第二課調査第四係長	永友 良典	
同 主 査	赤崎 広志	
同 調査員（嘱託）	柳田 裕三	

山田遺跡 発掘調査（第二次）（平成15年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所	長	米良 弘康
副所長兼総務課長	大藪 和博	
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫	
総務課主幹兼総務係長	石川 恵史	
調査第二課調査第四係長	近藤 協	
同 主 査	赤崎 広志	
同 調査員（嘱託）	柳田 裕三	

山田遺跡 発掘調査（第三次）（平成15年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所	長	米良 弘康
副所長兼総務課長	大藪 和博	
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫	
総務課主幹兼総務係長	石川 恵史	
調査第二課調査第四係長	近藤 協	
同 主 査	赤崎 広志	
同 調査員（嘱託）	柳田 裕三	

山田遺跡 発掘調査（第四次）（平成16年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所	長	宮園 淳一
副所長兼総務課長	大藪 和博	
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫	
総務課主幹兼総務係長	石川 恵史	
調査第二課調査第四係長	近藤 協	
同 主 査	赤崎 広志	
同 調査員（嘱託）	佐竹 智光	

山田遺跡 整理および報告書作成（平成16年度～平成18年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所	長	宮園 淳一（H16～H17） 清野 勉（H18）
副 所	長	加藤 悟郎（H18）
副 所 長 兼 総 務 課 長	長	大園 和博（H16）
副 所 長 兼 調 査 第 二 課 長	長	岩永 哲夫
総 務 課 長	長	宮越 尊（H17～H18）
主 幹 兼 総 務 係 長	長	石川 恵史（H16～H17）
主 幹 兼 総 務 担 当 リ ー ダ ー		高山 正信（H18）
主 幹 兼 調 査 第 二 課 調 査 第 四 担 当 リ ー ダ ー		近藤 協
普 及 資 料 課 主 査		赤崎 広志

第3節 位置と環境

延岡市は、県の北部太平洋岸に位置し、九州山地や大崩・祖母・傾山系に源を発する五ヶ瀬川、北川、祝子川の downstream である。これら河川の沖積平野を中心に周辺山地や、丘陵地より構成されている。縄文海進時には五ヶ瀬川分岐点近くの天下町付近まで海進したと思われ、その後、各河川の侵食運搬作用により流下した堆積物が、日向灘の沿岸流による海岸砂州でとめられ沖積平野を形成した。沖積平野には、市街地や住宅地、工業地域が集まり県北部の中心都市となっている。平野の北方には行懸山（むかばきやま）（829.9m）、可愛岳（えのたけ）（727.7m）といった火成岩からなる急峻な山体が高平山（こうびらやま）（406.6m）や岡富山（おかとみやま）（198m）などの堆積岩からなる低山を貫いて分布し、南方には愛宕山（あたごやま）（251.2m）から南西方向に連続する堆積岩からなる山地が分布している。

五ヶ瀬川流域には、阿蘇火砕流堆積物の堆積とその侵食によって形成された河岸段丘と平坦な台地や、丘陵地が分布する。野地・大貫地区には五ヶ瀬川と大瀬川の分流により、山地から分離された野地丘陵と埋積谷低地が分布している。各河川は、山間部において谷底低地、下流部において氾濫原低地を形成している。

山田遺跡の所在する小川地区は北東に行懸山をのぞみ、五ヶ瀬川支流の細見川沿いの氾濫原低地に水田をつくり、小規模な河岸段丘と思われる平坦地形上に現在の集落が営まれている。細見川は北方町の国見山（1391.5m）と松山（ひのきやま）（1123m）に挟まれる西谷を源流として行懸山の西側を南向きに流下して五ヶ瀬川に流れ込んでいる。遺跡は細見川沿いの小川地区から標高約50mの稜線上に登った台地に立地している。遺跡の立地する台地状の稜線の基底部は阿蘇4火砕流の溶結凝灰岩が柱状節理をなして10～20m程度堆積しており、その上位に約3～4万年前から現代に至る新期ローム層が水平に近い状態で被覆している。遺跡の南側約100m離れた地点に稜線の分岐があり阿蘇4溶結凝灰岩層が不透水層となってできた地下水脈が稜線直下に湧水をつくり水神社が祀られている。阿蘇4火砕流は約9万年前の噴出であるから、旧石器時代から現代に至るまで山田遺跡直下の稜線中腹には水源があり、細見川まで下ることなく水を得ることができたと考えられる。周辺には同じ稜線上に畑山遺跡（第1図-2）、小川集落の細見川の氾濫原低地に北方延岡道路建設に伴い平成14年度に発掘調査を実施した山口遺跡第2

地点（第1図-4）、細見川が五ヶ瀬川の合流する細見町の段丘上に中尾原遺跡（第1図-5）、山田遺跡とはほぼ同じ立地条件の黒土田遺跡などの（第1図-8）など多数の遺跡が分布している。以下、時代別に概観する。

旧石器時代では、東九州を代表する旧石器遺跡のひとつである赤木遺跡（第1図-12）がある。1985年の第一次調査で瀬戸内技法が見られるナイフ形石器文化の赤木第1文化層、細石器を中心とする赤木第2文化層が確認されたことを皮切りに、これまで13回の調査を実施しており、始良Tn火山灰層下位からナイフ形石器、剥片等の出土を確認している。このほかにも、地蔵ヶ森遺跡（小峰町）からは搔器、使用痕剥片が出土、黒土田遺跡（第1図-8）・中尾原遺跡（第1図-5）からナイフ形石器、剥片尖頭器、細石刃核などが出土、畑山遺跡（第1図-2）ではAT下位からナイフ形石器、礫器、剥片、チップ類、AT上位からナイフ形石器、剥片尖頭器などが出土するなど、延岡の旧石器遺跡の多くが五ヶ瀬川もしくは、五ヶ瀬川の旧流路流域の台地、丘陵地上に分布している。片田遺跡（片田町）、林遺跡（伊形町）は愛宕山南方の沖田川流域であるが、沖田川がかつて愛宕山南方を流下していた旧五ヶ瀬川であり阿蘇火砕流でせき止められ、現在の流路に変化した（穴戸1996）との考えによれば、いずれも五ヶ瀬川が運搬堆積した祖母・傾山系の硬質な石材を近隣で採取できた遺跡としての類似性がある。

縄文時代では、県指定史跡の愛宕山洞穴（愛宕町）から縄文時代後期の貝類、獣骨、土器、石器及び人骨、延岡市指定史跡の沖田貝塚（沖田町）から貝類、魚骨、獣骨が出土し、大貫貝塚（大貫町）から、縄文早期～前期の貝類獣骨魚骨と土器、石器が、高野貝塚（第1図-15）から貝類、獣骨が出土している。縄文海進時、沖積平野は海底であり平野周辺の台地、丘陵地上の複数の遺跡から集石遺構、炉穴などの遺構とともに縄文土器や石鏃などの石器が多数出土している。主なものとして、地蔵ヶ森遺跡（小峰町）、今井野遺跡（天下町）、吉野遺跡（吉野町）などがあげられる。

弥生時代では、1990.91年に調査された中尾原遺跡（第1図-5）が県北有数の集落遺跡であり、竪穴住居跡62軒、掘立柱建物跡2軒、土坑百数十基を検出した。野田町八田遺跡（野田町）では不整形の方形住居跡1軒、土器集積坑、柱穴群、溝状遺構が検出された。恒富本村遺跡（恒富町）では打製石斧、石庭丁などの石器と瀬戸内系のものを含む多数の弥生土器が出土している。差木野遺跡（差木野町）では、瀬戸内の影響を受けた弥生土器が含まれ、1991年の調査で水田跡を検出している。延岡城内堀跡（本小路）では、水田の一部を検出し土止め用の矢板、木製農耕具、多数の弥生土器が出土している。

古墳時代では、国指定南方古墳群や県指定延岡古墳群、県指定史跡南浦石棺群（熊野江町）、上多々良箱式石棺群（岡富町）、櫻山古墳群（櫻山町）、古川古墳（古川町）、石田西の追古墳（石田町）、上ノ坊古墳（山下町）、南方古墳群の吉野支群、天下支群、野地支群、野田支群など延岡市内全域で約120基の古墳が確認されている。これらの埋葬施設は、凝灰岩製家形石棺や、凝灰岩製組み合わせ式石棺、緑泥片岩製箱式石棺などバリエーションに富んでいる。集落としては、前述の山口遺跡第2地点（第1図-4）があり細見川の谷底低地に形成された小規模な氾濫原堆積物中に20数軒の竪穴住居跡を検出している。

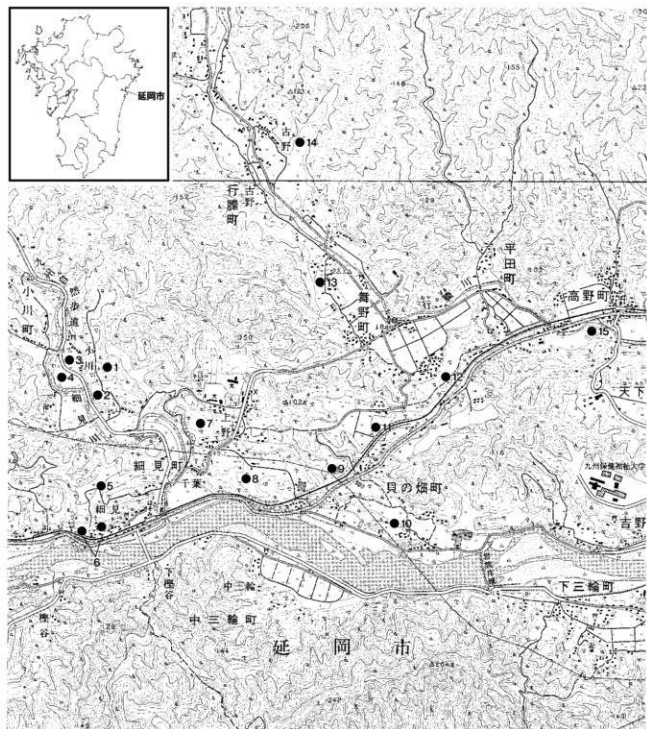
古代から中世では、葎田窯跡（第1図-14）、古川窯跡（古川町）は須恵器窯跡、山城としては土持氏最後の城で、文安元年（1444）から3年かけて築かれたといわれる松尾城跡（松山町）、西階城跡（西階町）、井上城跡（古城町）が知られており、延岡道路建設に伴い平成15年に発掘調査を実施した天下城山遺跡（天下町）では、曲輪や虎口を検出している。

近世では、慶長6年（1601）から同8年（1603）にかけて初代延岡藩主高橋元種により築かれた延岡城

跡があり、これまでの調査によって、内堀から五ヶ瀬川に通じる水路遺構、本小路北通線を跨ぐ暗渠遺構などの多くの新知見がもたらされている。また、市指定史跡の小峰窯跡（小峰町）や古城窯跡（古城町）、上平原窯跡（平原町）、丸山窯跡（山下町）などの窯跡がある。

[参考・引用文献]

- 「野田町八田遺跡」『市道改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告』延岡市教育委員会 1978
- 「地蔵ヶ森遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第31集 宮崎県教育委員会 1988
- 「片田遺跡（概報）」『延岡市文化財調査報告書』第5集 延岡市教育委員会 1990
- 「林遺跡」『一般国道10号土々呂バイパス建設関係発掘調査報告書』宮崎県教育委員会 1990
- 「延岡市苅田窯跡」『宮崎県文化財報告書』第9集 宮崎県教育委員会 1992
- 「上南方地区遺跡 中尾原遺跡・畑田遺跡」『延岡市文化財調査報告書』第8集 延岡市教育委員会 1992
- 「差木野遺跡」『延岡市文化財調査報告書』第9集 延岡市教育委員会 1992
- 穴戸章「五ヶ瀬川の転位（演旨）」『日本地質学会第103回学術大会講演演旨』日本地質学会 1996
- 「延岡市の文化財」延岡市教育委員会 2001
- 「延岡城内遺跡Ⅰ」『延岡市文化財調査報告書』第26集 2002
- 「赤木遺跡（第7次）」『延岡市文化財調査報告書』第25集 延岡市教育委員会 2002
- 「山口遺跡第2地点」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第99集 2005



- | | | |
|-------------|-----------|-------------|
| 1. 山田遺跡 | 2. 畑山遺跡 | 3. 山口遺跡第1地点 |
| 4. 山口遺跡第2地点 | 5. 中尾原遺跡 | 6. 細見古墳 |
| 7. 上野遺跡 | 8. 黒土田遺跡 | 9. 竹下遺跡 |
| 10. 貝の畑遺跡 | 11. 多々羅遺跡 | 12. 赤木遺跡 |
| 13. 舞野遺跡 | 14. 苺田窯跡 | 15. 高野貝塚 |

第1図 山田遺跡 位置図 (1/25,000)

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 調査の経過

山田遺跡の調査は第一次～第四次までの計4回、3か年に及んだ。実施期間は以下の通りである。

第一次調査	平成14年 9月25日	から	平成15年 3月27日
第二次調査	平成15年 5月 8日	から	平成15年10月 7日
第三次調査	平成15年10月28日	から	平成16年 3月26日
第四次調査	平成16年 5月14日	から	平成16年 7月28日

第一次調査は平成14年度の下半期に実施した。調査区の西側2/3の約4,000㎡を2つに分け、市道側をA区とし、旧地籍境界をなす幹の直径約60cmの杉の巨木列の切り株をはさんでB区として調査を開始することとした(第2図)。開始前、A区は主として廃棄され背丈ほどの雑草が生い茂るキウイフルーツの温室跡、B区は主としてタケノコ生産用の太い孟宗竹の切り株が約1～2m間隔に点在し、その間に篠竹が密生している状況であった。表土剥ぎは試掘結果から遺構の検出が予想された鬼界アカホヤ火山灰層(Ⅱ層)上面にそろえることとした。現地には杉や竹の切り株が多数存在し鬼界アカホヤ火山灰層(Ⅱ層)下位の黒色層(Ⅲ層)にまで達しているため重機で除去することができず作業は難航した。結局、大量の雑木や樹根を東側の谷部の土留め堤防として活用、B区東側を排土置き場として整地し、切り株は人力で除去することとした。約2週間をかけて孟宗竹の切り株、密生する篠竹の地下茎等を除去し遺構の検出を実施した。

第一次調査では鬼界アカホヤ火山灰層(Ⅱ層)上面で竪穴住居跡、周溝墓、掘立柱建物跡、溝状遺構、不明遺構などを検出、下位のⅢ～Ⅴ層で縄文時代早期の土器、石器多数が出土し、集石遺構、配石遺構などを検出、Ⅵ層上面で炉穴群などを検出した。ここで次年度へ継続調査となり、全面をブルーシートで覆って撤収した。

第二次調査は平成15年度の上半期に実施した。調査区は第一次調査とほぼ同一でⅥ層の炉穴群の検出から開始した。炉穴群は平面形態が不明瞭なうえに不定形で複雑に入り組んでいるため、遺構検出は難航した。無数に広がるⅥ層上面の黒ずみに対し縦横にサブトレンチを設定し、焼土集中部を見つけては半截をする方法で検出した。6月下旬には縄文時代早期の炉穴群の調査を終了し旧石器時代の調査となった。旧石器時代の包含層では陥し穴状遺構、礫群、石器ブロック、炭化物集中部などを検出し、複数の文化層を構成すると思われる多数の石器が出土した。夏期の猛暑による作業ベースのダウンや遺構、遺物の予想以上の検出により調査計画に遅れが生じたが、2度にわたる増員でⅩⅠ層までを期間内に調査終了することができた。

第三次調査は平成15年度の下半期に実施した。調査区は駐車場用地と現場事務所用地をのぞく残りの東部区域と南部にベルト状に重機通路として確保していた部分をあわせたL字状の区域をC区として調査した。面積は約2,500㎡とA・B区と同程度であるため、作業員を大量に投入して、下半期でⅡ層からⅩⅠ層までの8文化層の調査終了を目指した。鬼界アカホヤ火山灰層(Ⅱ層)上面ではA・B区で検出されなかった土壌墓が複数検出された。縄文時代早期の集石遺構、配石遺構、炉穴群や旧石器時代の礫群、石器ブロック、炭化物集中部などは、A・B区に準ずる検出状況であった。冬期は連日雪や霜に悩まされる厳寒の中の調査であったが作業員諸氏の奮闘により期間内の調査終了をすることができた。

第四次調査は平成16年度の上半期前半に実施した。調査区西部の市道沿いで、これまで駐車場用地と現場事務所用地としてきた区画をD区、市道をはさんだ西側の斜面地の小区画をE区として調査を実施

した。第三次調査終了前に実施したトレンチ調査やA区の分布の状況から第四次調査のD、E区は遺構・遺物の密度が高くないであろうと推定し期間を約2ヶ月に設定した。鬼界アカホヤ火山灰層（Ⅱ層）上面ではわずかな溝状遺構が一部に見られたがほとんどが土取りにより削平されており、縄文時代早期では堅穴状遺構を検出したが、集石遺構、炉穴群は検出されなかった。旧石器時代ではこれまでの調査区に準ずる程度の礫群、石器ブロック、炭化物集中部を検出し調査の全日程を終了した。

以上3か年にわたる調査を実施し、多数の資料と貴重なデータを得ることができた。期間中は作業員諸氏の協力のもとより、延岡市、北方町の埋蔵文化財担当職員の諸氏に貴重な助言や協力を頂いた。山田遺跡関連の教育普及活動は以下の通りである。

・現場説明会 平成15年3月4日（火） 14：00～16：00

第一次調査実施中の現場説明会であった。平日の実施であり、授業の一環として上南方小学校の5年生60名が引率の校長、教諭とともに参加した。周辺の一般住民には回覧板を使って広報し、約30名程度の参加を得た。現場には説明会用に保存した集石遺構、炉穴群、石礫、石器ブロック等を準備、作業員休憩棟にはプロジェクターとスクリーンを設置し、現場での説明と室内での解説を平行して行い小学生向きプログラムと一般向けプログラムを同時進行させた。

・北方町郷土史講座 平成15年3月13日（木） 19：00～21：00

北方町郷土史講座において周辺地域の発掘事例紹介の依頼があり、北方町役場会議室にて実施した。現場説明会直後であったため、資料等は一般説明用を転用し、プロジェクターにて現場説明会用に準備したプレゼンテーション番組を上映して説明に使用した。郷土史講座受講生及び一般参加者を含めて約50名の参加があった。

・埋文講座 平成16年3月27日（土） 13：30～15：00

第12回埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて～最近の発掘調査の成果から③」

第三次調査終了時に埋蔵文化財センター分館にて実施した。整理作業は第一次、第二次調査の水洗が終了する程度しか進捗していなかった。そのため土器や石器の接合状況など遺物については出土の概況にとどめ、旧石器時代、縄文時代早期、弥生時代、中世の各時代の遺構紹介の内容を中心として実施した。29名の参加があった。

・分館展示 平成17年10月29日～平成18年4月16日

発掘調査の成果展Ⅱ「延岡の遺跡」と題するテーマで山口遺跡第2地点と合同の展示となった。石器や土器の接合はおおむね終了していたため、展示日程にあわせて実測計画をたて、10月上旬までに展示分のセンターにおける実測と石器実測委託を終了することができた。時代ごとに遺物を精選し、見学者が理解しやすいような解説文を用意した。特に旧石器時代の接合資料を中心とした遺物群については1ケースを使用して主要な遺物を網羅して展示し、九州旧石器文化研究大会の見学コースとしても活用された。遺構については各時代の主要遺構である周溝墓、集石遺構、炉穴群、円形配石遺構、炭化物集中部などについて写真パネルを用意して展示した。

・第1回 巡回展 平成18年7月25日～平成18年8月6日

宮崎県立図書館において平成18年7月29日に実施した「遺跡が語るひむかの歴史2006」の関連事業として約2週間、図書館特別展示室にて本センターの収蔵遺物の一般公開を実施した。国事業関連の発掘調査を紹介するコーナーに分館展示をした遺物より精選して写真パネルとともに展示した。



第2図 山田遺跡 周辺地形図 (1/5,000) 及び調査区図 (1/2,000)

第2節 遺跡の層序

山田遺跡は北東に行轡山をのぞみ、五ヶ瀬川の支流である細見川の作る谷間の平地から標高約50mの稜線に登った台地上に立地している。遺跡の所在する台地の基盤は主として阿蘇4火砕流堆積物である(第1章第3節)。この火砕流は約9万年前に活動した大火砕流であり、約13万年前に活動した阿蘇3火砕流堆積物を侵食して形成されていた古五ヶ瀬川水系を埋め尽くして太平洋に到達しており五ヶ瀬川流域のほとんどの丘陵の基盤は阿蘇4火砕流堆積物である。丘陵上での旧石器時代以降の遺跡はこの基盤上に段丘礫層と風成・水成のローム層を介して堆積した新时期ローム層中に分布している。延岡市から北方町にかけての五ヶ瀬川流域の丘陵に分布する新时期ロームの堆積は侵食等がない場合はほぼ同一であり、

鬼界アカホヤ火山灰層、始良Tn火山灰層を鍵層として明瞭に年代対比を行うことができる。山田遺跡はそれらが欠落することなく良好に保存され県北地域の典型的な層序をもっている。前述の通り遺跡の南側約100m離れた地点に稜線の分岐があり阿蘇4溶結凝灰岩の強溶結部が不透水層となって湧水をつくっている。このような湧水は同様の台地には一般的に存在し、高千穂町の御塩井水源等は大規模な例である。

山田遺跡の基本土層は以下のとおりである。土質、堆積状況とともに出土遺物の構成を簡略に記載し層序の境界と遺物分布の境界に差異があることを報告する。

I層：表土層 現代の植生土、耕作土。近隣の遺跡では表土層直下に黒色土層を分離できる場合もあるが、山田遺跡では全域にわたって竹の地下茎等が密生しており分離が大変困難な層準である。農耕等により各種表面採集遺物が多数露出している。

II層：鬼界アカホヤ火山灰層（K-Ah） ほぼ全域に良好に保存されるが、西部の市道沿いは土取りと道路工事により削平されている。この層準まで上位からの竹の鬚根が密集して連続するため鋤簾等による精査が困難である。色調が明瞭に区別できることから遺構は検出しやすい。調査区西側のA区はキウイフルーツの温室跡があり、植栽痕とハウス支柱痕等により大型の穴が多数掘削されており攪乱が激しかった。このため、鬼界アカホヤ火山灰層上面の主要遺構の検出はB、C区に集中した。主要な検出遺構は縄文晩期の土坑、弥生時代の竪穴住居跡、周溝墓、土壇墓、中世の掘立柱建物跡、溝状遺構、時代不明の竪穴状遺構などである。

III層：黒色土層 調査区全域で良好に堆積しており、層厚約10cmでほぼ均一である。固化の弱い、微粒粉末質の土壌であり、わずかな角礫を含んでいる。土器は散漫で縄文早期の無文土器・条痕文土器を主体とする。石器はチャートの剥片が多く、全体的に製品は少ない。

IV層：黒褐色層 固化が強く粘質でブロック状になることが多く、V層と漸移する。遺跡の中央部すなわち台地の最も標高の高い場所では比較的良好に堆積し5~10cmの層厚でIII、V層と分層できるが、傾斜の生じてくる東部や西部に向かって次第に薄くなり、ほとんど堆積しないか、堆積してもIII、V層との分層が困難になる。全体的に、IV層とV層の境界は不規則に擾乱することが多い。焼成を受け赤化した角礫を多数包含しており、V層上面に向かってその割合は増加していく傾向にある。出土遺物は厚さ1cm以上の無文土器、条痕調整の平底の土器や、チャート製の石鏃、剥片を中心にホルンフェルス・砂岩など多様な石材の石器を包含している。

V層：暗褐色土層 全体的には微粒粒子で粘性が高く保水性の高い土質であるが、部分的に固化が弱く粒状性がある部分や硬く固化してブロック状になり、1mm以下の橙色の粒子をわずかに含む部分などがある。全体として均質であった暗褐色の土層が掘削等の人為や降雨植生等の自然環境によって部分的に不均質になっているようである。色調も暗褐色を中心にややばらつきがある。堆積は全域で良好だが、層厚が場所により変化し、厚いところでは10~15cm、薄いところでは5~10cm程度となる。上下のIV・VI層とは漸移して変化するが、色調により概ね分層可能である。IV層とは一部で分離困難もしくはIV層の自然消滅によりIII層と明瞭に接する部分がある。V層の上面は集石遺構44基等が検出され生活面と考えられる。出土遺物は土器、石器ともにIII、IV層と似た状況で概ね早期前葉の枠内であり、点数ではIV層を上回る。

VI層：褐色土層 V層から漸移して色調が明るくなり、土質はV層よりも粒子が大きく、粒子間にわずかな空隙があり軟質である。調査区の全域にわたって均質で安定した堆積で分布する。層厚は、調査

区北部の標高の高い部分では15~20cm、東や西の傾斜部分では、わずかに薄くなり5~10cmとなる。V層からVI層へ漸移する層準で炉穴群、円形配石遺構等を検出した。またVI層の中位で陥し穴状遺構を検出した。遺物は、極端に減少し、細石刃等が少数出土している。

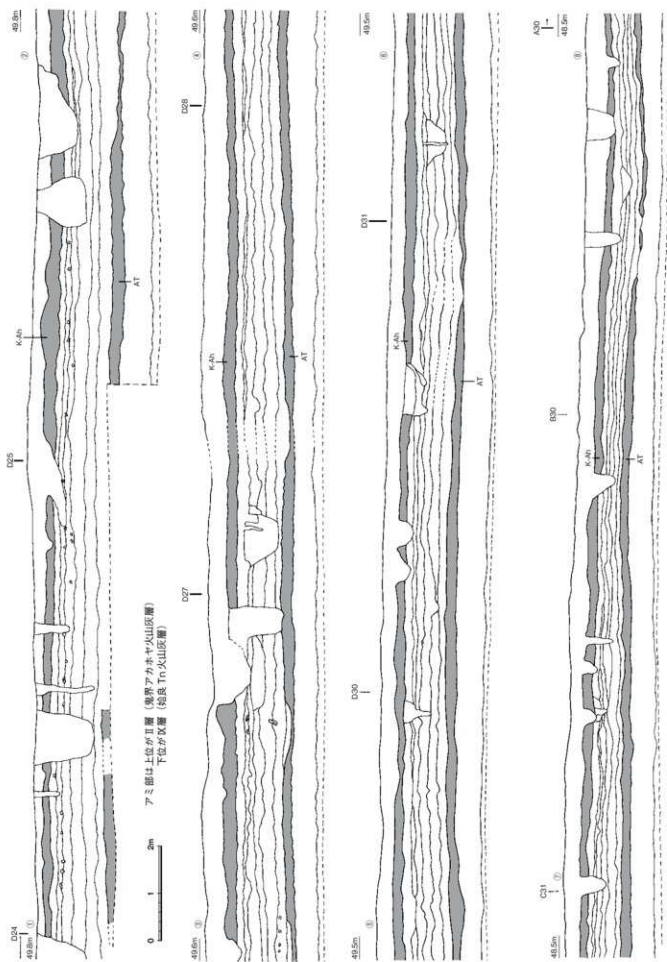
Ⅶ層：明褐色土層 上位のVI層とは厚さ数cm以下の漸移部分が存在するが明瞭に分層できる。土質は1~2mmの細粒鉱物を多く含み、微粒子の土壌が少なく粘性、保水性の低い「カステラ」状のものである。堆積は調査区全域で厚く分布しており、層厚は約15~25cmに達する部分もある。西部や東部に分布する斜面部の上層には10cm程度の二次堆積層とおもわれる色調の暗い部分も存在する。礫や遺物はⅦ層中位からⅧ層上面に向かって複数の平面的な集中域が存在し、剥片尖頭器を中心とした製品やそれと同質の石材からなる剥片類が出土した。遺構は検出されていないが、Ⅶ層中位からⅧ層上面にかけて直径5cm程度、長さ10cm程度の炭化材が約5m四方の規模に集中して検出された。

Ⅷ層：黒褐色土層 ほとんど漸移層なしに色調が暗くなり土質が変化するためⅦ層とは明瞭に分層できる。Ⅷ層上面が一時期、堆積の遅い地表面であった可能性は高い。土質は微粒子で強く固化し、乾燥するとクラックが入る、石英等の白色・透明の鉱物粒が顕著に混入している。上面で複数の礫群と石器ブロック、炭化物集中部などの生活痕跡を検出している。遺物や礫は、下位のⅨ層上面まで連続して出土する。石器、礫ともにⅦ・Ⅷ層のものは器種・石材構成や平面分布範囲において類似点が多い。

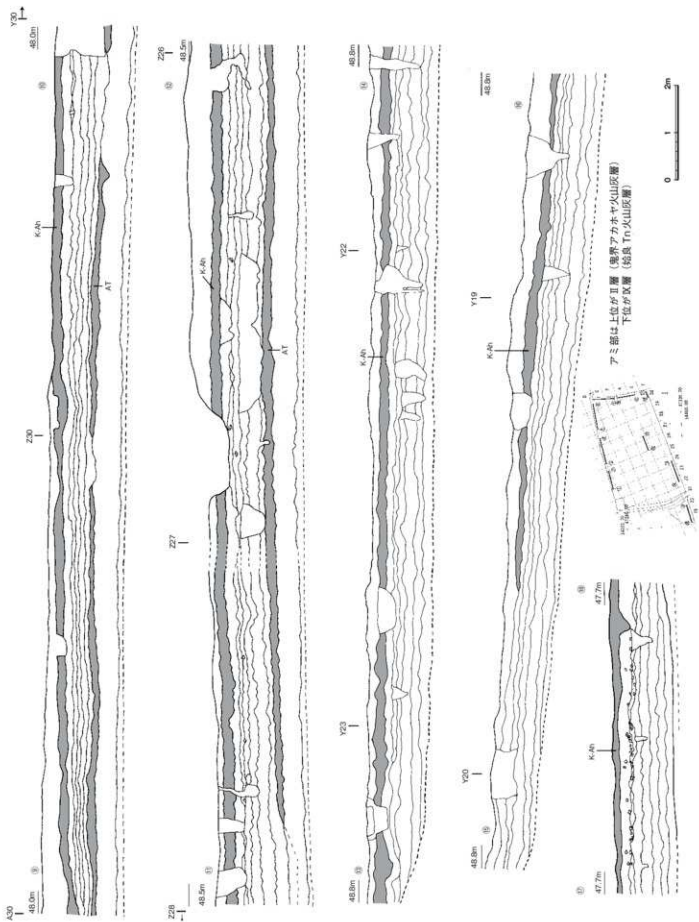
Ⅸ層：始良Tn火山灰層(AT) 調査区全域に層厚10~15cmで堆積しており、上面は擾乱や二次堆積によりⅧ層とわずかに漸移し、下位Ⅹ層上面のクラックに入り込んでいる。調査区中央部では堆積が安定しているが、東部では南東方向へ向かって幅1m程度の流路痕跡が複数確認でき、これにより帯状に削平され堆積が無くなっている部分がある。

Ⅹ層：黒褐色土層 土質は微粒子で空隙が無く、強く固化しており、乾燥するとクラックを生じて硬質のブロック状になる。層厚は全体で40~50cm程度と大変厚く、調査区全域に安定した堆積を見せる。土層全体に2~3cmの扁平な円礫をわずかに含む。円礫は流路を構成することなく散在している。本層準中位にあたる時期には始良大塚や始良深港といったテフラが存在するが、残念ながら本遺跡では肉眼で確認できない。そのため、便宜的に上半部2/3の黒色のわずかに強い部分をXa、下半部1/3のわずかに色調が明るくなり、白色の粒子が混入し始める部分をXbとして記録した。遺構、遺物は、Ⅸ層直下で1基の礫群を検出し、Xa層上部でチャートを含む石器、剥片の小規模な集中があった。Xb層下部からⅩI層上面付近にかけて礫器を中心とした石器、剥片類が集中する箇所が3か所、5mm前後の炭化物粒が集中する箇所が15か所検出された。

ⅩI層：明褐色土層 微粒子の風化した粘土鉱物を多く含み、粘性が非常に高く、保水力のある土壌である。土層全体に2~3cm程度の亜角礫をわずかに含む。遺構は上面でのみ検出され、遺物は上部数cm以内でのみ検出される。本層準は、これ以下約25mの層厚で連続しており、最下位には直径10~20cm程度の円礫による層厚約1~2mの礫層を火んでいる。この礫層は阿蘇火砕流堆積物上を蛇行する旧五ヶ瀬川の河床堆積物と思われ上流域の岩石を多く含み、集石遺構や石器の素材供給地であった可能性がある。ただ、流紋岩類は極端に少なく、その点は検討の余地がありそうである。この下位には阿蘇4火砕流の溶結凝灰岩とその風化層に連続する。ⅩI層下位の層序は平成18年9月に北方延岡道路の工事が遺跡に差し掛かり切り通しを作ったことで広範囲に確認できた。また、ほとんど同様の層序を赤木遺跡の所在する舞野の丘陵でも確認している。



第3図 土層断面図1 (1/80)



第4図 土層断面図2 (1/80)

第三章 調査の記録

第1節 旧石器時代I期(Xb~XI層)の遺構と遺物

旧石器時代I期とした遺構・遺物は始良Tn火山灰層下位のいわゆる暗色帯と呼ばれるX層下部1/3をしめるXb層からXI層上部数cm以内に於て分布する。炭化物集中部を15か所検出した。

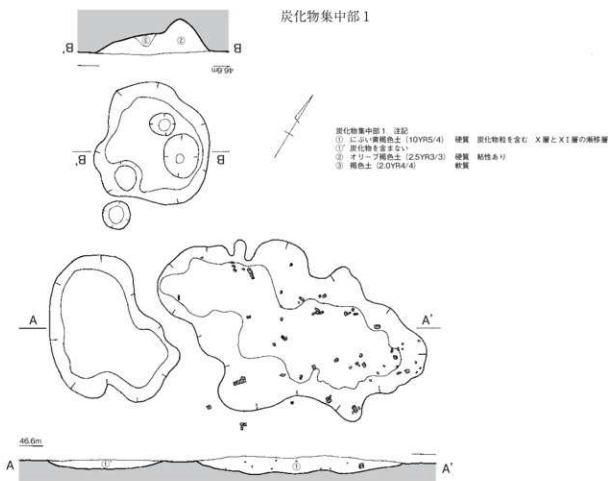
調査段階でいくつかの遺物集中部を礫群として記録したが、被熱による赤化礫の集中が不明瞭なことや分布が散漫であることなどから礫・石器の集中部として遺物の項で記述する。

1 炭化物集中部(第5・6図)

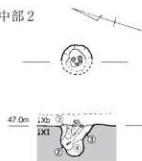
旧石器時代I期の炭化物集中部の多くは直径5mm以下の炭化物粒が多数集まっているものである。大小あわせて15か所(C1~C15)を検出した。その中でZ26グリッドの炭化物集中部(C1)(第5図)では直径3~4cm、長さ6~7cm程度の炭化材が複数残存しており、深さ10cm程度の浅い掘り込みが存在した。この保存のよい炭化材について放射性炭素年代測定を2点と樹種同定4点を実施し、補正值で $30,550 \pm 230$ BPと $30,630 \pm 230$ BPの年代値とカバノキ科のアサダという落葉樹であるとの同定結果を得ている(第IV章-3)。15か所の炭化物集中部は礫や石器の分布とはあまり規則性をもたない分布である。生活痕であるかどうか若干疑問ものがあるが、自然の発火と考えるには分布範囲や被熱変色等の規模が小さく、また石器群と同じレベルに複数が散在することから、人工物である可能性は高いと思われる。

2 石器(第7~22図)

旧石器時代I期の石器群は、大きく分けて調査区東部のB31~C30、31グリッド付近、中央部東よりのB28グリッド付近、そして西部のA21~B22グリッド付近の3か所に石器ブロックと考えられる分布の中心がある。このうち東部と西部のものは、拳大の弱く被熱した角礫を伴って広い範囲に分布する。これらは散漫に広がり、礫群を構成するほどの集中は見られない。接合資料のほとんどは石器ブロックの中に分布していた。この時期の石器群には、この時期以降の複数時期の石器群と比較して器種、石材ともに大きな差異がある。器種については大形の扁平な円礫を同一方向から数回打撃して刃部を形成する片面礫器、もしくは礫器様の大形石核の出現が顕著である。これらの石材は、頁岩源ホルンフェルスを中心とした硬質なホルンフェルス類と、砂岩、緑色凝灰岩を中心としている(第11表)。これらが石核なのか石核石器であるのかの判断基準として①同質の石材から剥片石器や二次加工剥片等の目的物の製作が多数あるかどうか。②刃部が 50° ~ 60° 以下の鋭角なものであるかどうか。③刃部の先端に打撃による使用痕と思われる剥離等が存在するか。の3点を設定して検討した。①については本遺跡の他時期石器群に比して剥片石器が圧倒的に少なく、礫器様の遺物が圧倒的に多いといえる。②についてはいくつかの資料において明瞭に鋭角な刃部を作出しているものがあり、それらの位置と形状に共通点が見られる。③については明瞭に使用による剥離があるとは認めにくいだが、いくつかの資料において礫器ならば刃部と思われる部分のみが折損しているものがあり、石器製作のための打撃による剥離とは明らかに違う力による折損である。これを、土壌の掘削、もしくは樹木の加工による面的な応力による折損と考えることは可能である。以上の3点より、これらの石器は製品として使用された可能性があると考えられる。また、長楕円の円礫を素材とした局部磨製石斧(第19図55・56)が出土した。剥片石器は比較的連続する調整によって刃部が作られるものを搔器・削器とした。剥片石器の素材として流紋岩類を使用する傾向がある。以下、石材ごとに概説する。

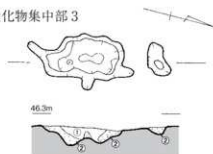


炭化物集中部 2



炭化物集中部 2 注記
 ① 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物多い 柱に年輪の見えるものあり
 ② 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物多い ③のブロックもわずかに含まれる
 ③ 暗黄褐色土 (10YR6/8) 周囲のXI層よりも粘性小さく、粗粒
 ④ 暗黄褐色土 (10YR6/8) 炭化物も多く含む

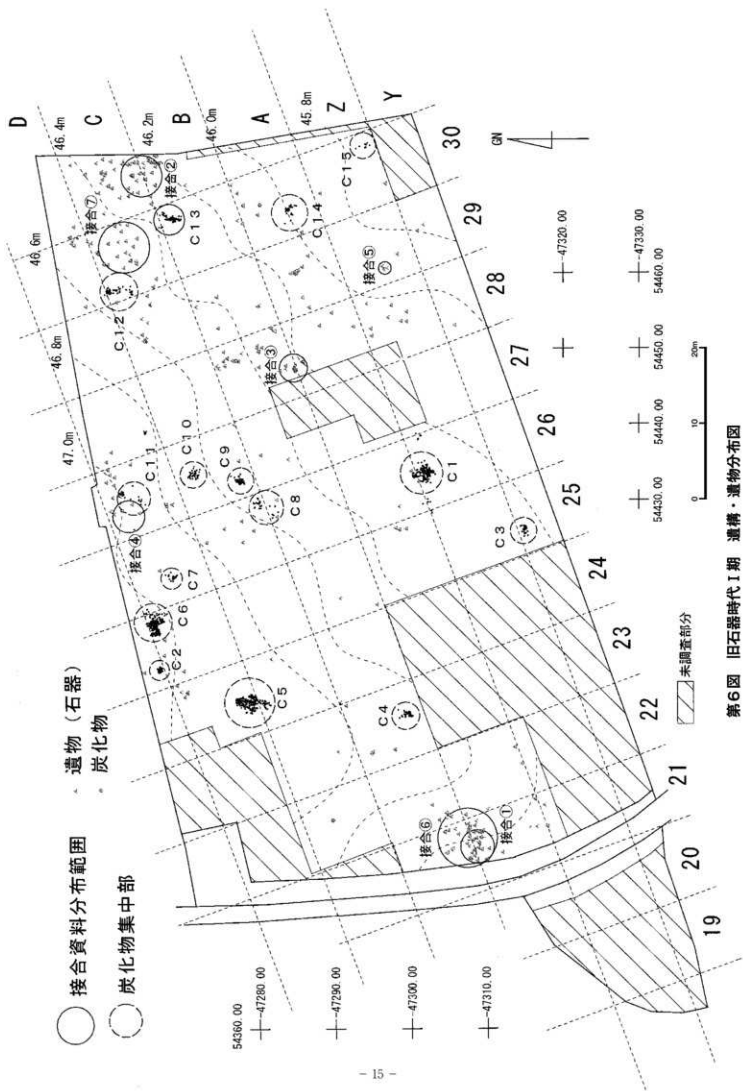
炭化物集中部 3



炭化物集中部 3 注記
 ① 褐色土 (10YR4/4) 粗粒 Xb層の土を含む
 ② 黄褐色土 (10YR5/8) ①とXI層の混合土 炭化物を含む

0 1m

第5図 旧石器時代I期 炭化物集中部実測図 (1/30)



第6図 旧石器時代I期 遺構・遺物分布図

ホルンフェルス類製石器群（第7～14図、遺物番号1～39）

ホルンフェルスは多様な原岩が熱変成を受けて再結晶鉱物をつくり緻密かつ硬質になった岩石である。数万年を経た石器の表面は風化し、鉱物組成の違いを反映した色調の違いがあり、再結晶鉱物のつくる組織などによって頁岩源のもの、砂岩源のもの、砂泥互層源のものといったように分類することができる。しかし、現在、河川等でこれらの風化していない円礫を分類しようとすればルーベを使用しても困難である。当時の人々にとってのホルンフェルス類は黒色で緻密硬質な円礫としてすべて一括して認識されていた可能性は高い。また、山田遺跡や赤木遺跡など延岡市の丘陵上では約9万年前の阿蘇4火砕流に埋谷されたために頻繁に流路を変えた五ヶ瀬川水系の河床の円礫層が存在している場所が多い。当時の人々は、遠くの河川まで石材調達に行くまでもなく、生活する丘陵の水源となる斜面から、ホルンフェルス類の石材を円礫として取得できたはずである。

本遺跡では、ホルンフェルス類を肉眼で分類できる範囲で頁岩源ホルンフェルス（H1）、砂岩源ホルンフェルス（H2）、砂泥互層源ホルンフェルス（H3）と分類した。1～28までが頁岩源、29～35までが砂岩源、36～39までが砂泥互層源ホルンフェルスである。

1～6は礫器である。1、2は直径10cmをこえる扁平な円礫に背面から数回の剥離を施し刃部を作っている片面礫器である。3～5は1、2よりやや小形で扁平な長楕円礫の長辺に複数の調整を施して刃部を作っている。大形のもの左右対称に近い弧状の刃部であることに對し、小形ものは刃部が長辺から短辺に回り込むように作られており、左右対称でない。6は後述のグループに類似点が多いが両面調整であることや素材礫の形状に相違がある。8は刃部の形成が不明瞭、9には無いことから石核とした。10は剥片の右側縁に表面から連続的な調整を施した搔器である。

接合資料I-①（第9図）は長軸17cmほどの砲弾形の扁平礫をほぼ中央部で2分割し、それぞれに加工を施している。11は多方向からの打撃がある石核であるが、12は礫器の形状に調整しようとしたともとれる剥離がみられる。

接合資料I-②（第10図）は分割前に1、2に類似する大形の左右対称の刃部をもつ片面礫器であったと考えられる。これを中央から分割した後、20、21のそれぞれを3～5のタイプの小形で刃部が左右対称でない礫器に調整しているようである。

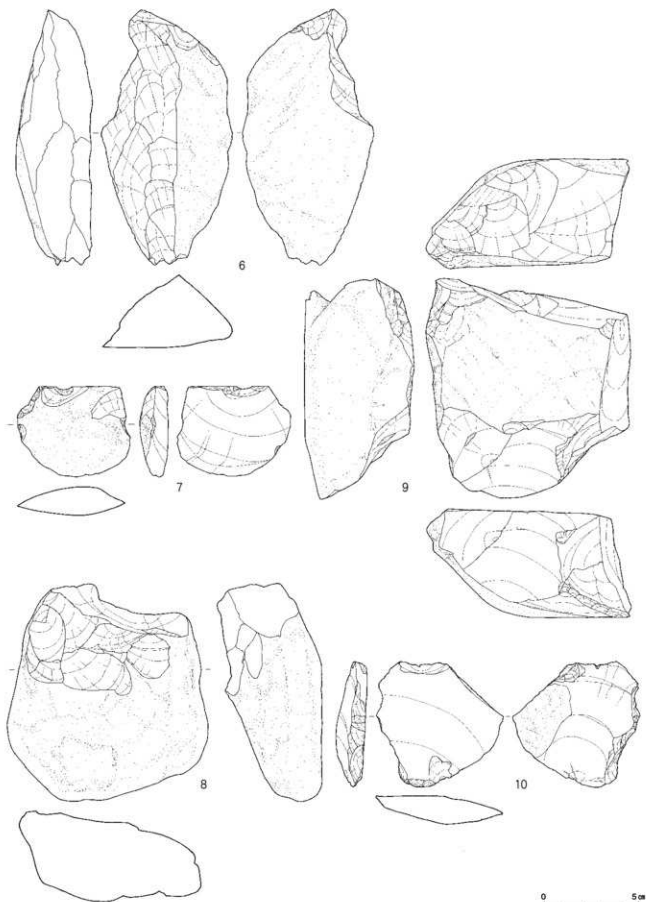
接合資料I-③（第12図）は20cmを超える巨大な礫を大きく2分割した後、調整を加えているが、節理面での偶発的な割れにより不規則な形状になったものと思われる。これらは、中央部東よりのB28グリッドX I層上面で直径50cmの範囲内に固まって検出され（図版3）、作業した地面の高さを推定できる資料である。これらは被熱が見られない。前述の分類基準により29、32、34は石核、30、33、36、38、39を片面礫器とした。30は刃部が何らかの折損によって3cm程度しか残存していないものと考え礫器に分類した。

砂岩製石器群（第15～17図、遺物番号40～47）

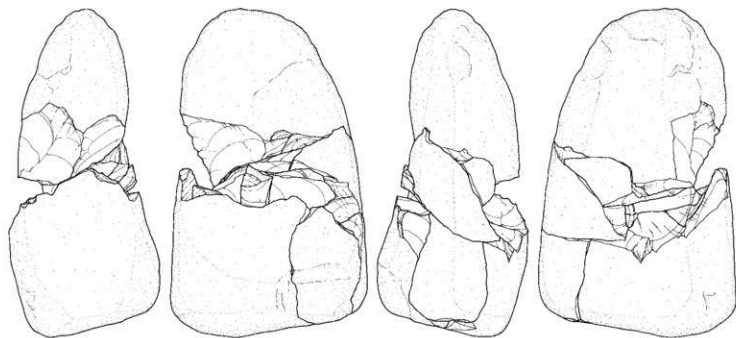
砂岩は肉眼的な同定が容易であり当時も選択的に使用していると考えられる。40、43、44、45、47はホルンフェルス類石器群の1、2と類似するタイプの大形片面礫器である。完全な形で残っているのは40のみで、他のものは何らかの折損がある。44、47の折損面には打撃の痕跡がないが、43では折損部に調整を加えている。41は前述の3～5と類似するタイプの小形で刃部が左右対称でない礫器である。両面の調整が4に類似している。42は二次加工剥片である。46は不明瞭ながら連続した剥離で刃部を形成しており削器と考えられる。



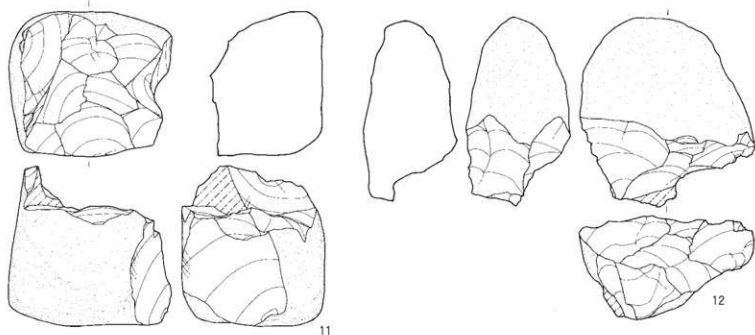
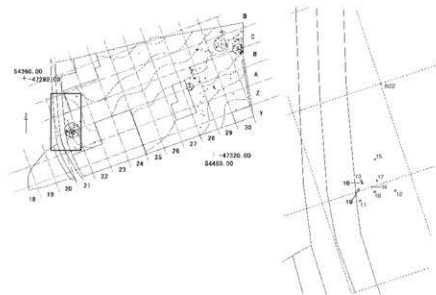
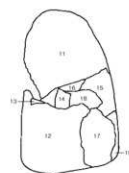
第7図 旧石器時代I期 石器実測図1 (1/2)



第8图 旧石器时代I期 石器实测图2 (1/2)



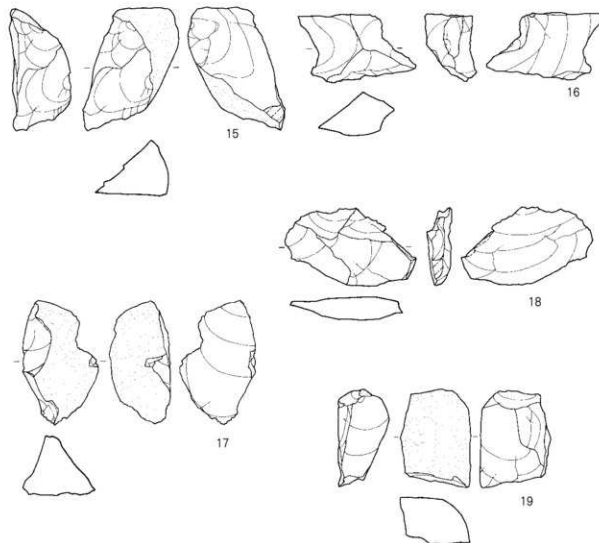
接合資料 I-①



13



14



15

16

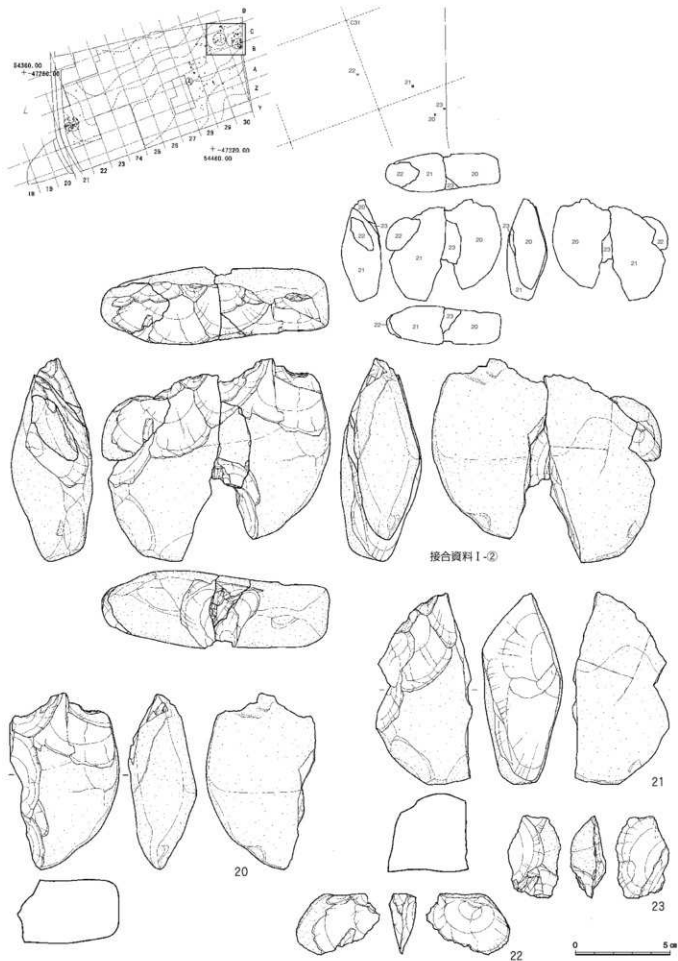
18

17

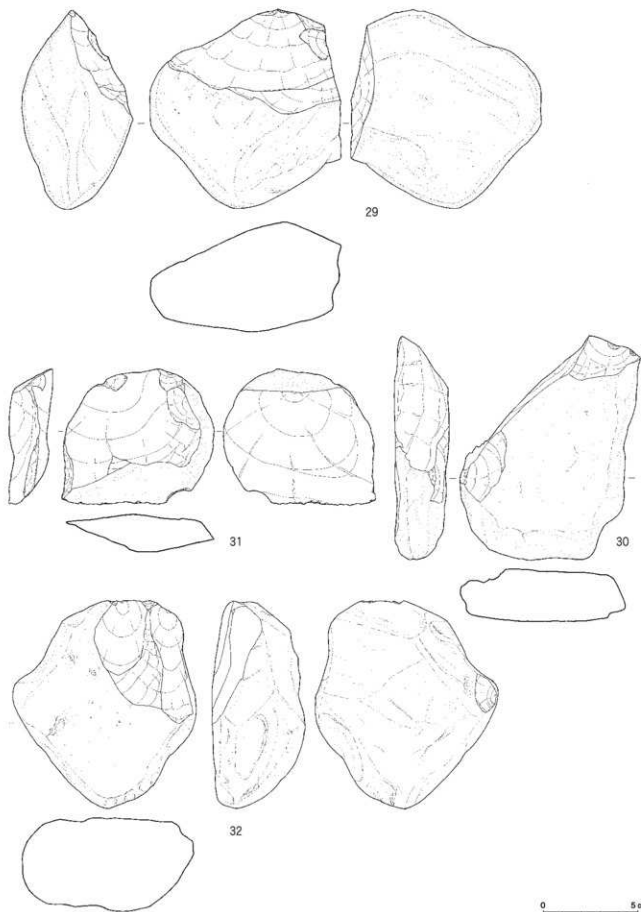
19



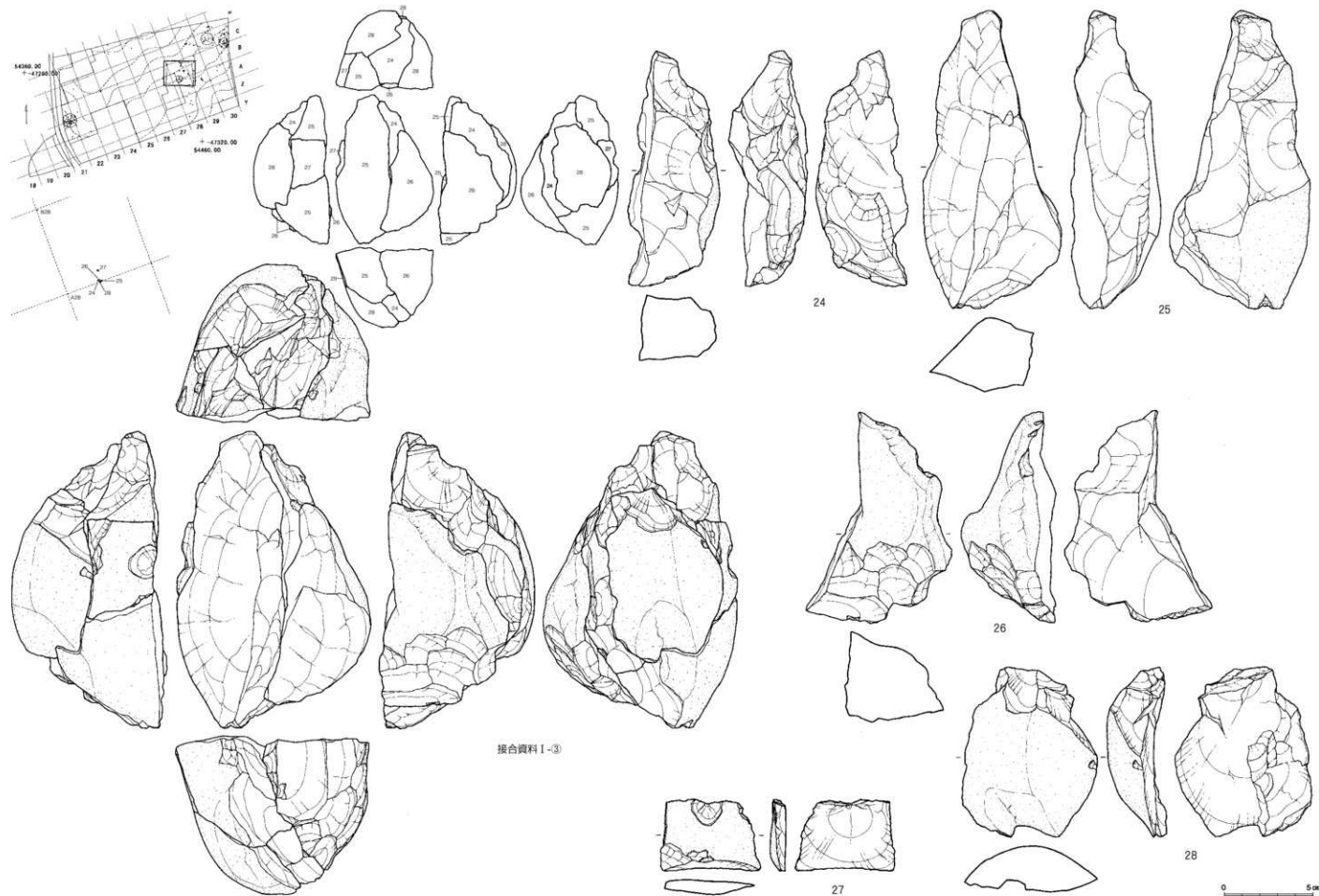
第9図 旧石器時代I期、石器実測図3 (1/2)



第10図 旧石器時代I期 石器実測図4 (1/2)

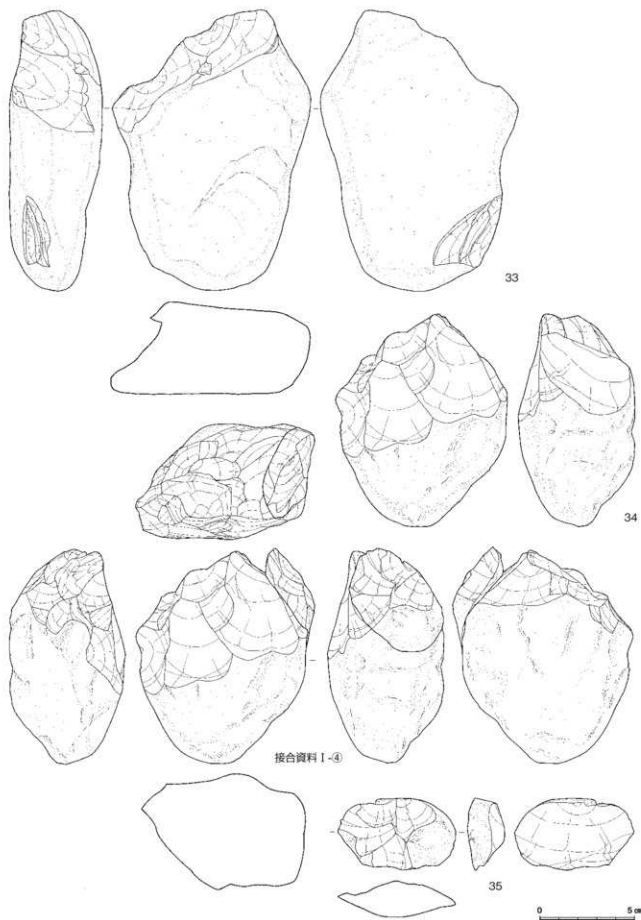


第11図 旧石器時代1期 石器実測図5 (1/2)

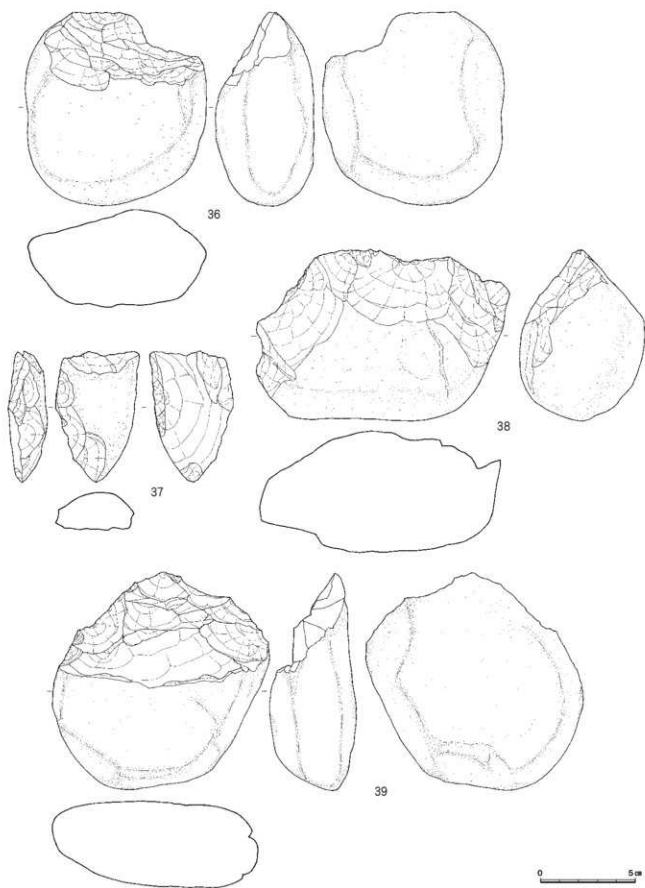


接合資料 1-③

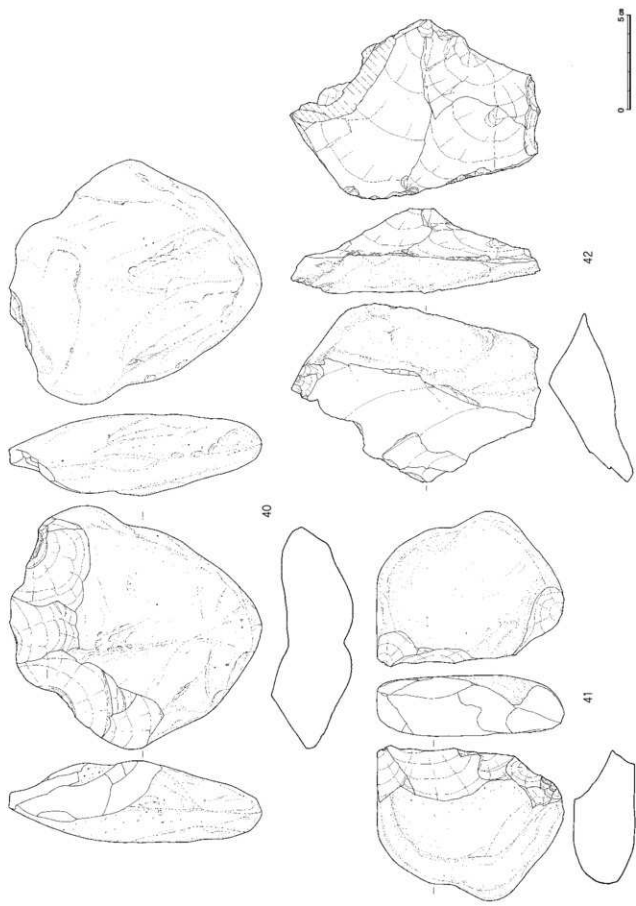
第 1 2 図 旧石器時代 I 期 石器実測図 6 (1/2)



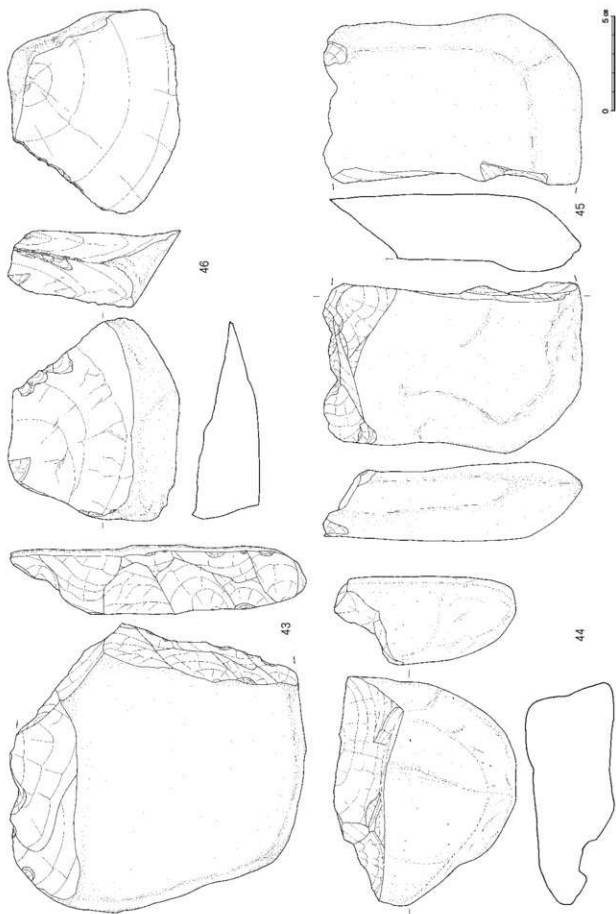
第13図 旧石器時代I期 石器実測図7 (1/2)



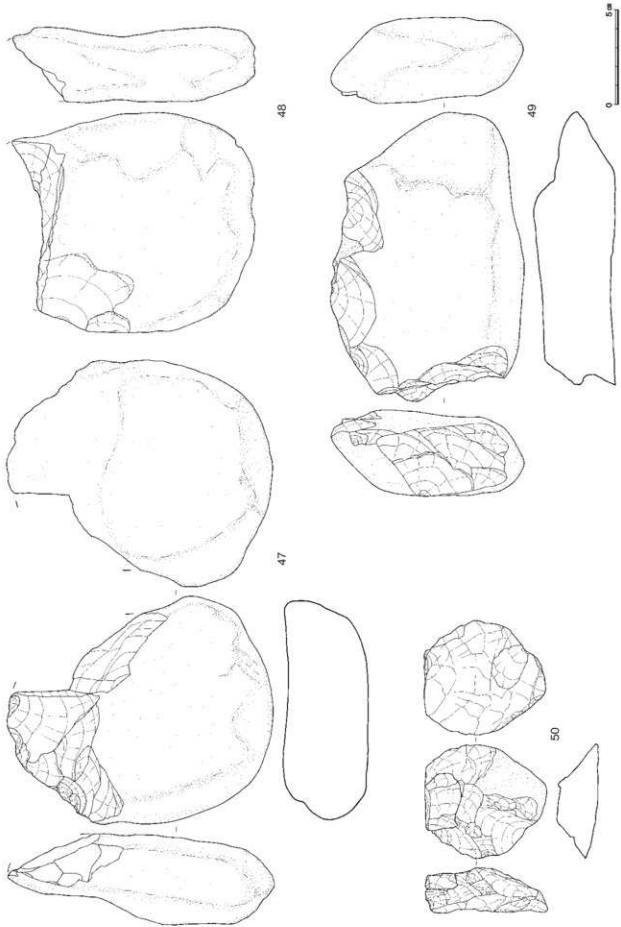
第14図 旧石器時代I期 石器実測図8 (1/2)



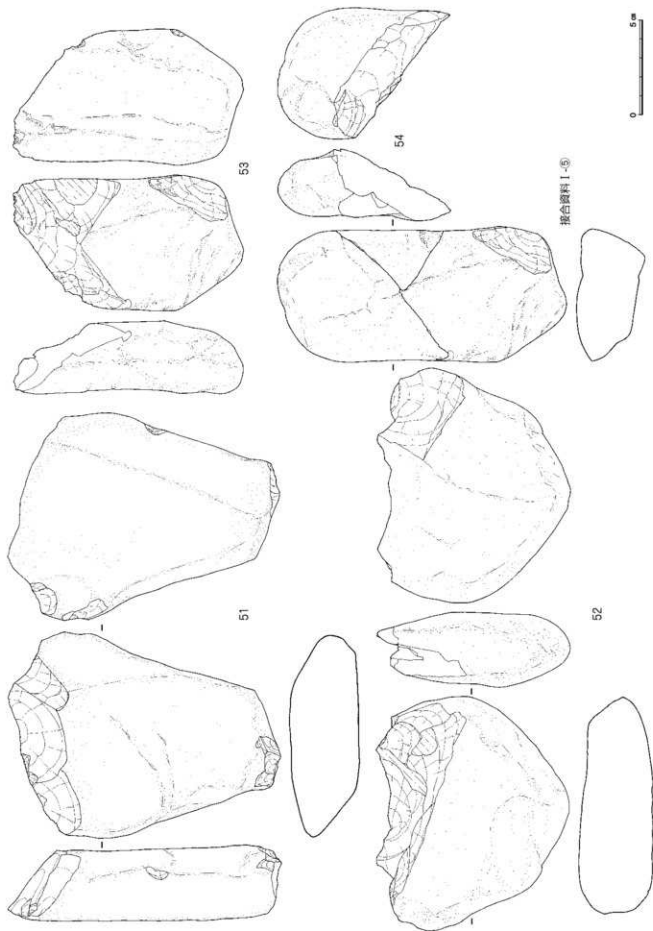
第 15 図 旧石器時代 I 期 石器実測図 9 (1/2)



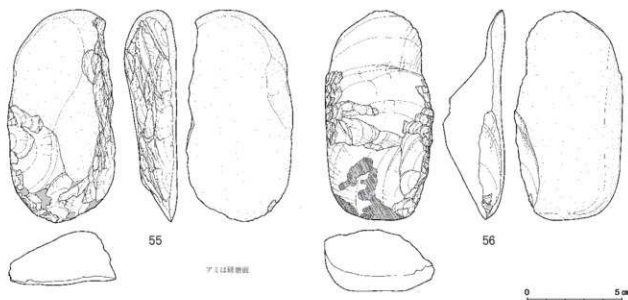
第16图 旧石器时代I期 石器实测图10 (1/2)



第17図 旧石器時代I期 石器実測図11 (1/2)



第18図 旧石器時代I期 石器実測図12 (1/2)



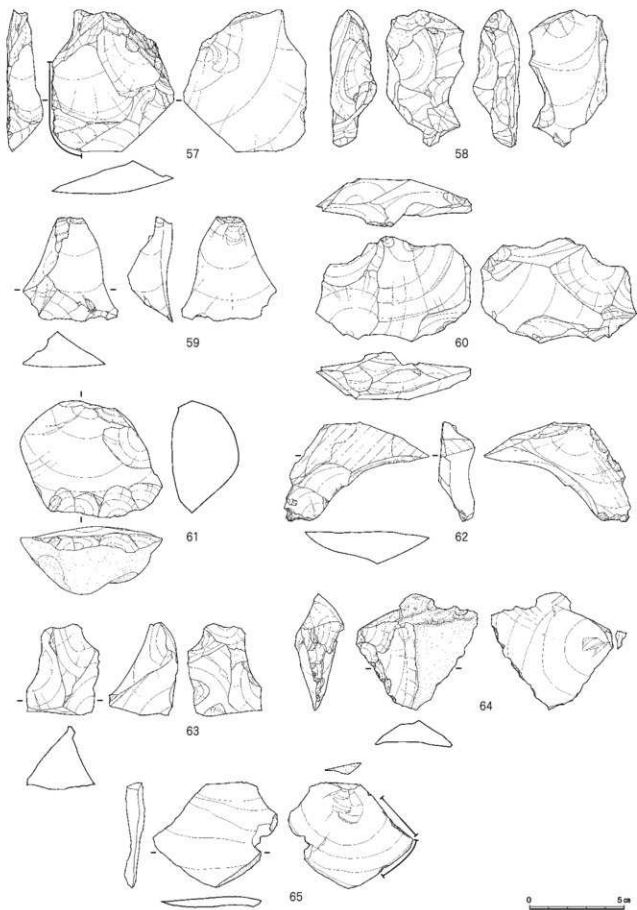
第19図 旧石器時代Ⅰ期 石器実測図13 (1/2)

緑色凝灰岩製石器群 (第17～19図、遺物番号48～56)

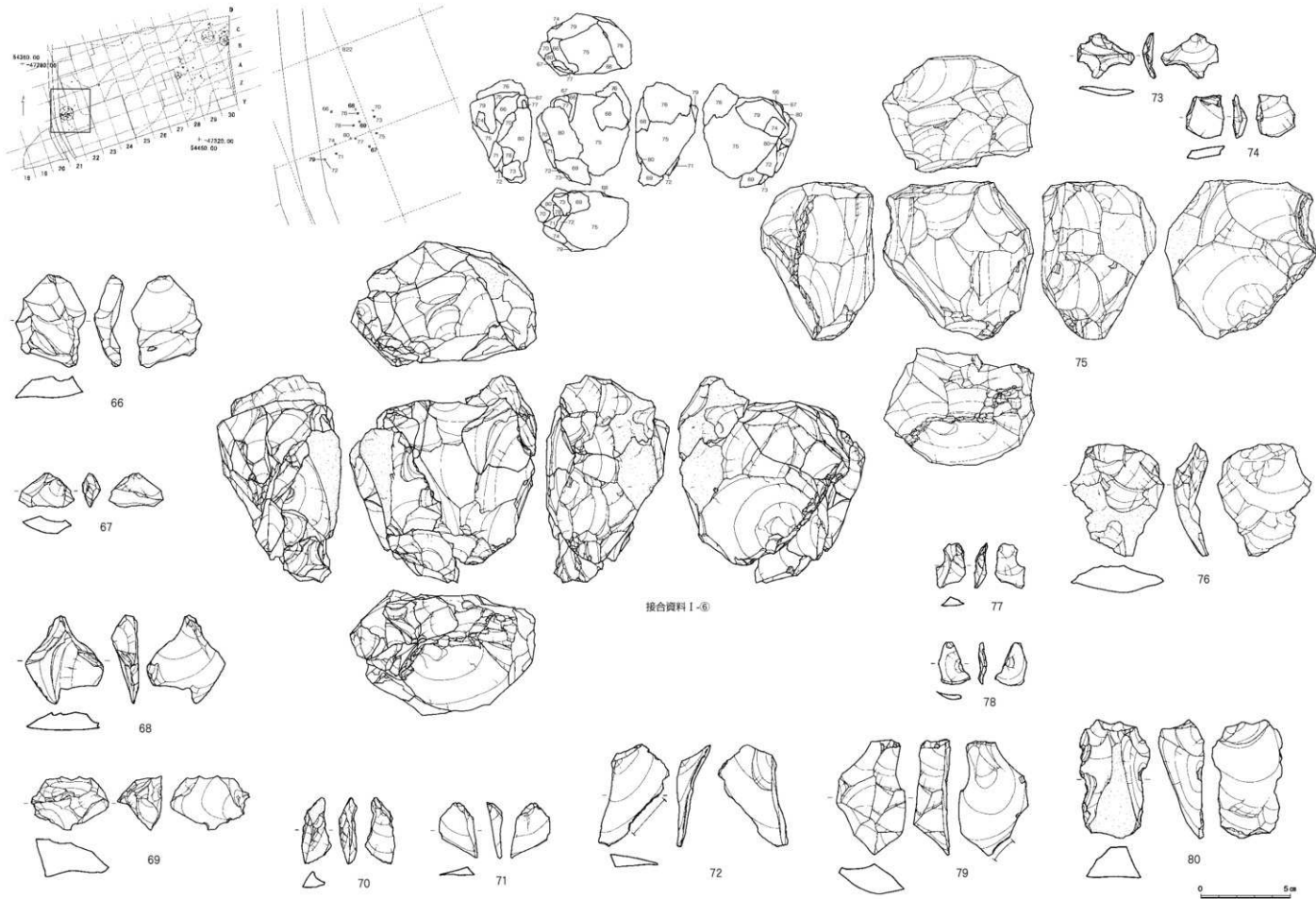
四万十累層群や秩父帯に分布する緑色岩類と総称される塩基性の火山岩とともに産出する凝灰質で淡緑色の岩石をこの名称で一括する。48、49、51、52は礫器である。48は石核もしくは分割礫ともとれるが、わずかに残る剥離を残存する刃部と考え、44や47と同様の折損と判断した。49、51は円礫ではないが、片手で持ったとき手に馴染む扁平な礫を素材としており、これにより何らかの作業をしたと考えることに違和感はない。使用痕については判断に苦しむところであるが、若干の微細な剥離や刃部の折損を使用の痕跡と考えたい。52は片理の卓越した円礫が素材である。刃部の形態などは他の石材の大形の片面礫器に類似している。接合資料Ⅰ-⑤ (第18図)は扁平で長楕円の円礫を53、と54に2分割したものである。片理が卓越する岩石であるため階段状の剥離面を形成しており54は一部破断している。55、56は局部磨製石斧である。背面に礫面を残して刃部を形成し周縁にこまかく調整を施した後、先端部をわずかに研磨している。素材の礫形状は接合資料Ⅰ-⑤に類似点がある。

流紋岩類製石器群 (第20～22図、遺物番号57～86)

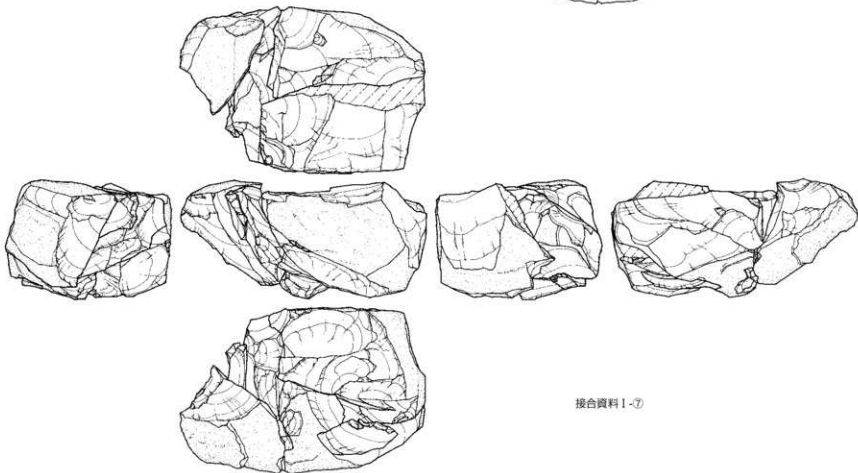
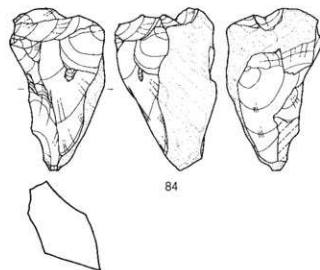
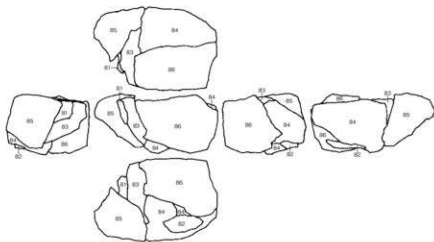
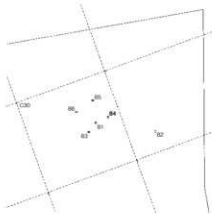
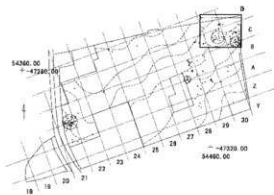
本遺跡で石器素材になる流紋岩類は色調で白色系 (R1)、黒色系 (R2)、暗灰色系 (R3) の3系統に肉眼分類できる。これらは祖母・傾山起源の火成岩と考えられる。岩石学的には、流紋岩を主体とするデイサイト、閃緑岩、安山岩などの酸性～中性の火成岩で構成され、さらにそれらと同質マグマ由来の凝灰岩、溶結凝灰岩が混在している可能性がある。特に黒色系については黒色頁岩やホルンフェルスとの肉眼的な分類は大変困難で、岩石薄片による顕微鏡観察や成分分析の必要性を感じる。ここでは白・黒・暗灰色の硬質緻密な岩石を考古資料に対する名称として一括して流紋岩類と記載する。



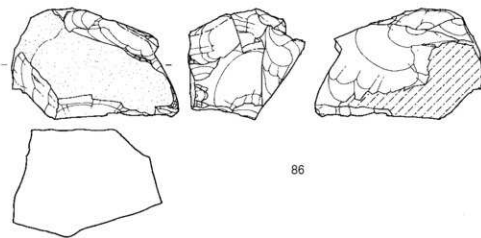
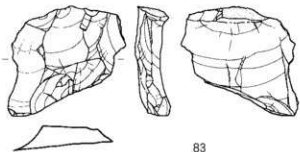
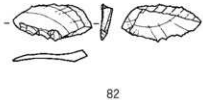
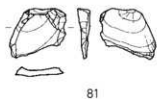
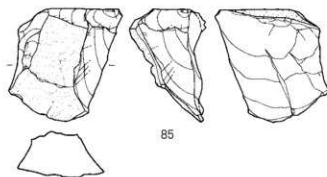
第20图 旧石器时代I期 石器实测图14 (1/2)



第21図 旧石器時代I期 石器実測図15 (1/2)



接合資料 I-⑦



第22図 旧石器時代I期 石器実測図16 (1/2)

0 5cm

前述のホルンフェルス類や砂岩製の石器群とは大きく異なり礫器などの石核石器の製作はほとんどなく、剥片石器の製作を主体としている。57は左側縁に微細剥離が見られる剥片である。60、61は石核である。61は円礫を分割した後、礫面から打撃を加えている。これは搔器の刃部調整である可能性もある。62、63は白色系流紋岩類製の剥片と石核であるが強く焼成を受けており表面にクラックが入っている。64は連続する剥離のある削器、65は右側縁に微細剥離のある剥片である。

接合資料Ⅰ-⑥(第21図)は白色系流紋岩類製である。分布は調査区西端のB21グリッド付近に集中する。頻繁に打面を転位して剥離を行っており得られた剥片は不定形のものが多い。72は薄い幅広の剥片が縦方向に断裂したもので、右側縁に微細剥離がある。75の石核はほぼ全面に剥離が見られる多面体石核であり、一部の稜に連続した微細な調整が見られる。79は厚みのある剥片で左側縁に微細剥離がある。80はくさび形の二次加工剥片で左側縁の連続する調整により搔器とも考えられる。

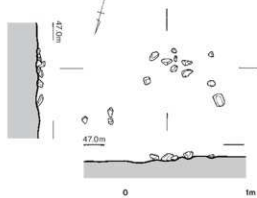
接合資料Ⅰ-⑦(第22図)は黒色系流紋岩類製であり、分布は調査区北東端のC30グリッドに集中する。素材の左端の85を剥離した後上面を打面として82、83など数回の剥離を施してから打面を90°転位させている。82の剥片は下端に調整を施したような鋸歯状の剥離があり集中部から5mほど離れた所から出土した。

第2節 旧石器時代Ⅱ期(Xa層)の遺構と遺物

旧石器時代Ⅱ期とした遺構・遺物は、始良Tn火山灰層直下のいわゆる暗色帯と呼ばれるX層上部の厚さ10~20cmに分布する。遺構は礫群が1基のみであり、遺物量も少ない。

1 礫群

Ⅱ期で確認できた遺構はA27グリッドに単体で確認できた礫群1基のみであった(第23図)。これは始良Tn火山灰層を重機で除去した時点で一部が検出され、底部はX層の上面から数cmの深さに位置する。15~20cm程度の亜角礫が14個使用されており、被熱は弱く、掘り込みは確認できなかった。



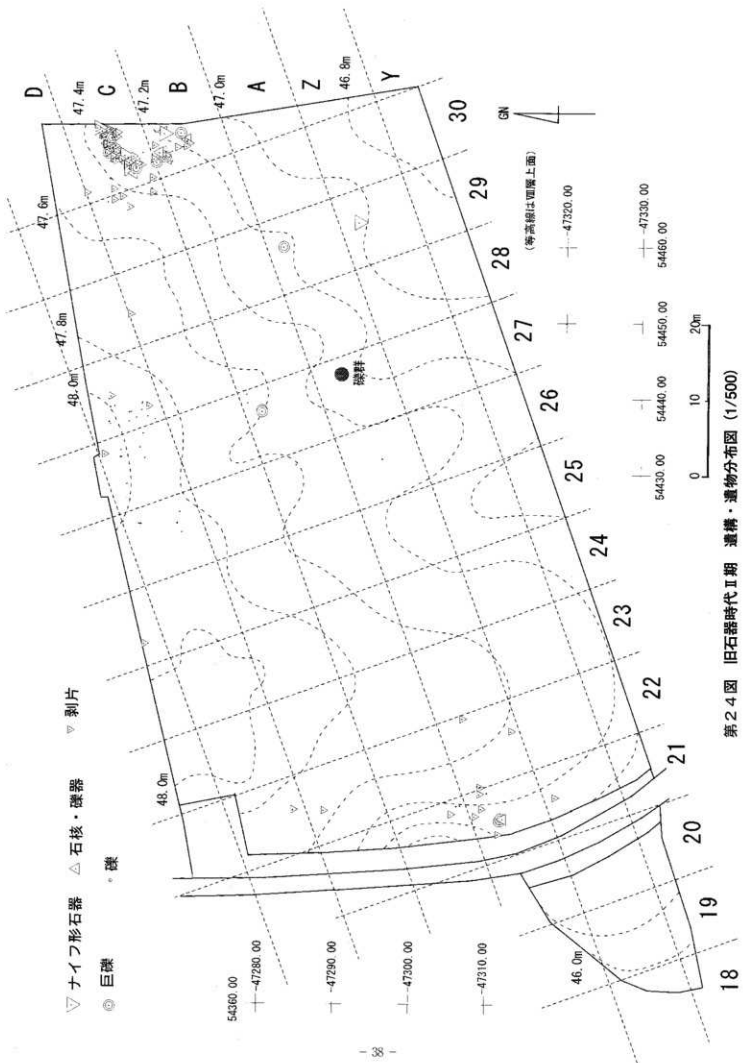
第23図 旧石器時代Ⅱ期礫群実測図(1/30)

2 石器

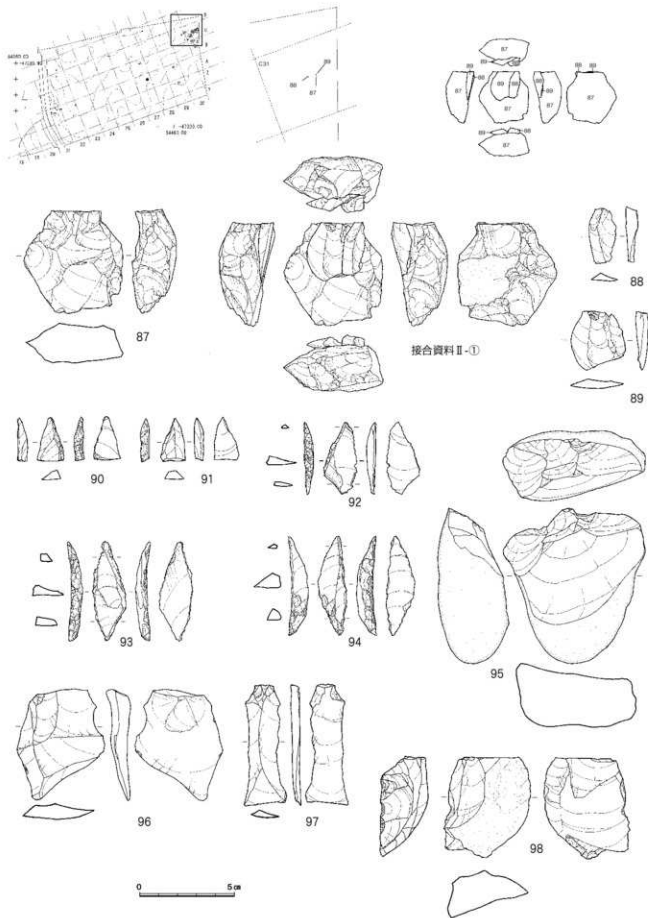
この時期の石器はおおむねサイズが小さく、大形の礫器を含まず、流紋岩類を素材とした小形のナイフ形石器とチャートを含む構成が旧石器時代Ⅰ期との相違点である。石器ブロックは調査区北東端のB31、C31グリッドと南西端のA21グリッドの2か所である。調査区中央付近には数点が散在するだけである。前述のA27グリッドの礫群周辺には石器ブロックは存在しない。

流紋岩類製石器群(第25・26図、遺物番号87~109)

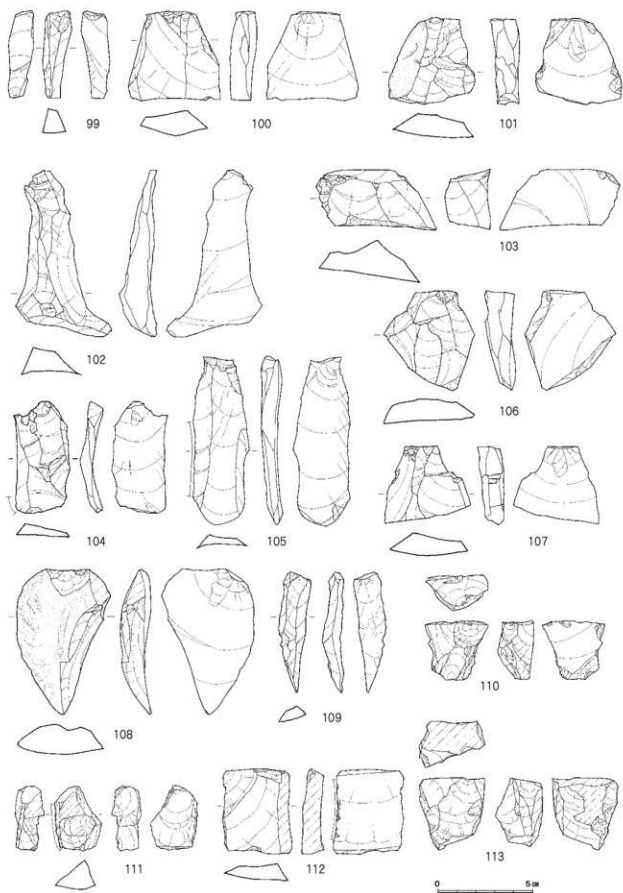
旧石器時代Ⅰ期で記載した白色系・黒色系・暗灰色系の流紋岩類が多用されている。ナイフ形石器は主として暗灰色の流紋岩類を素材に選択している。接合資料Ⅱ-①(第25図)は暗灰色の流紋岩でありC31グリッドの石器ブロックで出土した。円礫を分割して得られたと思われる長さ・幅約5cm、厚さ約



第24図 旧石器時代Ⅱ期 遺構・遺物分布図 (1/500)



第25図 旧石器時代Ⅱ期 石器実測図1 (1/2)



第26図 旧石器時代Ⅱ期 石器実測図2 (1/2)

2 cmの小形の石核から連続的に88、89の小形剥片を剥離している。石核の直面には直面調整が施され、剥片の背面には作業面調整がみられる。90～94の5点はナイフ形石器である。90、91は先端部だけの折損品か意図的な成形かは不明である。打撃の痕跡は見られず折損の可能性が高い。92は側縁加工、93、94は二側縁加工が施される。側縁部の調整はいずれも腹面側からであり、素材剥片の打点は除去されている。95は白色系流紋岩類製の礫器である。石核の可能性もあるがⅠ期での判断規準により礫器と考えた。96は剥片、97は微細剥離のある剥片である。97は薄い縦長剥片であり、ほぼ同一方向からの連続剥離によって得られたものと考えられる。作業面調整があり、薄型であるため目的剥片の可能性があり、側縁に微細剥離がある。98は剥片の左側縁に腹面から連続した調整を施した搔器である。99～109は流紋岩類製の剥片である。104、105は作業面調整と微細剥離のある明瞭な縦長指向の剥片である。

チャート製石器群（第26図、遺物番号110～113）

チャートは旧石器時代Ⅰ期とⅢ期にほとんど出土が見られず、Ⅱ期の特徴である。110、113は石核である。111は断面が三角形で最も鋭角な左側縁に微細剥離がある。112は剥片の上下を折り取り正方形の板状に成形しており右側縁に微細剥離がある。

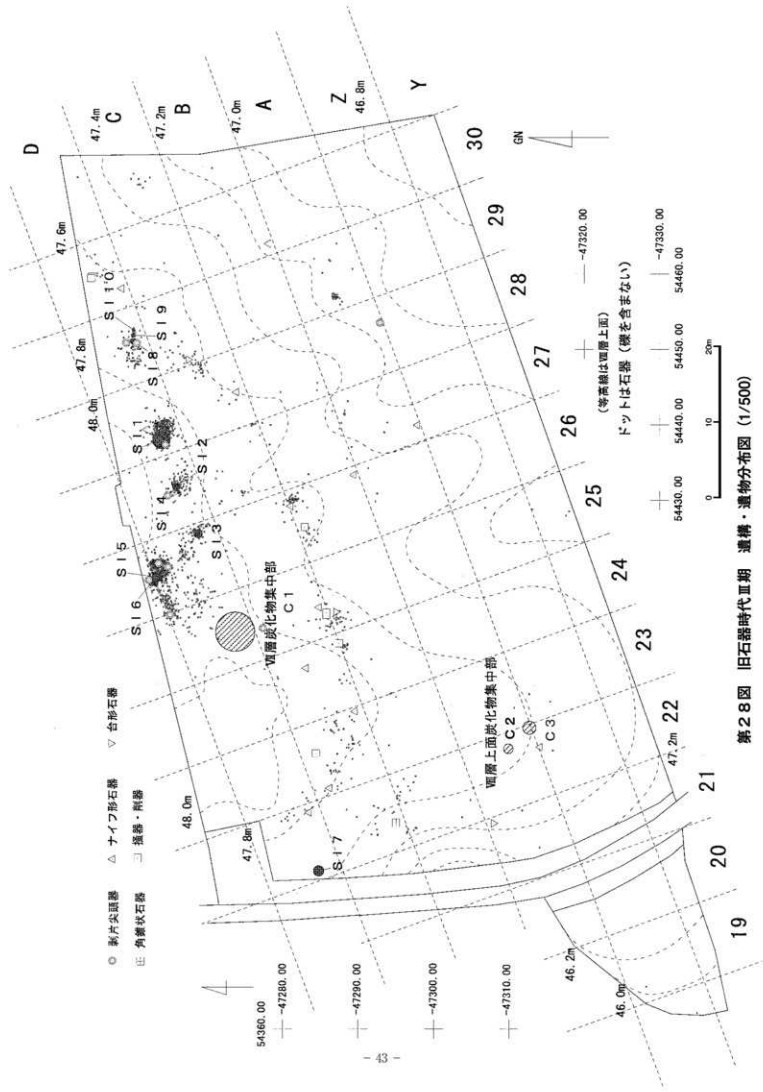
第3節 旧石器時代Ⅲ期（Ⅶ～Ⅷ層）の遺構と遺物

旧石器時代Ⅲ期とした遺構・遺物は、Ⅶ層下部～Ⅷ層にわたる比較的厚い層準に分布している。Ⅶ層とⅧ層が肉眼的に大きく違った土質であり、遺物の出土レベルに幅があるため、Ⅶ層とⅧ層の時期を分離できる可能性を検討した。その結果、①ほとんどの接合資料でⅦ層とⅧ層の資料が接合しており、どちらかだけで構成される資料はほとんどなかった。②遺物全点をⅦ層とⅧ層に分離して平面分布図を作成したところ、ほぼすべての集中域が重複し、どちらか単独の集中域はごくわずかであった（第27図）。③石材、器種構成などにも類似点が多い。以上の3点から、今回はⅦ層とⅧ層の遺物を分離して報告することは困難であると考え、同一時期のものとして報告することとした。ただ、個々の集中域ごとに石器の形態や剥離技術等を詳細に分析すればⅢ期の中での上部、下部（すなわちⅦ層主体、Ⅷ層主体）に分離できる可能性は否定できない。

1 炭化物集中部（第29図）

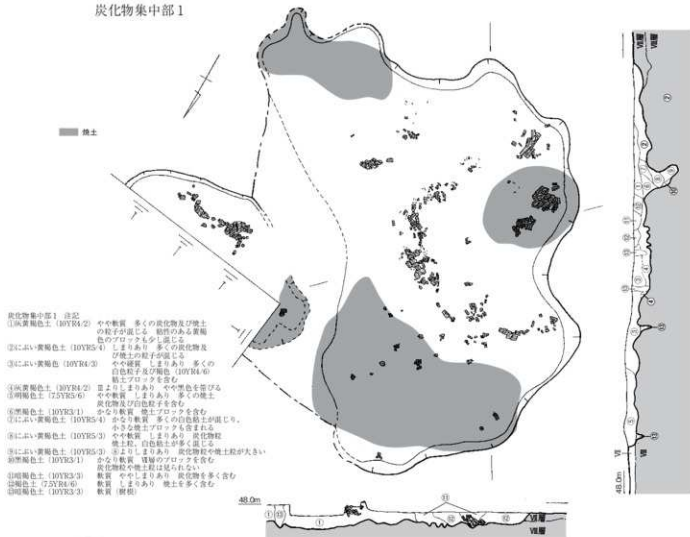
Ⅶ層のD25グリッドには焼土と炭化木材の集中部が検出された。大型の木材であり一部に焼土を伴う。炭化材は厚みを持って堆積しており、基準面（底面）は波打ち、平面性に乏しい。掘り込み、ピットとも明瞭には検出できなかった。これは人工的な焼成の遺構であるか、落雷等による自然の樹木火災であるかは判断しがたいものであるが、この試料を分析することで、Ⅶ層の年代、気候等の多数の情報を得ることができた。検出層位はⅦ層の中部から下部にかけてである。石器群や礫群等よりも数cm上位ではあるが、大形炭化材の比重が軽いことや、寒冷期であり凍結による擾乱がおこったであろうことを考慮に入れて、堆積時期はほぼ同程度と考えたい。炭化材は、第29図のように太さ5～10cm、長さ10～20cm程度のものが多数、列状に並んで分布していた。

この炭化材は、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施した。その結果、補正年代で19,570±90BPの値を得ている。樹種は現世の信州付近に植生する針葉樹トガサワラであった（図版1）。このほか調査区南西部のⅧ層上面で小規模な炭化物集中部を検出した（第28図）。



第28図 旧石器時代Ⅲ期 遺構・遺物分布図 (1/500)

炭化物集中部1

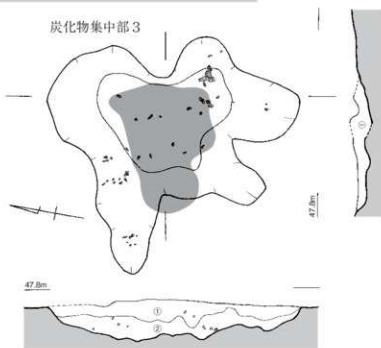


炭化物集中部2



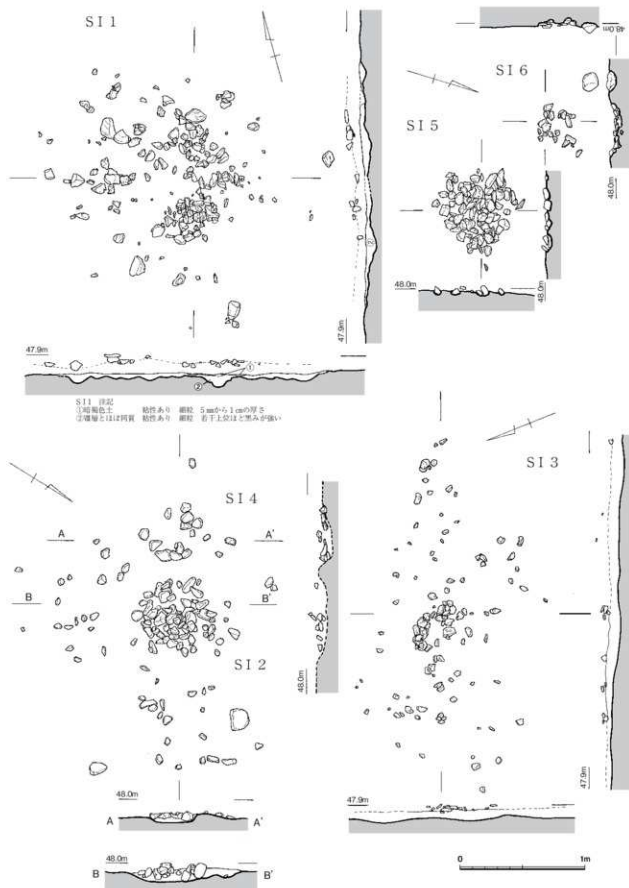
炭化物集中部2 注記
 ①暗褐色土 (7.5YR3/6) やや軟質 不規則に暗褐色土にも変化する。下部は焼成により黒ずみ硬質になっている。

炭化物集中部3

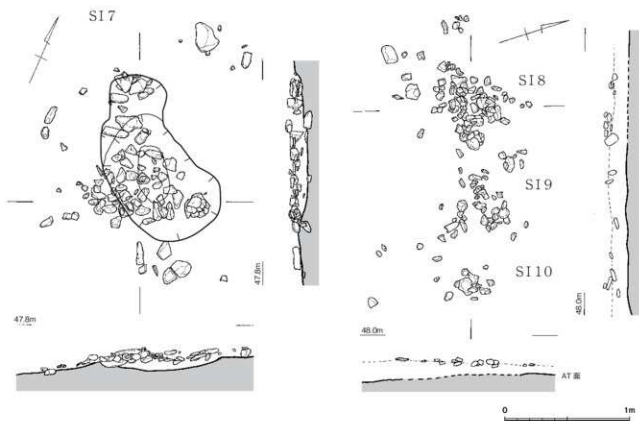


炭化物集中部3 注記
 ①暗褐色土 (7.5YR3/3) 硬質 ②よりしまりなし、中央部が焼成により周囲より硬質。炭化物を含む。
 ②暗褐色土 (7.5YR5/6) 軟質 しまりあり、中央部が焼成により周囲より硬く硬質。多くの炭化物及び焼土を含む。

第29図 旧石器時代Ⅲ期 炭化物集中部実測図 (1/30)



第30図 旧石器時代Ⅲ期 礫群実測図1 (1/30)



第31図 旧石器時代Ⅲ期 礫群実測図2 (1/30)

2 礫群 (第30・31図)

礫群は10基検出された。分布域は調査区北部D26～29グリッドにかけて9基が弧を描くように配列しており(第28図)、西部のD22グリッドから1基を単独で検出した。礫群の周囲には多数の石器が集中している。これらの礫群は規模の大小が著しく、形態や掘り込みの有無にも規則性はない。Ⅷ層上面から深さ数cmまでのほぼ同じレベルに分布することや接合資料のパーツがいくつかの礫群の周囲に分かれて分布することなどから、ほぼ同時期の生活面上に形成されていると考えたい。形態や規模の違いが機能差であるか、時期差であるかは不明である。平面的には規模の大きな礫群のそばに規模の小さなものが付随しているものが見られる。これは2号と4号礫群(S I 2,4)5号と6号礫群(S I 5,6)8号、9号、10号礫群(S I 8,9,10)において明瞭である。1号、3号、7号礫群(S I 1,3,7)は単体の礫群であるが、不明瞭ながら、わずかに礫群の一部が分離して見える。大小2基の関係は不明であり、偶然である可能性は否定できないが、これらを観察した結果から4点について指摘しておきたい。①本遺跡内ではすべての礫群において大小の配列もしくは礫集中部に若干の分離があること。②礫のほとんどが直径10～30cm程度の円礫の破碎したもので、石材は砂岩優勢で少量の花崗斑岩、泥質岩を含む構成であり、類似していること。③大小の組み合わせにおいて小の方が礫径がやや大きいこと。④集中部がわずかに分離して見える8号礫群(S I 8)において構成礫の接合を実施したところ、ほとんどの礫が接合してほぼ円礫に復元できたこと。以上の共通点は若干の因果関係を感じさせる。

3 石器 (第32~55図)

垂直方向の分布は前述の通りでⅧ層上面検出の礫群をはさんで上下のⅦ、Ⅷ層に及ぶ。平面分布は大きく2系統あり礫群の弧状配列に伴う北部D26~29グリッド周辺の小さな円弧とC29-B26-B25-C23グリッドと続く大きな円弧である(第28図)。大きな円弧状の配列には礫群を伴わない。石器ブロックとしての集中部は小さな円弧上に5~6か所、大きな円弧上に7~8か所が5~10mの間隔で確認できる。A29グリッドにも剥片尖頭器をふくむ小規模な集中部がある。特に規模の大きなものはD26グリッドからD27・D28グリッドに広がるブロックである。これらは礫群に伴い複数の母岩からなる接合資料が混在している(第V章)。石器ブロック間の移動については接合資料ごとに記載する。

旧石器時代Ⅲ期の石器群は多数の剥片尖頭器、ナイフ形石器、削器、搔器と少数の台形石器、角錐状石器、石錐によって構成されている。製品に伴い多数の剥片、石核が出土しており多数の資料が接合する生産地遺跡の様相である。石器製作の素材は主として流紋岩類(ホルンフェルス化したものを含む)の円礫を選択しており、その使用率は圧倒的である(第V章)。礫群の構成礫には丘陵下位に分布する礫層に含まれる砂岩、泥質岩、凝灰岩等を多用しており、明瞭な石材選択を行っているといえよう。

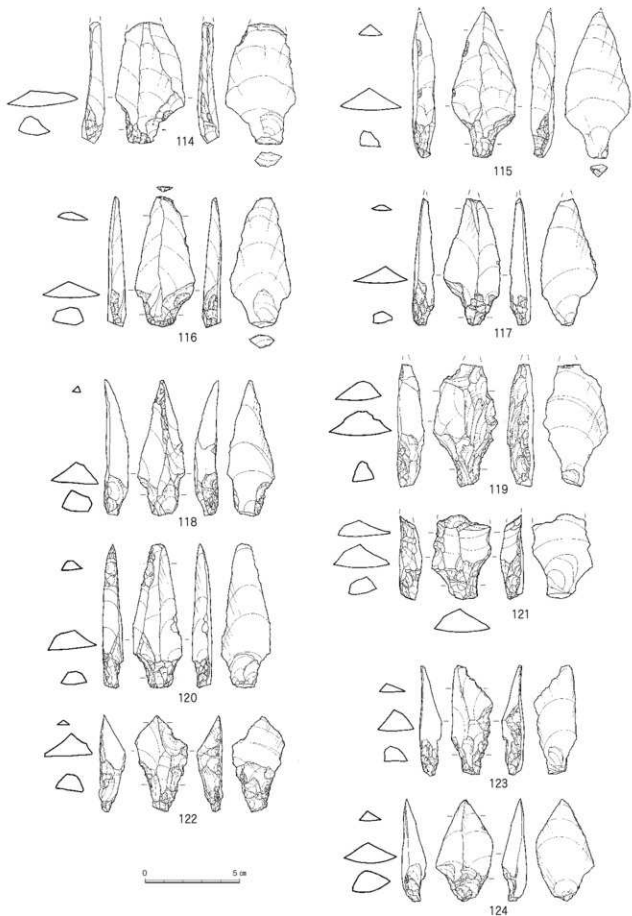
流紋岩類製石器群

旧石器時代Ⅰ・Ⅱ期に於いて記載した白色系(R1)・黒色系(R2)・暗灰色系(R3)の3系統は基本的に同じであるが、資料点数が多く、肉眼的に若干の差異が認められるため部分的に細分した。

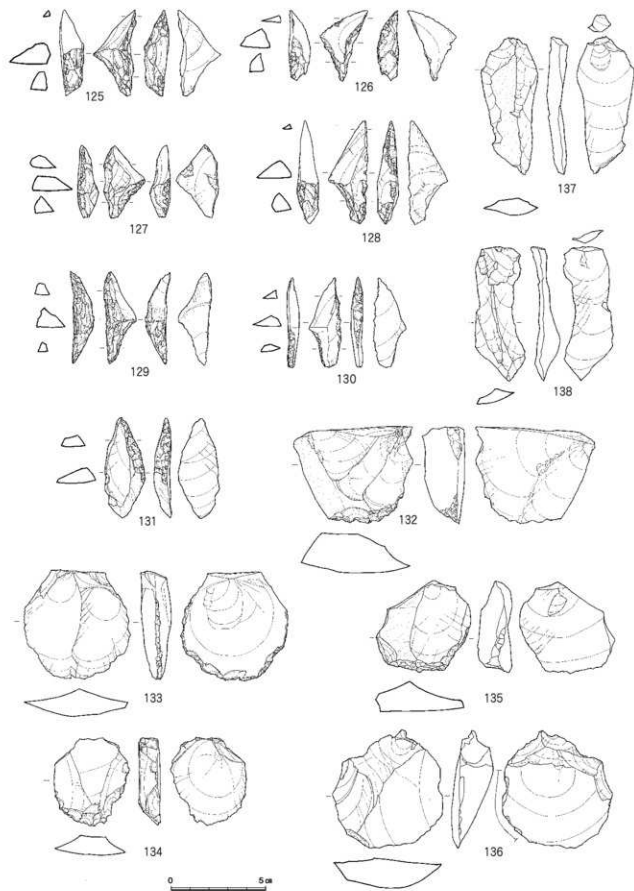
白色系流紋岩類(R1)製石器群(第32~36図、遺物番号114~171)

表面的には白色であるが風化面が白色なだけであり、折損や新しい剥落面では黒色ガラス光沢を見せ黒曜石やガラス質安山岩に類似している。剥離面は粒子感のない滑らかなもので剥片の端部は鋭利な刃部となる。114~121は剥片尖頭器である。折損が少なく完形に近いものでは両側縁の刃部に調整がなく、素材剥片の刃部をそのまま使用している。すべて打点側を基部としており腹面側に剥離は見られない。基部の加工は器長の1/3程度で入念に施されている。118は中央の稜に微細な調整が加えられている。120は素材剥片の先端が丸くなったためか先端部のみ若干の調整を加えている。119、121は折損品であり側縁に調整が加えられている。119は先端部と側縁部の調整が連続しており転用を試みている可能性もある。122~124は基部加工のあるナイフである。122は若干他の製品と異質であり腹面側にも複数の調整がある。123、124は基部の調整があり素材剥片の側縁を刃部として利用している。125~131はナイフ形石器である。125~127は肉厚の剥片を分割して刃部と背部が約45°になるように二側縁を刃潰し加工した、いわゆる狸谷型ナイフ形石器である。128~130は器形がやや細長い二側縁加工の切出型のナイフ形石器である。131は背面の末端に自然面をもつ剥片の打点側を除去して刃潰し加工を施したものである。132~135は搔器である。132、134、135は肉厚幅広い剥片の外周を腹面側から45°程度に連続調整した円形搔器である。133は背面側から腹面側に連続調整が施され刃部が薄く削器とも考えられる。136は形状が類似する剥片である。末端部に微細剥離が残るのみで連続調整は確認できない。139は上下に分割して出土している。上部の右側縁には背面からの連続調整が見られ、削器と思われる。140は石錐である。素材剥片の打点側を除去して先端部を断面正三角形になるよう調整している。

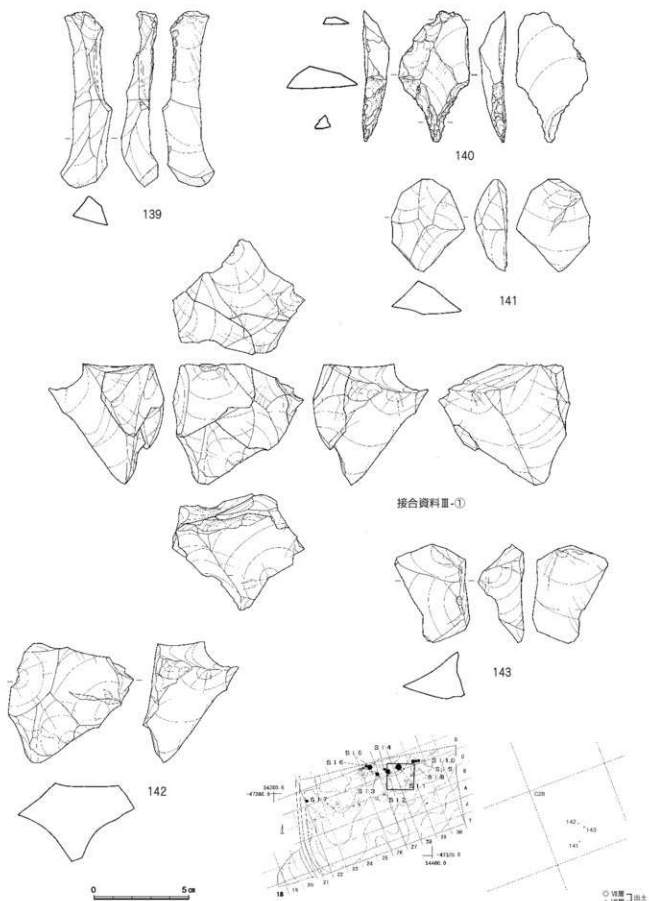
接合資料Ⅲ-①(第34図)はC28グリッドから出土した石核と剥片の組み合わせである。142の石核は頻繁に打面を転位する多面体石核である。この資料が属する石器ブロックは前述の大きな円弧の一部にあたり、礫群の近くではない。



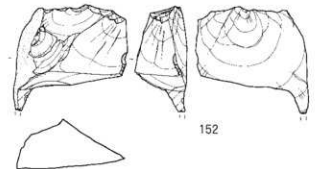
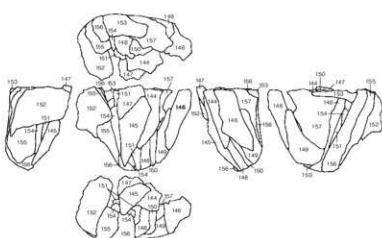
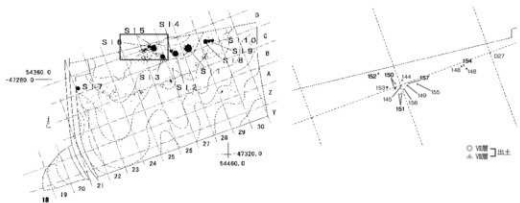
第32図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図1 (1/2)



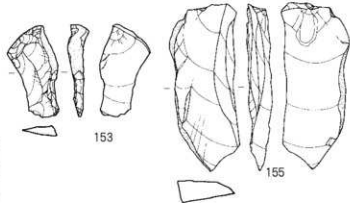
第33图 旧石器时代Ⅲ期 石器实测图2 (1/2)



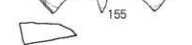
第34図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図3 (1/2)



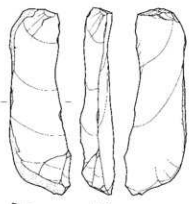
152



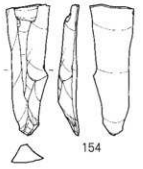
153



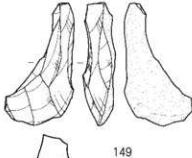
155



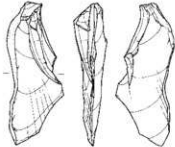
156



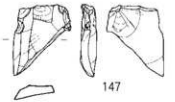
154



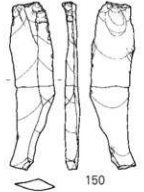
149



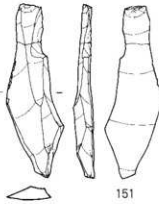
146



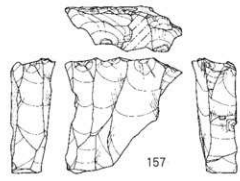
147



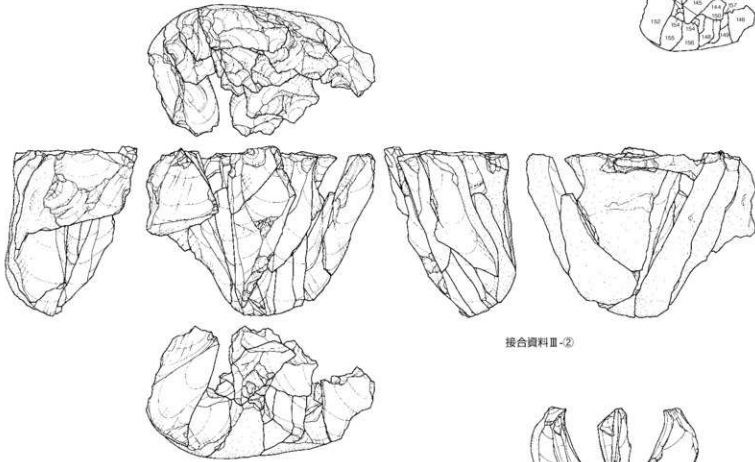
150



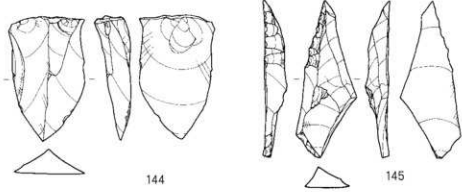
151



157



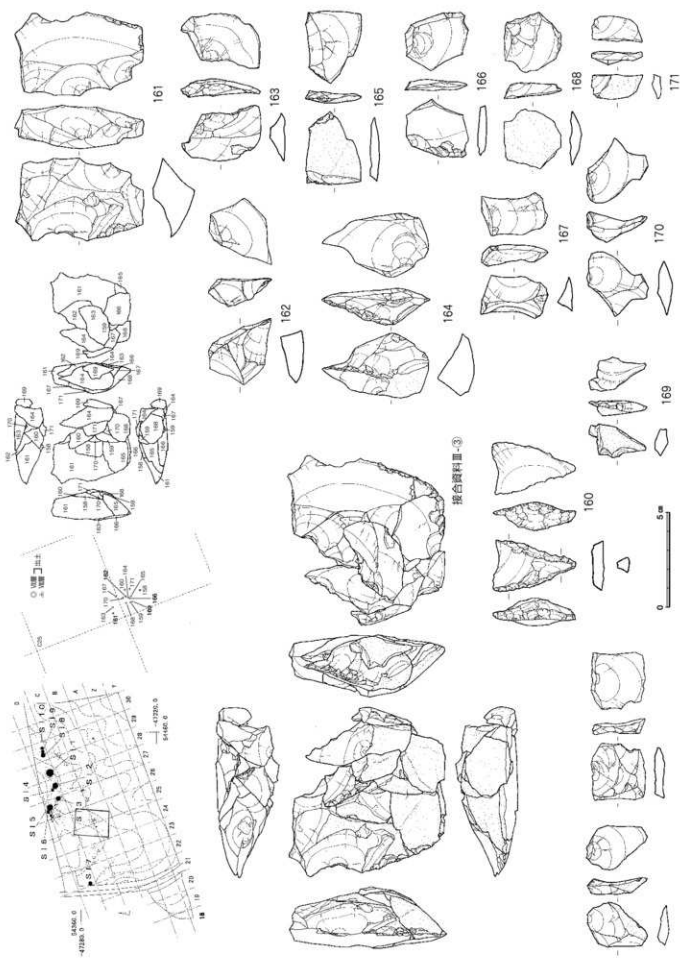
接合資料Ⅱ-2



144

145

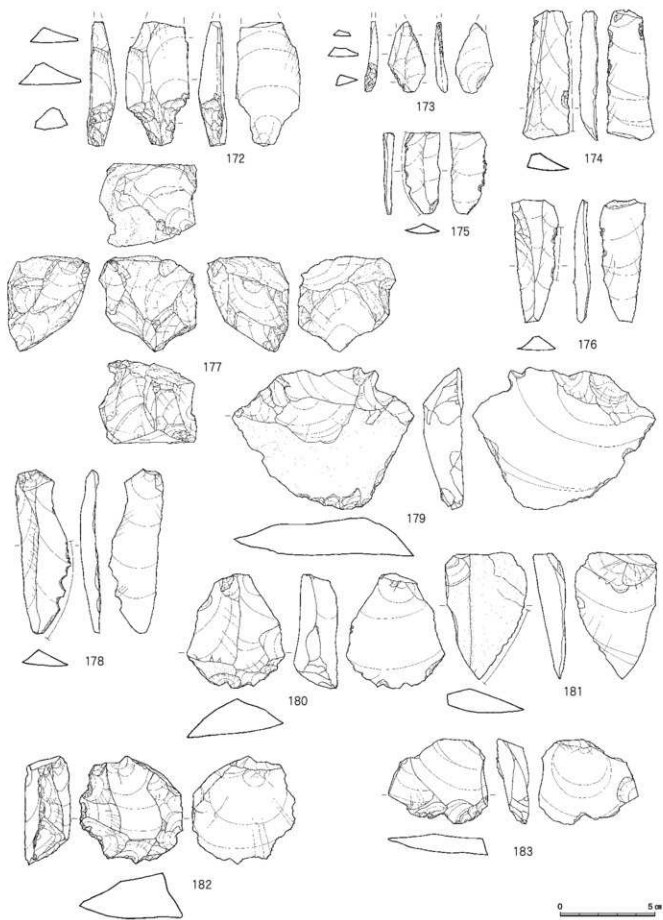
第35図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図4 (1/2)



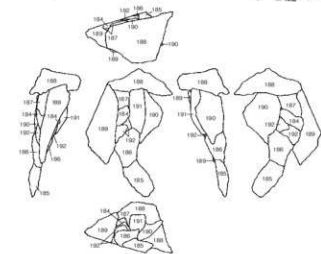
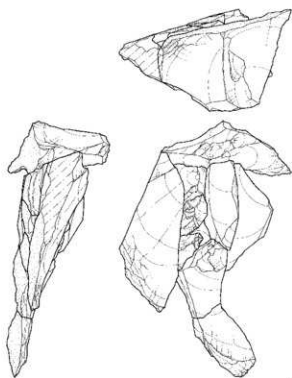
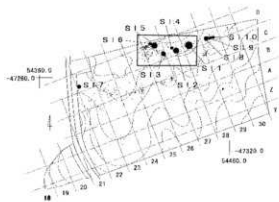
第36図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図5 (1/2)

159

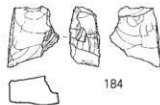
158



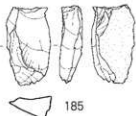
第37図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図6 (1/2)



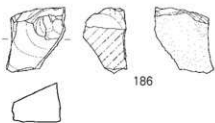
接合資料Ⅲ-④



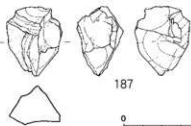
184



185



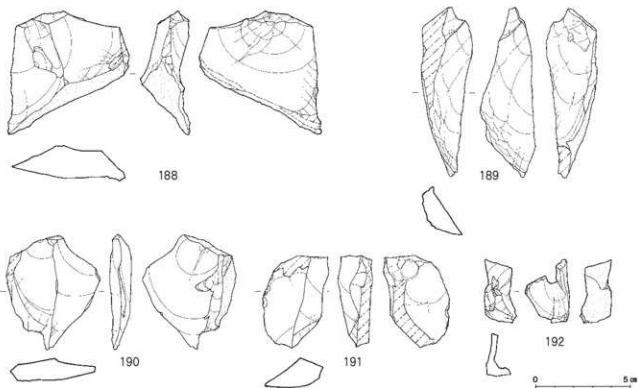
186



187

0 5cm

第38図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図7 (1/2)

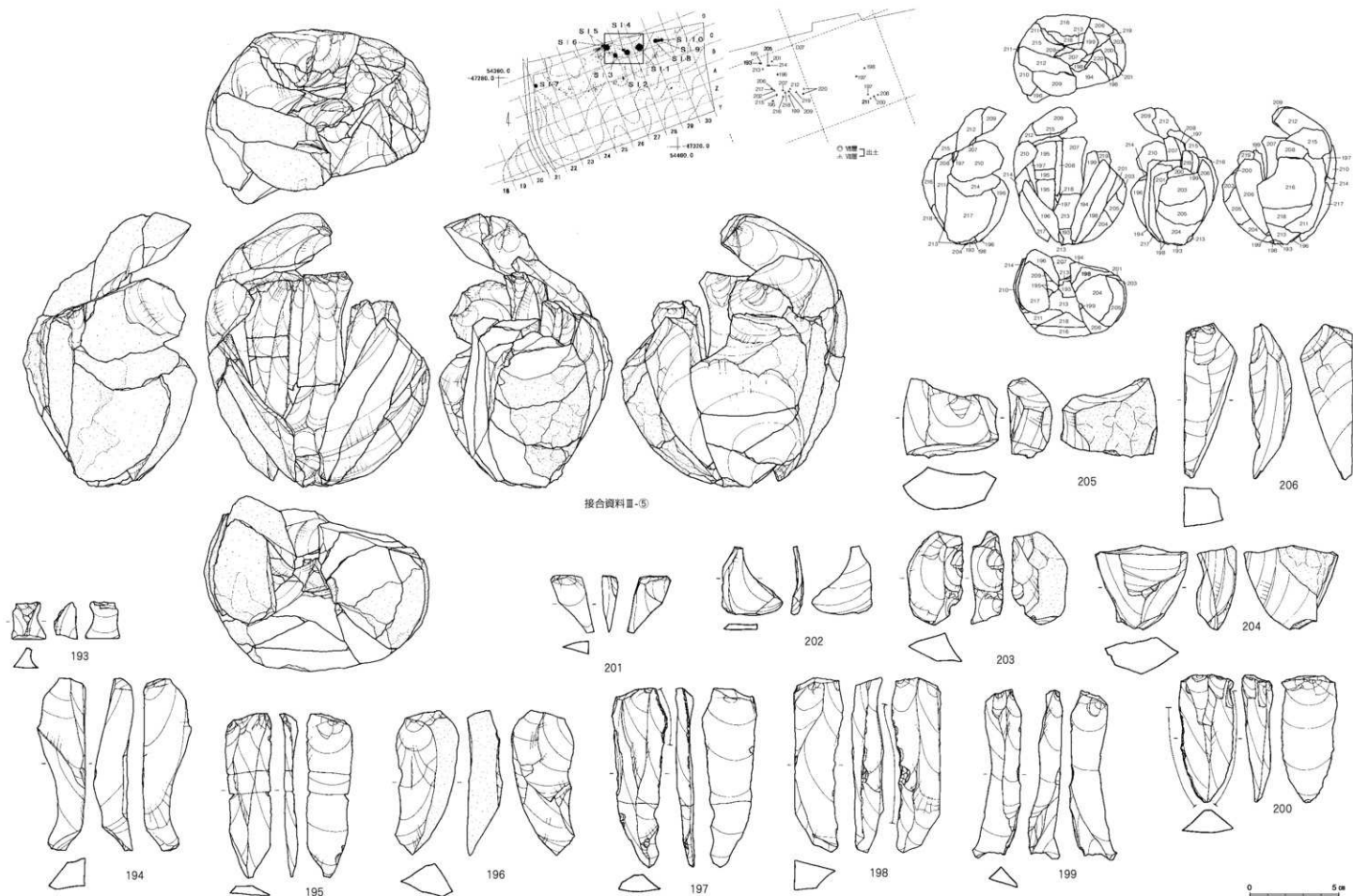


第39図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図8 (1/2)

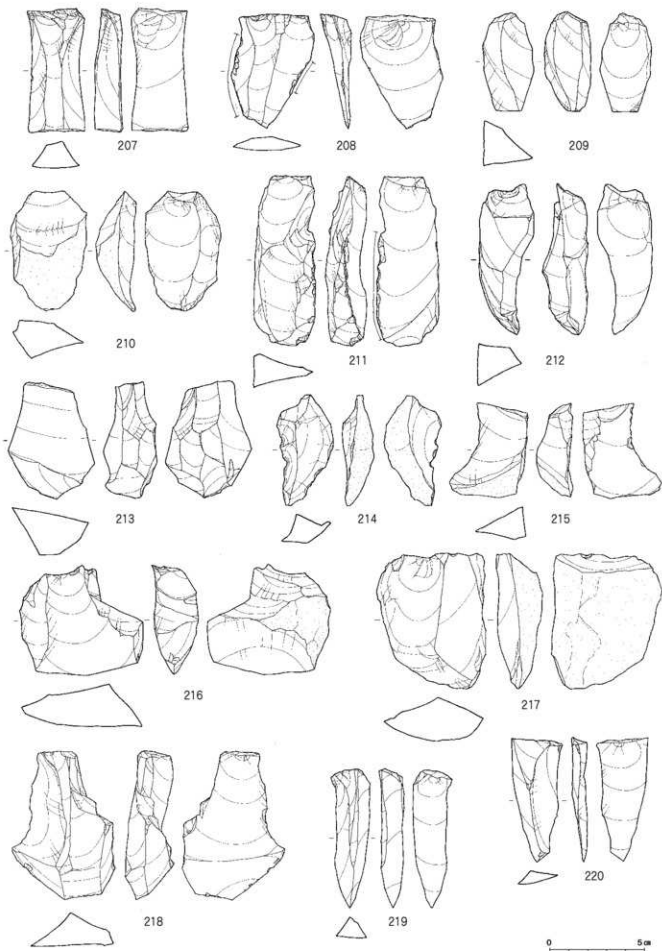
129のナイフ形石器が同じブロックから出土している。

接合資料Ⅲ-②(第35図)はD25、D26グリッド付近の石器ブロックから出土した。このブロックは5号、6号礫群(S I5、6)のすぐ西側であり3点は礫群内からの出土である。長さ約9cm、幅約13cm、厚さ約7cmに分割された自然面のついた円礫を素材としている。打面の転位はほとんど無く、同じ打面から連続的に複数の縦長剥片を安定して作出している。147、148、154などに作業面調整が見られる。石核として最後に残るのは157であるが、厚さ2.4cmになるまで同一打面から剥離を続けている。145は刃部の調整が連続的に施され剥片尖頭器を作ろうとする意図が感じられる資料である。145と147が折損する前の段階で基部加工を始めているようで折損により廃棄したものと考えられる。145はブロック中央から147の折損した基部は礫群内から出土した。147の打点はそれ以降の剥離よりわずかに打点が高く打面再生を行ったものと考えられる。

接合資料Ⅲ-③(第36図)はほとんどがB25グリッドの石器ブロックから出土した。160の台形石器を含む資料である。円礫から分割した直径10cm、厚さ4cm程度の円盤状の大形剥片を素材としている。これを腹面側から剥離を行った後、打面を転位しつつ幅広の剥片を作出している。164、161、165には稜をつぶすような微細な調整が見られる。160の台形石器は素材剥片の縁辺を利用した器軸に直行する刃部をもち、肉厚の剥片の二側縁に腹面側から二次加工を施している。



第40図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図9 (1/2)



第41图 旧石器时代Ⅲ期 石器实测图10 (1/2)

黒色系流紋岩類 (R2) 製石器群 (第37～43図、遺物番号172～242)

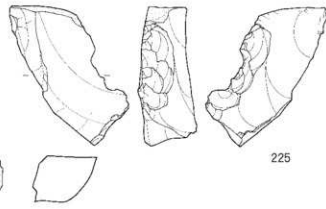
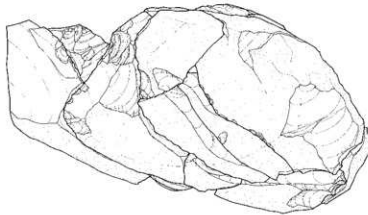
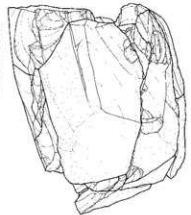
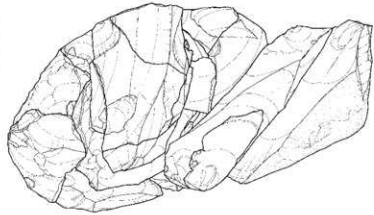
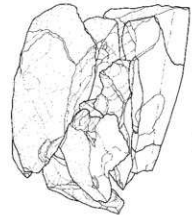
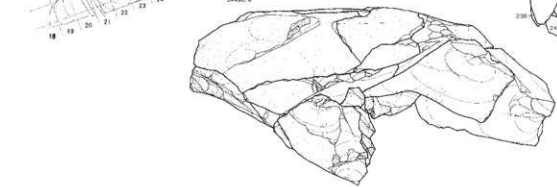
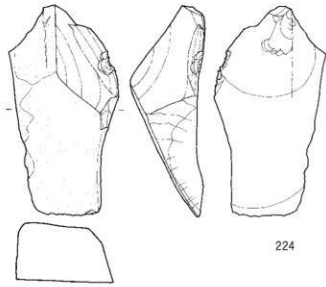
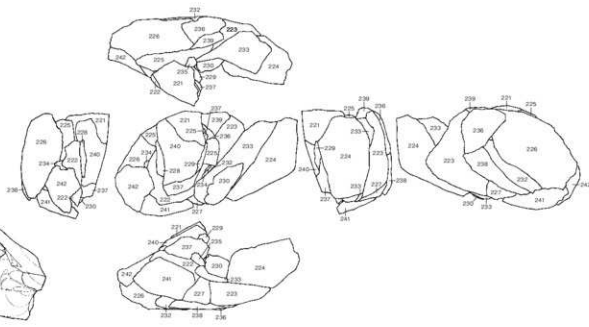
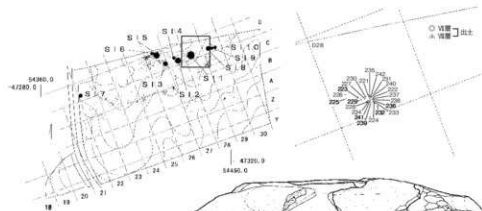
今回の報告書では頁岩とするには粒状性や葉理構造が無く、堆積岩源のホルンフェルスとするには再結晶鉱物が観察できない黒色緻密な岩石を一括して黒色系流紋岩類と呼称している。黒色系の硬質緻密岩石は肉眼で同定する規準に乏しく、今後の詳細な分析で名称を改める必要が出てくる可能性が高い。肉眼的なわずかな差異からR2a～R2cまで3種に細分した。R2aは最も硬質緻密で破断面がなめらかなグループで風化面が褐色のパン皮状を呈する。R2bは色調、破断面等の特徴はR2aと類似しているが白色の不定形雲状の風化が広がり、表面は白色に風化している。R2cはわずかに粒状性があり白い風化面に白色の斑文や流理構造様の組織が見られるものである。これらの分類は接合作業には有益であったが、若干客観性に欠け、有意の分類であるかどうかは疑問である。地質関係者の観察では風化面の差異は熱変成度の違いによるものでホルンフェルス化している可能性があるのではないかと指摘があった。

172はD28グリッドの1号礫群 (SII) 周辺の石器ブロックから出土した剥片尖頭器である。形態や基部加工などは白色系流紋岩類とほぼ同じである。ただ、片方の刃部に幅数mmの自然面が残っており、これを調整を加えていない。片側に刃部があれば事足りたのか、使用方法にも関わることであり疑問である。173は素材剥片の側縁を刃部として利用する両縁調整のナイフ形石器である。174～176、178は側縁に微細剥離が連続している明瞭な縦長剥片である。177は頻繁に打面を転位している多面体石核である。179、180、182、183は幅広剥片の腹面側から連続する調整を施した搔器である。181は微細剥離のある剥片である。

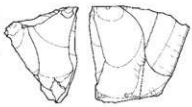
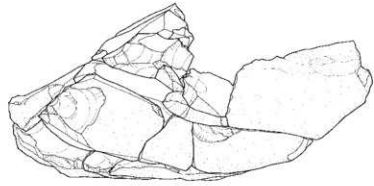
接合資料Ⅲ-④ (第38図) は節理割れなどで、ほとんどの剥片が不定形剥片となっている。大きく2か所に分布が分かれており東側は1号礫群 (SI1)、西側は5号礫群 (SI5) の周囲で出土している。

接合資料Ⅲ-⑤ (第40図) は接合総数32点で、主たる集中部がD26グリッドの3号と5号礫群 (SI3、5) のあいだのブロック内である。5点がD27グリッドの2号礫群 (SI2) 周辺に移動している。この2号礫群周辺に移動した剥片 (197、198、200、208、211) の側縁は全て微細剥離が見られる。主たる集中部の剥片に微細剥離が見られないことから、使用のための移動を予想させる資料である。剥離形態は直径約20cm程度の長楕円形の礫から209、212、215などの剥離によって打面を形成し、ほとんど頭部調整や打面再生などを実施せずに203+204+205、216、217といった石核が厚さ約2.5cmになるまで同一の打面から連続して縦長剥片を作出している。作成された縦長剥片は規格性をもっており安定した高い技術を保有していると考えられる。

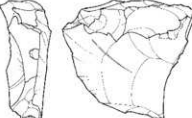
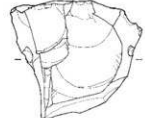
接合資料Ⅲ-⑥ (第42図) はすべてD28グリッドの1号礫群 (SII) 周辺の石器ブロック内で出土した。長さ約20cm、幅・高さ約10cmの亜円礫の平坦な礫面を打面として連続した剥離を行っている。作業の初期段階では剥離角が鋭角で分厚い剥片ができていた。作業進行とともに次第に剥離角が90°に近づき、薄い剥片を作出している。この間、打面調整等はほとんど実施せず剥離を連続している。頭部調整の見られる剥片は少なく、幅広か不定形の剥片が多い。231、234、238、232などを見ると縦長剥片指向とも見えるが不明瞭である。233、237、240といった剥片は末端が肥厚している。225は側縁に2次加工が連続的に施された抉入石器である。230は右側縁に微細剥離がある。226は石核である。側縁部に微細剥離がみられるが、風化面の剥落である可能性も否定できない。225、226は接合資料の分布集中域から1～2m離れて出土している。



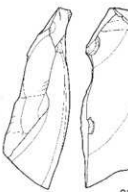
接合資料Ⅱ-⑥



221



222



223



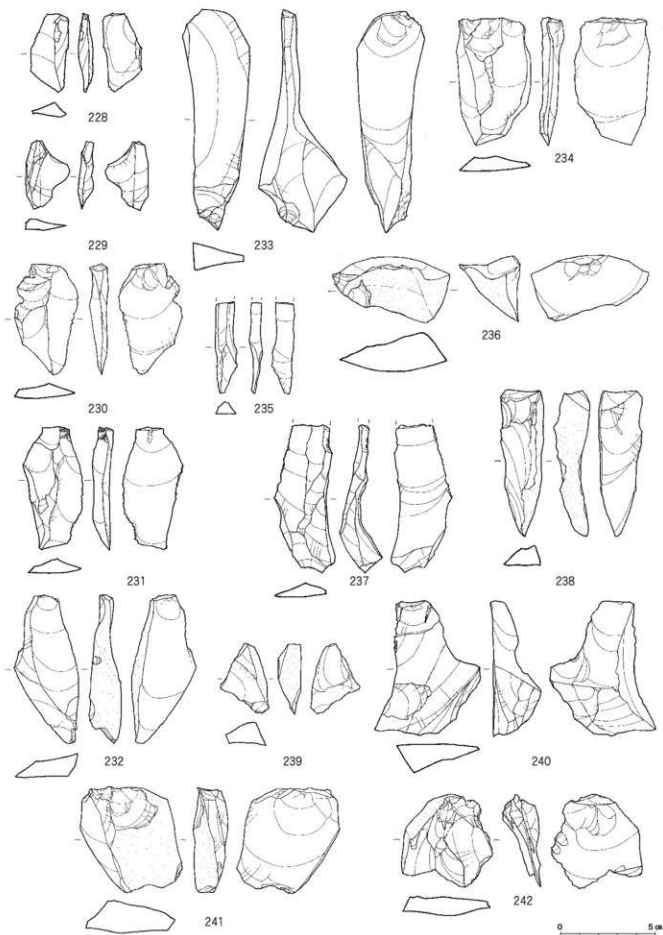
226



227



第42図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図11 (1/2)



第43图 旧石器时代Ⅲ期 石器实测图12 (1/2)

暗灰色系流紋岩類 (R3s) 製石器群 (第44~50図、遺物番号243~255、258~330)

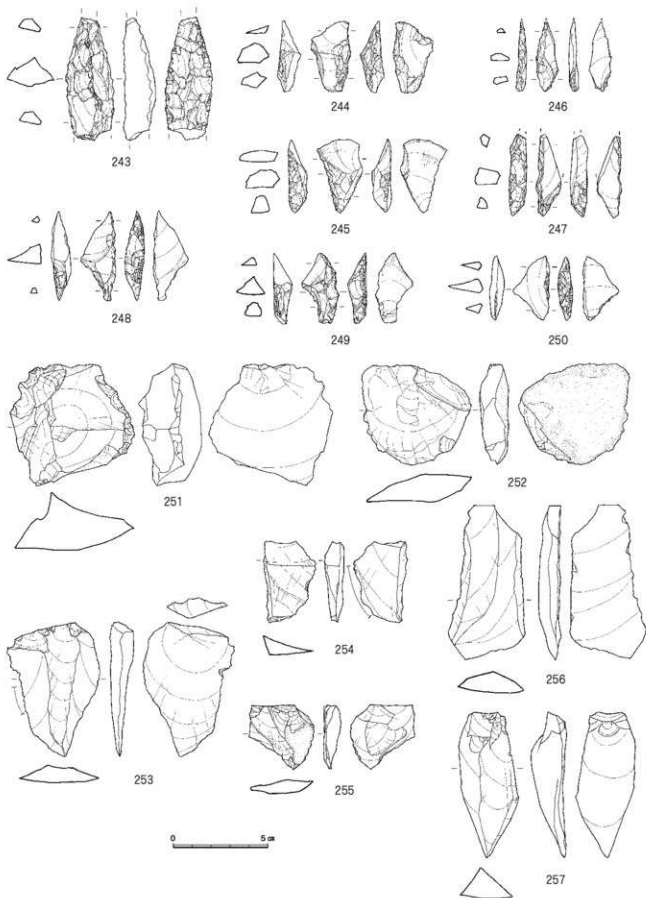
旧石器時代Ⅲ期の暗灰色流紋岩類はⅠ期やⅡ期のものと比較して明瞭な流理構造が特徴である。肉眼にははっきり分離できるため石材の符号にsをつけて区別した。

243は角錐状石器である。本遺跡では唯一の出土で接合しない。244、246~250はナイフ形石器である。245を刃部が器軸にほぼ直行することから台形石器とする。244は判断に苦しむが刃部が器軸に対して斜行することからナイフ形石器に分類した。背面調整の方向が複雑で腹面にも調整があるところは白色系流紋岩類で基部加工のあるナイフとした122と類似点がある。246は幅の薄い二側縁加工のもので247は折損しているが類似のものと考へたい。248、249は肉厚な剥片を素材に製作された刃部と背部の角度が約45°になるいわゆる狸谷型ナイフ形石器である。250は厚さが若干薄い刃部の形状は類似している。251は右側縁に腹面側から連続した調整のある搔器である。253、254は微細剥離がある剥片で、252、255は剥片である。

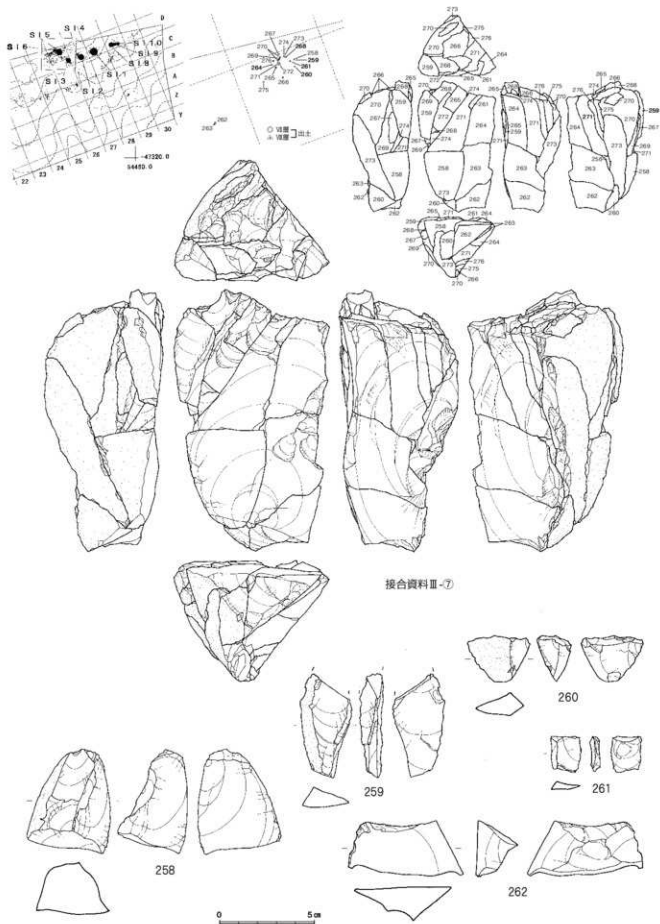
接合資料Ⅲ-⑦(第45図)はD26グリッドの5号礫群(SI5)の周辺の石器ブロック内にはほとんどがまとまっている。剥片は連続的に剥離されており、ブロック状に分割した段階までほとんど隙間なく復元できる。この資料から外部に持ち出されたものは少ない。資料の長軸方向と短軸方向から大きく分割した後、258、262、263などを横方向からの打撃でブロック状に除去し、上部を打面として連続的な剥離を行っている。264、265、268、274などの縦長剥片には作業面調整が見られ目的剥片であったと思われる。266は打面再生剥片である。縦長剥片の打面は同一面ではなく打面再生を数回実施している。273の右側縁には連続する剥離が見られるが2次加工ではなく接合した状態で加えられた調整のようである。連続した剥離は270が石核として残るまで続けられている。

接合資料Ⅲ-⑧(第48図)は原型がやや扁平な円礫であったと思われる。前述の接合資料Ⅲ-⑦と同質な石材で分布も同じD26グリッドである。この資料でも大きなブロックに分割した後、作業に適度な大きさの単位ごとに目的剥片を剥離する作業を始めている。石材や作業工程も類似しており、同一母岩で同時期に同一作業者が石器製作をしている可能性もある。Ⅲ-⑦と同様に作業面調整があり目的剥片と思われるものは279、284、285、286、296などの縦長剥片である。幅広い剥片は主として打面を作るための剥離によるものと思われる。作業しやすい大きさのブロックになってから打点を上下に180°転位して作業を進めている。293は作業終了時点の石核であり、Ⅲ-⑦における石核270と形態や大きさが類似している。

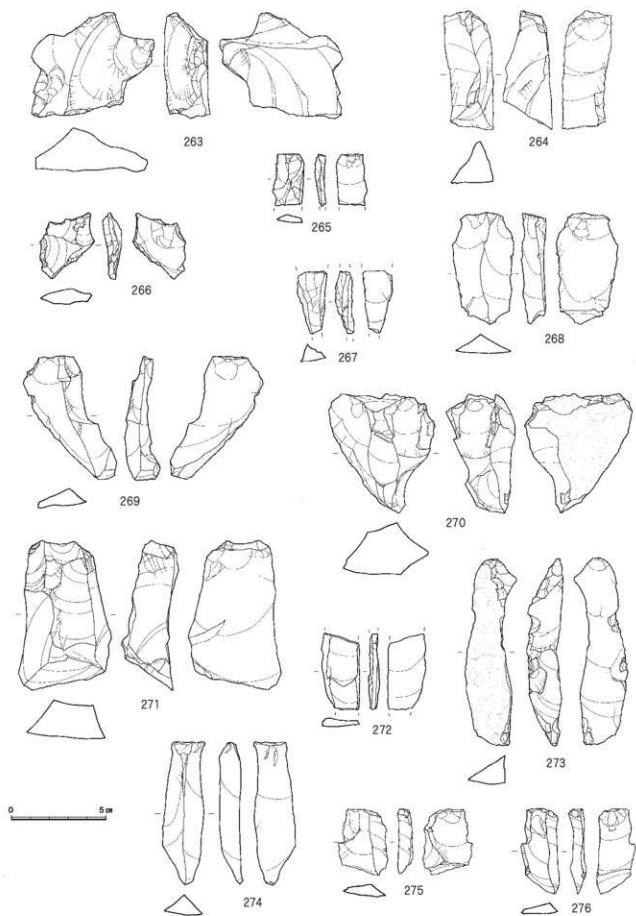
接合資料Ⅲ-⑨(第49図)も明瞭に流理構造のある暗灰色流紋岩類であり分布域も同じD26グリッドである。5号礫群(SI5)の東と西に分布が2分しており素材単位ごとに5号礫群を飛び越すように作業場所を変えている。この資料では入念な作業面調整のある明瞭な縦長剥片は少なく、縦長ではあっても自然面を除去しているともとれる素材礫の外周部分のものが多い。接合後の形態を観察しても、礫面部はほとんど全て残存しており接合するが、素材内部はほとんど空間となっている。このことから素材内部から剥離した目的剥片をそのまま、あるいは製品に加工して持ち出した可能性を考慮することができる。この資料で側縁に微細剥離のある剥片は328の不定形剥片のみである。329、330が上下2つのブロックの石核である。前述のⅢ-⑧は目的剥片と思われるものは存在するが、中央部分が自然面ごと大きく欠落している。Ⅲ-⑦のような自然面の付いたブロックで運搬したことも想像できる。



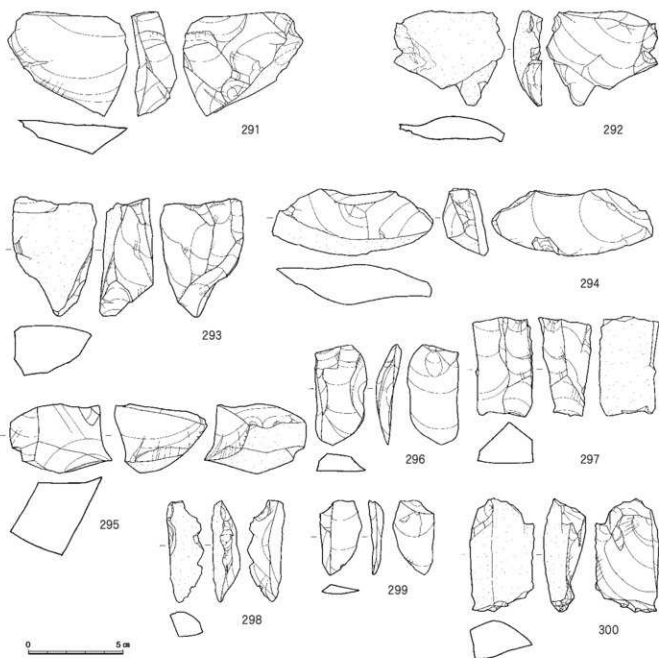
第44图 旧石器时代Ⅲ期 石器实测图13 (1/2)



第45図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図14 (1/2)



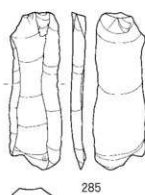
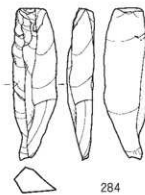
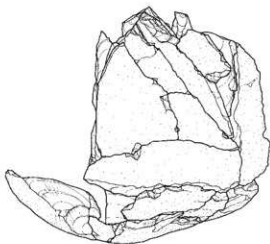
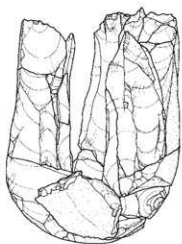
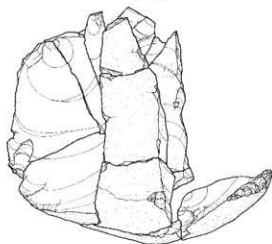
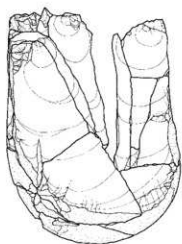
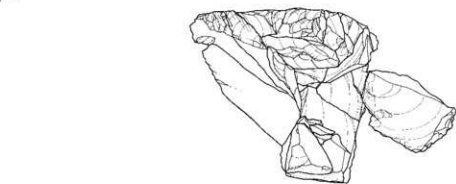
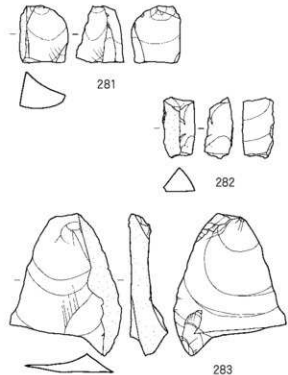
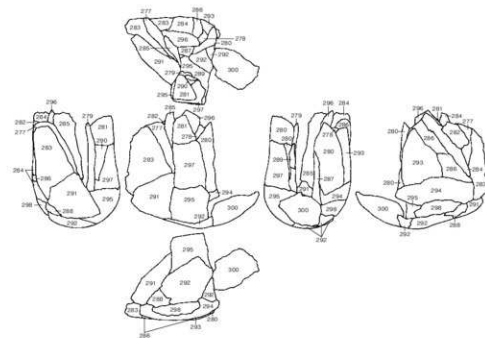
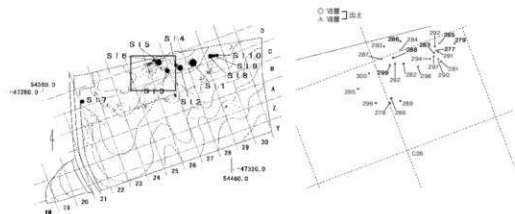
第46图 旧石器时代Ⅲ期 石器实测图 15 (1/2)



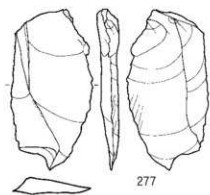
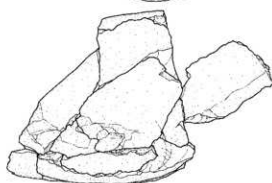
第47図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図16(1/2)

流紋岩源ホルンフェルス類 (R1f) 製石器群 (第44、51～54図、遺物番号256、257、331～372)

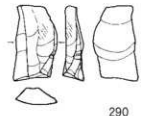
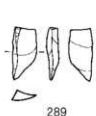
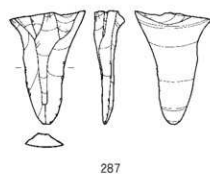
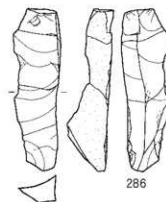
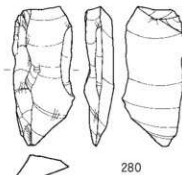
白色で風化が著しく、岩石内部の鉱物の変質して多量に脱落しているため空隙が多く密度が大変小さな岩石である。風化表面には暗灰色縞状の流紋岩類に類似した構造が観察でき、白色の風化面は白色系流紋岩類の特徴に類似する。以上の観察からこの岩石は流紋岩類が熱変成を受けた流紋岩源ホルンフェルスだと考えられる。現在ではもろく、石器としての刃部は望むべくもないが、熱変成岩特有の風化の早さを考慮すると当時は黒色緻密でガラス状の破断面をもつ岩石であったと思われる。この岩石の特徴が流紋岩類の多様な外見の究極の姿であると考えたい。256、257はこの石材の典型的な剥片である。これに類似する作業面調整のある縦長剥片やそれらが数点接合する資料は複数出土した。そのなかで最も大規模なものが接合資料Ⅲ-⑩(第51図)である。接合点数は34点でD26グリッドの5号礫群と3号礫群の間に概ね3つのグループに分かれて出土している。接合状態の実測図を見ても剥離の方向がねじれの



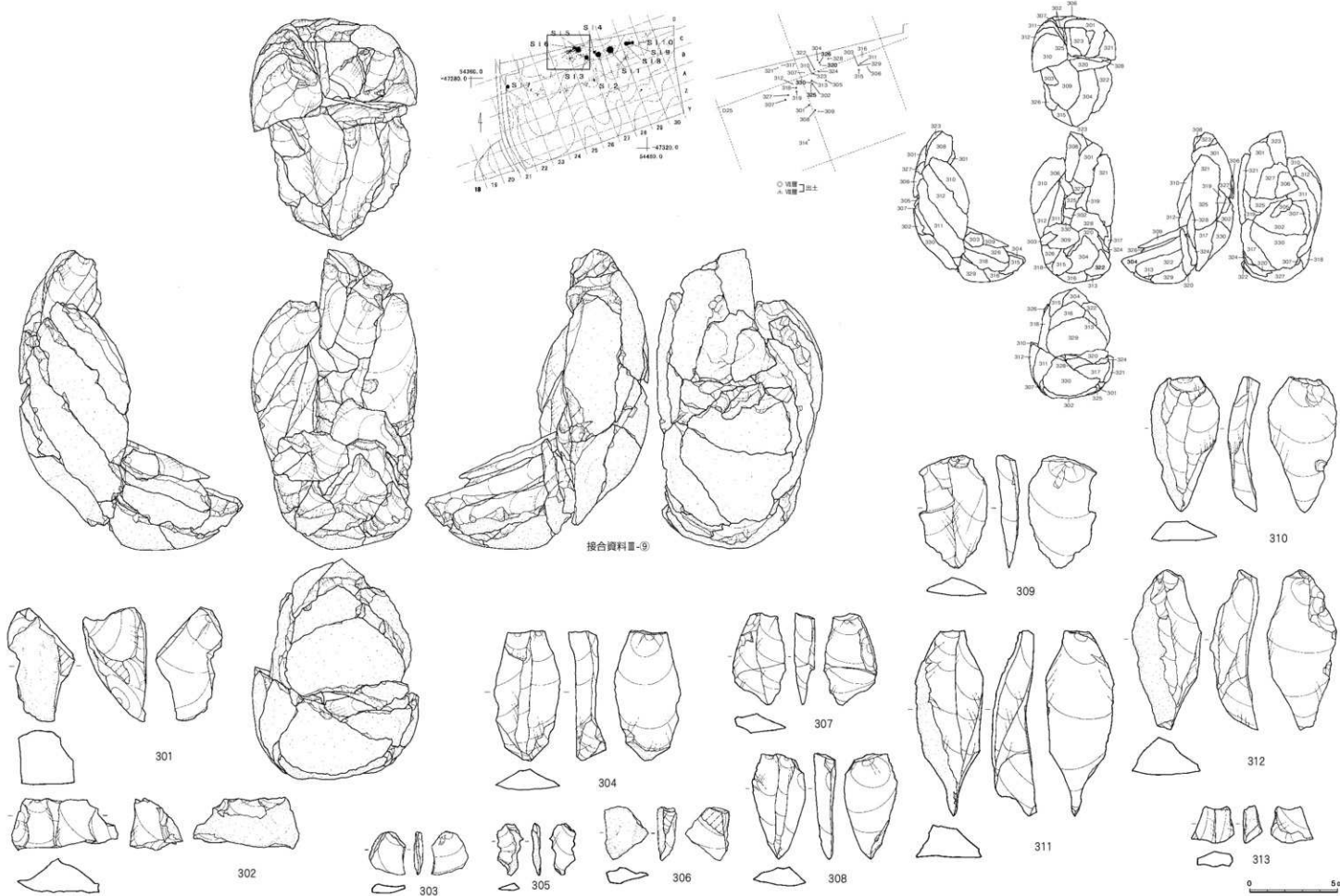
接合資料Ⅲ-8



0 5cm

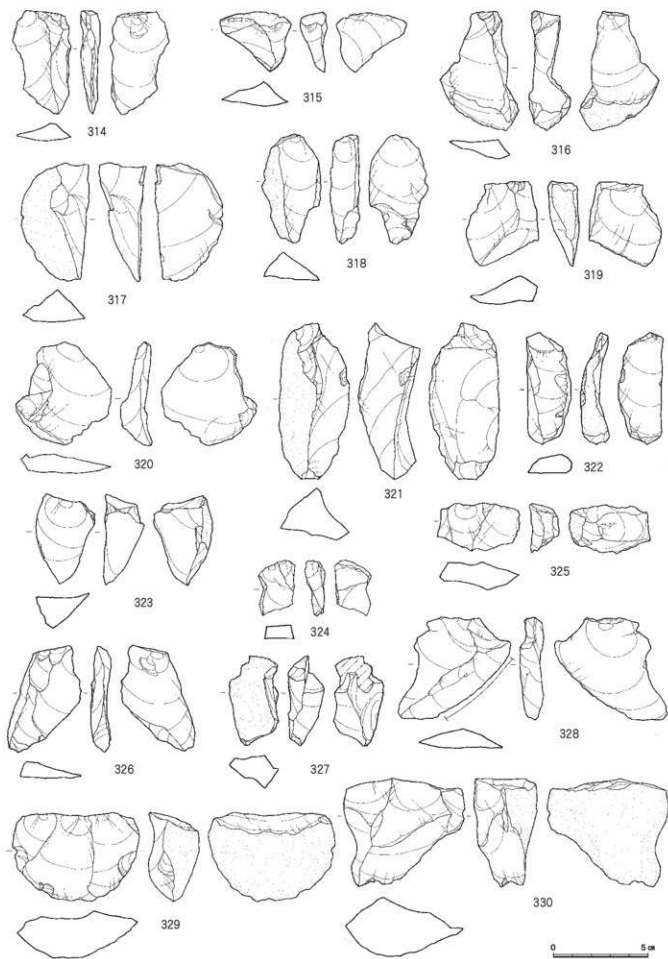


第48図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図17 (1/2)



接合資料Ⅲ-⑨

第49図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図18 (1/2)



第50图 旧石器时代Ⅲ期 石器实测图19 (1/2)

状態になった2つのブロックに分離できることがわかる。実測図正面の右側部分が5号礫群の東側、左側部分が西側に分布する。この分布は接合資料Ⅲ-⑨とも類似点がある。5号礫群を挟んだ両側には2人の作業者がいたのか、2か所の作業場であったのか興味深いところである。332は幅広剥片の右側縁に連続した調整を腹面側から施す搔器である。作業面調整がある縦長剥片は331、344、345、347、358などである。作業単位のブロックに分割し打面を上下180°転位させて剥離を行っている。石材の風化が激しく微細剥離については詳細に検討できない。344、348、359、361、364などの礫表面には被熱による破断と考えられる剥落があり、巨大な礫を割るために加熱冷却を繰り返した可能性も指摘しておきたい。

接合資料Ⅲ-⑩(第54図)も同質の石材でやや風化が弱い。これもD26グリッドの5号礫群を南側の2か所に数点が分布する。366は分厚い扇形の剥片の端部に調整を施した搔器である。この1点だけが15m以上離れたD28グリッドの1号礫群そばに移動している。371、372は被熱によると思われる破砕面を作って分割している。

その他の石材製石器群(第55図、遺物番号373~381)

黒曜石製石器群：えびの市桑ノ木津留産の特徴を有する黒曜石製の石器が2点出土している。373は剥片の末端部に腹面側から連続的な調整を施した削器または搔器である。374は2分割した剥片が同じグリッドから出土したものである。

砂岩製石器群：砂岩は礫群にも多用されており旧石器時代Ⅲ期には一般的な石材であるが、明瞭な石器はあまり見られない。380のような明らかに人工的な剥片は少なく、剥片の可能性を疑うことのできるもの、微細剥離のある石核と考えられる375などを図化した。381は敲・磨石である。

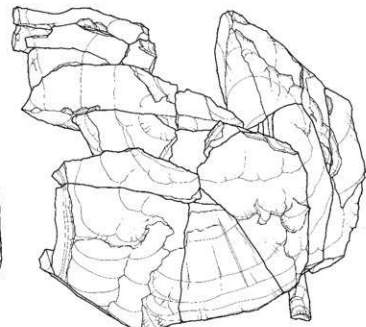
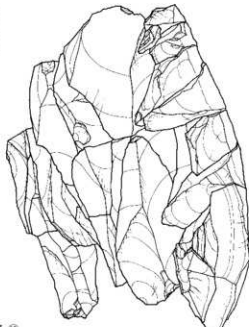
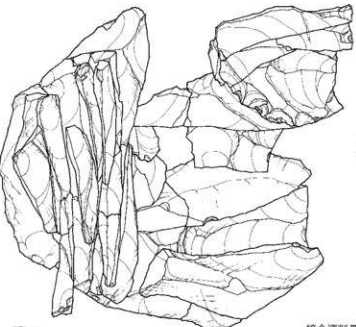
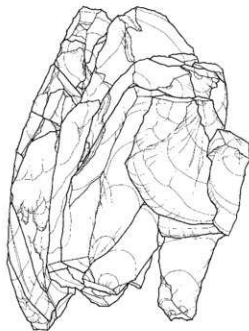
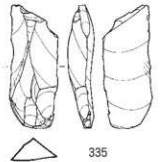
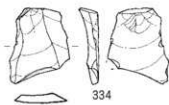
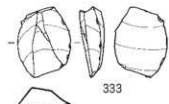
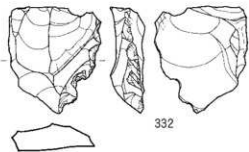
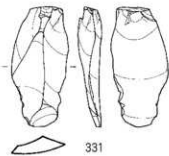
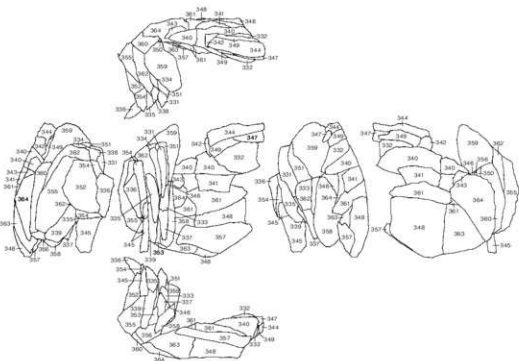
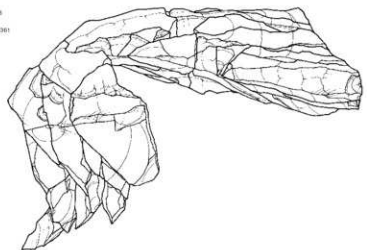
第4節 旧石器時代Ⅳ期(V層)の遺構と遺物

旧石器時代Ⅳ期とした遺構・遺物はV層下部~VI層にわたる層準に分布している。V層~VI層にかけては土質、土色とも似通っており肉眼での分層が困難である。炉穴群の検出が終了しVI層の掘削を始めると遺構・遺物とも極端に減少する。特に土器の出土はほとんど無くなり縄文時代の終焉を感じさせる。この時期は出土層位・遺物などから細石刃石器群の時期と考えられる。以下、項目ごとに概説する。

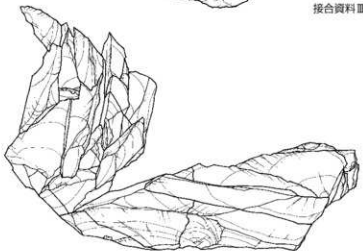
1 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構はVI層の中段、すなわちVI層上面検出の縄文時代早期の炉穴群と時期を同じくすると思われる遺物が急激に減少する層位で7基検出した(第56図)。1~5号陥し穴状遺構は調査区中央部の標高48.0~48.2m付近に集中しており、残りの2基は東部のやや標高の低い位置に分布する。遺構の形状は、1~4号陥し穴状遺構で平面が約1m×0.5mの楕円、断面が深さ1m以上の逆台形を呈し、5~7号陥し穴状遺構で平面が直径1m以下の円形、断面が深さ1m前後の長方形から逆台形を呈する。いずれも、底部に木杭などを埋め込んだ形跡はない。

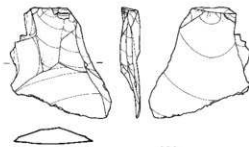
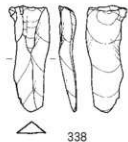
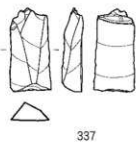
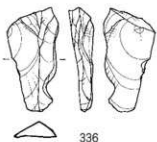
遺構内からは情報となり得る遺物は一切なく、ごくわずかに底部付近で採取できた炭化物粒によって放射性炭素年代測定を試みた。その結果、2号陥し穴状遺構から補正值で18,690±70BP、歴年代で1σ:cal BC 20,670~19,820、3号陥し穴状遺構から補正值で12,980±50BP、歴年代1σ:cal BC 13,870~13,200という結果を得た。土層観察からも壁面の土壌が崩れ落ちて遺構を埋積しており、この資料が遺構を使用している時期のものである確証はないが、上位と下位で遺物が集中する時期の間隙を埋めるデータが出ており、矛盾はない。



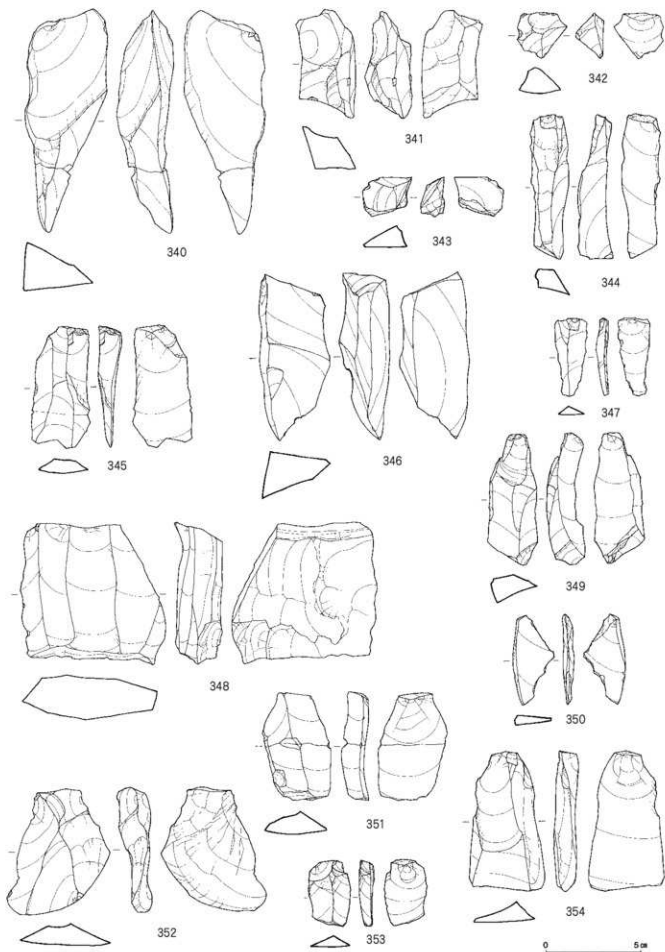
接合資料Ⅲ-⑩



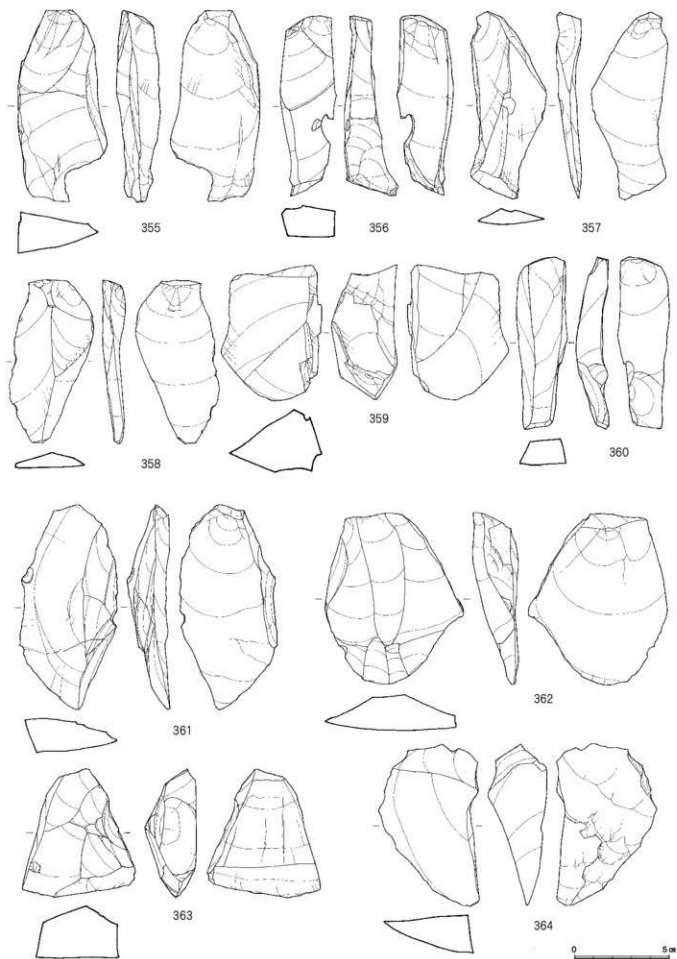
0 5m



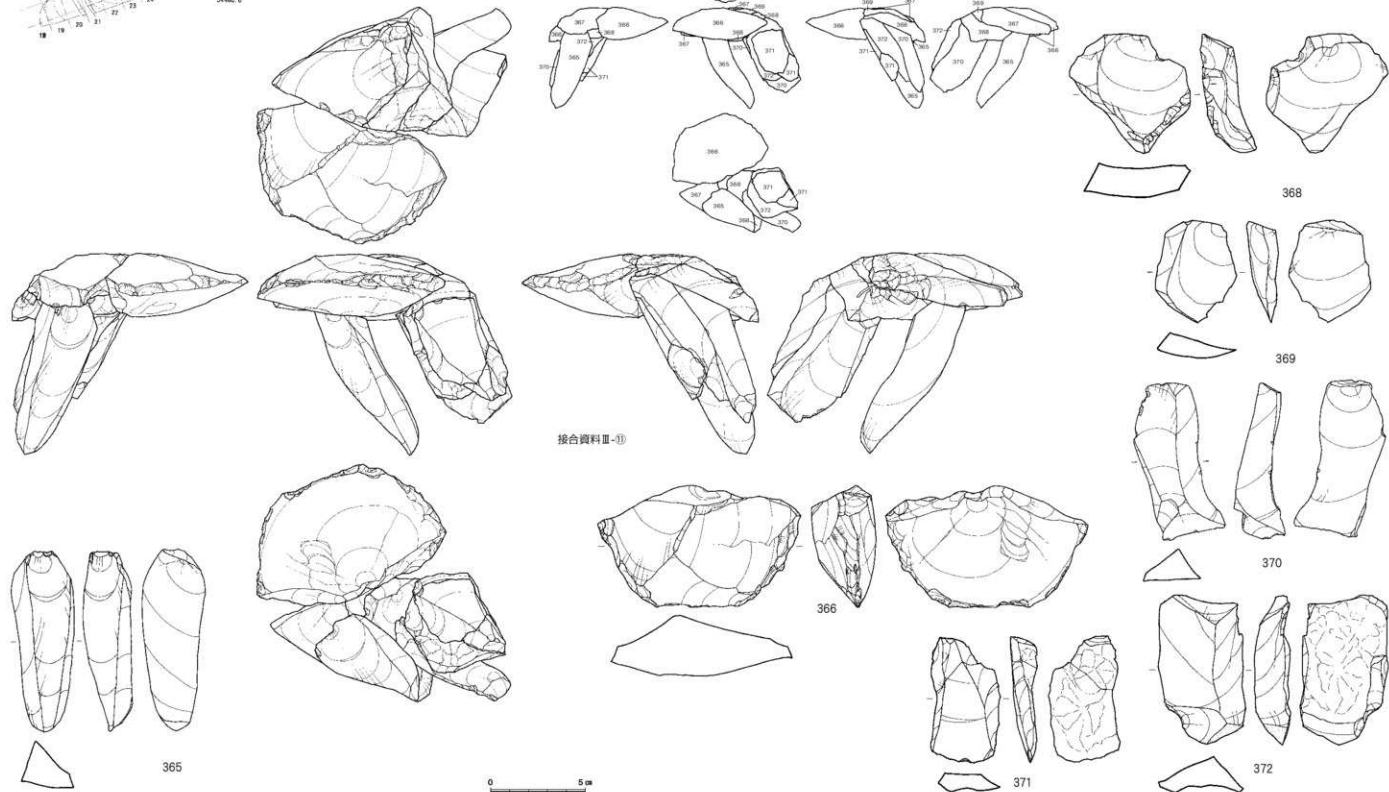
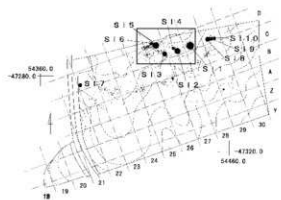
第51図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図20 (1/2)



第52図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図21 (1/2)



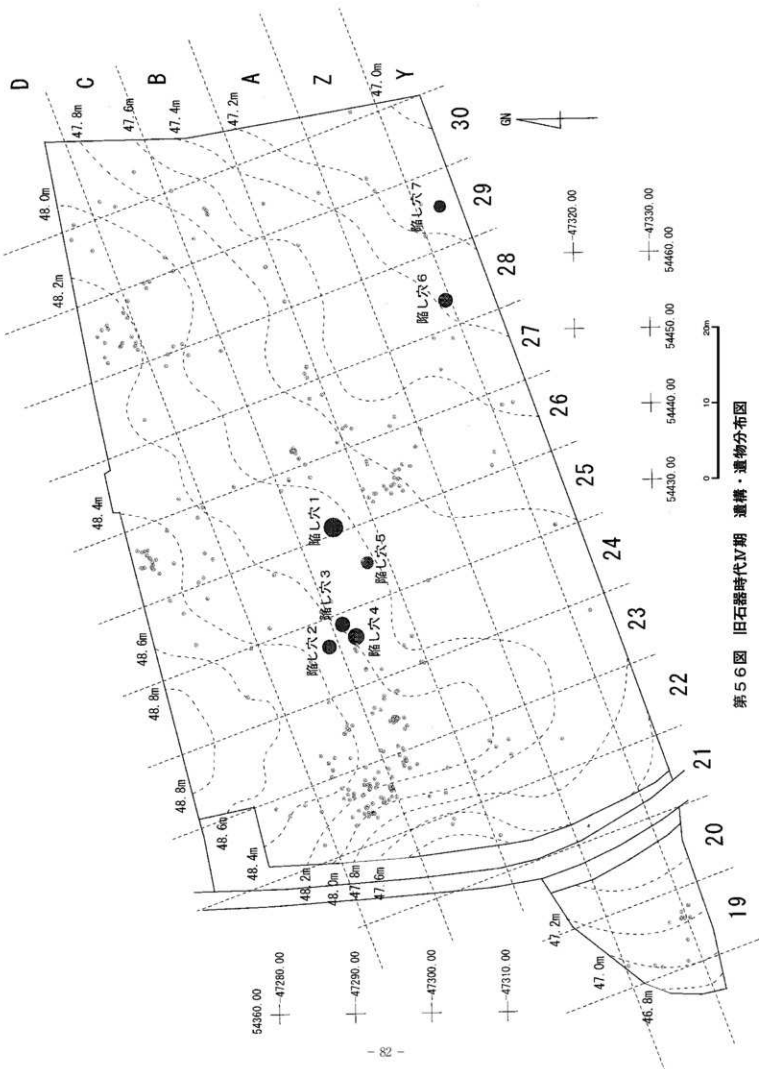
第53図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図22 (1/2)



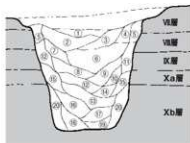
第54図 旧石器時代Ⅲ期 石器実測図23 (1/2)



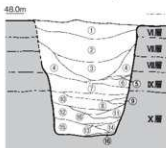
第55图 旧石器时代Ⅲ期 石器实测图24 (1/2)



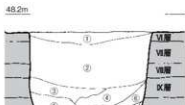
第56図 旧石器時代Ⅳ期 遺構・遺物分布図



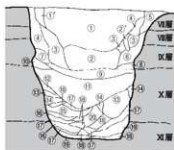
- 陥し穴1 詳記
 ①に白い黄褐色土 (ZSYR5-4) やや硬質 黄褐色や白灰の粒子を含有
 ②に白い黄褐色土 (ZSYR5-4) 黄褐色や白灰の粒子を多量に含む
 ③褐色土 (ZSYR4-3) やや硬質 黄褐色や白灰の粒子を含有
 ④褐色土 (ZSYR4-3) やや軟質 均質
 ⑤明褐色土 (ZSYR5-6) やや軟質 褐色の地山にやや黒色の粒を帯びたもの
 ⑥黒褐色土 (ZSYR3-2) やや硬質 白灰の粒子が多く黄褐色の粒子を少量含む
 ⑦黒褐色土 (ZSYR3-2) やや硬質 黄褐色白灰の粒子を少量含む
 ⑧褐色土 (ZSYR4-3) 軟質 硬質と中央部では、わずかに赤みられるがほぼ均質
 ⑨暗褐色土 (HVR3-4) やや硬質 でもらい 黄褐色のブロックを多く含む
 ⑩暗褐色土 (HVR3-4) やや軟質 均質
 ⑪に白い黄褐色土 (HVR5-4) 軟質 でもらい 黄褐色ブロック (軟質) を含む
 ⑫褐色土 (HVR4-6) かなり軟質 黄褐色ブロック (軟質) 主体
 ⑬暗褐色土 (HVR3-4) かなり軟質 黄褐色ブロック (軟質) 主体 ややX層混ざる
 ⑭褐色土 (HVR4-6) かなり軟質 黄褐色ブロック (軟質) 主体 ややX層混ざる
 ⑮暗褐色土 (HVR3-4) 軟質 でもらい 黒色の流石りが少ない
 ⑯暗褐色土 (HVR3-2) やや軟質 黒色常質、X1層に混ざる
 ⑰黒褐色土 (HVR3-2) 流石りや明しく、X1層に混ざる
 ⑱暗褐色土 (HVR3-2) やや軟質 しまりあり X層に混ざる



- 陥し穴2 詳記
 ① 黒褐色土 (HVR3-2) 硬質 しまりあり 粒子を含まない
 ② に白い黄褐色土 (ZSYR4-3) 軟質 均質、主体で硬質が混れて混ざる
 ③ 暗褐色土 (HVR3-4) しまりあり ①より明るく
 ④ 褐色土 (HVR4-4) やや軟質 均質
 ⑤ 褐色土 (HVR4-4) やや軟質 均質
 ⑥ 灰黄褐色土 (HVR4-2) かなり軟質 均質
 ⑦ 褐色土 (HVR4-6) かなり軟質 均質
 ⑧ 明褐色土 (HVR5-5) 軟質 AT粒子を多く含む
 ⑨ オリーブ褐色土 (ZSYR4-3) やや硬質 AT粒子を含有
 ⑩ オリーブ褐色土 (ZSYR4-6) 黒色中にATの二次均な堆積がみられる
 ⑪ 黄褐色土 (ZSYR5-3) 硬質 やや砂質
 ⑫ 灰黄褐色土 (HVR4-2) 硬質 しまりあり 白色や褐色の粒子を含有
 ⑬ 暗褐色土 (HVR3-2) 硬質 AT粒子の混ざりが強い
 ⑭ オリーブ褐色土 (ZSYR3-3) ⑬に比べて明るい、黄褐色の粒子を含有
 ⑮ 暗褐色土 (HVR3-4) やや軟質 均質
 ⑯ 暗褐色土 (HVR3-4) やや硬質 しまりあり 白色や褐色の粒子を含有
 ⑰ 暗褐色土 (HVR3-4) ATを主体とする
 ⑱ 暗褐色土 (HVR3-2) やや軟質 やや均質、砂質、白色の粒子が混ざる
 ⑳ 暗褐色土 (HVR3-4) かなり軟質 流石り強く、白色粒子が多い

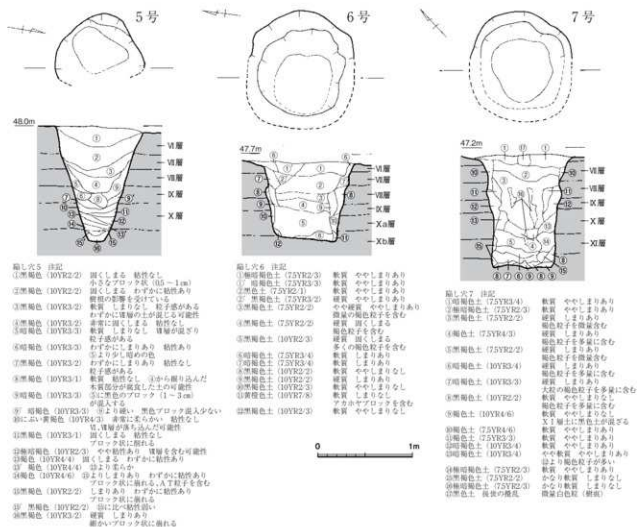


- 陥し穴3 詳記
 ① 暗褐色土 (HVR3-1) しまりあり 粒子が混ざる
 ② 暗褐色土 (HVR3-2) わずかにしまりあり 粒子が混ざる AT粒子を含有
 ③ 暗褐色土 (HVR3-2) しまりあり 粒子が混ざる
 ④ 暗褐色土 (HVR3-4) 軟質 ややしまりなし 粘土質
 ⑤ に白い黄褐色土 (HVR4-3) 粘土質、AT粒子を含有
 ⑥ 暗褐色土 (HVR3-4) 軟質 粒物混じり、ブロック状
 ⑦ 暗褐色土 (HVR3-2) 軟質 やや粘性あり、ブロック状
 ⑧ 明黄褐色土 (ZSYR6-6) ATの二次堆積 黒色土ブロック (1~3cm) を含有
 ⑨ 明黄褐色土 (ZSYR6-6) ATの二次堆積
 ⑩ 暗褐色土 (HVR3-2) しまりなし 砂質 わずかにAT粒子を含有
 ⑪ 暗褐色土 (HVR3-2) しまりなし 粒物が混ざる
 ⑫ 暗褐色土 (HVR3-2) しまりあり 粒物あり、ブロック状に混れる



- 陥し穴4 詳記
 ① 黒褐色土 (HVR3-2) 非常に固く、まざる、ブロック状に混れる
 ② 暗褐色土 (ZSYR3-2) しまりあり 粒物あり、ブロック状に混れる
 ③ 褐色土 (HVR4-4) 軟質 しまりなし、硬質が落ち込んだらぬか?
 ④ 明褐色土 (ZSYR5-6) 非常に柔らかい、まざる、ATの二次堆積に黒色土がまじる
 ⑤ に白い黄褐色土 (HVR4-3) 軟質 しまりなし 粒子が混ざる
 ⑥ 均質よりわずかに軟質
 ⑦ 暗褐色土 (HVR4-3) わずかにしまりあり 粒物が混ざる
 ⑧ 暗褐色土 (ZSYR3-2) 非常に軟質 均質のブロックとAT粒子を含有
 ⑨ 暗褐色土 (HVR4-2) わずかに軟質 均質 均質のブロックを含有
 ⑩ 灰黄褐色土 (HVR4-2) 軟質 しまりなし、粒物のブロックを含有
 ⑪ 灰黄褐色土 (HVR4-2) 軟質 わずかにしまりあり 均質のブロックがまじる
 ⑫ 暗褐色土 (HVR3-1) 軟質 非常にしまりあり 粒物あり
 ⑬ に白い黄褐色土 (HVR4-3) しまりあり、ATの粒子を含有、ブロック状に混れる
 ⑭ 明黄褐色土 (ZSYR6-6) ATの二次堆積
 ⑮ 褐色土 (HVR4-6) 非常にしまりあり 粒物あり、AT粒子を含有
 ⑯ 暗褐色土 (HVR3-2) 非常に柔らかい、粒物あり、ブロック状に混れる
 ⑰ 明黄褐色土 (ZSYR6-6) ATの二次堆積

第57図 陥し穴状遺構実測図1 (1/40)



第58図 陥し穴状遺構実測図2 (1/40)

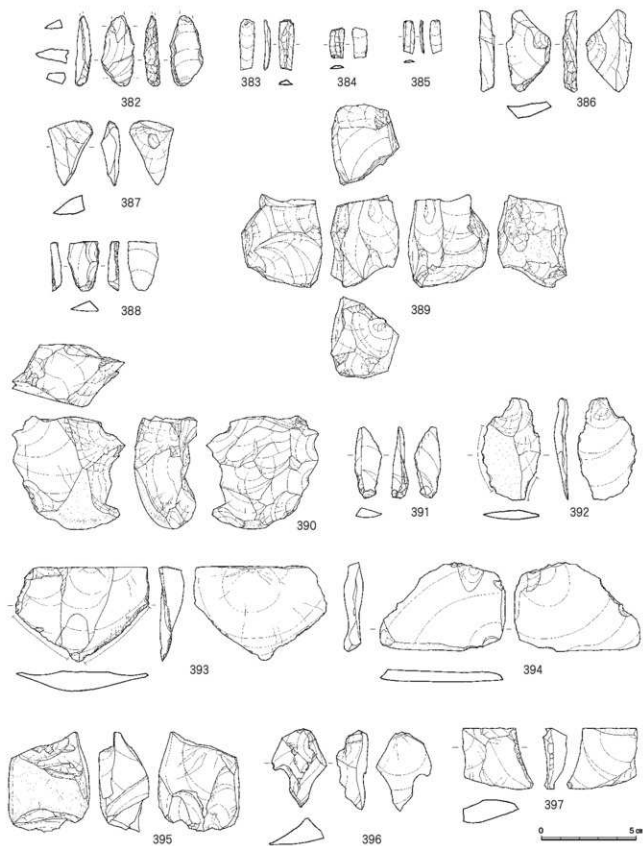
VI層の等高線には丘陵主稜線の東側斜面に浅い列状の凹地形が確認できる(第56図)。陥し穴状遺構の分布と列状凹地形の方向が一致することから、列状凹地形は小規模な流路かもしくは獣道的なえぐれとも推測できる。この層準は極端に遺物が少なく、遺構も時期差のある陥し穴状遺構のみである。このことから、本遺跡は、最終氷期に相当する旧石器時代Ⅲ期(放射性炭素年代分析の補正值で約20,000年BP)から縄文時代早期(補正值で約9,500年BP)までの間、人類の居住空間としてはとらえにくく、狩猟のための空間であった可能性が高い。

2 石器

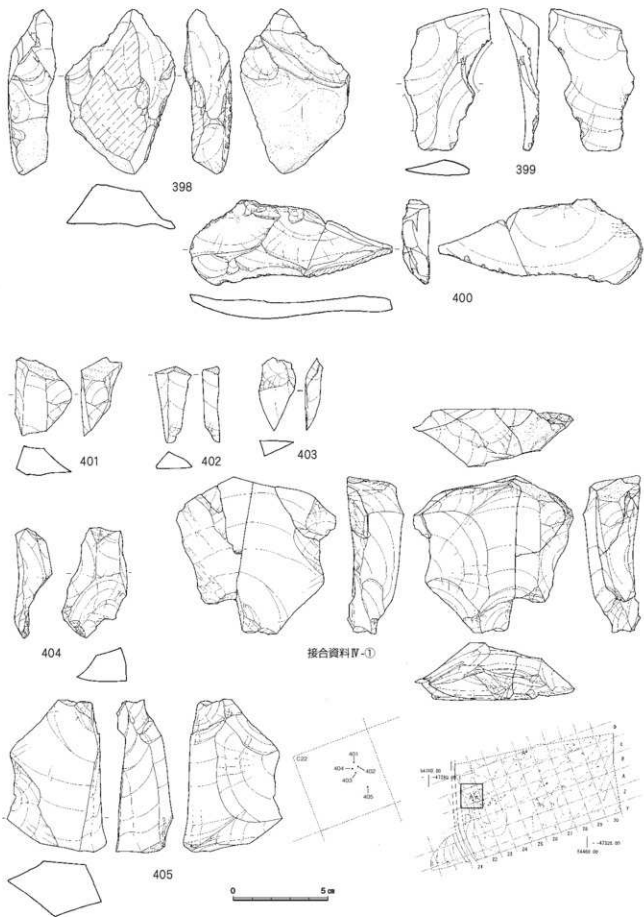
旧石器時代Ⅳ期の遺物が出土した層準はV層下部からVI層にかけてである。この層準は縄文時代早期の包含層の下位にあたる。流紋岩類を主として使用しているところはⅢ期との類似点である。

流紋岩類製石器群(第59~60図、遺物番号382~405)

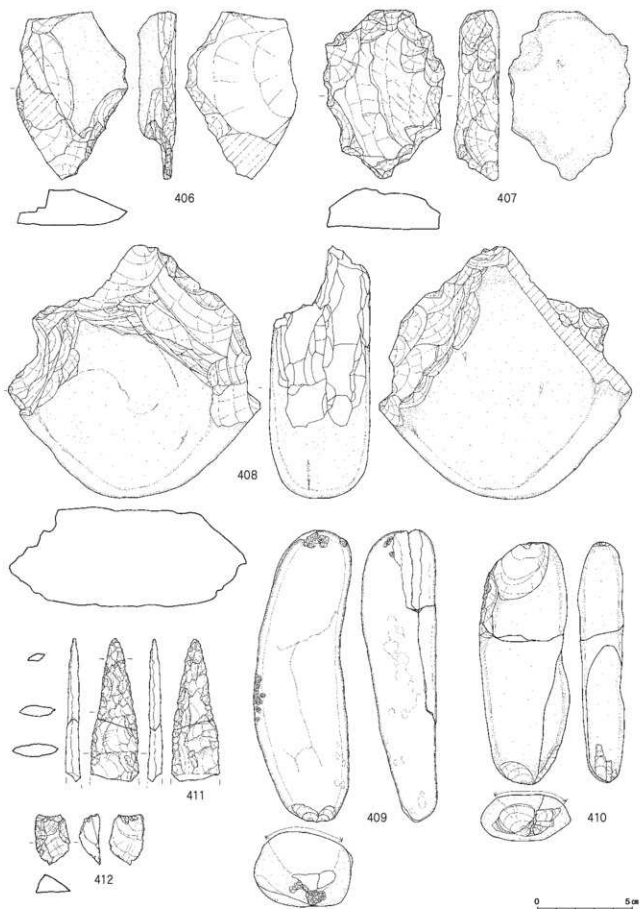
382は白色系流紋岩類製のナイフ形石器である。素材剥片の打点を除去し2個縁加工を施してある。383~385は細石刃である。383、384はV層下部、385はVI層からの出土である。386~388、391は不定形の剥片、389、390は打面を頻繁に転位した石核である。392、393は薄い剥片で微細剥離が個縁に見られる。394、396、397は二次加工剥片である。395は厚みのある剥片の端部からわずかに剥離した石核である。398は自然面側から微細な連続調整を施した搔器である。



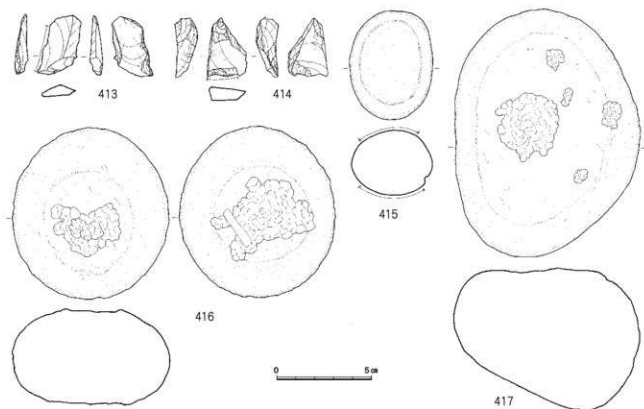
第59図 旧石器時代Ⅳ期 石器実測図1 (1/2)



第60図 旧石器時代IV期 石器実測図2 (1/2)



第61図 旧石器時代IV期 石器実測図3 (1/2)



第62図 旧石器時代Ⅳ期 石器実測図4 (1/2)

399の剥片は側縁の扶れた部分などに微細な剥離が残る。400は横長の剥片の端部や側縁に微細な調整を連続させた刃器である。

接合資料Ⅳ-①(第60図)は白色系流紋岩類製でC22グリッドのⅣ期最大の石器ブロックからの出土である。この石器ブロックは陥し穴状遺構の配列する南東斜面から主稜線を超えた西側であり、夏の季節風は陥し穴状遺構の方向から吹いてくる位置である。401~404不定形の剥片、405は石核である。

その他の石材製石器群 (第61・62図、遺物番号406~417)

その他にはホルンフェルス、砂岩、花崗斑岩、チャートなど遺跡周辺で調達できる石材に混じって、サスカイト、黒曜石が1点ずつ出土している。これらの石材は他に出土がなく持ち込まれたものである可能性が高い。406は節理が著しい剥片の側縁に連続した剥離を施した搔器である。407は円礫の自然面側から外周全体に剥離を施した石核である。408は節理割れの著しいホルンフェルスの円礫を両面から調整を加え刃部を作出した礫器である。409、410は敲石で打撃により縦方向に破断している。いずれもC23グリッドの石器ブロック出土である。411はサスカイト製の尖頭器である。薄い素材の縁辺を丁寧な両面調整を加えて柳葉形に成形している。412は腰岳産の黒曜石製の石核で微細で細長い剥離があり細石刃核とも考えられる。413、414のチャート製の剥片は不定形で側縁などに微細な剥離がある。415はチャートの円礫を利用した磨石であり磨面が顕著である。416、417は行藤山花崗斑岩製の凹石である。416は表裏にくぼみがある。

第5節 縄文時代早期の遺構と遺物

縄文時代早期の包含層はⅡ層（鬼界アカホヤ火山灰層）下位のⅢ～Ⅴ層である（第Ⅱ章）。主な遺構は集石遺構、炉穴群、円形配石遺構などである（第63図）。以下、項目ごとに概説する。

1 集石遺構と散礫

散礫の分布

Ⅱ層（鬼界アカホヤ火山灰層）下位のⅢ層（黒色土層）から縄文時代早期のものと考えられる土器、石器の検出がはじまる。調査進展に伴いⅢ、Ⅳ層からは遺物とともに焼成した直径数cm～10cm程度の角礫（以後散礫とよぶ）が多数検出された。その量の垂直方向の分布は、Ⅲ層から次に下位に向かって増加しⅣ層でピークに達する。Ⅴ層上面で集石遺構を検出すると散礫は減少に転じる。Ⅳ層で多量に検出した散礫が生活面と思われるⅤ層上面を境に減少する点は遺物等が上方へ拡散移動する傾向が強いことを示唆する。平面分布には粗密があり、肉眼観察では集石遺構の分布と連動するようにみえる。第一次調査ではⅢ・Ⅳ層の数cm以上の散礫をすべてトランシットにて位置プロットする調査を実施した（第64図）。これによると、流路等による列状の分布はなく、不明瞭ながら集石遺構付近を中心として斜面方向に伸びる楕円形に分布している。人為的な移動としては拡散が均質であり、集中部がない。斜面構成物の削剥・移動作用の研究では斜面表層が重力によって長時間非常にゆっくりとした速度で下方へ滑動するクリープ現象という作用が一般的に知られている。この作用は水、氷、空気などによる受動的な運搬ではなく、物質が重力によって直接、斜面を移動する現象のことである。遺跡の緩やかな斜面上で大規模な質量をもった集石遺構の礫が下位の地盤との異質性が大きくなったために重力によるクリープ現象が起り、これに凍結擾乱等の作用も加わって散礫拡散の営力となった可能性が考えられる。三次、四次調査でも散礫を検出して分布範囲を記録したところ、おおまかな傾向の一致をみた。

集石遺構の分布

集石遺構はⅤ層上面で、総数44基を検出した。これらは大きく3つのグループを形成して分布しており、それらの中間に少数が散在する（第65図）。

第1グループ 遺跡北西端 稜線上（C24、D24グリッド） 12基

第2グループ 遺跡南東端 緩斜面上（Y30、Z30グリッド） 13基

第3グループ 遺跡西部 稜線上（A23、B23グリッド） 8基

Y26グリッド4基、B29グリッド2基、Z23グリッド2基、完全に単独の検出は3基のみであった。第1グループは4号炉穴群、第2グループは9号炉穴群、第3グループは1号炉穴群に近接している。一部の集石遺構は炉穴群の上位に検出されるが、お互いの構造に影響を与えていない。また、集石遺構を伴わない炉穴群も多数あり、同時期使用の可能性と相互の機能的関連性は低いと思われる。

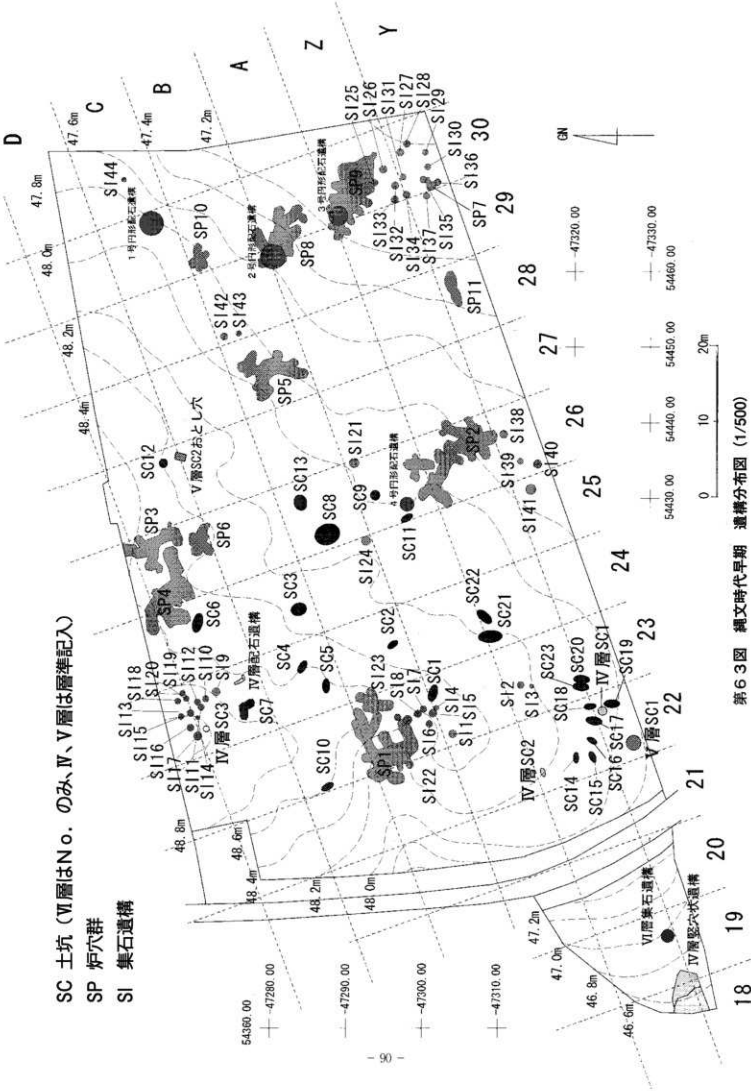
集石遺構の形態

集石遺構の形態分類について、これまでに多くの研究者が検討している。本遺跡では深さ30cmをこえる掘り込みや平面形態が直径1.5mに達するような大形の集石遺構が見られない。大きな特徴として20～30cm程度の扁平な礫を浅い掘り込みに敷き詰めた明瞭な配石を持つものが存在することと、それらの配置の規則性があげられる。そこで今回は配石を中心とした平面形態を主たる着目点として掘り込みなどの情報も考慮しつつ分類を試みた（第1表）。

SC 土坑 (VI層はN.O.のみ、IV、V層は層準記入)

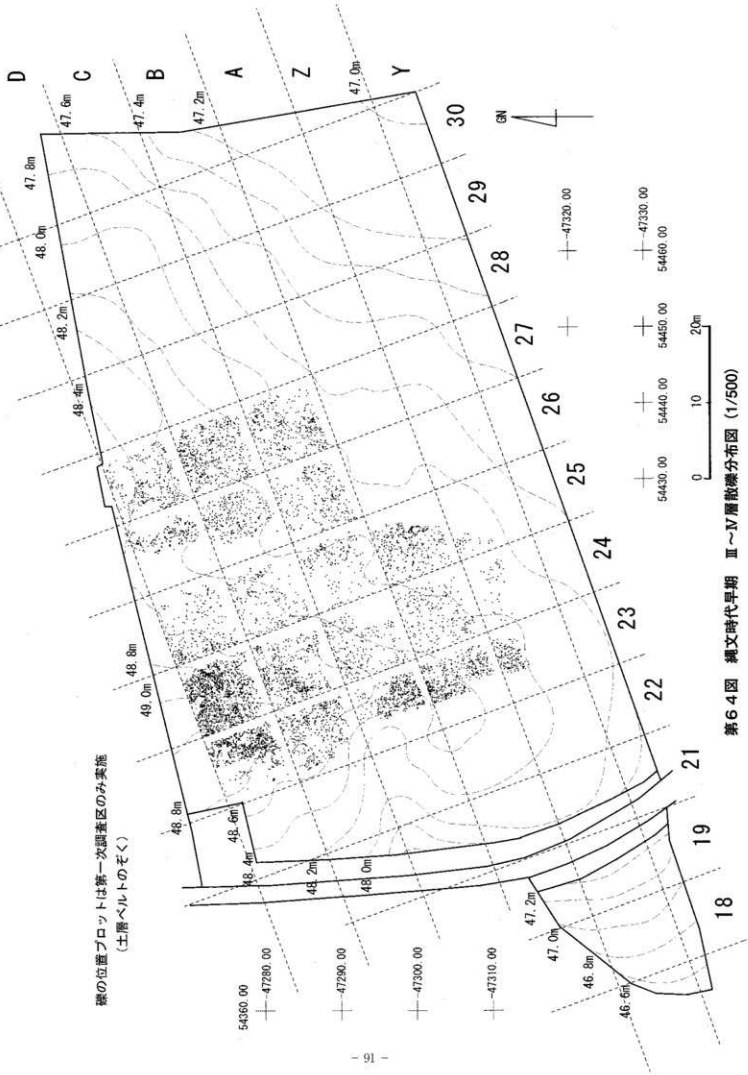
SP 炉穴群

SI 集石遺構



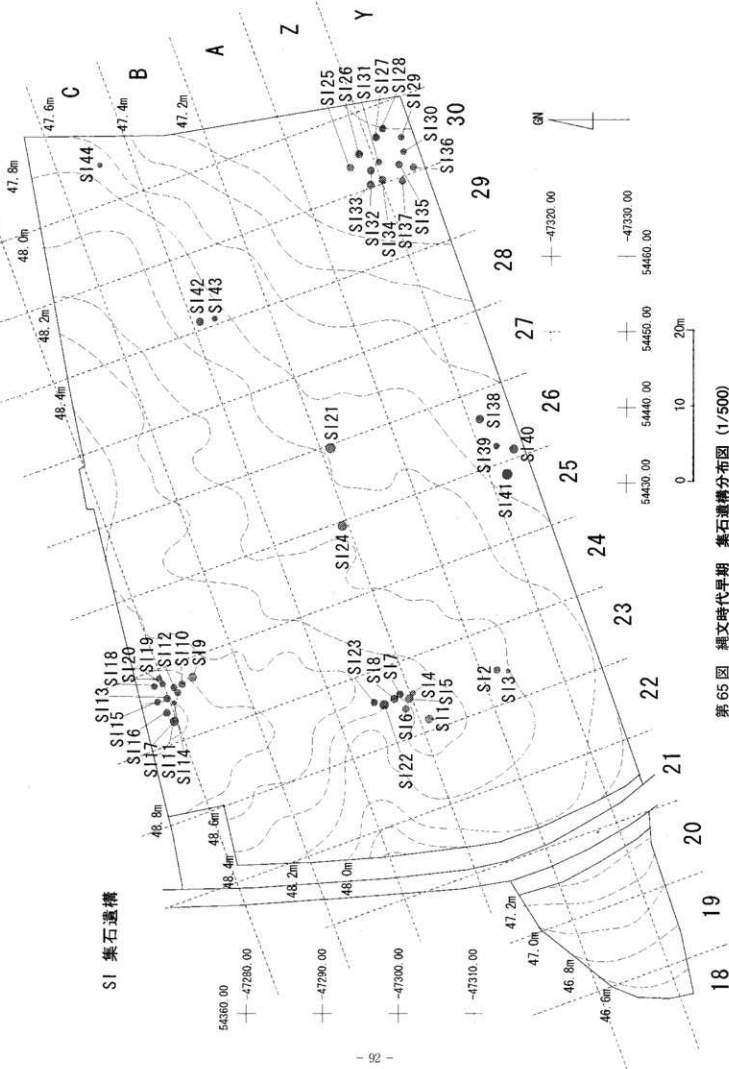
第63図 縄文時代早期 遺構分布図 (1/500)

礫の位置プロットは第一次調査区のみ実施
(土層ベルトのぞく)









第64図 縄文時代早期 III～IV層散礫分布図 (1/500)

SI 集石遺構



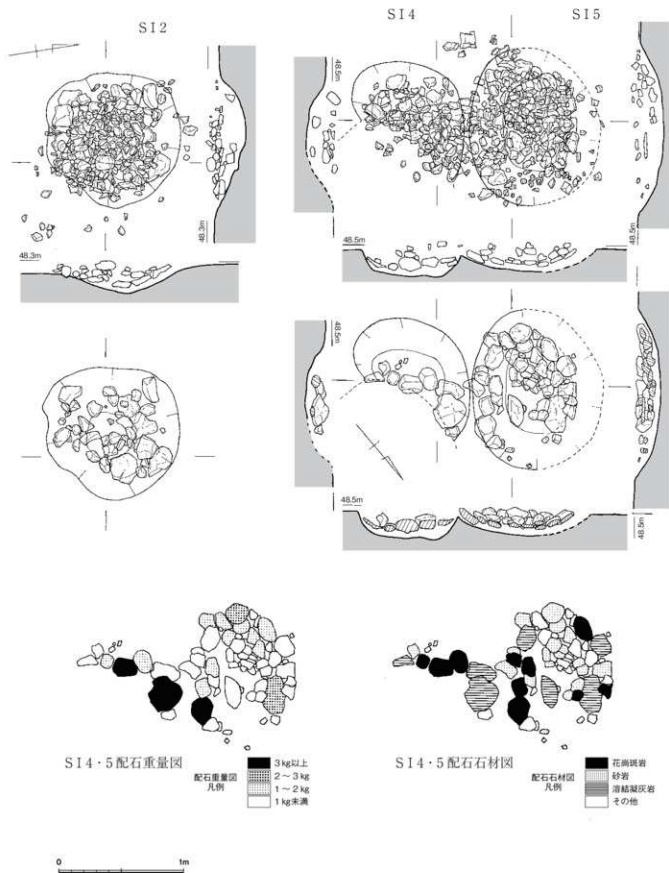
第65図 縄文時代早期 集石遺構分布図 (1/500)

	模式図	形態	集石番号(略号S I)	総数
A類 集石下部に巨礫による配石をもつもの				
A1類		掘り込み内の外周に巨礫を花卉状に並べたもの	2、5、7、8、9、10、11、13、22、25、26、37、38、39	14
A2類		掘り込み内にすきまなく均等に巨礫を配置したもの	12、17、21、31、32、34、42	7
A3類		掘り込み内の中央部に巨礫が数個集められたもの	20、29、40	3
A4類		破壊などの理由で形状不明ながら巨礫をもつもの	15、19、30、33、36、43	6
B類		集石下部に巨礫による配石をもたないもの	1、3、4、6、14、16、18、23、24、27、28、35、44	13
C類		平面形態が長楕円で下部に配石がないもの	41	1

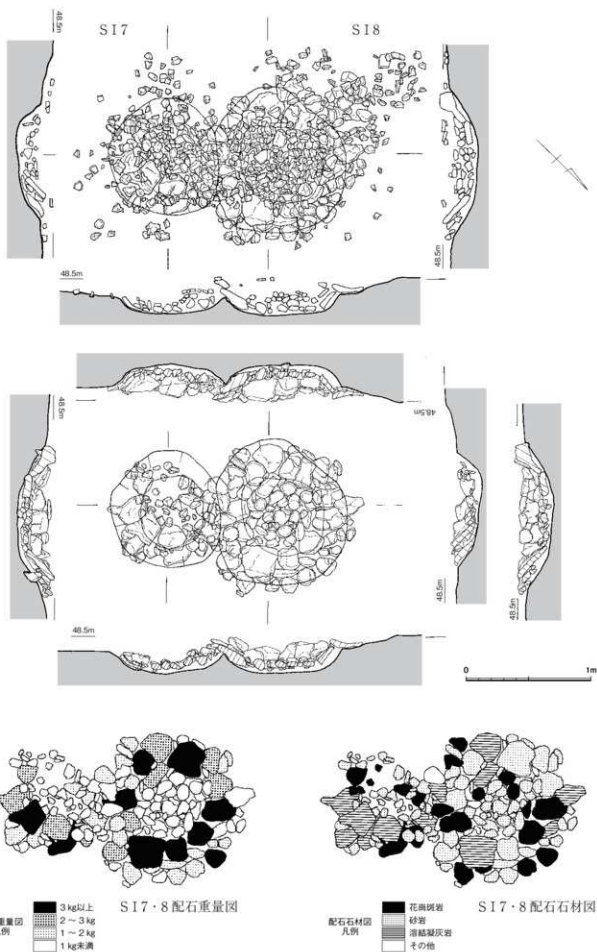
第1表 集石遺構の形態による分類表

A1類は調査中「花卉状」と呼称していたグループである。検出時から周縁部に直径20~30cmを超える巨大な礫による配石が露出しているものが多く、S12、5、7、8、9、10、22、37、38、39において掘り込み周縁部の礫が中央部の礫よりも明瞭に大形である。その他のものについては中央部と周縁部の礫の直径差が顕著ではなくA2類との共通点も多い。A1類では以下の点が観察できるものが多い。

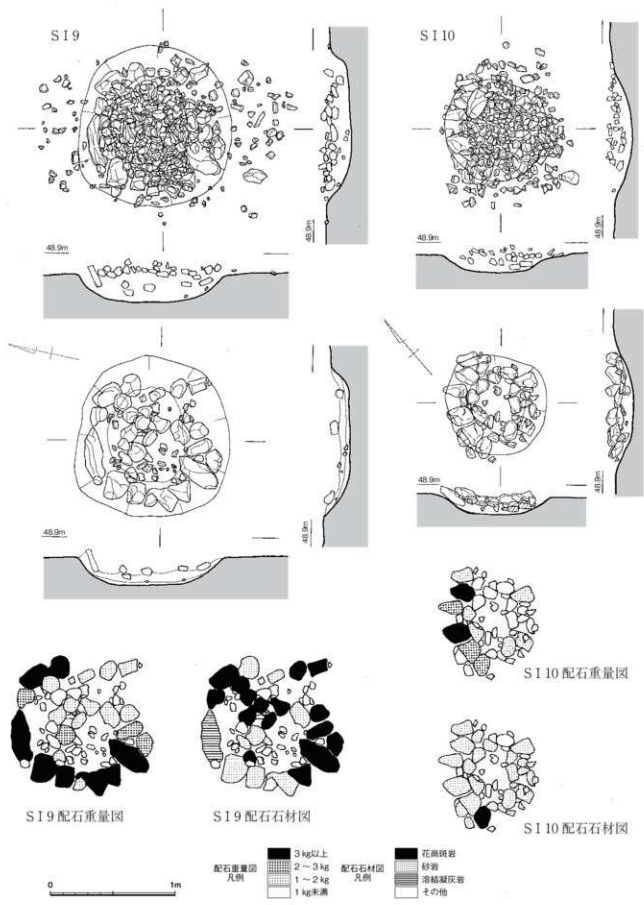
- ① 掘り込み周縁部の配石は主として扁平な円礫を選択して放射状にすきまなく配列している。
- ② 扁平な礫の中には横方向からの打撃で薄く分割して配列しているものも複数ある。
その際、自然面が上、分割面が下になるようにしている。
- ③ 配石は掘り込み側壁のカーブに沿って鍋状に形成されている。その際、傾き補正のためか小礫が配石の裏側に挿入されている。
(配石裏の小礫が普遍的に存在しないことから排水や固定のためとは考えにくい。)
- ④ 配石の中央部は上位を覆っている角礫程度の大きさであり判別がつきにくく、調査の初期段階で



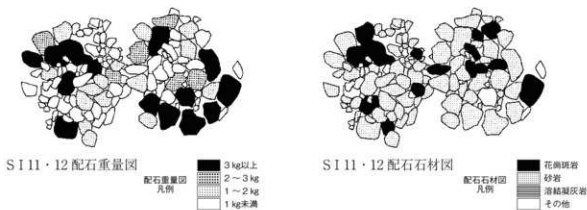
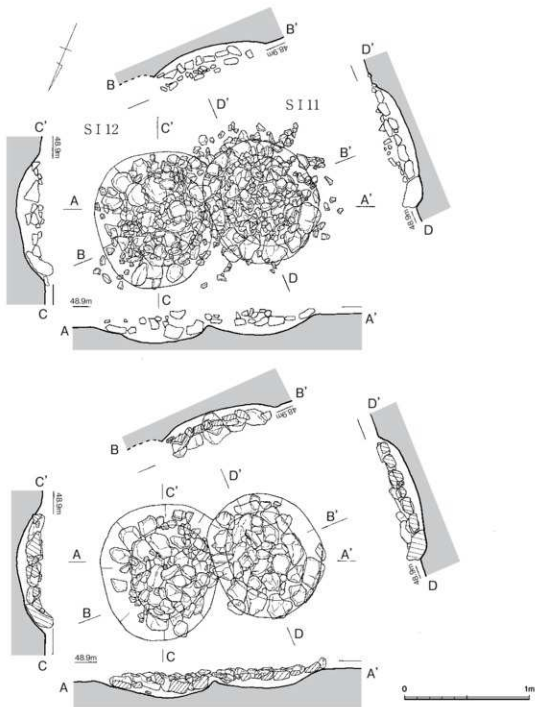
第66図 集石遺構実測図1 (1/30)



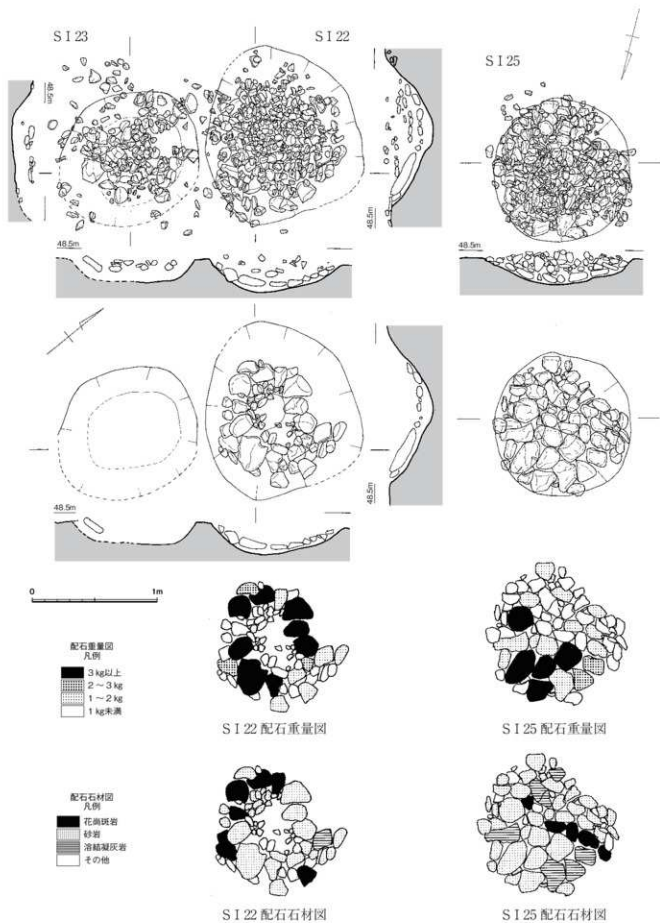
第67図 集石遺構実測図2 (1/30)



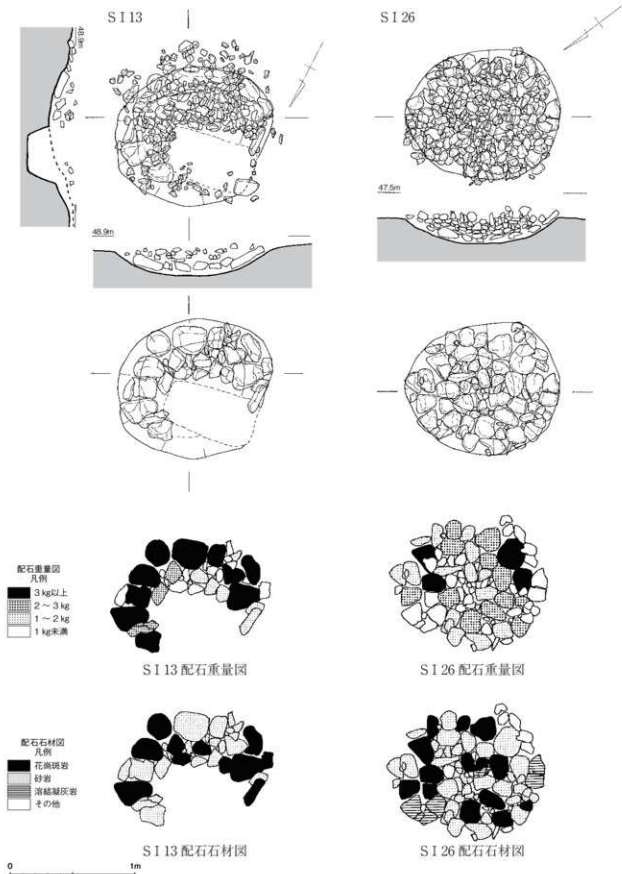
第68図 集石遺構実測図3 (1/30)



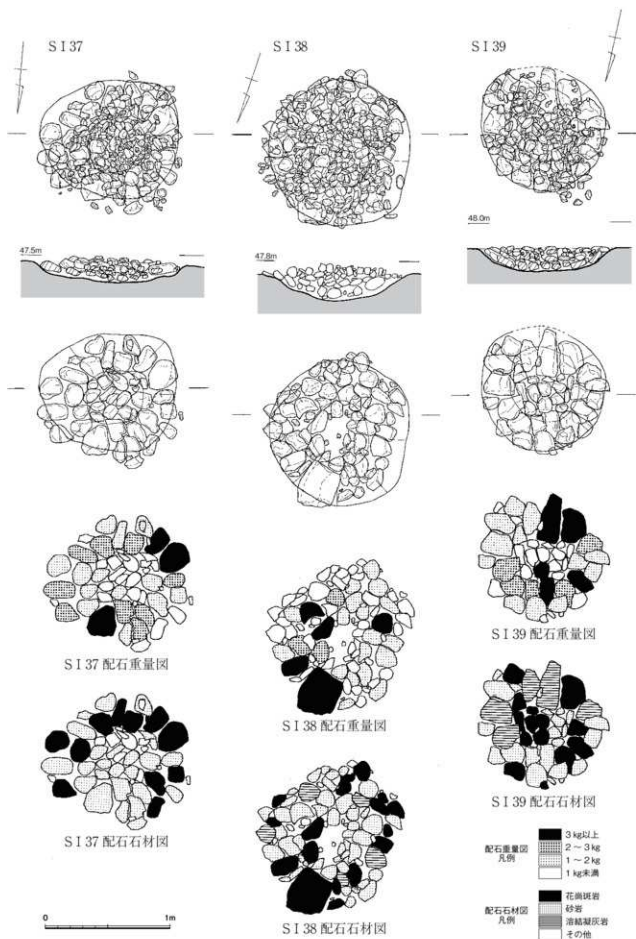
第 69 図 集石遺構実測図 4 (1/30)



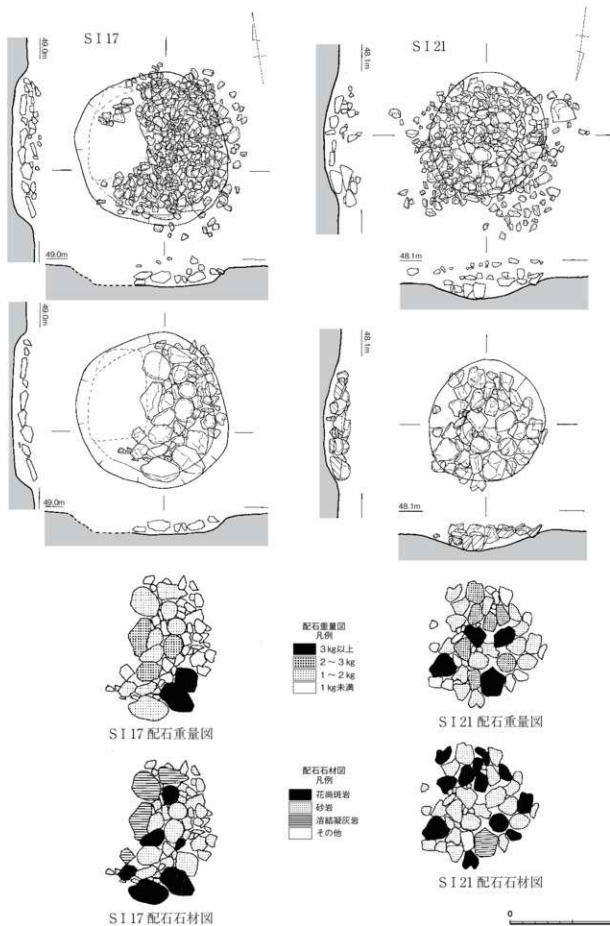
第70図 集石遺構実測図5 (1/30)



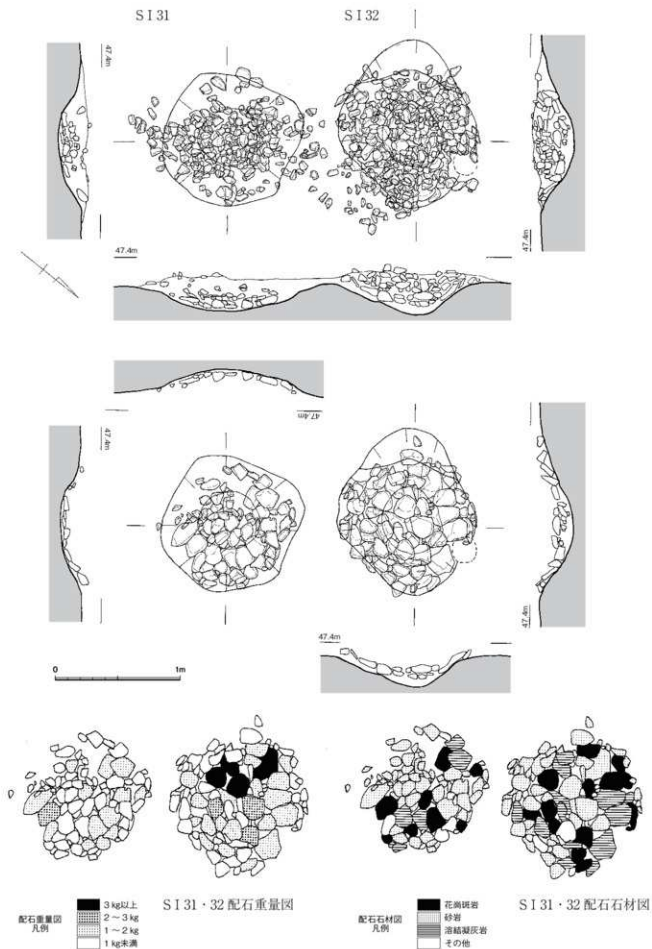
第71図 集石遺構実測図6 (1/30)



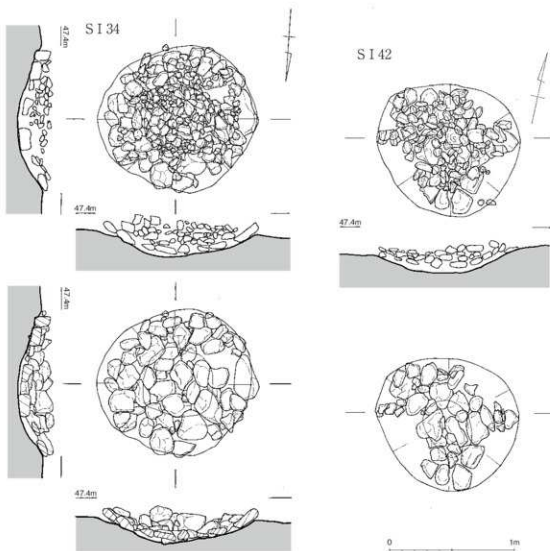
第72図 集石遺構実測図7 (1/30)



第73図 集石遺構実測図8 (1/30)

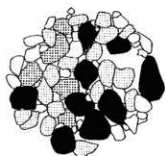


第74図 集石遺構実測図9 (1/30)

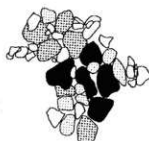


配石重量図
凡例

■	3 kg以上
▨	2 ~ 3 kg
▧	1 ~ 2 kg
□	1 kg未満



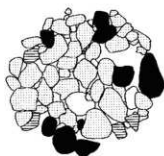
SI 34 配石重量図



SI 42 配石重量図

配石石材図
凡例

■	花崗斑岩
▨	砂岩
▧	消結凝灰岩
□	その他

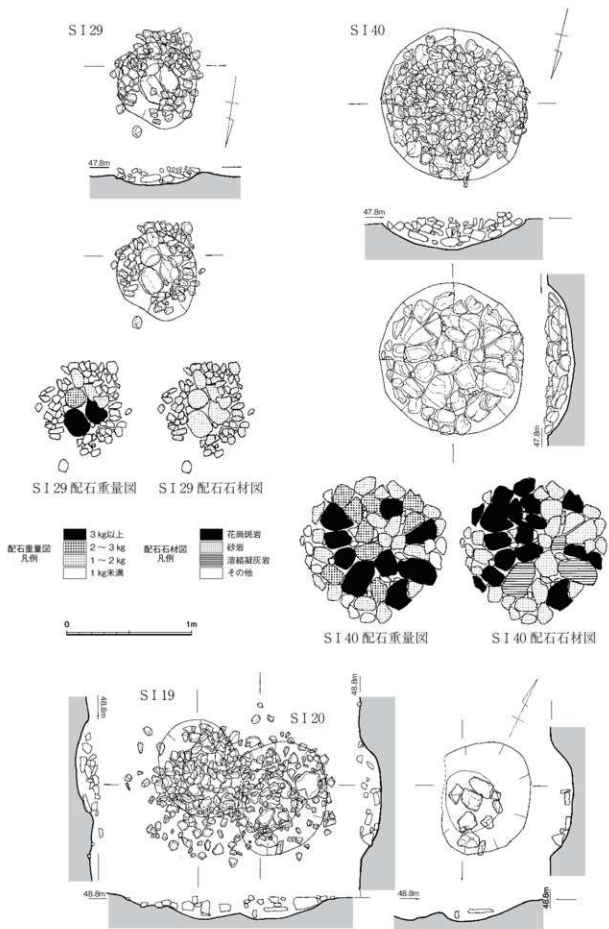


SI 34 配石石材図

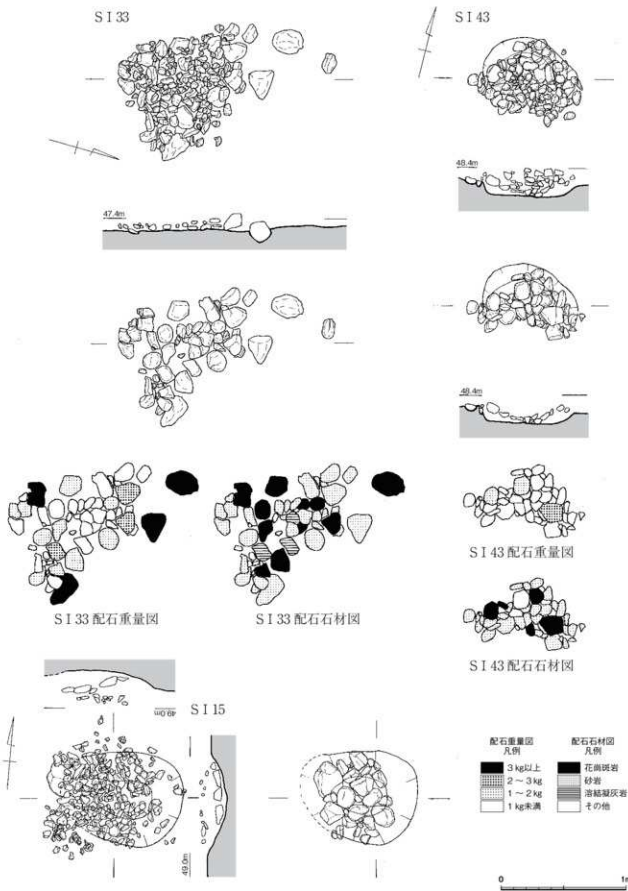


SI 42 配石石材図

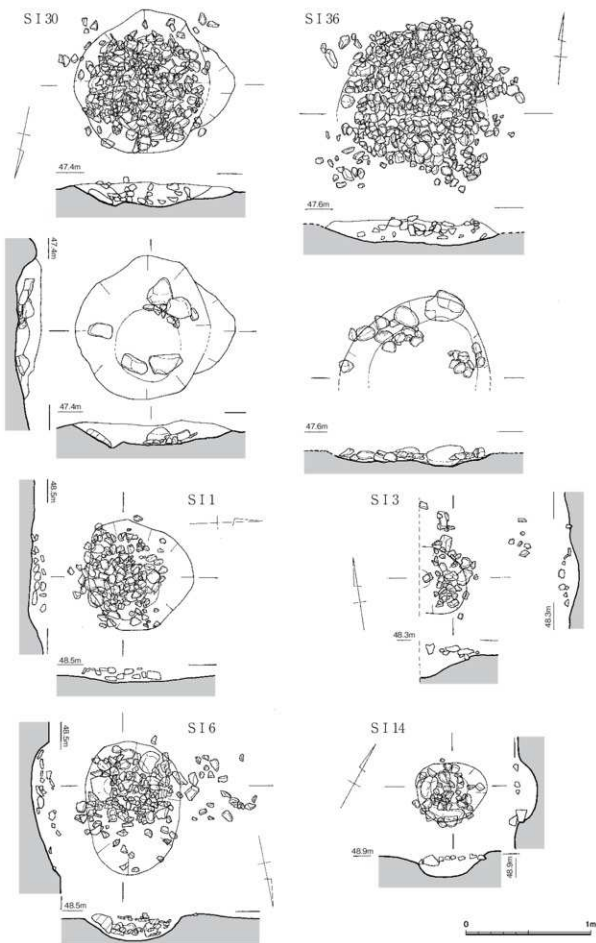
第75図 集石遺構実測図10 (1/30)



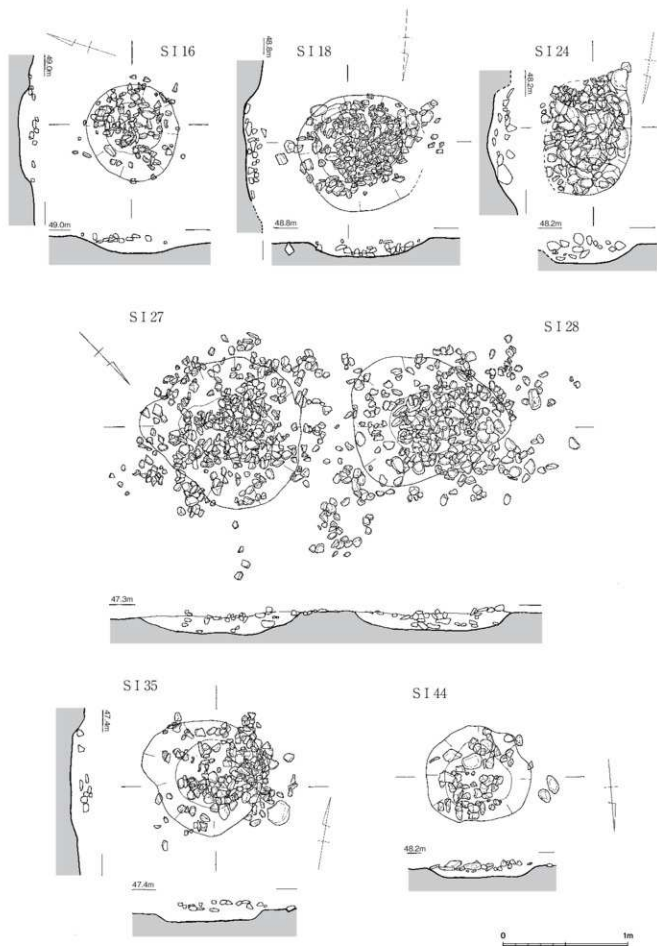
第76図 集石遺構実測図11 (1/30)



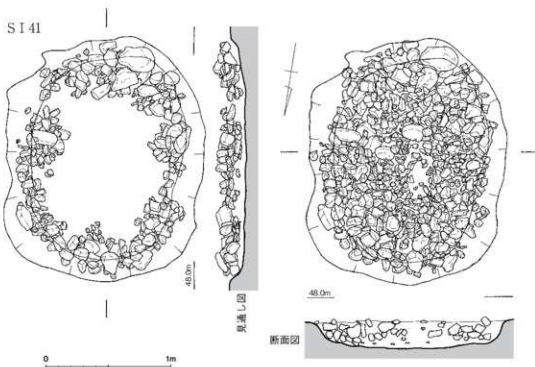
第77図 集石遺構実測図12 (1/30)



第78図 集石遺構実測図13 (1/30)



第79図 集石遺構実測図14 (1/30)



第80図 集石遺構実測図15 (1/30)

は配石検出時に除去してしまうこともあったが、配石中央部は空隙ではなく円礫もしくはその破碎した角礫がすきまなく埋め込まれていることが確認できた。

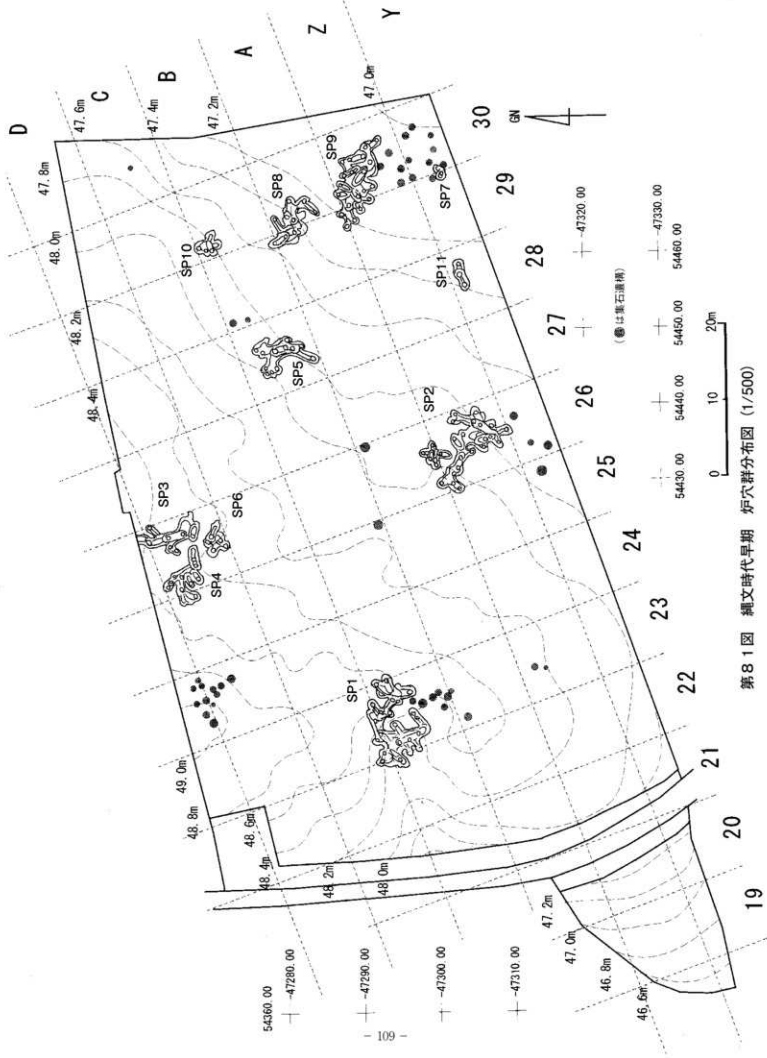
A2類はほぼ10～20cm程度の大きさの巨礫を掘り込みの全面に均等に敷き詰めるタイプである。A1類との共通点もあるが、相対的にA1類よりも礫の扁平度が弱い円礫を使用する傾向がある。巨礫により構成されるため、巨礫同士のすきまができていく。ここにはすきまを埋めるように小礫が充填されている。この小礫は構造的にはめ込まれているものか、結果的に上位の小礫が落ちてきたものかの判別は困難である。ただ、巨礫同士に不自然なすきまがあるとき必ず小礫が充填され掘り込みの地面が露出しないようになっていることから、意図的な充填ではないかとの推察ができる。

A3類では中央部だけに顕著に巨礫が数個集中するタイプ(S I 20, 29)と全体的に巨礫ながら周辺部に小礫が並ぶもの(S I 40)がある。後者はA2類との共通点も多い。

A4類は植栽痕等で破壊されたり、調査段階の不注意等により判別の困難な一群である。S I 30, 33, 36, 43はA1類、S I 15はA3類であったと推定できる。

B類は全体として浅い掘り込みをもちつつも、大形の配石をもたないグループである。完形の円礫が少なく破碎しているものが多い傾向にある。A類では礫の大小にかかわらず掘り込み底部に礫が接することが多いのに対し、掘り込みの底部に礫が少なく埋土が掘り込みに接している場合が多い。

C類は形状構造ともに大変特異であり、楕円形の掘り込みの壁を作るように突き立てた礫も数個存在し、A、B類の集石遺構とは一線を画した構造物である可能性は否定できない。



第 8 1 図 縄文時代早期 炉穴群分布図 (1/500)

配石の属性分析

調査段階で本遺跡の集石遺構は配石に特徴があると判断し、明瞭に配石を有するものについて、その個々の礫の重量と石材を記録した。構造的な特徴を数値によって統計的な処理で分析したが明瞭に区分できなかったため、重量階級・石材種別ごとに分類した分析図を作成し視覚的な表現を試みた。A1類の構造については配石重量図により分離できた（S I 5, 7, 8, 37等参照）。配石石材図においてはA1類の配石外周部に溶結凝灰岩が多用される傾向があることや砂岩と行勝山の花崗斑岩が圧倒的な多数を占めることなどが理解できる。これは遺跡の基盤を作る礫層（第Ⅱ章第2節参照）の構成礫から選択的に抽出しているようでチャート、流紋岩、緑色岩、千枚岩、頁岩といった使用しない石材がある。配石に「使用する石材群」と「使用しない石材群」を区別して使用していた可能性がある。

集石遺構に伴う遺物

集石遺構に伴うと明瞭に判断できる遺物はほとんど無く、上面礫や周辺礫中まで含めると遺物番号491の縄文土器がS I 24から、501の縄文土器がS I 27の出土である。これらは縄文時代早期を通じて最も出土点数の多い土器の一群である。上記の2点は包含層遺物とあわせて後述する。

2 炉穴群

炉穴群の分布

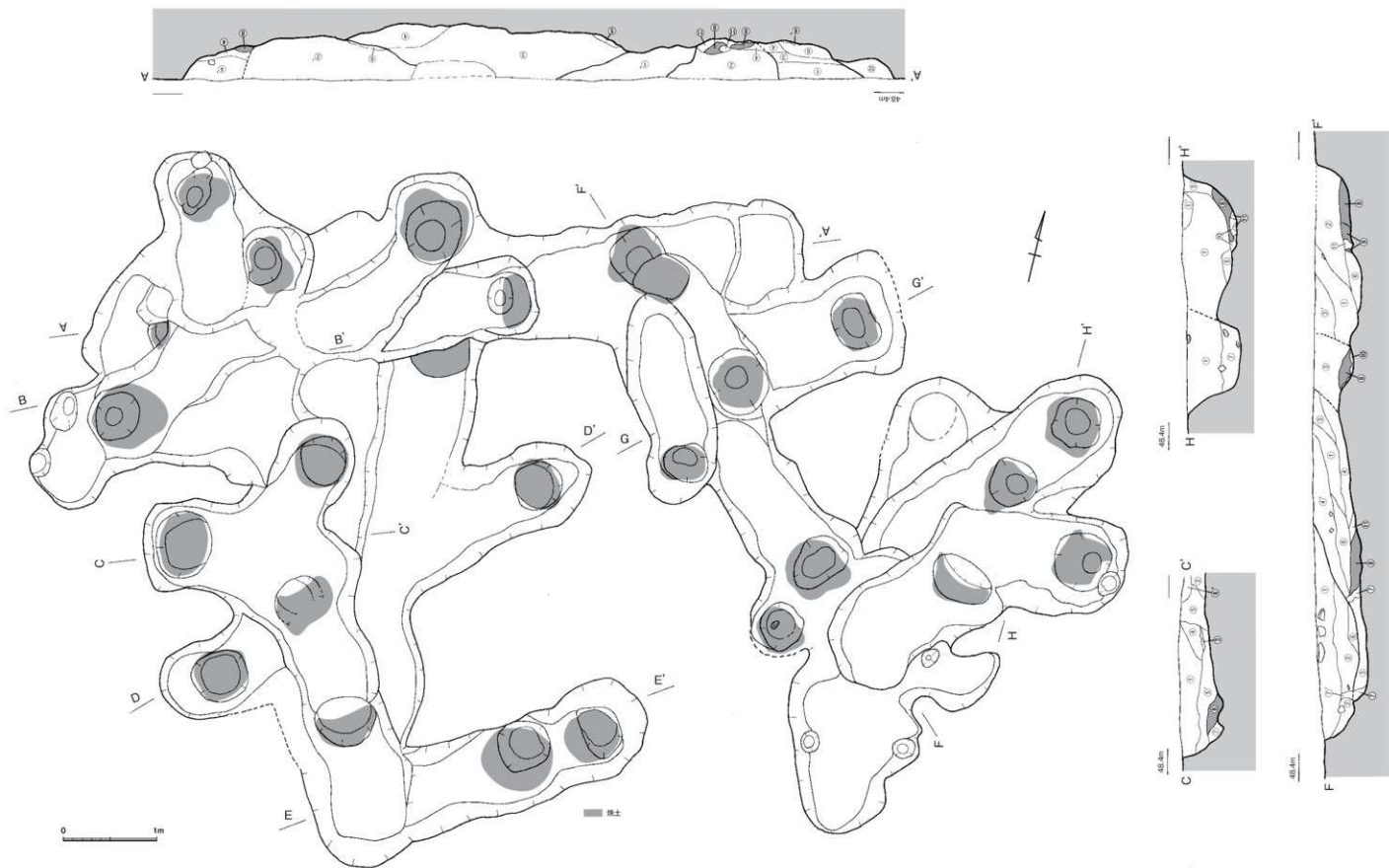
本遺跡では多数の炉穴がアメーバ状に連続する炉穴群として11群確認された（第81図）。炉穴群の規模、構築の場所、掘削の連続する方向などは多様で規則性を見いだすことは困難である。前述のように平面分布について集石遺構との関連は薄いようである。円形配石遺構との平面分布については8号、9号炉穴群などで完全に重複しており同時使用の可能性は低いと思われる（第63図）。

基数の推定

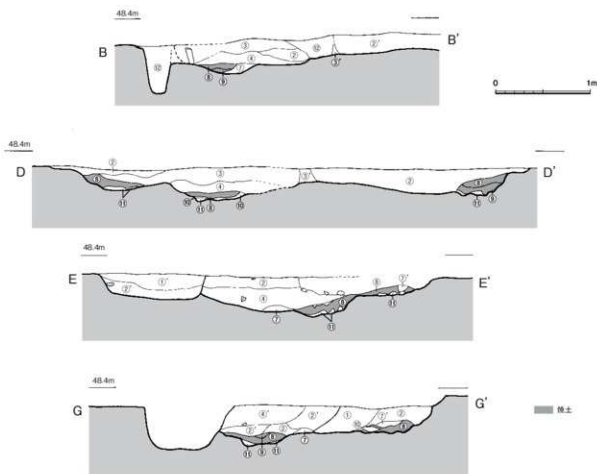
この炉穴群の土坑端部には赤褐色の焼土が厚さ10～20cmのドーム状に堆積する焼土集中部（炉部）が多数確認できる。これとは別に明瞭な色調ながら比較的薄く広く堆積する焼土粒の分布範囲も確認できる。この薄く広い焼土は土坑中央部に位置することが多く流れるような構造があることから炉部からの掻きだしではないかと考えられる。また、炉穴の作り替えによって古い炉部を破壊して掘り込んでいると考えられる切り合いもあり炉穴の基数を確定することは困難である。ただ、平面形態で小判形もしくは瓢箪形の土坑に厚さ10cmを超える焼土集中部（炉部）が1か所存在すると仮定すれば、平面形態と焼土集中部の数で炉穴の基数が把握できる。この仮定により各群の基数を推定した。

群名（略号）	基数	備考	群名（略号）	基数	備考
1号炉穴群（S P 1）	29	調査区外へ連続	7号炉穴群（S P 7）	2	破壊後に検出
2号炉穴群（S P 2）	33		8号炉穴群（S P 8）	10	円形配石が載る
3号炉穴群（S P 3）	7		9号炉穴群（S P 9）	21	
4号炉穴群（S P 4）	11		10号炉穴群（S P 10）	4	
5号炉穴群（S P 5）	12		11号炉穴群（S P 11）	3	
6号炉穴群（S P 6）	3		浅く破壊激しい	全炉穴群合計	135

第2表 炉穴群ごとの炉穴基数推定表



第82图 1号炉穴群实测图1 (1/40)



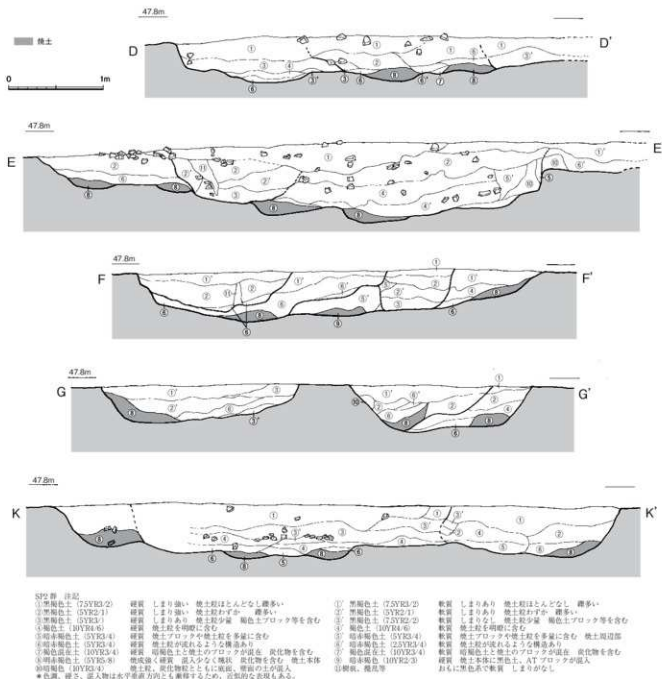
5P1 詳記

- | | | |
|--|--|--|
| ① 赤褐色土 (10YR2/3) 硬質的質 粘土粒なし 雑多い | ①7 赤褐色土 (10YR2/3) 軟質 混入土あり 粘土粒なし 雑多い | ①7' 赤褐色土 (10YR2/3) 軟質 混入土あり 粘土粒なし 雑多い |
| ② 赤褐色土 (10YR2/3) 硬質 しまりあり 粘土粒わずか 雑含む | ②' 赤褐色土 (10YR2/3) 軟質 しまりなし 粘土粒わずか 雑含む | ②' 赤褐色土 (10YR2/3) 軟質 しまりなし 粘土粒わずか 雑含む |
| ③ 赤褐色土 (10YR2/3) 硬質 しまりあり 粘土粒少量 暗褐色土ブロック等を含む | ③' 赤褐色土 (2.5YR2/2) 軟質 しまりなし 粘土粒少量 暗褐色土ブロック等を含む | ③' 赤褐色土 (2.5YR2/2) 軟質 しまりなし 粘土粒少量 暗褐色土ブロック等を含む |
| ④ 赤褐色土 (10YR2/3) 硬質 粘土粒、炭化物を多量に含む | ④' 褐色土 (10YR4/4) 軟質 硬土粒、炭化物を多量に含む | ④' 褐色土 (10YR4/4) 軟質 硬土粒、炭化物を多量に含む |
| ⑤ 暗赤褐色土 (5YR3/4) 硬質 硬土ブロックや硬土粒を多量に含む | ⑤' 暗赤褐色土 (5YR3/4) 軟質 硬土ブロックや硬土粒を多量に含む | ⑤' 暗赤褐色土 (5YR3/4) 軟質 硬土ブロックや硬土粒を多量に含む |
| ⑥ 暗赤褐色土 (5YR3/4) 硬質 硬土粒が明瞭で混れるような構造がある | ⑥' 暗赤褐色土 (2.5YR2/2) 軟質 硬土粒が明瞭で混れるような構造がある | ⑥' 暗赤褐色土 (2.5YR2/2) 軟質 硬土粒が明瞭で混れるような構造がある |
| ⑦ 暗褐色土 (10YR3/4) 硬質 暗褐色土と硬土のブロックが混る 炭化物を含む | ⑦' 暗褐色土 (10YR3/4) 軟質 暗褐色土と硬土のブロックが混る 炭化物を含む | ⑦' 暗褐色土 (10YR3/4) 軟質 暗褐色土と硬土のブロックが混る 炭化物を含む |
| ⑧ 明赤褐色土 (5YR5/8) 硬質 塊状 炭化物を含む 硬土本体 | ⑧' 暗褐色土 (10YR2/3) 硬質 硬土本体に黒色土、A/Tブロックが混る | ⑧' 暗褐色土 (10YR2/3) 硬質 硬土本体に黒色土、A/Tブロックが混る |
| ⑨ 暗褐色土 (2.5YR5/8) やや軟質 塊状 混入した均質な砂質硬土の部分 | ⑨' 暗赤褐色土 (5YR2/3) 大変硬質 塊状で黒化した部分 | ⑨' 暗赤褐色土 (5YR2/3) 大変硬質 塊状で黒化した部分 |
- ◎ 軟質、硬質、混入物は水平垂直方向とも観察するため、近似的な表現もある。

第83図 1号炉穴群実測図2 (1/40)

層準と製作時期の推定

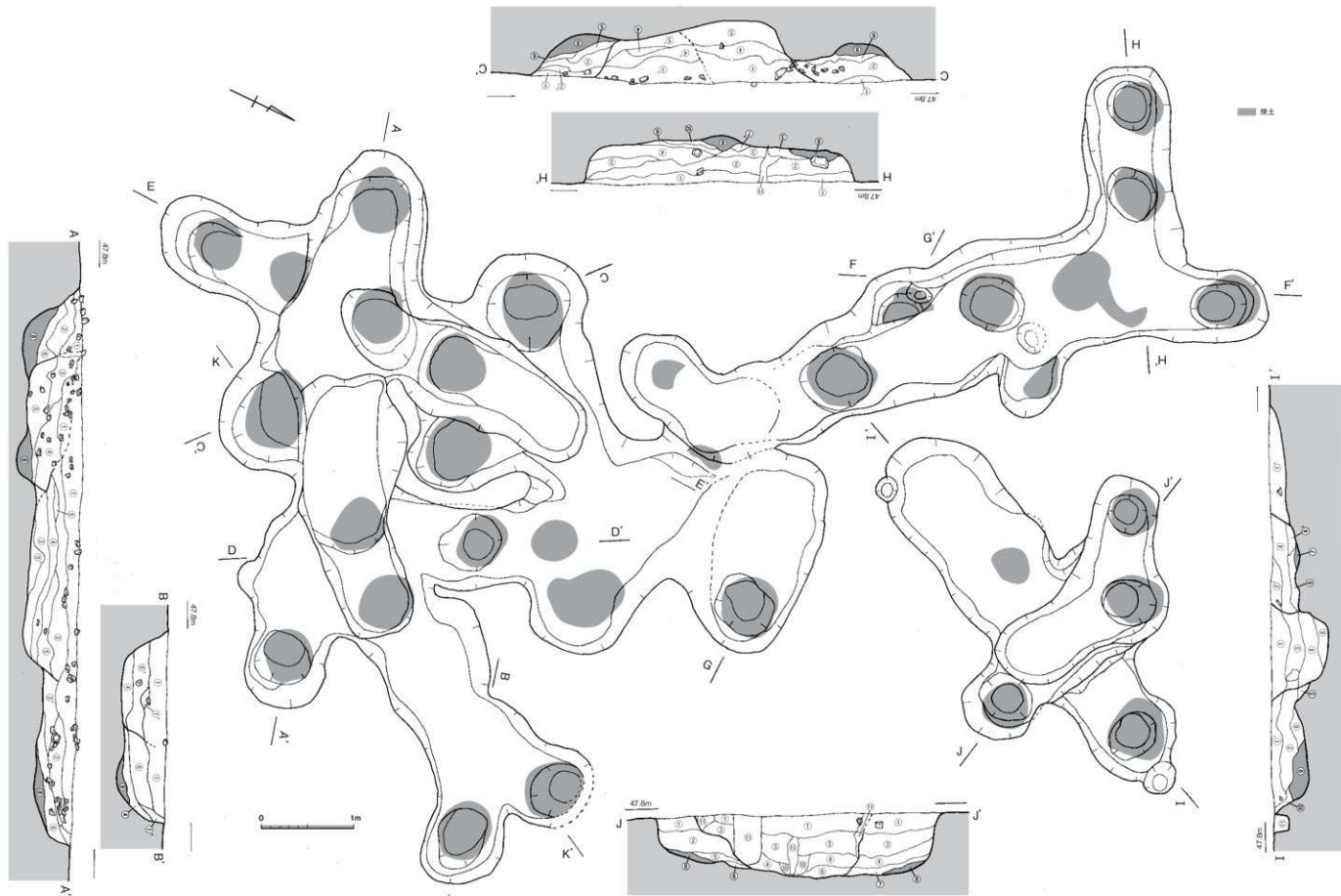
検出はVI層上面であり、集石遺構の検出層準からわずかに数cm下位である。調査段階では集石遺構の調査を終了し、礫とともにV層（黒褐色層）を除去して、わずかに明るい色調のVI層上面を精査すると炉穴埋土の黒ずみが広がる状況であった。さらに、VI層上面付近には集石遺構に関連する散礫はほとんど検出されないにもかかわらず、炉穴上部では埋土の変色が始まる前から礫が集中した（第85図S P 2 A-A'断面、第96図S P 11参照）。すなわち、集石遺構を構成する礫の散逸が始まる段階で炉穴の埋積が進行していることになる。埋土から出土する土器については、Ⅲ～V層から出土する無文か貝殻文系土器などの縄文早期の遺物群と同じ構成であり時期差を推定できる要素は検出できなかった。以上の観察から、縄文早期の範疇ながら炉穴群の使用時期は集石遺構よりも若干古い可能性が考えられたため、炉穴の焼土部分から採取した炭化物により放射性炭素年代分析を実施した。結果、集石遺構の放射性炭素年代分析の補正值が9,000～9,400年B Pであるのに対し炉穴群では9,300～9,600年B Pの値となった。重複する部分もあり推定の域をでないが、炉穴群の隆盛期は集石遺構の隆盛期と比較して同時期から若干古いところが考えられる。



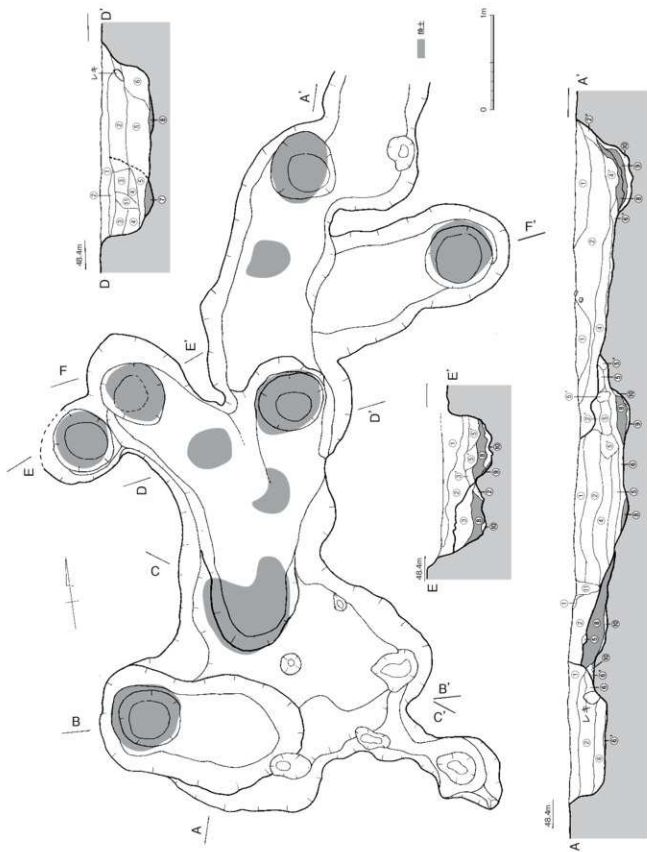
第84図 2号炉穴群実測図1 (1/40)

炉穴群の検出と炉部形態

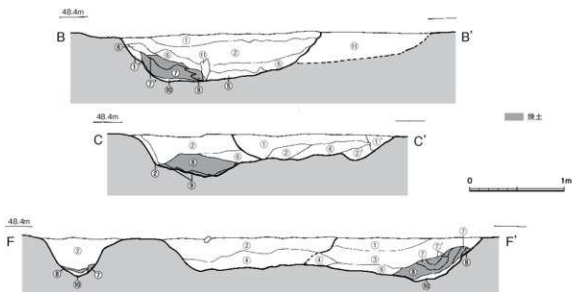
炉穴群の平面形態は検出段階での把握が困難でVI層上面に存在する多数の樹痕との判別に苦慮した。サブレンチを複数設定し焼土の位置と深さを確認し軸方向および範囲を検討した。しかし、炉穴群ごとの規模・軸の切り合う方向などに規則性が少なく完掘するまで全容がつかみにくいことが多かった。1号、3号炉穴群などでは大形の樹痕と炉穴群が接しており検出面での色調がほとんど同質であった。調査進捗に伴って検出ポイントを不定形にじみ中の礫混入と微量な赤褐色焼土粒に絞ったところ炉穴群の存在はほぼ予想できるようになった。



第85图 2号炉穴群实测图2 (1/40)



第86图 3号炉穴群实测图1 (1/40)



SP3群 注記

- ① 暗褐色土 (7.5YR3/4) 硬質 焼土粒なし、礫を多く含む
- ② 暗褐色土 (7.5YR3/3) 硬質 焼土粒わずかに含む、礫を多く含む
- ③ 暗褐色土 (7.5YR2/2) 硬質 焼土粒わずかに含む
- ④ 暗褐色土 (7.5YR3/2) 硬質 焼土粒を明瞭に含む
- ⑤ 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 硬質 焼土ブロックや焼土粒を多量に含む
- ⑥ 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 硬質 焼土粒が流れるような構造あり
- ⑦ 暗色底土 (10YR3/4) 硬質 焼土本体に黒褐色土が混入、炭化物を含む
- ⑧ 暗赤褐色土 (2.5YR5/8) 炭成強く硬質 混入少く塊状、炭化物を含む、焼土本体
- ⑨ 暗赤褐色土 (2.5YR2/3) 大気硬質、焼成で無化した部分

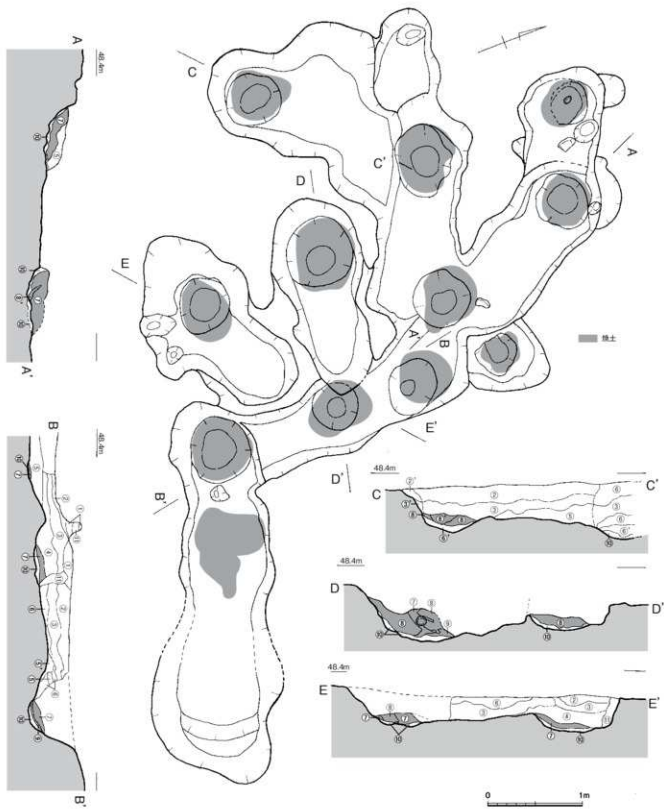
- ⑩ 暗褐色土 (7.5YR3/4) 軟質 焼土粒なし、礫を多く含む
- ⑪ 暗褐色土 (7.5YR3/3) 軟質 焼土粒わずかに含む、礫を多く含む
- ⑫ 暗褐色土 (7.5YR2/2) 軟質 焼土粒わずかに含む
- ⑬ 暗褐色土 (7.5YR3/2) 軟質 焼土粒を明瞭に含む
- ⑭ 暗褐色土 (7.5YR3/2) 軟質 焼土粒を明瞭に含む
- ⑮ 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 軟質 焼土ブロックを多量に含む、粘土塊を含む
- ⑯ 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 軟質 焼土粒が流れるような構造あり
- ⑰ 暗色底土 (10YR3/4) 軟質 焼土本体に黒褐色土が混入、炭化物を含む
- ⑱ 褐色 (2.5YR6/4) やや軟質 焼成未化した均質な砂質凝灰の部分
- ⑳ 礫類、植込等 おもに黒色土で軟質、しまりがなし

● 色澤、硬さ、混入物は水平断面方向とも異なるため、近似的な表現もある。

第87図 3号炉穴群実測図2 (1/40)

県内の炉穴の発掘事例では推屋形第2遺跡（宮崎市）、木脇遺跡（国富町）、別府原遺跡（西都市）などで炉部と足場の上にブリッジを有する連結土坑が確認されている。本遺跡でもブリッジの存在の有無について検討を行い調査を実施した。結果、9号炉穴群（第93図）でA-A'断面、E-E'断面の2か所にブリッジを確認した。推定135基のうち2基だけの確認であり、すべて連結土坑の形態をとっていたとは断言しがたい。炉穴群が検出面のVI層上面より数cm上位のV層中位（集石遺構検出面直下）より掘り込まれておりブリッジの痕跡部分を削平してしまっている可能性もある。11号炉穴群実測図2（第96図）では礫の埋積状況と土層との対比を記録している。礫の高さと炉穴の掘り込み深度に若干の差異が見られブリッジ痕跡を含む炉穴上部を検出できていない可能性を示唆している。

単体使用時の形態と炉部の焼土の堆積状況について検討できる資料は2号炉穴群G-G'断面（第84図）、3号炉穴群B-B'断面（第87図）、4号炉穴群D-D'断面（第88図）、8号炉穴群C-C'断面（第92図）などである。これらから炉穴単体の規模は全長約1.5~2m、幅約1m、検出面からの深さ約0.5~0.6m程度の規格があったと推定できる。ブリッジ痕跡の残る9号炉穴群E-E'断面（第93図）では約3m程度に2か所の焼土集中部が見られる。はじめに約1.5mの土坑で使用し炉部方向に掘り進んだと考えられる。



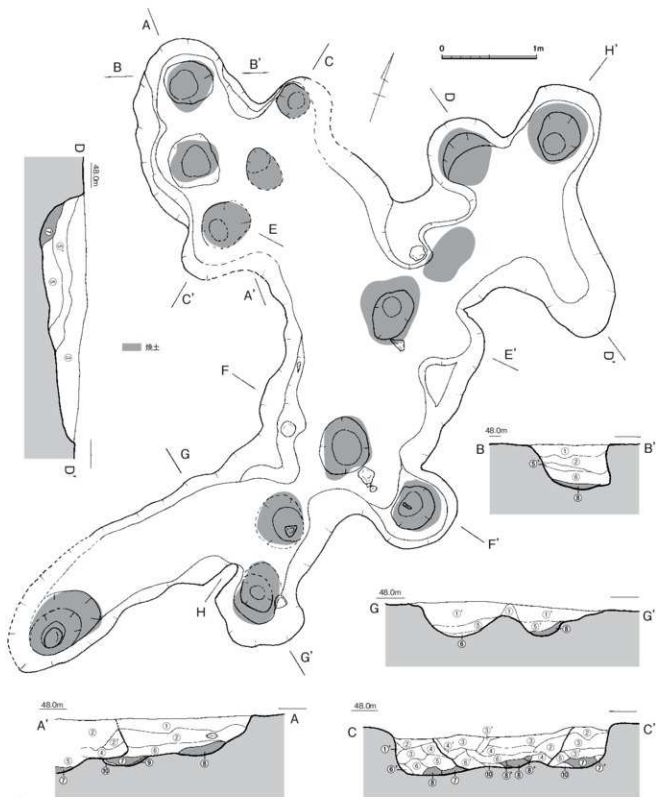
SP4 群 詳説

- ① 暗褐色土 (7.5YR3-4) やや硬質 焼土粒なし 礫を多く含む
- ② 暗褐色土 (7.5YR3-3) 硬質 焼土粒わずかに含む 礫を多く含む
- ③ 暗褐色土 (7.5YR2-2) 硬質 焼土粒わずかに含む
- ④ 草褐色土 (7.5YR3-2) 硬質 焼土粒を明確に含む
- ⑤ 草褐色土 (7.5YR3-2) 硬質 焼土上アロクや焼土粒を多量に含む
- ⑥ 暗赤褐色土 (2.5YR3-4) 硬質 焼土粒が散らるような礫品あり
- ⑦ 暗赤褐色土 (2.5YR3-4) 硬質 焼成強く炭入少なく焼質 炭化物含む 焼土本体
- ⑧ 暗褐色土 (5YR2-3) 焼土本体に暗褐色土が混入 軟質 炭化物を含む
- ⑨ 暗赤褐色土 (5YR2-3) 大きな礫 焼成度や種類した部分
- ⑩ 礫質 礫あり

●色調、硬さ、炭入量は水平垂直方向とも変動するため、近似的な表現もある。

- ⑪ 暗褐色土 (7.5YR3-3) 軟質 焼土粒わずかに含む 礫を多く含む
- ⑫ 草褐色土 (7.5YR2-2) 軟質 焼土粒わずかに含む
- ⑬ 草褐色土 (7.5YR3-2) 軟質 焼土粒を明確に含む
- ⑭ 草褐色土 (7.5YR3-2) 軟質 焼土上アロクや焼土粒を多量に含む
- ⑮ 暗赤褐色土 (2.5YR3-4) 軟質 焼土粒が散らるような礫品あり
- ⑯ 暗赤褐色土 (5YR2-3) 焼土本体に暗褐色土が混入 硬質 炭化物を含む
- ⑰ 暗色 (2.5YR6-8) やや軟質 焼成未了した珪質な赤質層の部分
- ⑱ 礫質、礫あり おもに黒色系で軟質 しまりがなし

第88図 4号炉穴群実測図 (1/40)

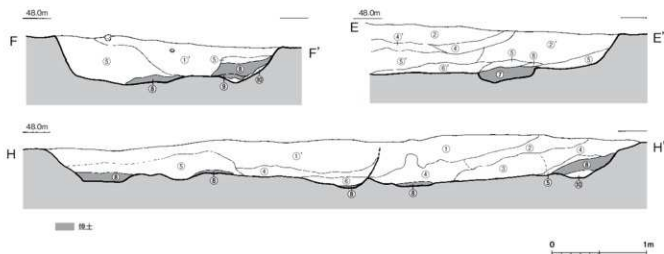


SPG 部 作記

- ① 暗褐色土 (75YR3-4) 硬質 焼土粒なし。礫を多く含む
- ② 暗褐色土 (75YR3-2) 硬質 焼土粒わずかに含む 礫を多く含む
- ③ 暗褐色土 (75YR2-2) 硬質 焼土粒わずかに含む
- ④ 暗褐色土 (75YR3-2) 硬質 焼土粒を明確に含む
- ⑤ 暗褐色土 (75YR3-2) 硬質 焼土アロクや焼土粒を多量に含む
- ⑥ 暗褐色土 (2.5YR3-4) 硬質 焼土粒が混入している層あり
- ⑦ 暗褐色土 (10YR3-4) 硬質 暗褐色土と焼土のアロクが混在 炭化物を含む
- ⑧ 暗褐色土 (2.5YR5-8) 炭化強く硬質 混入少なぐ塊状 炭化物を含む 焼土本体
- ⑨ 暗褐色土 (5YR2-3) 土室群 焼成で形成した部分
- 色線、線さ、流入物は水平面方向とも着床するため、近似的な表現もある。

- ①' 暗褐色土 (75YR3-4) 軟質 焼土粒なし。礫を多く含む
- ②' 暗褐色土 (75YR3-2) 軟質 焼土粒わずかに含む 礫を多く含む
- ③' 暗褐色土 (75YR2-2) 軟質 焼土粒わずかに含む 暗色土アロクを含む
- ④' 暗褐色土 (75YR3-2) 軟質 焼土粒を明確に含む
- ⑤' 暗褐色土 (75YR3-2) 軟質 焼土アロクや焼土粒を多量に含む
- ⑥' 暗褐色土 (2.5YR3-4) 軟質 焼土粒が混入している層あり
- ⑦' 暗褐色土 (10YR3-4) 軟質 暗褐色土と焼土のアロクが混在 炭化物を含む
- ⑧' 褐色土 (2.5YR5-8) やや軟質 焼成して非化した均質な砂質凝灰土の部分 炭化物、塊状等
- ともに黒色点で軟質 しまりがなし。

第 89 図 5号炉穴群実測図 1 (1/40)



第90図 5号炉穴群実測図2 (1/40)

本遺跡の炉穴群に顕著な炉部の厚い焼土において観察された点は以下の通りである。

- ① 焼土本体部の多くは粒状で暗褐～黒褐色の土と混在する。
- ② 混在する焼土の下位に鮮やかな橙色で混在のない細粒部分が層状かブロック状に散見される。
- ③ 焼土下位に黒色硬質で粗粒、石英粒を伴う層が薄く存在する。
- ④ 炉部が基本土層のどの層準にあっても焼土の色調、質感、構成粒子がほぼ同じである。
- ⑤ 焼土の足場側に黒色で大変硬質な部分が弧状に出現するものがある。
- ⑥ 焼土の中央に凹部があり内部に暗褐色の混ざりの多い軟質土が存在するものがある。
- ⑦ 焼土付近からは焼成を受けない20～30cm程度の巨礫が1個検出されるものが目立つ。

上記の観察のうち⑤についてはブリッジ崩落の痕跡の可能性はある。他の点についてはさまざまな推測が成立するがいずれも想像の域を出ない。

炉穴群出土遺物

土器：(第97～100図、遺物番号418～461)

土器の分類

本遺跡の縄文時代早期の土器は無文、条痕文土器を主体として刺突文、押しき文、押し型などをわずかに含む構成である。細片や剥落のあるものも多く器形や施文等による分類の困難なものも多い。そこで器形、施文による分類に加えて胎土の色調と混在する鉱物粒、器壁の厚さ等も分類規準に加え、出土土器の全点を次のⅠ～Ⅳ類に分類した。

Ⅰ類：にぶい黄橙色を呈し2mm前後の粗粒な岩片や白色鉱物を多く含む。器壁が厚く1cm以上ある。

器形は円筒形平底の深鉢である。これをa～dに細分する。

a：無文のもの b：条痕文のあるもの c：剥落の著しいもの d：刺突・押しき文のあるもの

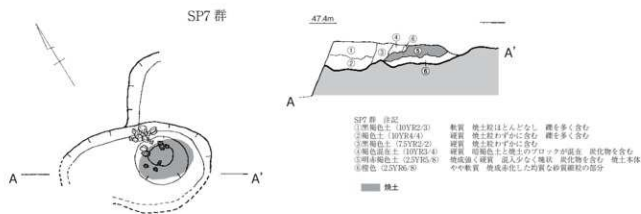
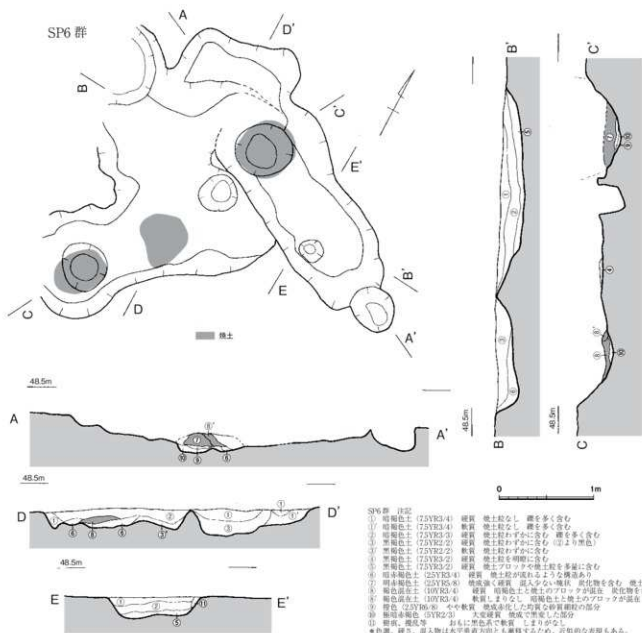
Ⅱ類：肉眼で明瞭に分類できる赤褐色を呈し、1～2mmの不定形の黒色粒を特徴的に多く含む。

器壁の厚さは1cm前後で、器形は円筒形平底の深鉢である。これをa～cに細分する。

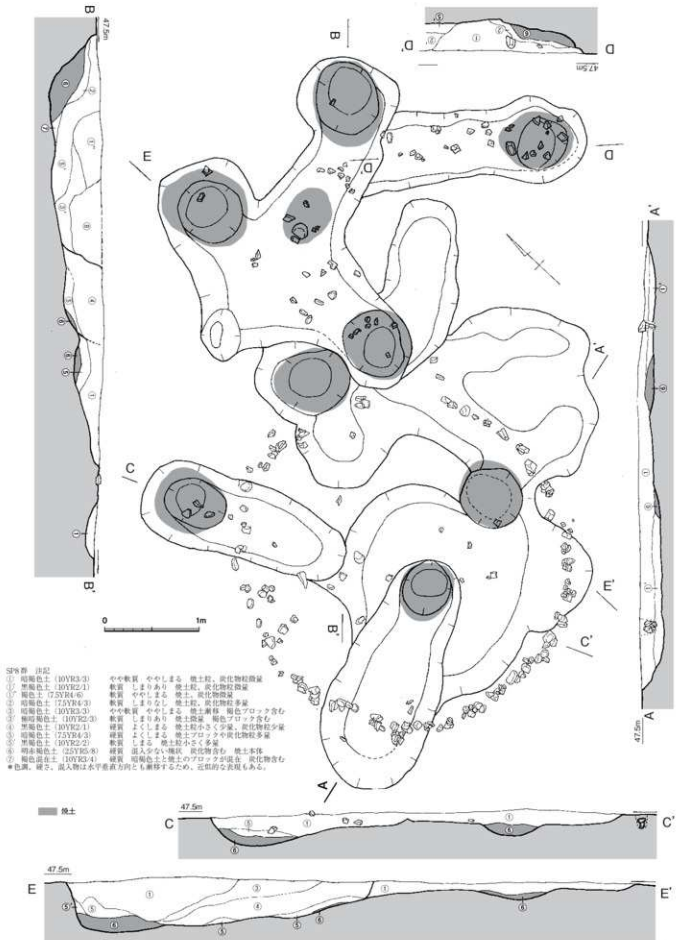
a：無文のもの b：条痕文のあるもの c：口縁部に施文のあるもの

Ⅲ類：Ⅰ、Ⅱ類と比較して器壁が薄く胎土に相違がある無文と条痕文の土器を一括した。平底の深鉢が多いが色調、器形は数種が含まれる。 a：無文のもの b：条痕文のあるもの

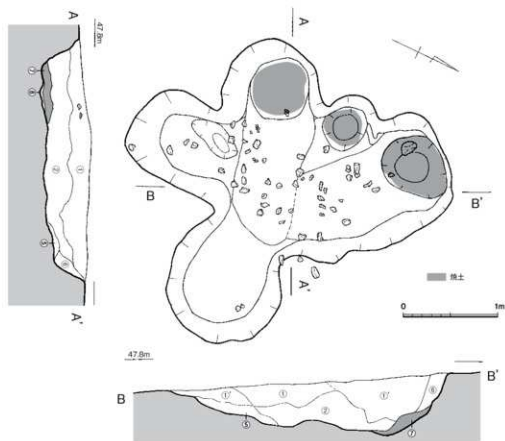
Ⅳ類：口縁部に列状の刺突文を施すもの



第91図 6号・7号炉穴群実測図 (1/40)



第92図 8号炉穴群実測図 (1/40)



SP10群 詳説

- | | | | | | | | | |
|-------------------|------|---------|--------------|------------------|-------------------|-----------|----------------|-------------|
| ① 暗褐色土 (10YR3/4) | 軟質 | ややしまりあり | 焼土多く褐色ブロッカ含む | ⑦ 暗褐色土 (10YR2/3) | 軟質 | ややしまりあり | 焼土多い | 褐色ブロッカ少ない |
| ② 暗褐色土 (7.5YR3/3) | 硬質 | 焼土粒小さく | 多量に含む | 炭化物粒多量 | ⑧ 暗褐色土 (7.5YR3/4) | 軟質 | しまりなし | 焼土粒小さく多量に含む |
| ③ 暗褐色土 (7.5YR3/2) | 硬質 | 焼土粒細中 | | ⑨ 暗褐色土 (10YR3/6) | 硬質 | 焼土ブロッカを含む | 焼土粒が散らるような構造あり | |
| ④ 暗褐色土 (10YR3/3) | 軟質 | 粘り強い | しまりつよい | 焼土粒なし | ⑩ 明褐色土 (2.5YR5/8) | 硬質 | 炭入少なく | 塊状炭化物を含む |
| ⑤ 暗褐色土 (2.5YR5/4) | 中々軟質 | 垂直した | 均質な | 粘り強い | 部分 | | | 焼土本層 |
- 土質、硬さ、炭入量は水平線高方向とも変動するもの。点状的な表現もある。

第93図 10号炉穴群実測図 (1/40)

V類：器壁が薄く、口唇部端部に深い刻みを施し小波状を呈するもの

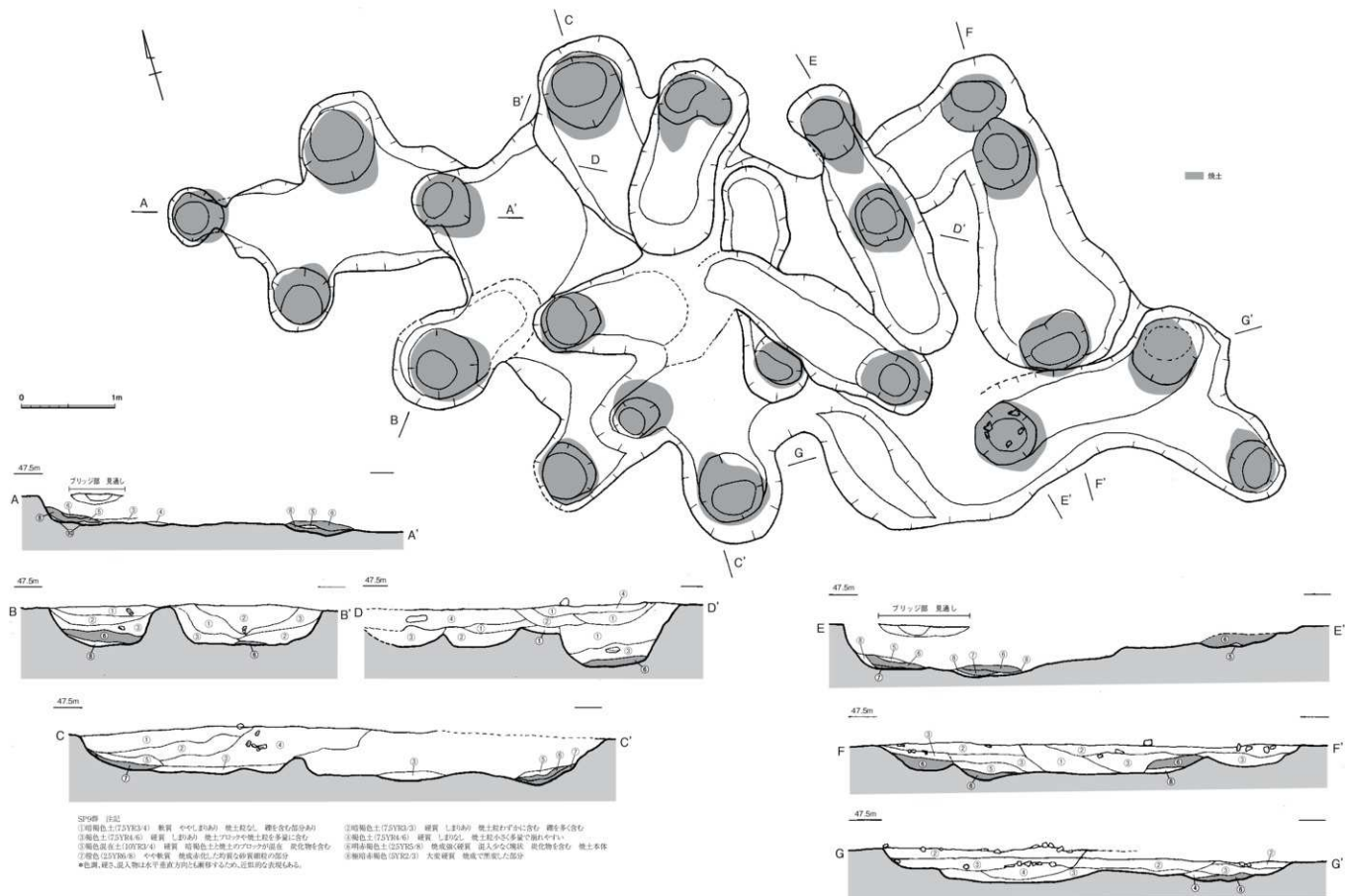
VI類：口縁部に3条単位の条痕を縦に施すもの

VII類：押し型文を施すもの a：山形のもの b：楕円のもの

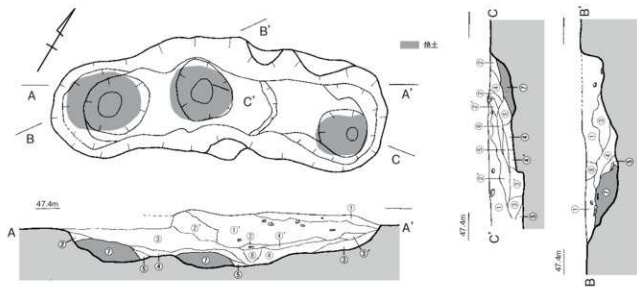
VIII類：口縁部に沈線文を施すもの a：縦方向のもの b：横方向のもの

以下、縄文時代早期の土器はこの分類で記載する。第V章の第16・17表に炉穴群と円形配石遺構及び縄文時代早期包含層の各層準ごとの出土土器の総量と分類別の出現傾向を記載している。

炉穴群からの遺物の出土量には粗密がある。2号炉穴群は222点、総重量3243.5g、9号炉穴群は146点、総重量2317.2gの土器が出土した。構成する主要な土器は本遺跡の縄文土器分類でI類としたにぶい黄褐色で厚手の平底深鉢（前平式）とII類とした赤褐色の胎土中に黒色の鉱物粒が散在する無文または貝殻条痕文の深鉢、III類とした薄手の無文または条痕文土器である。それ以外の土器は割合にして10%以下である。この構成は包含層の土器構成と共通点が多い。



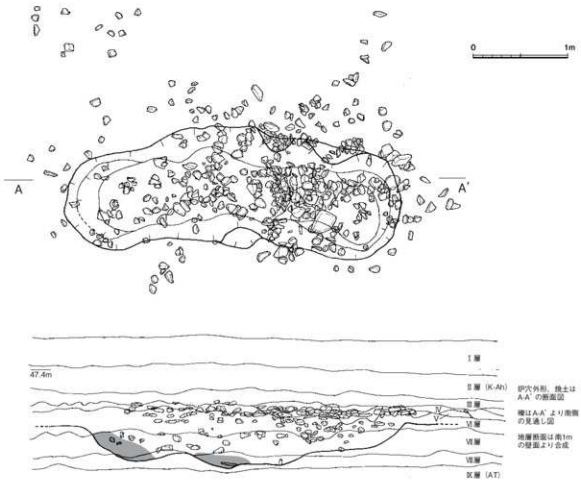
第94図 9号炉穴群実測図(1/40)



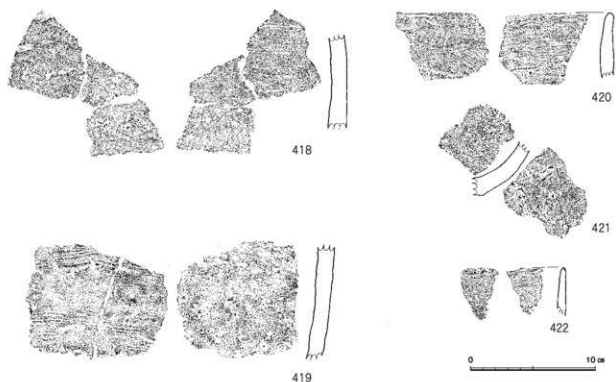
SP11群 95記

- | | | | |
|--------------------|----------------------------|--------------------|---------------------|
| ① 黒褐色土 (10YR2/2) | 硬質 焼土粒ほとんどなし 礫を多く含む | ①7 黒色土 (10YR2/1) | 軟質 焼土粒ほとんどなし 礫を多く含む |
| ② 黒褐色土 (10YR2/2) | 硬質 焼土粒わずかに含む 礫を多く含む | ②7 黒色土 (10YR2/1) | 軟質 焼土粒わずかに含む 礫を多く含む |
| ③ 黒褐色土 (10YR2/1) | 硬質 焼土粒わずかに含む (②よりわずかに明るい) | ③7 黒褐色土 (10YR2/2) | 軟質 焼土粒わずかに含む |
| ④ 黒色土 (10YR1/7) | 硬質 焼土粒を明確に含む | ④7 黒色土 (10YR1/7) | 軟質 焼土粒を明確に含む |
| ⑤ 褐色面土 (10YR1/6) | 硬質 黒褐色土と焼土のフロックが混在 炭化物を含む | ⑤6 赤褐色土 (2.5YR4/6) | 軟質 焼土粒が流れるような構造あり |
| ⑥ 暗赤褐色土 (2.5YR5/3) | 地味強く硬質 湿入少々で塊状 炭化物を含む 焼土本体 | ⑥6 赤褐色土 (2.5YR4/6) | 軟質 焼土粒が流れるような構造あり |
| | | ⑦ 黄土、硬砂等 | ⑦6に黒色点で軟質 しまりがなし |

第95図 11号炉穴群実測図1 (1/40)

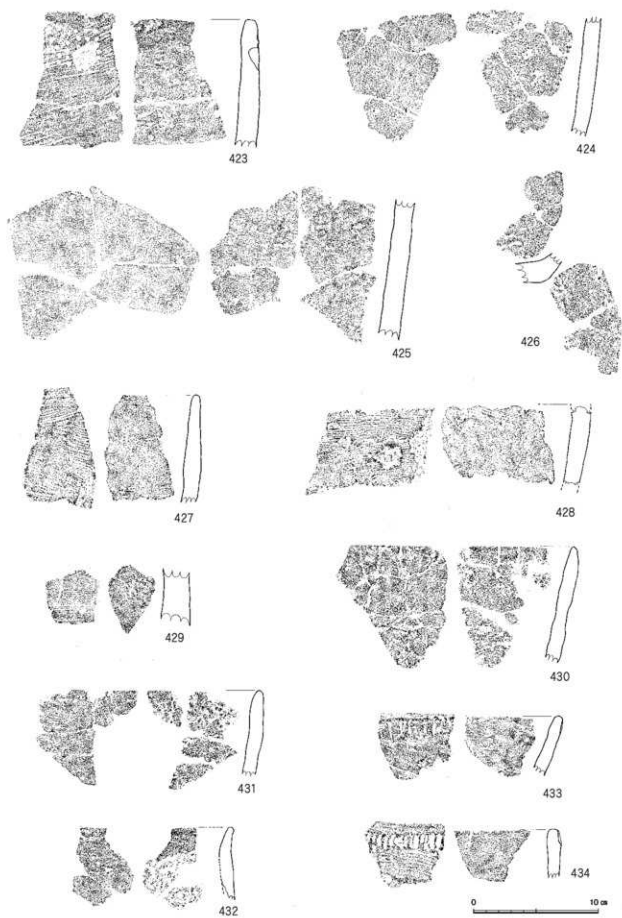


第96図 11号炉穴群実測図2 (1/40)

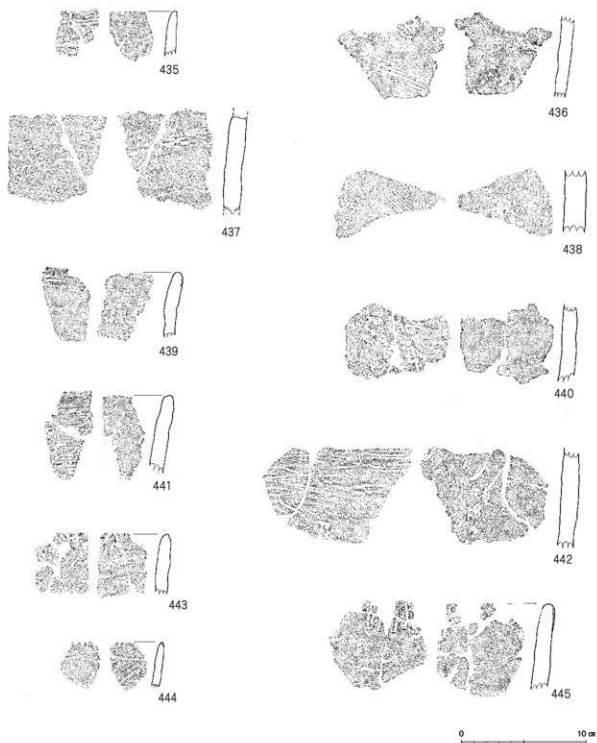


第97図 炉穴群出土土器実測図1 (1/3)

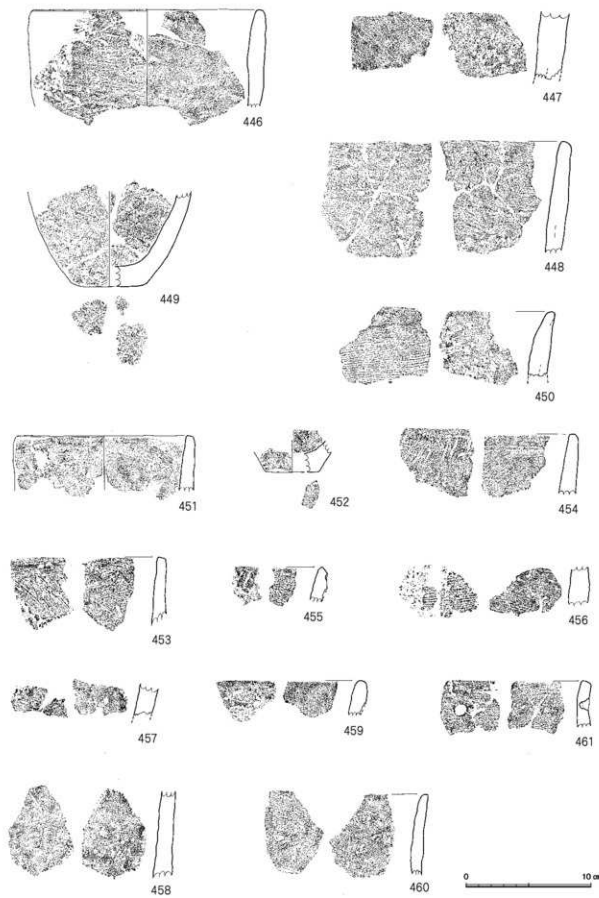
418～422は1号炉穴群出土である。I a、II a、III類が主として出土した。421は小さな平底から緩やかに立ち上がる胴部である。422は薄い器壁で小波状の口唇部をもつV類（岩本式土器）である。423～434は最も多数の土器が出土した2号炉穴群のものである。圧倒的にI類（前平式系）の厚手円筒形土器が多い。423は口縁部に竹管と思われる刺突が5列施され未貫通の穿孔がある。426は数少ないI類の底部であり平底である。このほか430～432のような薄手無文のIII a類が56点出土している。433、434は口縁部に縦方向の沈線を施すVIII類である。435～445は土器が少なかった3～8号炉穴群出土のものである。437、438、440～442といったI類の胎土で無文もしくは条痕文のある土器はすべての炉穴群で出土している。439は5号炉穴群出土の口縁部に横方向沈線を有するVIII類土器である。444は薄手で口唇部が明瞭な小波状である岩本式土器である。445は口縁部に3列の縦方向条痕のあるVI類土器である。いずれも8号炉穴群から出土している。446～455は多数の土器が出土した9号炉穴群のものである。9号群の土器構成は2号群と類似点がある（第V章第16・17図）。446～450のI類が突出して多く、451～453といったIII類が続く。449はI類、452はIII類の平底の底部であり2号炉穴群の426と類似する。446+449などから、これらの器形は直径5cm以下の底部から緩やかに広がり、胴部から口縁部に向かってわずかに広がりながら直行する円筒形と思われる。454は口縁部に3列の縦方向条痕のあるVI類土器である。455は細片ながら口縁部に沈線のあるVIII類である。2号炉穴群のものと比較すると沈線が斜行している。456～461は10号、11号炉穴群出土のI、II、III類の土器である。



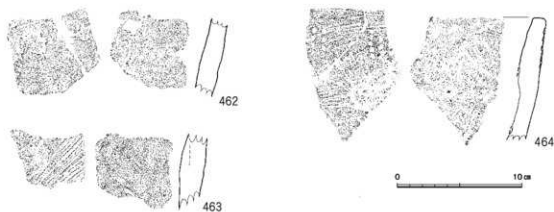
第98图 炉穴群出土土器实测图2 (1/3)



第99图 炉穴群出土土器实测图3 (1/3)



第100图 炉穴群出土土器实测图4 (1/3)

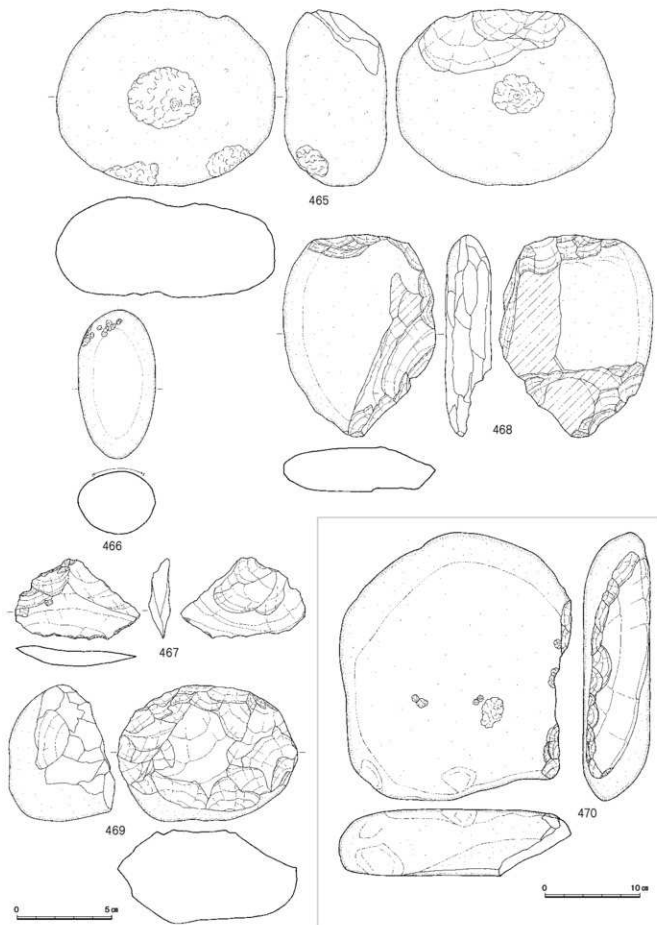


第101図 円形配石遺構出土土器実測図 (1/3)

石器：(第102～105図、遺物番号465～483)

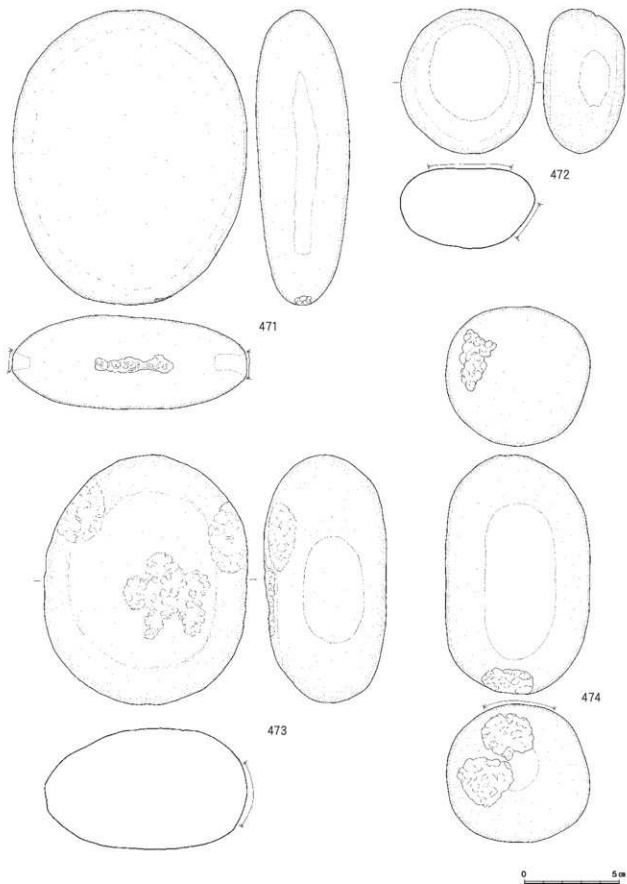
土器に伴って石器が出土しているが、石材を観察すると旧石器時代Ⅲ期に多用される流紋岩類の剥片が多数含まれていた。特に旧石器時代Ⅲ期の遺物包含層（Ⅶ・Ⅷ層）の礫群と石器ブロックが集中する北部D26・D27グリッドに位置する3号・4号炉穴群にそれが顕著であった。炉穴の壁や底面からの出土もあり調査段階からⅦ・Ⅷ層の包含層遺物（旧石器）の可能性を考え、疑わしいものは炉穴群とⅦ・Ⅷ層の両方で記録した。整理作業において縄文時代早期炉穴群出土の流紋岩類と旧石器時代包含層遺物との接合作業を実施したところ複数の接合をみた。縄文時代早期の炉穴群製作にあたって旧石器時代の遺物を掘り上げてしまったようである。これらの流紋岩類製石器については縄文早期の土器に共伴する石器からある程度、除外して記載する。全体の傾向として砂岩製と花崗斑岩製の敲・磨石、凹石とホルンフェルス製の搔器、削器、石核がほとんどの炉穴群から出土している。

465～471、474は1号、2号炉穴群出土の石器である。465は行徳山花崗斑岩製の凹石、466は砂岩製の磨石、467は白色系流紋岩類製不定形剥片の末端に腹面側から連続した調整を施した削器である。468は節理面の卓越した砂岩源ホルンフェルス製で石錘であったとも思えるが端部に連続した調整を施していると判断し搔器とした。469は頁岩源ホルンフェルス製の石核である。円礫を大きく2分割して外周全体からの剥離を行っている。467のような剥片を目的としたと思われる。470は約30cm角、重さ7kgの砂岩製の台石である。上面からの打撃で折損したと思われる一端の、鋭利な部分を打ち欠く剥離が見られる。471は砂岩製、474は花崗斑岩製の敲・磨石である。472、473、475、476は5号炉穴群出土である。472、473は花崗斑岩製の敲・磨石である。475は砂岩源ホルンフェルス製の円礫表面から薄く剥離した素材剥片の礫面側から全周に調整を施した円形の削器である。476は節理の多い頁岩源ホルンフェルス製の搔器である。石核とも取れるが形態が2号炉穴群468とも類似しており搔器とした。477～479は9号炉穴群出土である。477は砂岩源ホルンフェルス製で円礫の端部から側縁にかけて連続的な剥離が見られる石核である。搔器であった可能性もある。478は花崗斑岩製の敲・磨石、479は砂岩製の石核である。480～483は10号、11号炉穴群の出土である。480、481は砂岩製の磨石、482、483はホルンフェルス製の石核である。

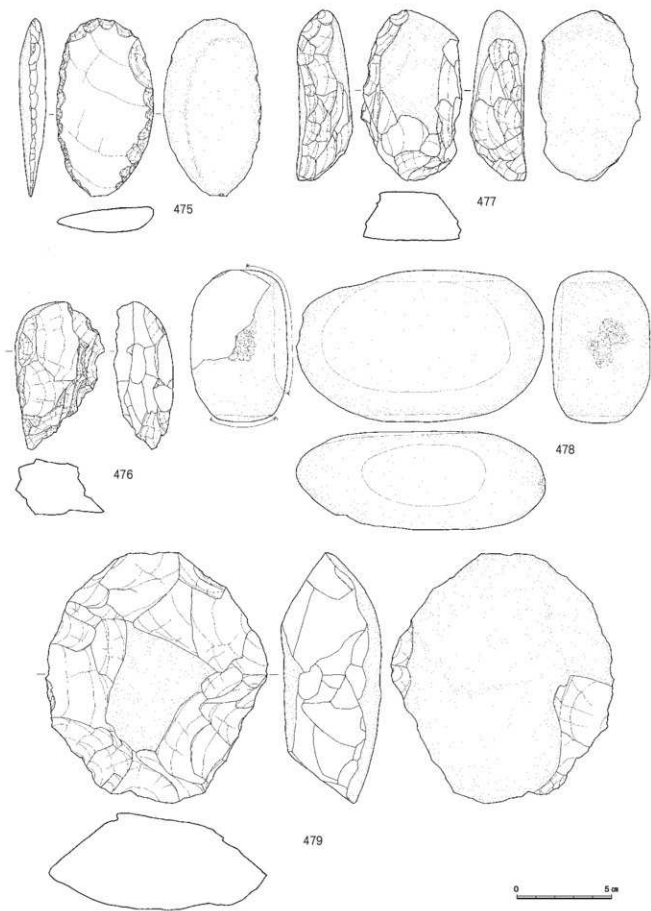


第102图 炉穴群出土石器实测图1

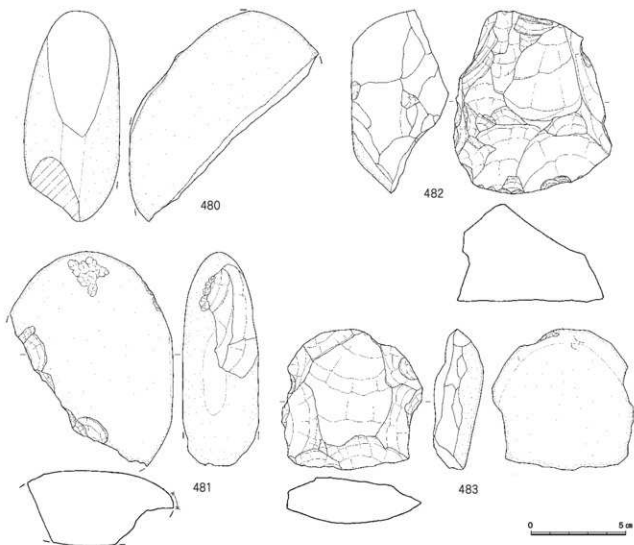
465~469 (1/2)、470 (1/4)



第103图 炉穴群出土石器实测图2 (1/2)



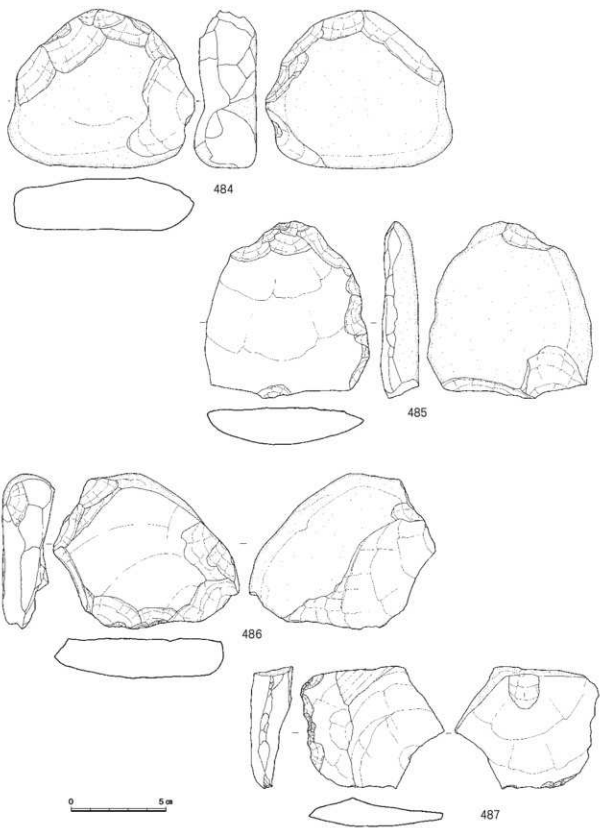
第104图 炉穴群出土石器实测图3 (1/2)



第105図 炉穴群出土石器実測図4 (1/2)

炭化物： これまで、いくつかの遺跡において炉穴内から植物・種実等の資料を検出している。別府原遺跡ではクリ材、コナラ属の子葉、ユリ科の鱗茎、長崗原遺跡ではカヤ材を確認し、別府原遺跡と椎屋形第2遺跡では植物珪酸体分析からササ類やクマザサ属の葉が燃料としての利用された可能性を指摘している。本遺跡ではフローテーション法による炭化種実の分離検出をねらい、サンプリングを実施した。サンプリングには定量的な基準を設けず、焼土直上の埋土と焼土本体を土嚢袋に約半分程度採取する方法をとった。

二次調査では、ほぼ全ての炉部の焼土についてサンプリングを実施した。センターでの整理事業段階でフローテーション・分別作業まで実施し、得られた資料の同定を委託した(第IV章-4)。その結果、谷沿いの水の多いところに分布するクマノミズキを複数の炉穴群から合計45点検出した。この資料の放射性炭素年代分析の補正値は $9,490 \pm 70$ 年 B Pであった。このほかにも、サンショウ属、コウゾ、タデ属、アカネ科?、カヤツリグサ科?などを少量検出し、総数79点であった。さらに、種子と判断して分別したもののうち1~2mm程度の植物の芽が半数以上の炉穴群から合計45点検出された。このことは、冬期の小さく堅い芽が付いた枝が炉穴内に投入された可能性を示唆している。



第106図 円形配石遺構出土石器実測図 (1/2)

3 円形配石遺構（第107～109図）

円形配石遺構は4基検出した。平面形態は直径約3.5～4mの真円であり、円周上の30～40cm間隔に傘大の礫が5～6個集まっている。

1～3号円形配石遺構は直径20～30cm、深さ20～30cmのピットが確認でき礫はピット中に集まって入っている。非常に不明瞭な遺構であり1号・2号では配石とピットを同時に確認できたが3号では配石を明確に検出できずピットのみを検出が多く、4号では礫のみを検出でピットを確認できていない。

これらの検出状況は異なっており、1号円形配石遺構はⅥ層上面の精査時に明瞭に検出できず、Ⅵ層を掘削開始時に円形配石の一端を検出した。2号円形配石遺構は炉穴検出のための精査時に8号炉穴群上に礫の配列を検出した（第92図）。3号円形配石遺構は9号炉穴群の完掘後、Ⅵ～Ⅷ層調査中に確認することができⅨ層上面でピットの残存のみを確認した。この層準は旧石器時代となる。付近のⅨ層上面に流路を確認しておりⅦ～Ⅸ層にかけての土層が薄い。このためⅨ層上面で確認したピットの上方約15cmでⅥ層上面に達することとなり配石部分は炉穴群に伴う礫で判別できなかったものと考えられる。4号円形配石遺構は炉穴群と同じ層準であるが現場にて円形であることを認識しておらず1～3号の調査終了後図面上で検出したものである。3号・4号円形配石は検出状況が不完全で情報が少ないが1号・2号に類似する点も多く同種の遺構と考えたい。

構築時期については以下の情報がある。1号円形配石遺構は切り合いがなく周辺から炉穴群と同様の土器が出土している（第101図）。8号炉穴群と2号円形配石遺構の関係（第92図）では炉穴群埋積後に配石を構築している。3号円形配石遺構では炉穴群中に配石が存在していたことの確認ができないが、検出層位が深いことや9号炉穴群との重複部分のピットが欠落しているため炉穴群より円形配石遺構が古い可能性がある。

以上の点から円形配石遺構の製作時期を炉穴群の隆盛期もしくはわずかに古い時期と想定したい。

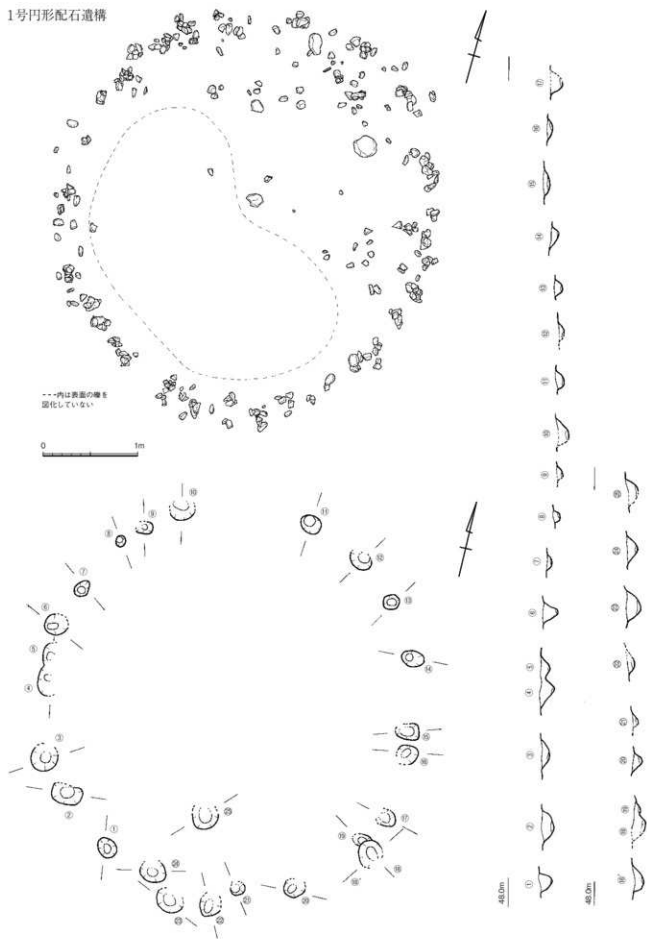
円形配石遺構出土遺物（土器：第101図 462～464、石器：第106図 484～487）

この遺構の用途が不明である以上、礫に伴ったりピット内であれば遺構出土とできるが、円形の範囲内の遺物は厳密には包含層遺物とすべきかもしれない。ここで記載する遺物は炉穴群と重複しなかった1号円形配石遺構のピット周辺や円形範囲内の遺物が中心である。

土器：1号円形配石遺構では複数の縄文土器Ⅰ類が出土した（遺物番号462～464）。特に464は2号炉穴群出土の竹管の刺突列を口縁に施したⅠ類に類似している。2号円形配石は8号炉穴群の埋土上に分布しており、ピット内の配石に挟まる形で縄文土器片が出土した。これは摩耗が激しく胎土などからⅢ類に分類したが図化しなかった。

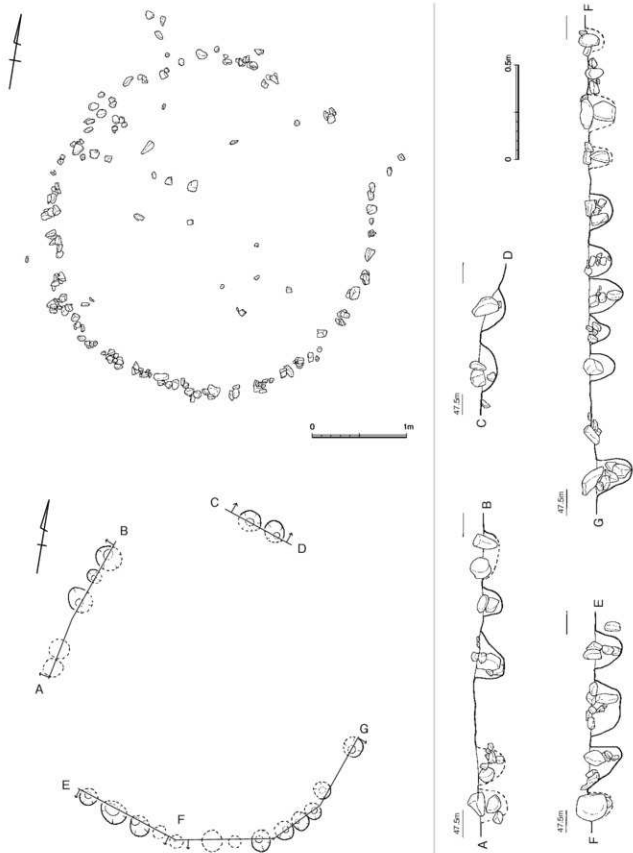
石器：484は砂岩製の石核である。両面から剥離を加えている。485～487はホルンフェルス類と緑色凝灰岩類製の厚い剥片に不明瞭ながら連続する調整を施した搔器、削器である。

1号円形配石遺構



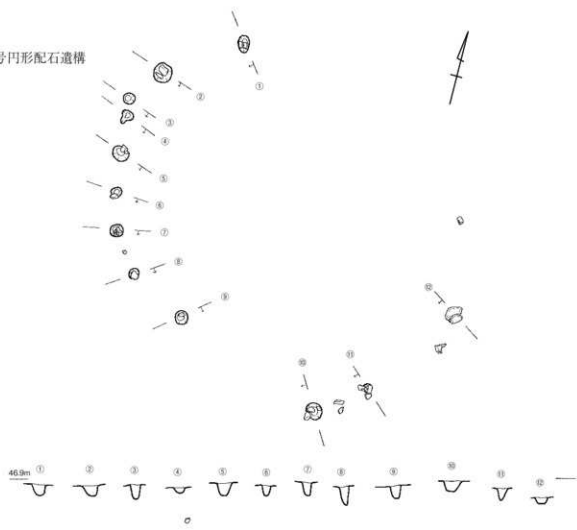
第107図 円形配石遺構実測図1 (1/40)

2号円形配石遺構

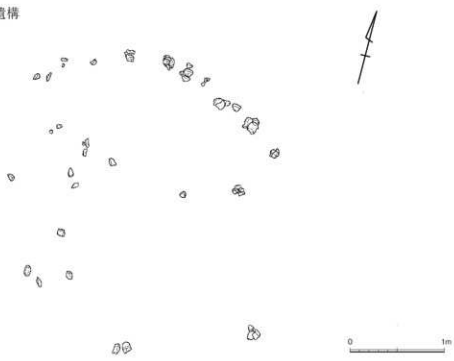


第108図 円形配石遺構実測図2 平面図 (1/40)・断面図 (1/20)

3号円形配石遺構

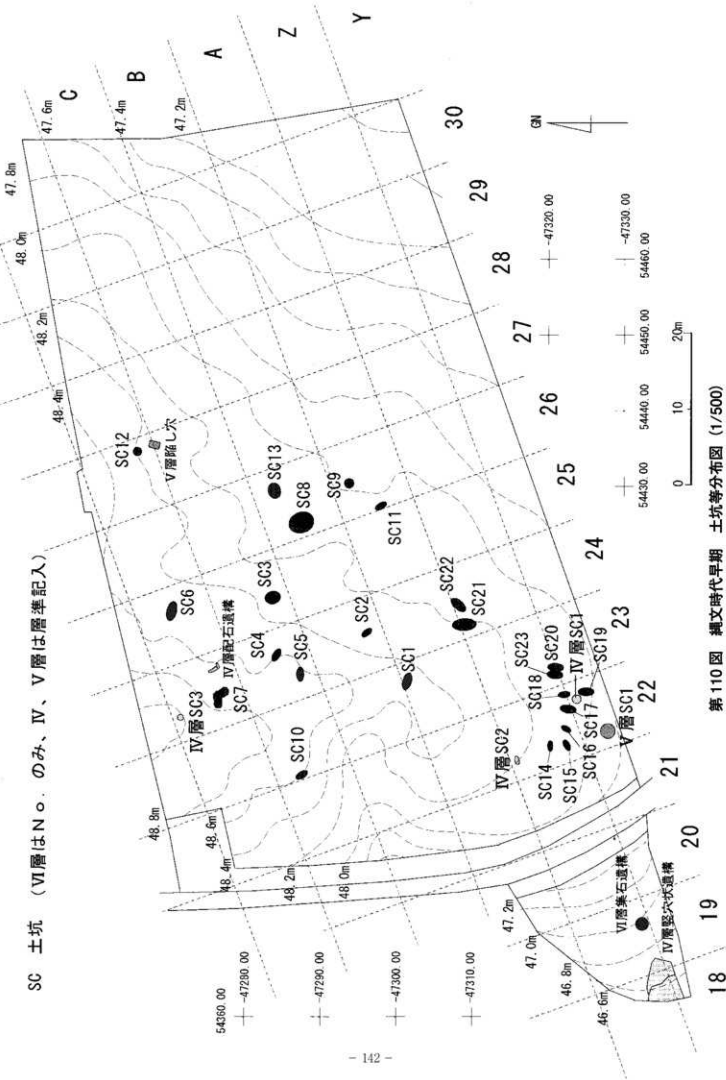


4号円形配石遺構

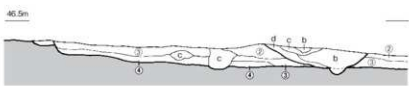


第109図 円形配石遺構実測図3 (1/40)

SC 土坑 (VI層はN.O.のみ、IV、V層は層準記入)



第110図 縄文時代早期 土坑等分布図 (1/500)



- 風倒木跡土
- a. 黒色土 (7.5YR2/1) 軟質 しまりなし
 - b. 赤褐色土 (7.5YR7/8) アカホヤ土体の焼乱土
 - c. 黒褐色土 (7.5YR3/2) 基層主体の焼乱土
 - d. cより軟質
 - e. 褐色土 (7.5YR4/3) Ⅱ層、Ⅴ層主体の焼乱土
- 1-2cmのアカホヤアロップを含む

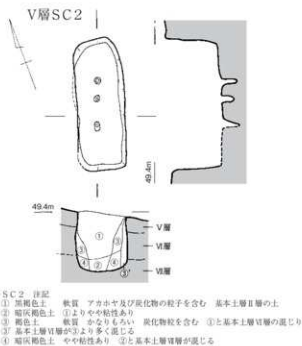
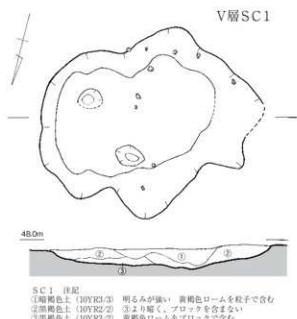
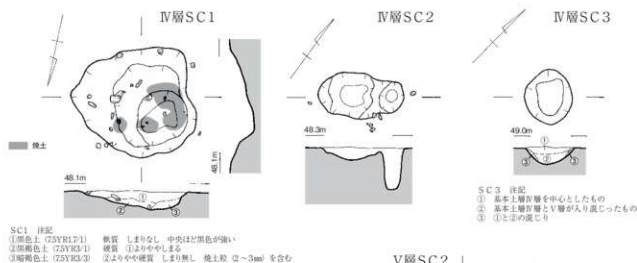
- 竪穴状遺構 111B2
- ① 赤褐色土 (7.5YR2/2) 軟質 しまりなし
 - ② 赤褐色土 (7.5YR3/3) 硬質 しまりあり
 - ③ 赤褐色土 (7.5YR3/3) 硬質 しまりあり
 - ④ 褐色土 (7.5YR4/6) 硬質 しまりあり
- ②のタラックに上段基層の黒色土が混ざりこんだもの
 硬質 しまりあり アロップ状の粘土 (焼層土) が、混在したものを含む
 ③より軟質 ④よりしまりなし。タラックに上段土が混ざりこん
 硬質 しまりあり 下段の基層の土を多く含む 部分的に、樹根に固定するとこめと軟質なところに分かれる



第111図 竪穴状遺構実測図 (1/60)

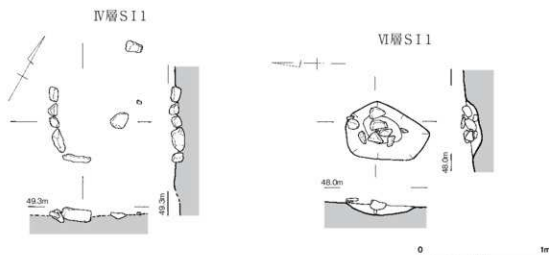
4 竪穴状遺構 (第111図)

調査区西端のY18、Z18グリッドの竪穴状遺構はⅡ層(鬼界アカホヤ火山灰層)とⅢ層(黒色層)に覆われており掘り込みの層位はⅣ層の縄文早期にあたるようである。周囲に点在する土器片は、ほとんどが弥生土器で、遺構内部に風倒木による攪乱や、溝状遺構による鬼界アカホヤ火山灰層の削平などもあり、遺物による時期決定が不確実である。樹根跡が縦横に走っているが細長い樹根のあとに黒色土主体の焼土が多数はいており、風倒木があげた穴に後の時期の焼土が入り込んだものと思われる。床面が水平であることや形態などから、竪穴住居跡の可能性もある。

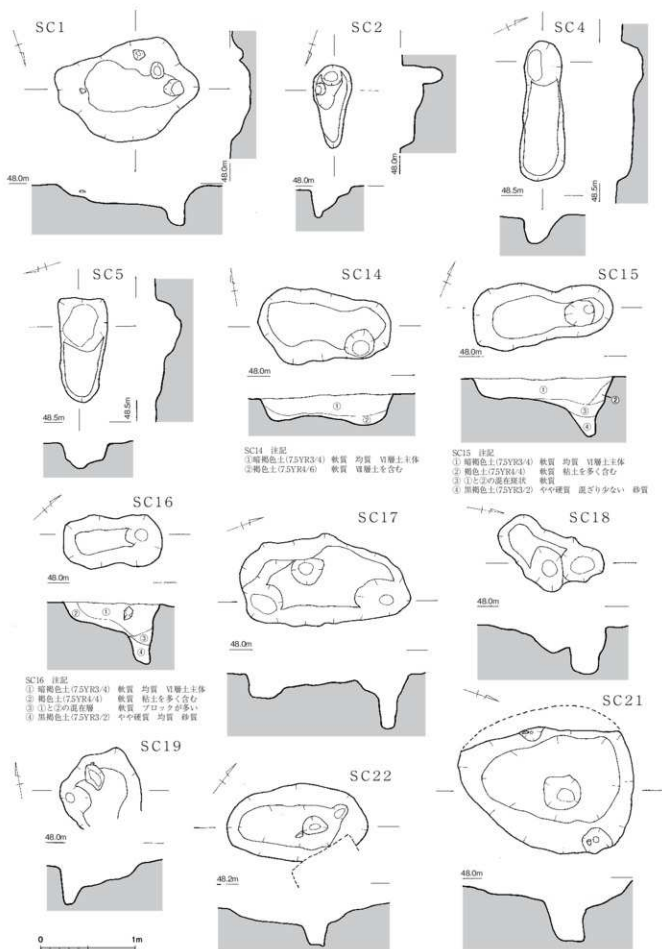


第112図 IV・V層土坑実測図 (1/40)

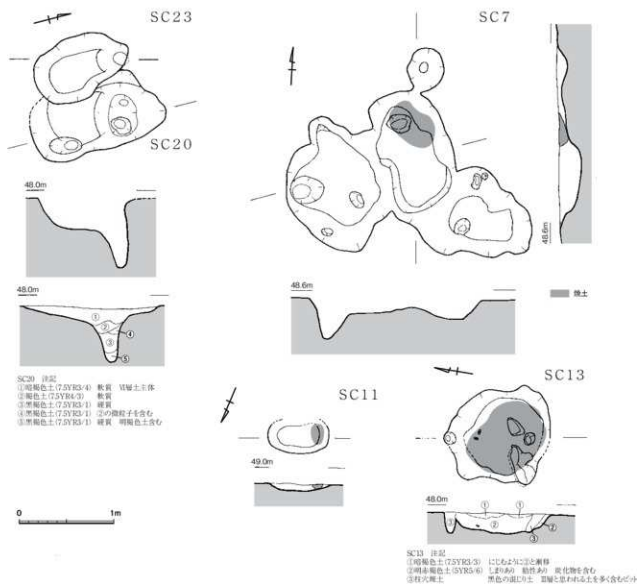
0 1m



第113図 IV層配石・VI層集石遺構実測図 (1/30)



第114図 VI層土坑実測図1 (1/40)



第115図 VI層土坑実測図2 (1/40)

5 土坑、配石・集石遺構など (第113~116図)

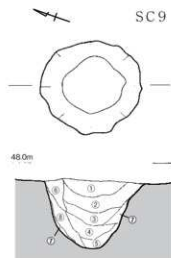
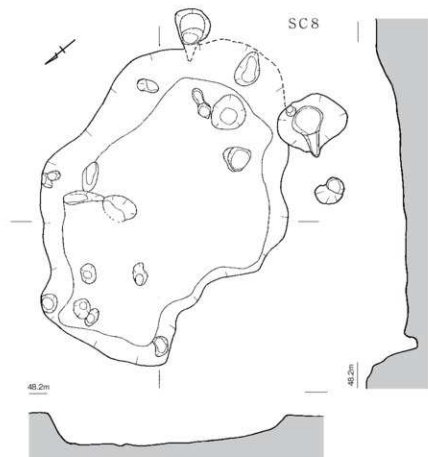
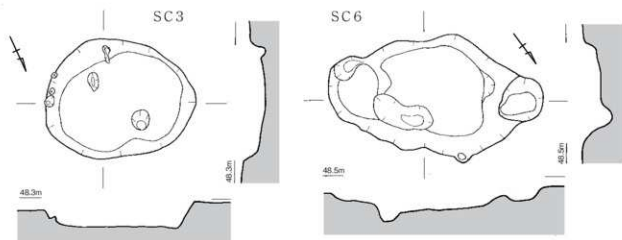
Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ層で検出した土坑など人為的な可能性のあるものを一括して記載する。Ⅲ層(黒色土層)ではこれらの遺構はほとんど検出がなかった。Ⅵ層上面では炉穴群検出中に黒色のにじみを多数検出した。そのほとんどは不定形で多くのピットをもつもので、樹痕と考えられるため記載しなかった。

Ⅳ層 1号土坑(SC1)：直径約1mの円形の土坑で埋土に焼土粒を含む。

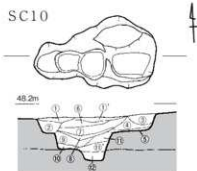
2号土坑(SC2)：Ⅵ層で多数検出するピット付の土坑に類似する。Ⅵ層のものと異なり類似の土坑は検出されず単独のピットが2つ偶然隣接していた可能性もある。

3号土坑(SC3)：北部の集石遺構グループのすぐ脇で検出。焼土は含まない。

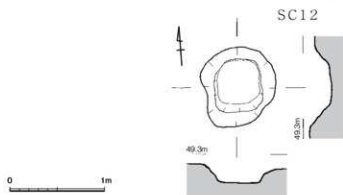
配石遺構(SI1)：5個の巨礫がL字形に配列しており、多くは壁を形成するように立っている。



- SC9 詳記
 ①暗褐色土(7.5YR3-2) 硬質 粘性あり アラック灰
 ②黒褐色土(7.5YR3-1) 硬質 粘性あり 炭質あり
 ③黒褐色土(7.5YR3-2) 硬質 粘性あり 炭質あり
 ④褐色土(7.5YR4-3) 硬質 砂質 (AT混入少)
 ⑤褐色土(7.5YR4-4) 砂質 粘土アラックを含む
 ⑥褐色土(7.5YR4-3) 軟質 粘性あり 炭質あり
 ⑦褐色土(7.5YR4-3) 硬質 砂質 (炭質混入)
 ⑧硬質炭

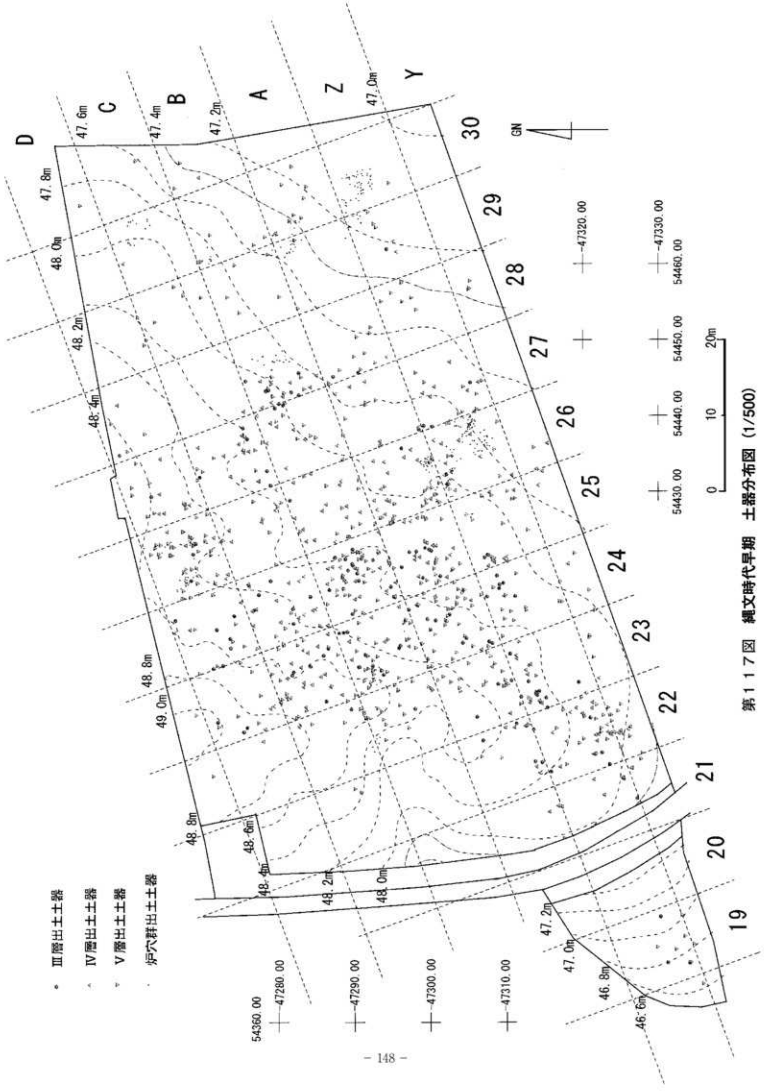


- SC10 詳記
 ①暗褐色土(7.5YR3-1) 軟質 粘土感あり
 ②暗褐色土(7.5YR3-1) 軟質 粘性あり
 ③黒褐色土(7.5YR3-1) やや硬質 やや粘性あり
 ④褐色アラックをわずかに含む
 ⑤硬質 粘土あり
 ⑥褐色土(7.5YR3-1) 粘性あり アラックに混入
 ⑦暗褐色土(7.5YR3-2) 硬質 粘土感あり
 ⑧暗褐色土(7.5YR3-2) 硬質 粘土感あり
 ⑨暗褐色土(7.5YR3-2) 軟質 粘土感あり
 ⑩暗褐色土(7.5YR3-2) 軟質 粘土感あり
 ⑪暗褐色土(7.5YR3-4) 硬質 粘土感あり
 ⑫暗褐色土(7.5YR3-4) 硬質 粘土感あり
 ⑬暗褐色土(7.5YR3-2) 軟質 粘性あり

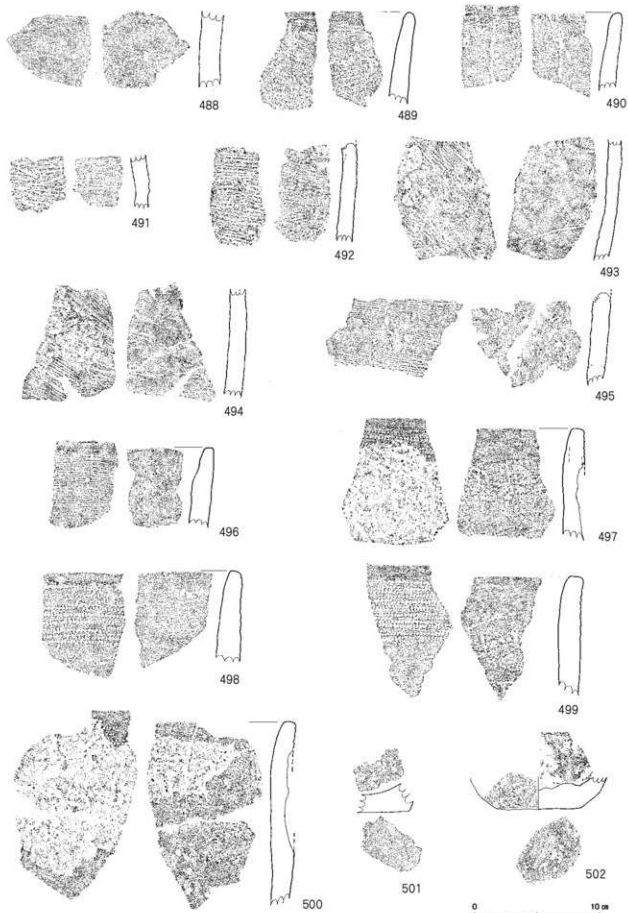


0 1m

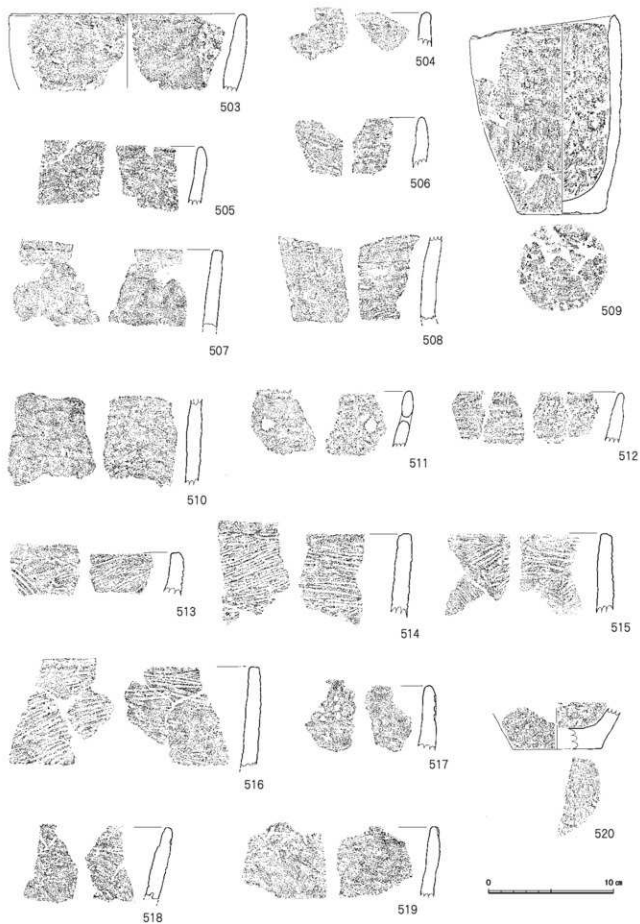
第116図 VI層土坑実測図3 (1/40)



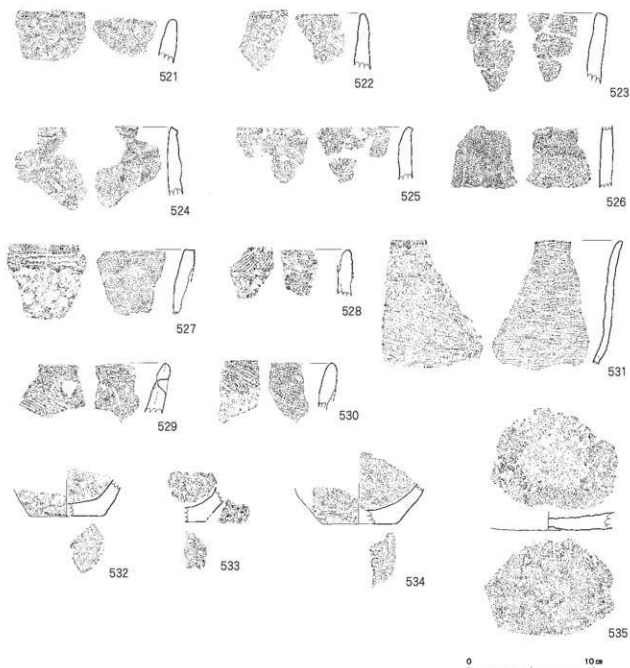
第117図 縄文時代早期 土器分布图 (1/500)



第 118 図 縄文時代早期 土器実測図 1 (1/3)

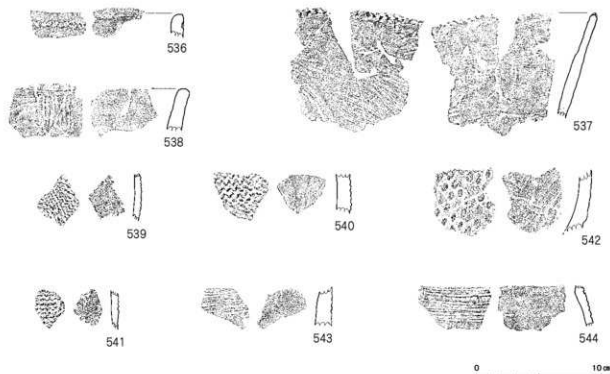


第 1 1 9 図 縄文時代早期 土器実測図 2 (1/3)



第120図 縄文時代早期 土器実測図3 (1/3)

- V層 1号土坑 (SC1) : 埋土中に深い層準 (X I層か?) の土が混入している浅い土坑である。
 2号土坑 (SC2) : 中央に小穴が3か所あり、陥し穴と思われる。遺跡内に類似した土坑は無い。V層検出であるが、陥し穴としては浅いこと、埋土に鬼界アカホヤ火山灰の粒子を含むことなどから、実際の掘り込み面はさらに上位であり縄文時代早期の遺構では無い可能性もある。
- VI層 土坑1、2、4、5、14~23 (SC1,2,4,5,14~23) : 平面形態が楕円形で一端にピットをもつ一群である。この形態の土坑について東 (2000) はヤマノイモの採掘痕跡である可能性を示唆しており、形状、大きさ、標高の低い側から掘っている傾向などが一致している。これらは調査区南西部の後線南斜面 (Z22グリッド付近) に集中的に検出された。この付近には集石遺構、炉穴群のいずれも分布せず、ヤマノイモ等の繁茂する森林であった可能性がある。



第121図 縄文時代早期 土器実測図4 (1/3)

土坑7、11、13 (SC7,11,13) : 規模、形態の違いはあるがいずれも焼土を伴う土坑である。

土坑3、9、12 (SC3,9,12) : 平面形態が円形の土坑である。3、12は底面が平坦である。

土坑6、10 (SC6,10) : 不定形の土坑である。6からは大量のチャートチップが出土しており、石鏃製作に係る何らかの遺構である可能性がある。10は複数回の作り替えがある土坑である。埋土に含まれる黄褐色ブロックはX I層の粘質土に類似している。

土坑8 (SC8) : 周囲の土坑と比較すると大形であり底面が平坦である。平面形態は不規則であるが、竪穴住居跡の可能性も考えられる。

集石遺構 (S I 1) : V層検出の集石遺構とは大きく様相が異なり、小規模で礫10個程度が密集しているものであった。

6 包含層出土の遺物

縄文土器 : (第118～121図、遺物番号488～544)

調査段階では安定した堆積により層準による土器型式等の変遷が迫る可能性を考えた。しかし、整理作業を実施した結果では層準ごとの明瞭な変化は見られず、接合もⅢ～V層にわたって接合するものが多いため、Ⅲ・Ⅳ・V層を縄文時代早期の包含層として一括する。報告は炉穴群の項で前述したⅠ～Ⅶの分類で記載する。分類別出土量の詳細は第V章の第16・17表に示す。

488～502にはぶい黄橙色の胎土中に2mm以上の不揃いで粗粒な鉱物を多く含み、器壁が2cm前後のⅠ類土器である。Ⅰ類は平底の円筒形深鉢と思われる出土点数、重量比とも最も多く主体を占めるものである。

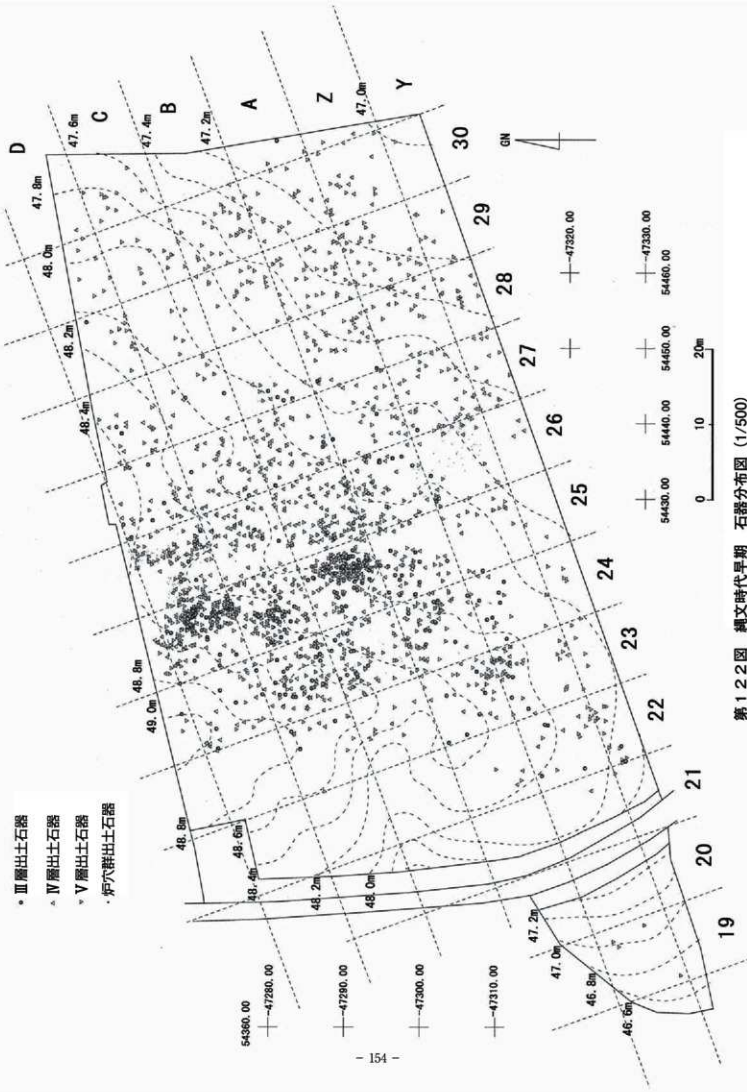
488～490は無文のⅠa類である。口唇部を丸く成形することが多い。491～496は外面に横・斜め方向の貝殻条痕文が施されるⅠb類である。内面はナデ調整である。492、495などの上断面の接合痕には粘土紐の形状が残る。491は24号集石遺構出土である。497～500は口縁部に横方向の押し引き文を施したⅠd類である。これらは口唇部を平坦に調整するものが多く内面をナデ調整し497、500のように外面の剥落が著しいものが多い。図化しなかったが剥落が著しく無文、条痕文、押し引き文を判断できなかったものをⅠc類として総数の集計を行った。501、502はⅠ類の胎土をもつ底部である。いずれも平底の深鉢であるが外面の施文は不明でありⅠa～dのいずれの底部であるかは不明であったが剥落の状況等からⅠa類で集計した。501は27号集石遺構出土である。

503～520は肉眼で明瞭に識別できるにぶい赤褐色の胎土に1～2mmの黒色粒状鉱物を多数含むⅡ類の土器である。これらは器壁の厚さが1cm前後の円筒形深鉢と思われ整理作業時は「黒点土器」と呼称していた。この黒色鉱物は柱状の角閃石ではなく、実体顕微鏡で観察するとガラス光沢があり黒曜石に類似していた。混和材として黒曜石を粉砕して入れたなどということは現実的に考えにくい。黒色鉱物を分析(第Ⅳ章-5)すると本遺跡を構成する丘陵の基盤岩である阿蘇火砕流堆積物中の火山ガラスである可能性があった。周辺の地質調査の結果なども総合的に考えるとⅡ類の土器を製作するための土は遺跡の丘陵下部から採取されたと思われる(第Ⅴ章)。

503～512は内外面ともにナデ調整を施した無文土器である。口唇部は丸くなるものが多く平坦に調整するものも一部にある。口縁部は直行するものが多く、ごくわずかに内湾するものが一部にある。511には補修孔らしき穿孔がある。509はⅡa類土器のほぼ完形に復元できた資料である。若干いびつな形状であり、他のⅡ類の資料がもつ特徴を多く有している。主としてⅤ層出土の土器片で構成され、一部1号炉穴群出土の土器片が接合している。513～516は外面に横・斜め方向の貝殻条痕文を施したⅡb類である。これらの口唇部は平坦に調整されるものが多い。517～519は胎土、器壁の厚さ、形状などはⅡ類であるが口縁部に施文のあるⅡc類である。517は縦3列の刺突文が施される。前述の2号炉穴群出土Ⅰ類土器423や1号円形配石遺構出土Ⅰ類土器464に類似点が見られる。518、519は口唇部近くにV字形沈線文を施している。細片であり連続性は不明である。520はわずかに残る無文の胴部からⅡa類の底部とした。ほぼ完形の509と比較しても類似点が多い。

521～535はⅢ類として分類した一群である。主としてⅠ、Ⅱ類とは異なる黄褐色系と黒褐色系の2系統の胎土があり、いずれも1～2mm程度の粗粒鉱物をわずかに含む器壁1cm以下の薄手の土器である。521～526は無文土器、527～531は条痕文土器である。532～535は平底の底部である。全体として、胎土と器壁の厚さ以外の相違点は少なく、Ⅰ、Ⅱ類の無文+条痕文の平底の深鉢という構成は類似点が多い。

特徴的な施文が施された土器の割合は低いが536～544に記載する。536はⅣ類とした口縁端部に横一列の刺突文のあるもので本遺跡ではこれ1点である。537はⅤ類としたⅤ層出土の口唇部に小波状の刻み目のある岩本式土器である。Ⅴ類はこのほか1号、8号炉穴群から出土している。538はⅥ類としたⅤ層出土の3列単位の条痕が縦に施されるもので8号、9号炉穴群から出土している。539～541はⅦa類とした山形押型文の土器である。包含層全ての層準からごくわずかに出土したが遺構からの出土はない。542はⅦb類とした楕円押型文の土器である。Ⅲ層から1点だけの出土である。543はⅦ類とした口縁部に横方向の沈線文を施したものである。このほか544などのように縄文時代早期以外からの混入と考えられる土器類も一定量出土している。



- III層出土石器
- ▲ IV層出土石器
- V層出土石器
- ・ 炉穴群出土石器

第122図 縄文時代早期 石器分布図 (1/500)

石器：(第123～141図、遺物番号545～724)

チャート(石英、黒曜石、無斑晶安山岩、千枚岩を含む)製石器群：(第123～124図)

545～607の63点は石鏃である。折損品や不完全なものを入れると73点の石鏃が出土した。そのうちチャート製が主体を占め67点、阿蘇産黒曜石製が1点、姫島産黒曜石製が1点、無斑晶安山岩製が1点、水晶(透明石英)製が1点、玉髓(乳白色石英)製が2点、千枚岩製が1点であった。外形で大きく6種に分類し、基部の挟りの形態で細分した。

I類： 外形がほぼ正三角形を呈するもの

a：挟りが曲線的で浅いもの b：挟りが直線的で深いもの

II類： 外形が二等辺三角形を呈するもの

a：挟りが曲線的で浅いもの b：挟りが直線的で深いもの

III類： 両側縁が外にふくらむ曲線であるもの

a：中央部が最大幅となるもの b：基部付近が最大幅となるもの c：細長い形態のもの

IV類： 基部が外にふくらみ丸みのあるもの

V類： 鋏形のもの

VI類： 水平な基部の一部だけが挟られたもの

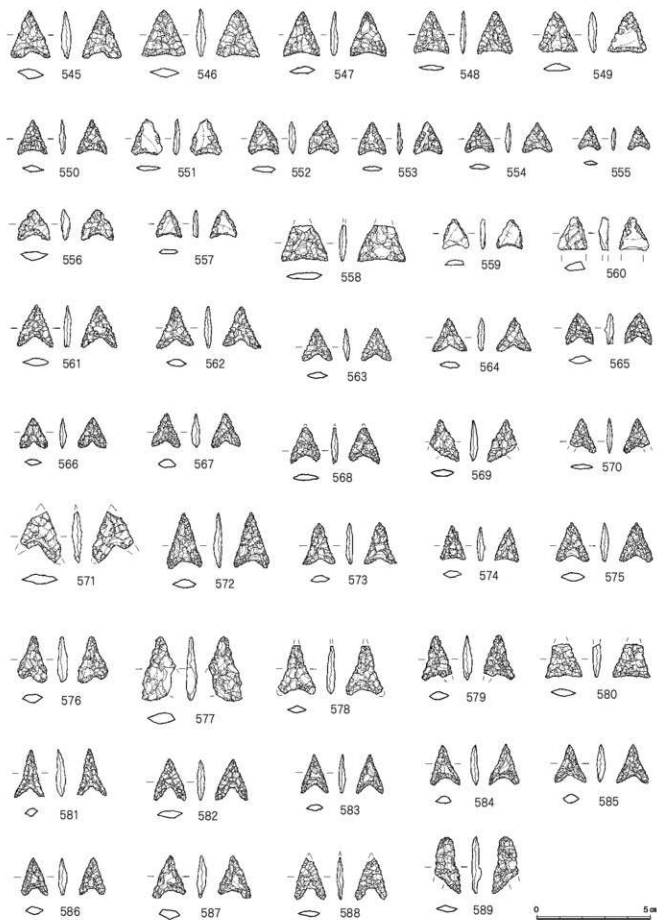
遺構、層ごとの石材と形態別出土傾向を第3表に示す。

チャートについては色調により1赤、2青赤、3青、4黒、5黒縞の5種に分類した。

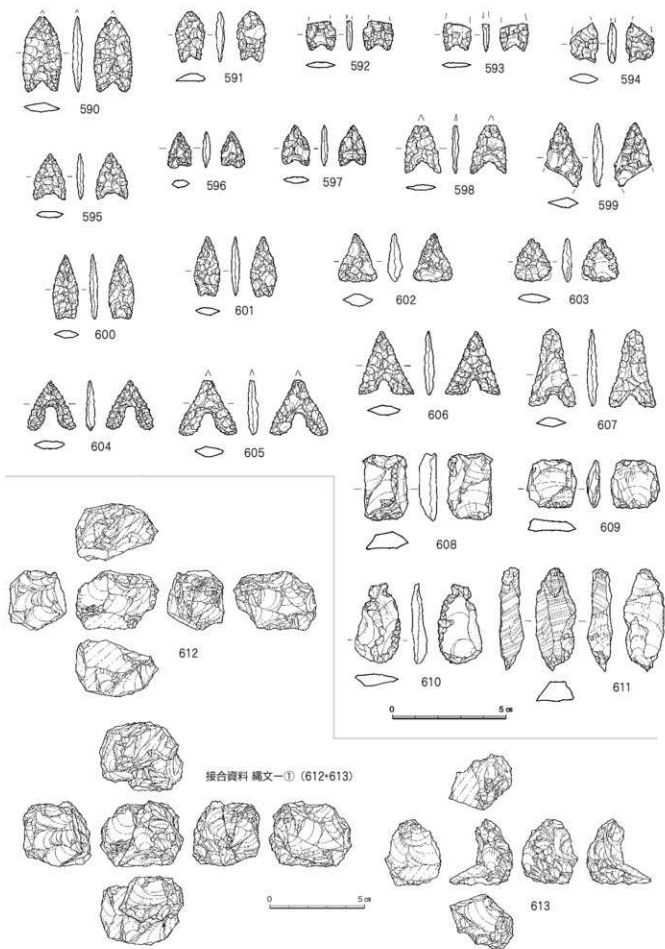
		I a類	I b類	II a類	II b類	III a類	III b類	III c類	IV類	V類	VI類	折損	石材別計	層単合計
I層	チャート3(青)	1											1	1
III層	チャート2(青赤)	1			1								2	14
	チャート3(青)	1	2	2	1	1			1				8	
	チャート4(黒)		2										2	
	黒曜石 千枚岩										1 1		1 1	
IV層	チャート2(青赤)						1		1				2	23
	チャート3(青)	5	1	1	2		3						12	
	チャート4(黒)	1		2	1		1		1				6	
	黒曜石	1											1	
	石英・水晶 無斑晶安山岩			1		1							1 1	
V層	チャート1(赤)								1				1	29
	チャート2(青赤)	1					1		1				4	
	チャート3(青)	3	2	2	2	2	2			1	1		15	
	チャート4(黒)	1			1			2	1				5	
	チャート5(黒縞) 石英・水晶	1	1		1		1						2 2	
伊穴群	チャート3(青)		2	2				1				1	6	6
	形態分類別計	16	11	9	9	5	8	3	5	2	2	3	73	73

第3表 縄文時代早期 石鏃形態別点数一覧表

石鏃の素材となる石材のうち、559(阿蘇産)、606(姫島産)の黒曜石、571の無斑晶安山岩、607の千枚岩については石核や剥片といった製作の痕跡を示す遺物の出土がなく完成品の持ち込みと考えられる。チャート類と水晶・石英については剥片、石核などが多数出土した。第4表に石鏃、くさび形石器、石匙などを製品として一括し、石材ごとの組成の割合を重量で示す。



第123図 縄文時代早期 石器実測図1 (3/5)



第124図 縄文時代早期 石器実測図2

590-611 (3/5)、612・613・接合V-① (1/2)

	製品	二次加工剥片	剥片	石核	チップ	接合	円礫	計
赤 チャート	1.6	0.0	238.8	52.9	0.7	0.0	28.5	322.5
赤/青チャート	8.5	12.8	593.9	165.6	0.6	160.0	0.0	941.4
青/白チャート	42.6	47.9	631.6	150.1	17.6	7.6	155.3	1052.7
黒 チャート	8.5	4.5	472.2	117.4	7.6	0.0	0.0	610.2
黒縞チャート	1.0	2.9	226.8	129.6	0.5	0.0	0.0	360.8
水晶(透明)	8.5	1.1	14.6	15.0	0.0	0.0	0.0	39.2
石英(白色)	0.7		9.1	18.4	0.3	0.0	0.0	28.5
計	71.4	69.2	2187.0	649.0	27.3	167.6	183.8	3355.3

*製品は石鏃、石匙、くさび形石器

第4表 チャート・水晶・石英の出土量分析表(単位はg)

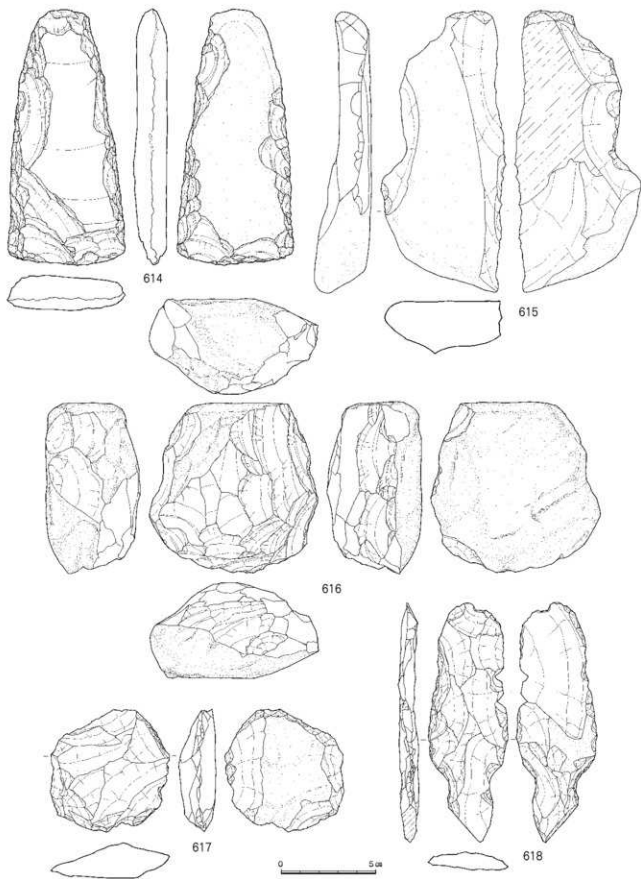
このほかのチャート製品は608、609のくさび形石器、610の石匙がある。611は透明度の高い六角柱状の水晶を縦方向に2分割して使用するくさび形石器である。612、613はチャートの石核で、2点は接合している。多方向から剥離を繰り返したあと、中央の節理割れで2分割し廃棄されている。

砂岩製石器群：(第125～131図、遺物番号614～645)

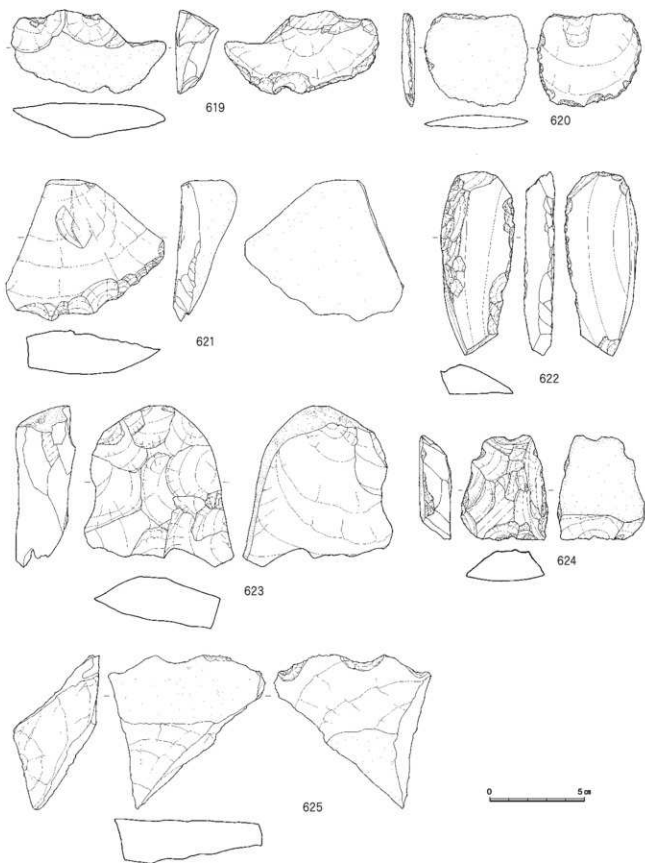
614は自然面を片側に残した大形の剥片の縁辺に両面から調整を加えた石斧である。615は節理割れで扁平になった素材に二次加工を施した剥片である。側縁中央の大きな剥離に連続する調整があり挟入石器とも考えられる。616は自然面の1面を打面として連続した剥離を行う石核である。617は剥片の外周に調整を施した二次加工剥片である。618は複雑な形態に調整を加えている二次加工剥片である。用途は不明である。619～621、624は剥片の自然面側から連続した調整を施した搔器、622は左側縁は肉厚片刃の搔器、右側縁は鋭角両刃の削器となっている。623、625は二次加工剥片である。626、627は刃部となる部分が鋭角で微細な剥離が確認できるため礫器とした。628、629は二次加工剥片である。630～632は刃部を作出していると考え礫器とした。石核である可能性も高い。633は二次加工剥片、634は断面三角形の鋭角な側縁に自然面からの連続調整を施した削器である。635、636は類似した長楕円形の円礫の最も平滑な面から一方に連続して剥離を行っている。635では刃部と判断できる部分がなく、石核としたいところである。636では一方を鋭角にしてもう一方は自然礫のまま残している。これを刃部と見て礫器とした。637は打欠きの石錘である。638は敲石、639～642は磨石である。641、642は球形の小礫の一面が磨面となっている。643～645は台石である。643は9.8kgの垂角礫、644は8.0kgの円礫である。645も約1kgで角が円磨されている。遺跡下位の礫層は主として直径10～20cmの礫で構成されるが、淘汰が悪く大形の礫を含む。これら重量のある台石は丘陵上の礫層から採取可能であったと思われる。

ホルンフェルス類製石器群：(第132～136図、遺物番号646～671)

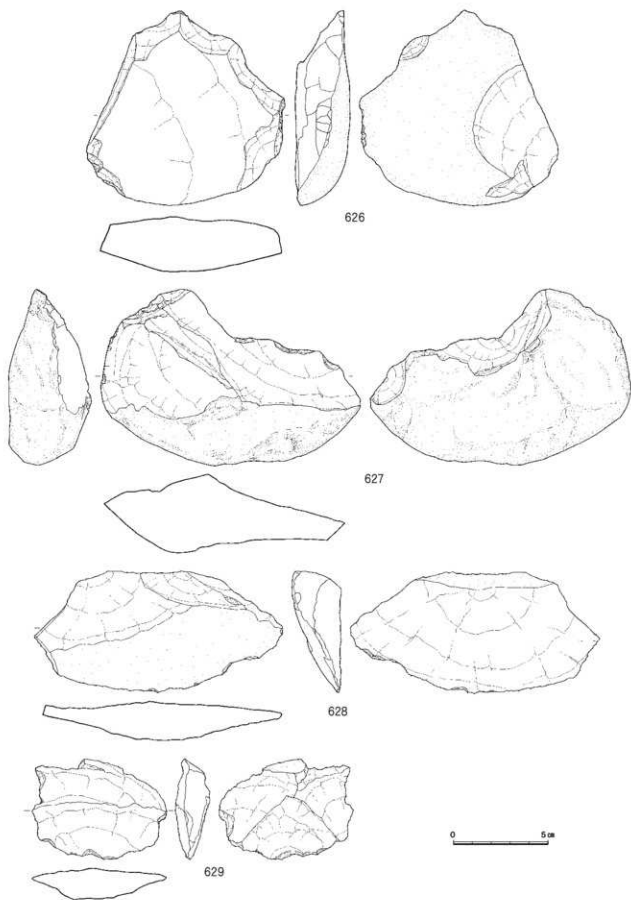
646は一部に粗粒の砂質部を含むホルンフェルスを大きく剥離したあと、礫面から剥離を行った石核である。647～649、651、652は搔器である。いずれも風化が激しく調整が明瞭に確認できないが剥片の背面側から連続した調整を行って刃部を作出している。653については調整方向が逆で刃部が薄いため削器の可能性もある。650は薄い幅広剥片の右側縁に微細剥離のある剥片である。654、655は二次加工剥片である。656は約600gの円礫の一方の長辺側だけに連続した剥離を施した石核である。一部両面調整となっており礫器の刃部とも取れるが角度が鈍角であり石核とした。



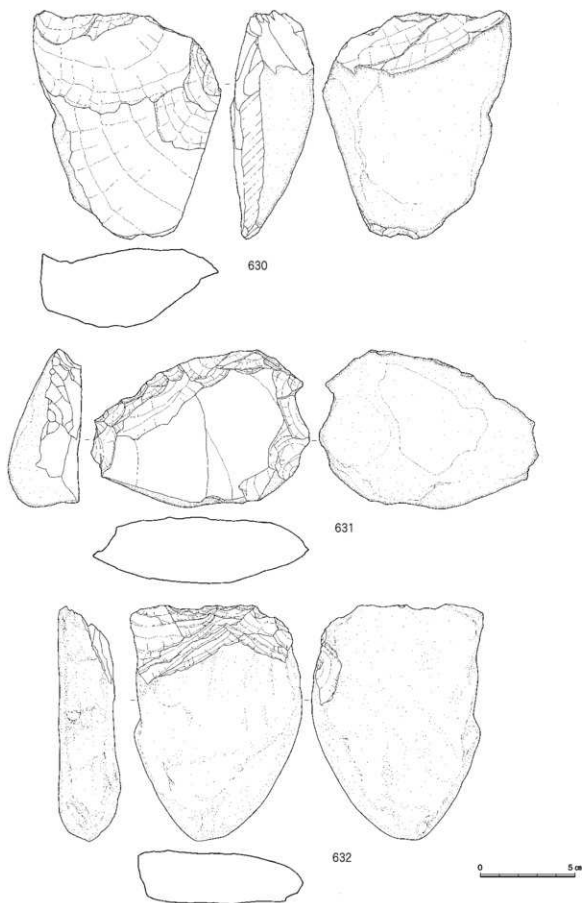
第125図 縄文時代早期 石器実測図3 (1/2)



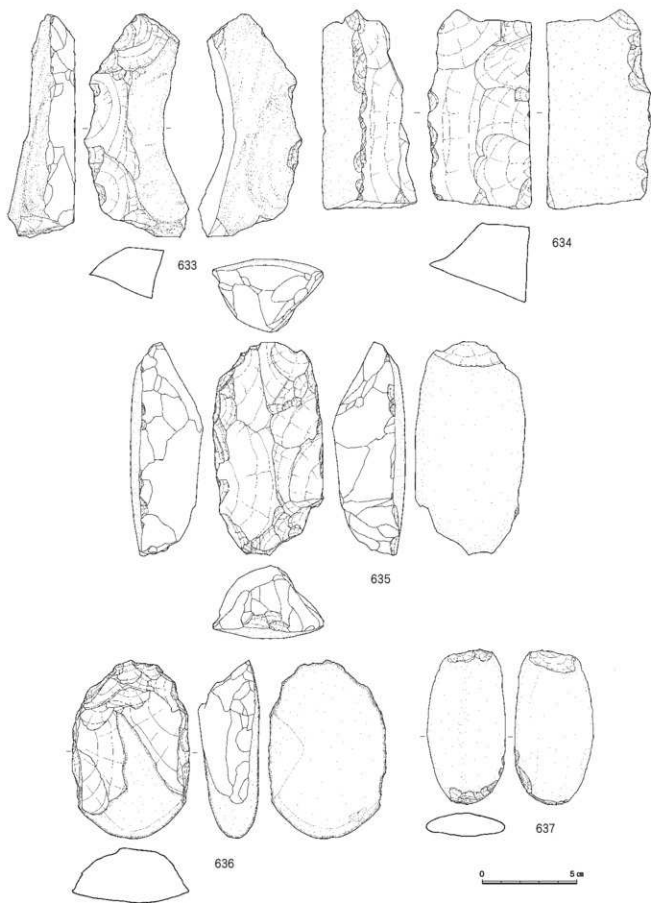
第126図 縄文時代早期 石器実測図4 (1/2)



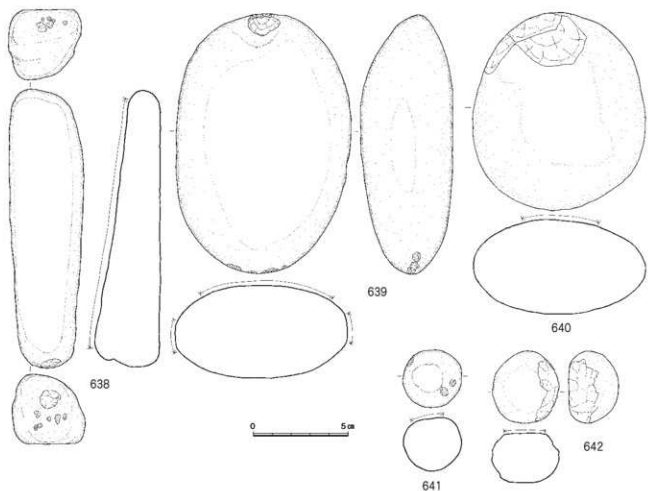
第127図 縄文時代早期 石器実測図5 (1/2)



第128図 縄文時代早期 石器実測図6 (1/2)



第129図 縄文時代早期 石器実測図7 (1/2)

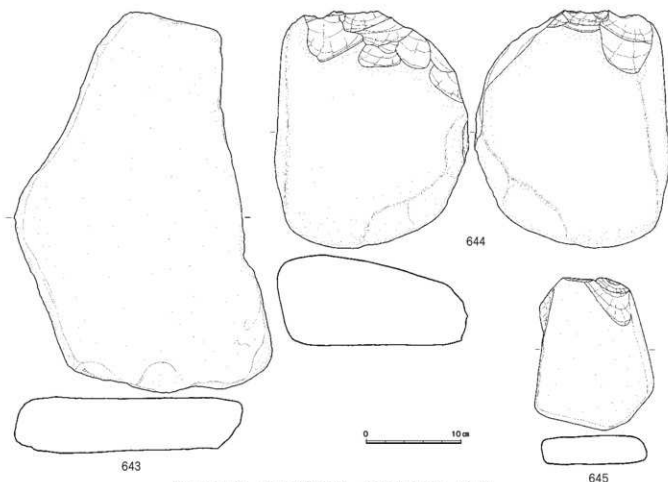


第130図 縄文時代早期 石器実測図8 (1/2)

657は腹面を打面とした石核である。658は剥片である。風化が進行しているため確認は困難であるが微細剥離もあるようである。659、661は大形の円礫を荒く打ちかいた、重量のある礫器である。660は分割した円礫の外周に連続した調整を施した搔器である。662は長楕円の円礫の長辺側を両面調整して刃部を作出した礫器である。刃部先端が若干ぶれており、使用の痕跡とも考えられる。663、664は剥片や礫に両面調整を加えた二次加工剥片である。665は長楕円の礫の背面に自然面を残しつつ、丁寧な調整を加えた石斧である。666は幅広の剥片を折った痕跡の残る剥片である。667は切目、668は打欠の石錘である。669～671は659、661と共通点のある礫器である。刃部と呼べるほどの角度をもたないものもあり石核である可能性もあるが、円礫の一部だけに剥離を残していることに規格外性があると考え礫器とした。

緑色凝灰岩類製石器群：(第136～137図、遺物番号672～679)

672は片状に割れる扁平な礫の外周から剥離を施した石核である。673は自然面側からの連続調整を施した円形搔器である。



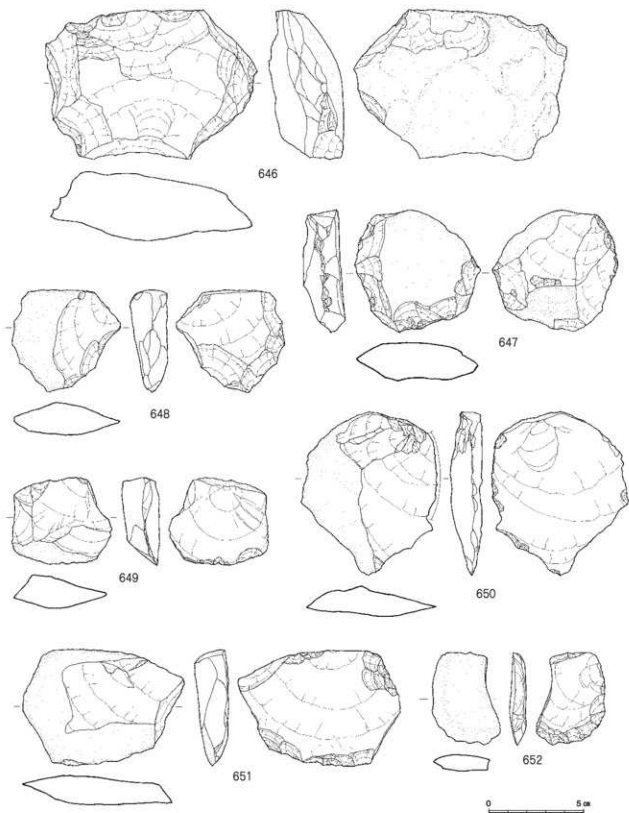
第131図 縄文時代早期 石器実測図9 (1/4)

674、675は側縁に二次加工を施した剥片である。676は片状に割れる円礫から取った薄い幅広剥片の自然面側から連続剥離を施した搔器である。677は同一方向からの剥離が連続する石核である。678、679は大きさの違いがあるが薄手の幅広剥片を分割し、縁辺に調整を施す搔器もしくは削器である。

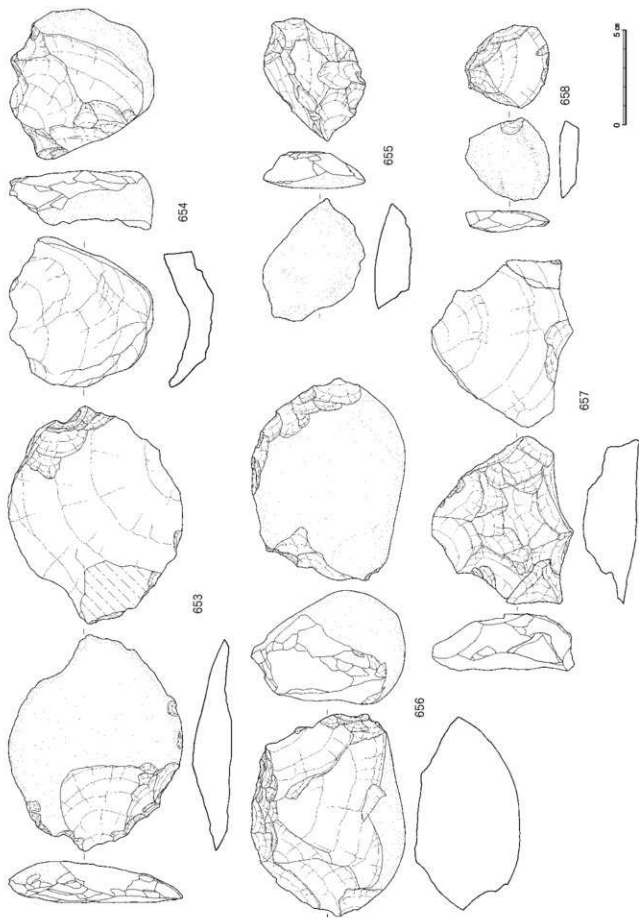
流紋岩類製石器群：(第137～139図、遺物番号680～699)

680～683は黒色系流紋岩類製の縦長剥片の縁辺に微細剥離が観察できるものである。いずれもD26グリッド周辺であり旧石器時代Ⅲ期の最も大規模な石器ブロックの上位から出土している。数m移動しているものもあり3号・4号炉穴群製作時に掘り上げた旧石器である可能性がある。微細剥離が旧石器時代、縄文時代のどちらの時期についても不明だが、剥片の形態等は旧石器時代Ⅲ期の縦長剥片に類似している。684、685は二次加工剥片、686ははじめに正面から連続剥離した後、打面転位して上方から大きく剥離を施した石核である。687は側縁に連続調整を施した削器、688は石核、689は微細剥離のある剥片である。690は鋭角な左右の側縁に自然面から連続調整を施した削器である。691は肉厚の剥片の打点側から調整を施した二次加工剥片である。692は幅広な剥片の左右の側縁に調整を施した搔器もしくは削器である。693は上方を主要な打面とする石核である。

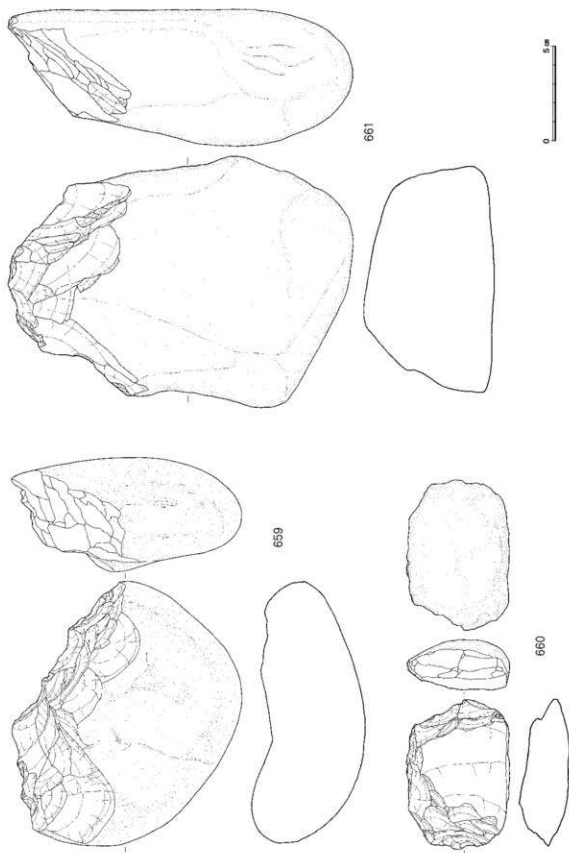
接合資料縄文-②は694の微細剥離のある剥片が695の削器と接合している。2点の打点は90°転位している。696、698は白色系流紋岩類製の二次加工剥片である。697、699は微細剥離のある不定形剥片である。



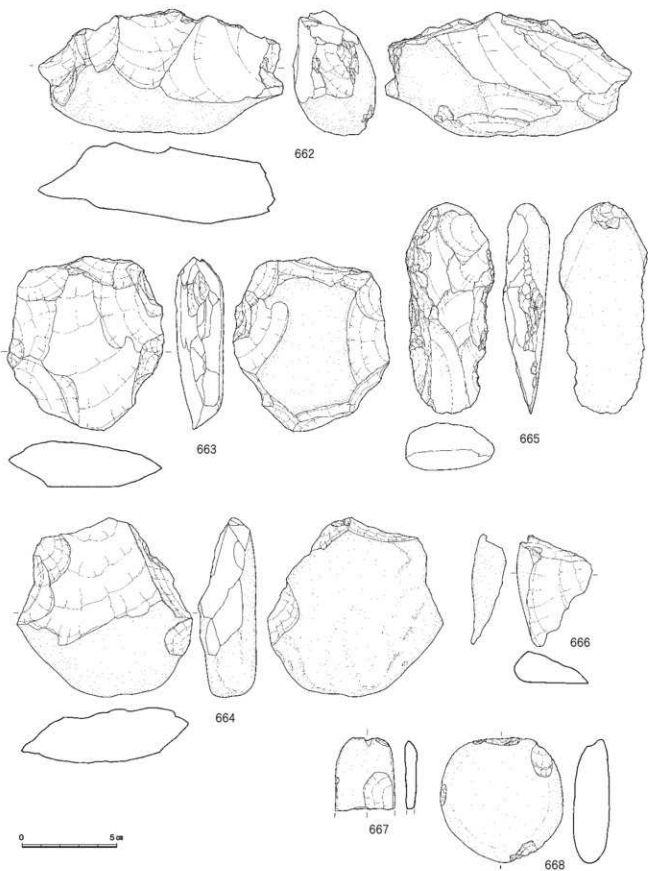
第132図 縄文時代早期 石器実測図10 (1/2)



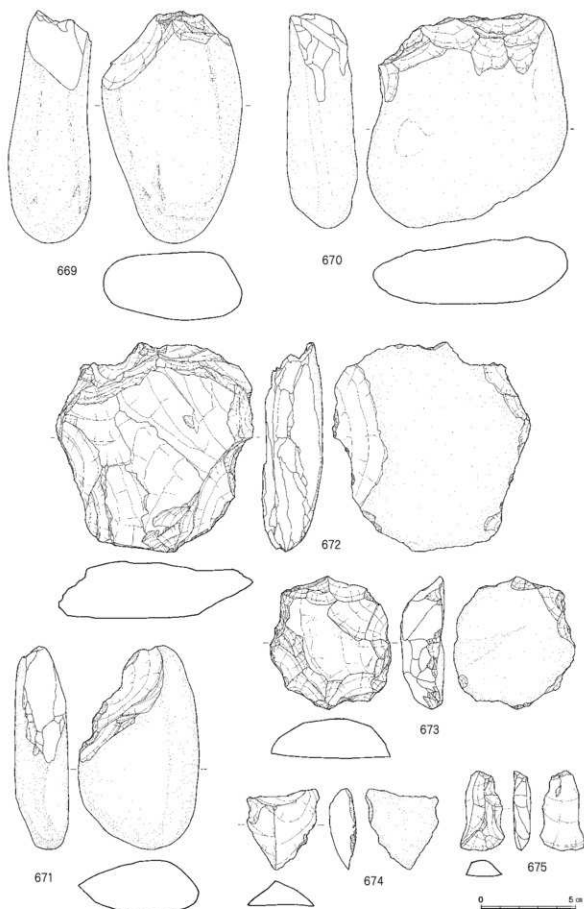
第133図 縄文時代早期 石器実測図 1 (1/2)



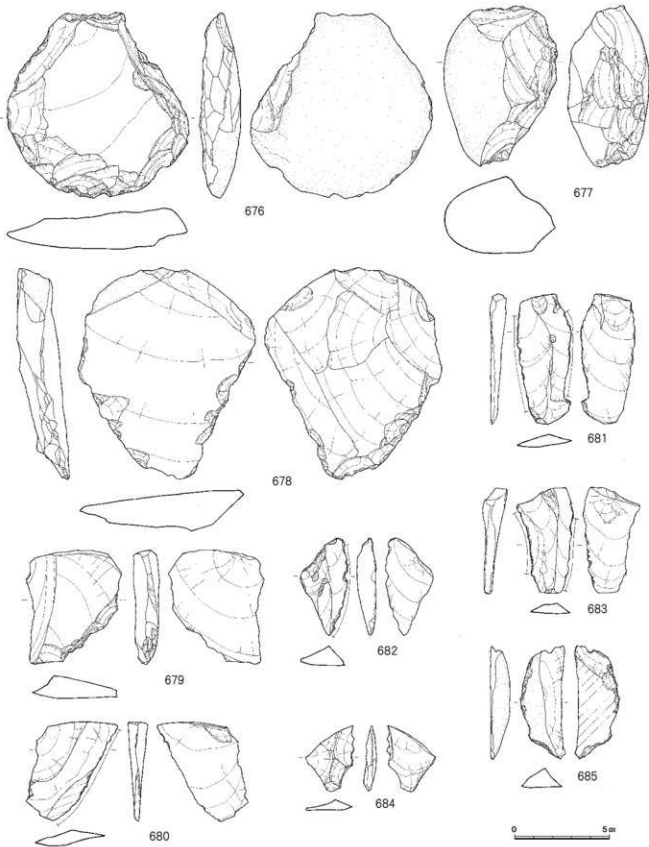
第134図 縄文時代早期 石器実測図12 (1/2)



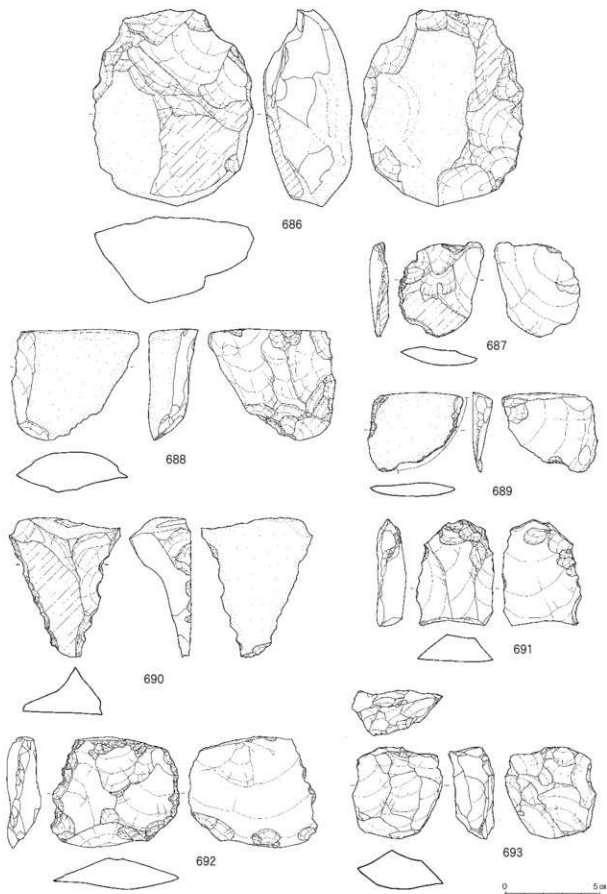
第135図 縄文時代早期 石器実測図13 (1/2)



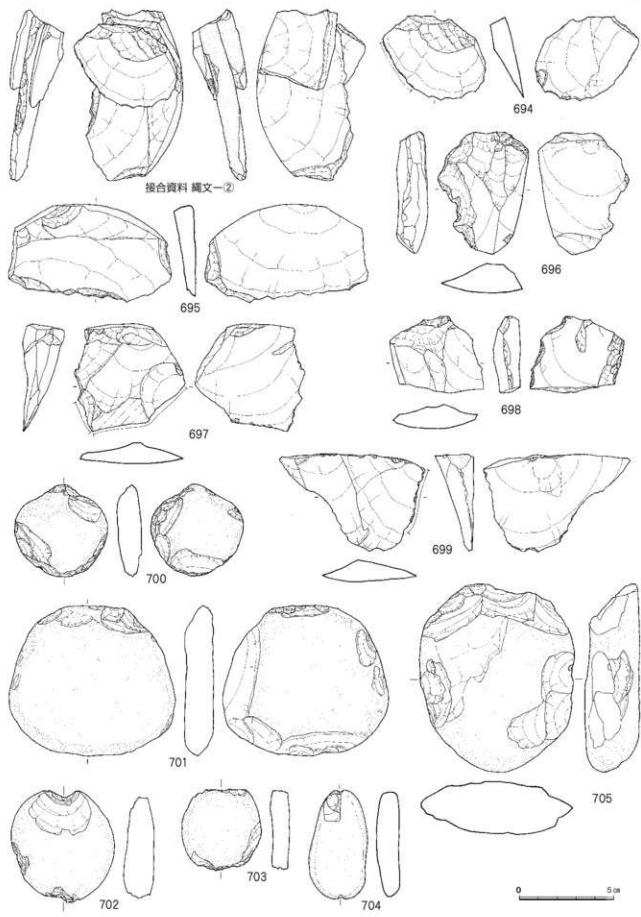
第136図 縄文時代早期 石器実測図14 (1/2)



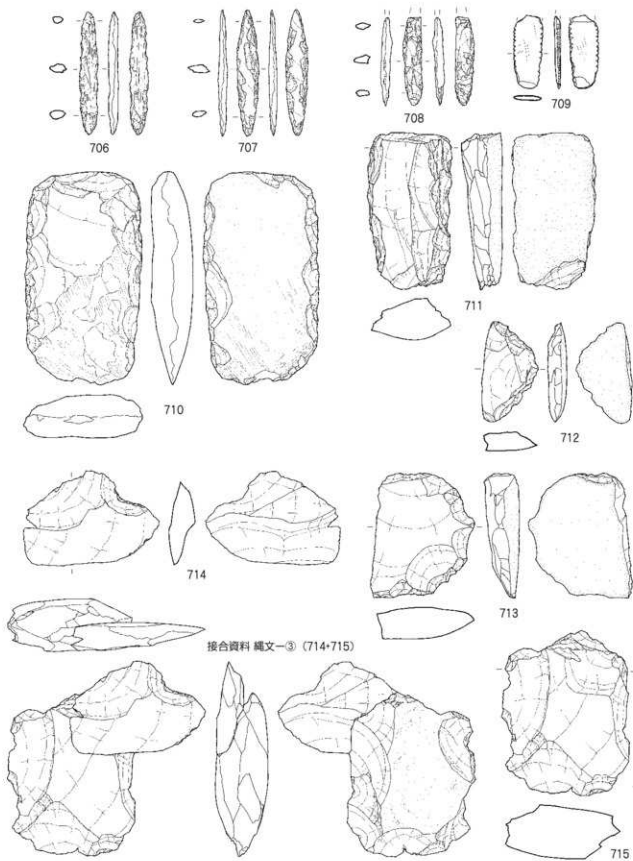
第137図 縄文時代早期 石器実測図15 (1/2)



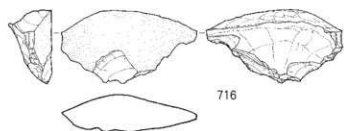
第138図 縄文時代早期 石器実測図16 (1/2)



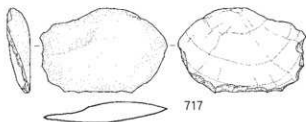
第139図 縄文時代早期 石器実測図17 (1/2)



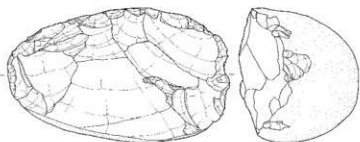
第140図 縄文時代早期 石器実測図18 (1/2)



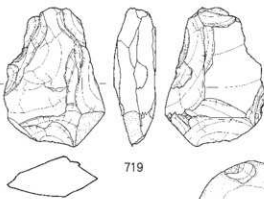
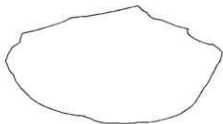
716



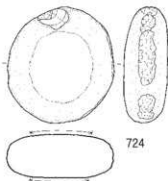
717



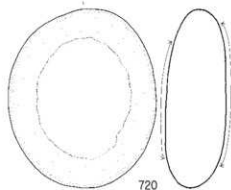
718



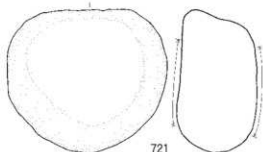
719



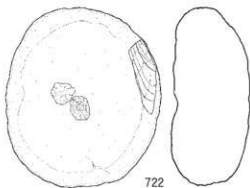
724



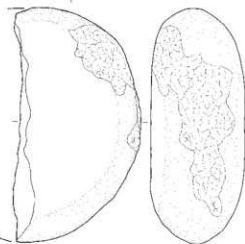
720



721



722



723

第141図 縄文時代早期 石器実測図19 (1/2)

千枚岩(赤色頁岩等を含む)製石器群：(第139～140図、遺物番号700～709)

700、701は千枚岩の扁平な円礫の周囲に連続調整を施している。2点とも風化などで刃部が明瞭ではないが搔器とした。702、703は打欠石錘、704は切目石錘である。

706～708は石槍である。706は千枚岩製、707は緑色凝灰岩製、708は赤色頁岩製で3点を並べると黒、緑、赤と色どりが鮮やかである。いずれも軟質な岩石ながら、刺突具と考えられる。石銚の可能性もある。

709は千枚岩製の垂飾である。周縁部に刻み目を入れており、穿孔部は折損している。この垂飾は27号集石遺構のすぐ横で出土しており縄文時代早期のものと考えてよい。竹ノ内遺跡(清武町)で縄文時代後期のものとされる扁平な小円礫の周囲に刻み目を入れる垂飾が出土している。

頁岩製石器群：(第140～141図、遺物番号711～719)

711は自然面のある剥片に細かな調整を施した二次加工剥片である。節理面で折損しており全形は不明だが石斧である可能性がある。712、713は幅広の剥片を2分割して自然面側から連続調整を施した搔器である。714+715が接合資料縄文-③(第140図)である。四方の両面から剥片を取る石核715から、微細剥離のある剥片714が作出されている。石核は41号集石から出土している。716、717は自然面側から連続調整を施した搔器である。718は円礫の上面から打面を転位することなく剥離を繰り返す石核である。719は両面から調整を施した二次加工剥片である。

花崗斑岩製石器群：(第140・141図、遺物番号710、720～724)

710は石斧である。円礫から自然面を残した剥片をとり、両面調整にて成形と刃部の作出を行っている。720～724は敲・磨石と凹石である。

第6節 縄文時代晩期の遺構と遺物

1 土坑(第143図)

調査段階では縄文時代晩期の遺構であると明確に認定できたものは少なかった。ここではⅡ層(鬼界アカホヤ火山灰層)上面で検出した遺構(第142図)のうち整理作業で当該時期の遺物が集中的に出土した土坑を抽出して記載する。

土坑1、18、19、25(SC1,18,19,25)：平面形態がほぼ円形で底面が平坦となる一群である。埋土が均質に近いものが多く、粗製の深鉢の口縁部、底部など複数の遺物が出土している。

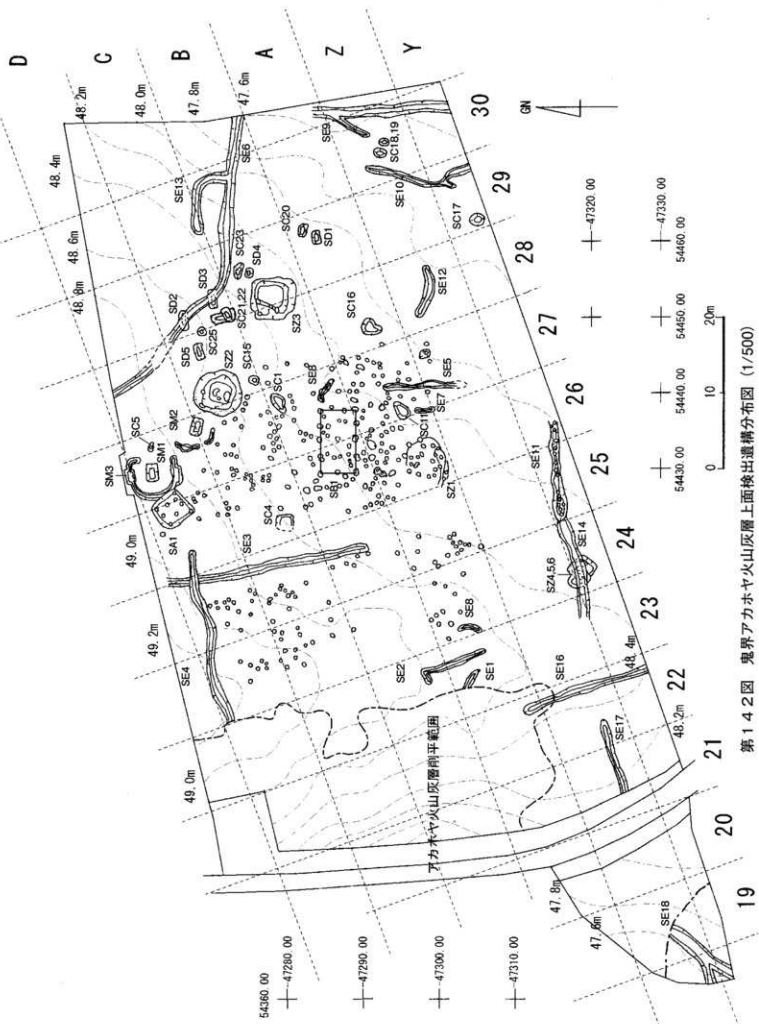
土坑16、23(SC16,23)：不定形の土坑である。埋土の状況は流入堆積にしては不自然な部分があり人為的な埋積の可能性がある。縄文時代晩期のものと考えられる多数の遺物が埋土中から出土した。

2 遺物(第144～147図、遺物番号725～758)

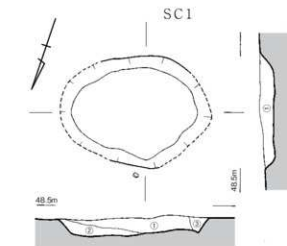
上記の土坑以外からの縄文時代晩期の遺物の出土状況は多様である。大形の不明遺構や溝状遺構から中世の陶磁器と混在しての出土やピット中、Ⅱ層上面、Ⅰ層包含、表採、農業の攪乱土中などがあつた。

突帯のある粗製土器・深鉢口縁部：(第144図)

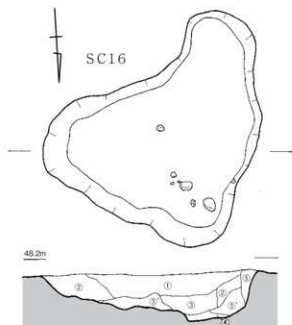
725は横1列に直径約2mmの穿孔が約2cm間隔で連続する孔列文土器である。孔列の直上にわずかな突帯がある。726、731は口唇部がやや外反し貼付突帯が小さい。727、734は口唇部が工具により平坦に調整される。728～730、733は緩やかに外反する口唇部に貼付突帯をもつ一群である。732は突帯の位置がやや低く内部に横一線の明瞭な沈線が施されている。735も突帯がやや低いが内部の沈線はない。736は口唇部直下の突帯に刻み目を施している。737は貼付突帯のある大形の深鉢で推定口径が46.6cmである。



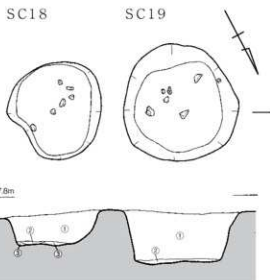
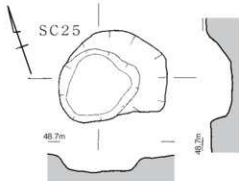
第142図 鬼界アカヤ火山灰層上面検出遺構分布図 (1/500)



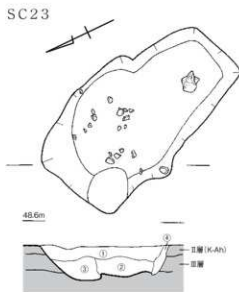
SC1 詳記
 ① 褐色土 軟質 木の根が多い
 ② 黒褐色土 アカホヤアロクが混じる
 ③ アカホヤアロク主体の黒土



SC16 詳記
 ① 黒褐色土 (10YR3/2) やや軟質 しまりあり 竹の根多い 遺物が多く含まれる
 ② 灰黄褐色土 (10YR4/2) かなり軟質 しまりなし アカホヤアロクを含む
 ③ 黒褐色土 (10YR2/3) かなり軟質 しまりあり 遺物が多く含まれる
 ④ 黒褐色土 (10YR2/2) かなり軟質 しまりあり
 ⑤ 暗褐色土 (10YR3/4) かなり軟質 しまりあり 褐色粒子を含む
 ⑥ 植栽痕



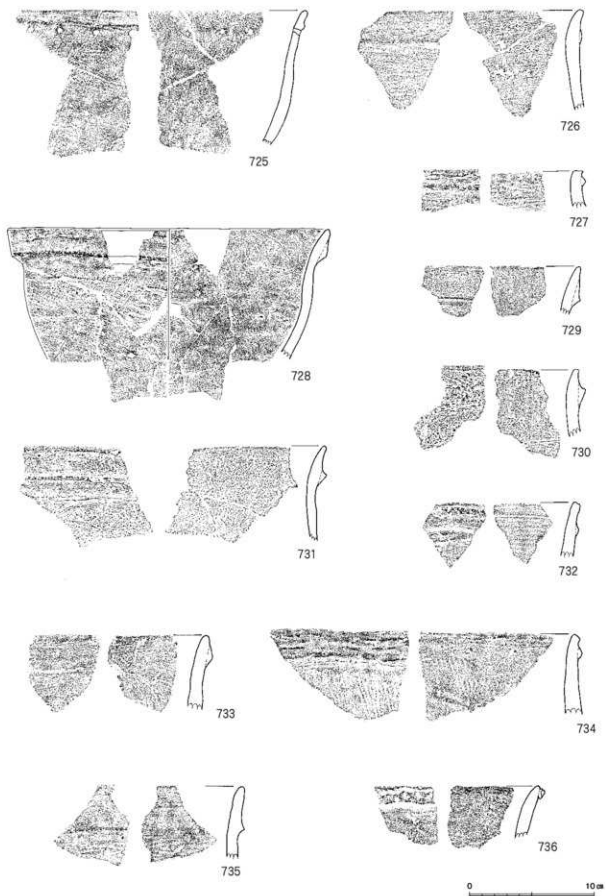
SC18・19 詳記
 ① 黒土 (10YR3/1) 軟質 しまりあり 均質
 ② 黒土 (10YR3/1) 軟質 しまりあり 底面あり
 ③ 黒土 (10YR3/1) 軟質 しまりあり 下部の底面あり



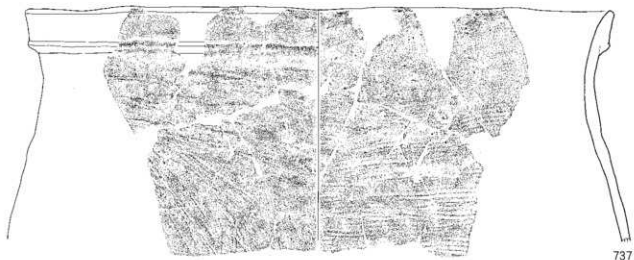
SC23 詳記
 ① 黒褐色土 (10YR3/1) 軟質 6.5い 竹の根が多い
 ② 黒褐色土 (7.5YR2/2) 軟質 ややしまりあり 粒子はほとんど無い
 ③ 黒土 (10YR3/1) 軟質 しまりあり 多くのアカホヤ粒子及び少しの褐色アロクを含む
 ④ 植栽痕

0 1m

第143図 縄文時代晩期 土坑実測図 (1/40)



第144図 縄文時代晩期 土器実測図1 (1/3)



737



738



740



741



739



742



743



744



745



746



747



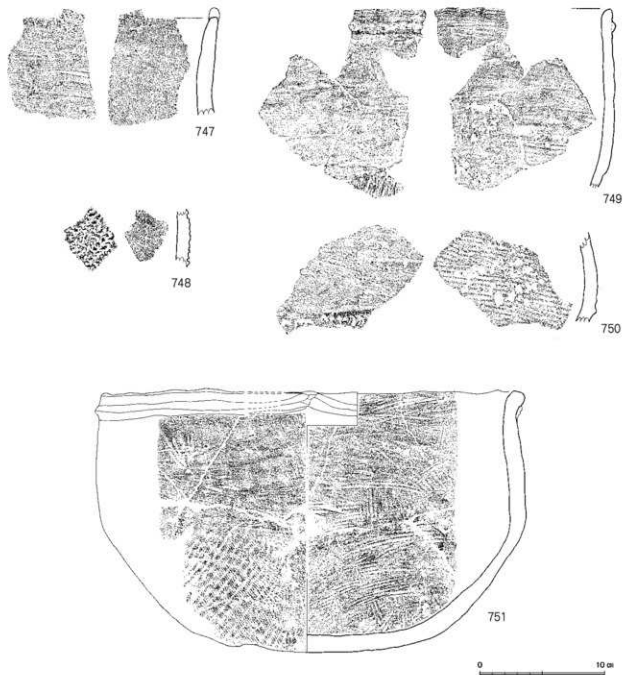
748



749



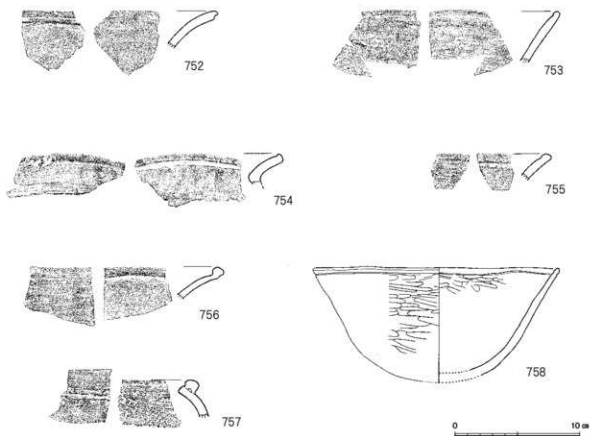
第145図 縄文時代晩期 土器実測図2 (1/3)



第146図 縄文時代晩期 土器実測図3 (1/3)

胴部・底部：(第145図)

738、739は斜方向の沈線が確認できる胴部の細片である。740～746までは深鉢の底部である。740、745は平底でわずかに張り出す。743、746はわずかに上げ底でほとんど張り出さない。741、742は明瞭な上げ底である。744は張り出しと本体の間にわずかな空隙があり張り出し部分を接合していると思われる。



第147図 縄文時代晩期 土器実測図4 (1/3)

組織痕・ヒレ状突起のある土器：(第146図)

747は本遺跡唯一のヒレ状突起をもつ粗製深鉢の口縁部である。748は網痕と思われる組織痕のある胴部の細片である。749～751は胴部下部から底部にかけて明瞭な組織痕のある大形の深鉢である。特に751はほぼ完形であり、口縁部の貼付突帯の2か所が山形に隆起している。この土器は陶磁器を出土する不明遺構から大部分が出土している。一部は不明遺構周辺のピット内から出土しており晩期の土坑から中世以降の不明遺構に流れ込んだものと考えられる。

試掘段階でこの組織痕土器の一部が確認され本調査開始の一因となった土器である。

精製磨研土器：(第147図)

752はわずかに外反する口縁の口唇部外側に沈線を施している。内面は黒色で口唇部に赤色顔料が明瞭に塗布されている。753、758は口縁がほぼ直し口唇部の内外面に沈線を1条施している。754、755は屈曲して外反し口唇部内側に沈線がある。756は肥厚する口唇部の外面に沈線がある。757は内湾する口縁部に厚い突帯を貼付けており接合部分に空隙が見られる。758はほぼ完形であるが巨大な杉の切り株の根の間から出土しており遺構等は検出できなかった。

第7節 弥生時代の遺構と遺物

II層（鬼界アカホヤ火山灰層）上面検出の遺構のうち、弥生時代終末期のものと考えられる遺構は主として遺跡中央の北部に集中している（第142図）。これらの検出地点は調査区西部を南北に走る後線の南東側の緩斜面にあたる。斜面の最も上方に竪穴住居跡、周溝墓、それらの東側のやや低いところに土壌墓群が分布している。周溝墓、土壌墓の主体部の軸はほぼ東西方向で統一されている（第5表）。

1 竪穴住居跡（第148図）

この時期の竪穴住居跡の検出は1軒だけである。4.5m×4.1mの方形で検出面からの掘り込みが約0.3mである。住居の軸は方位による設定ではないようで等高線に平行に設定されていると思われる。柱穴と考えられるピットは床面中央部に4本（短軸方向が2本太く、長軸方向が2本細い）、4方の隅に小形のピットを確認した。竪穴部分周囲に規則的なピットは確認できなかった。住居跡の埋土は1号周溝墓の周溝西端を一部切っており、1号周溝墓より構築年代が新しい。

出土遺物（第149・150図、遺物番号759～776）

弥生土器： いずれも2mm以上の白色、褐色、黒色の垂円礫を大量に含む黄橙色～橙色の土器である。これらの鉱物は行藤山花崗斑岩の風化物と考えられ、丘陵を下った細見川の河床から採取可能である。非常にろく、細片に砕けているものが多い。一部は整理作業中の水洗にも耐えないほど風化していた。

759、760は残存が良好ではないが平底の甕の底部である。763は手握ねの小型土器で胎土鉱物が細粒であり素地土のみで作っている。764は球胴の壺である。762、765～771はすべて鉢である。張り出しのない平底の底部から緩やかに広がり、胴部上部に最大幅があり口縁部が緩やかに内湾する器形のものが多く、765など器高と最大幅がほぼ同じものと766など器高の方が大きいものがある。767と771はやや異色である。767はわずかに上げ底で張り出す底部で口縁部に櫛描波状文を施す。771は上げ底で上部の張る球胴が稜を作って屈曲し口縁部は直立している。口縁端部には櫛描波状文が施されている。この土器はほぼ完形で住居南西壁際の中央部に埋められていた。

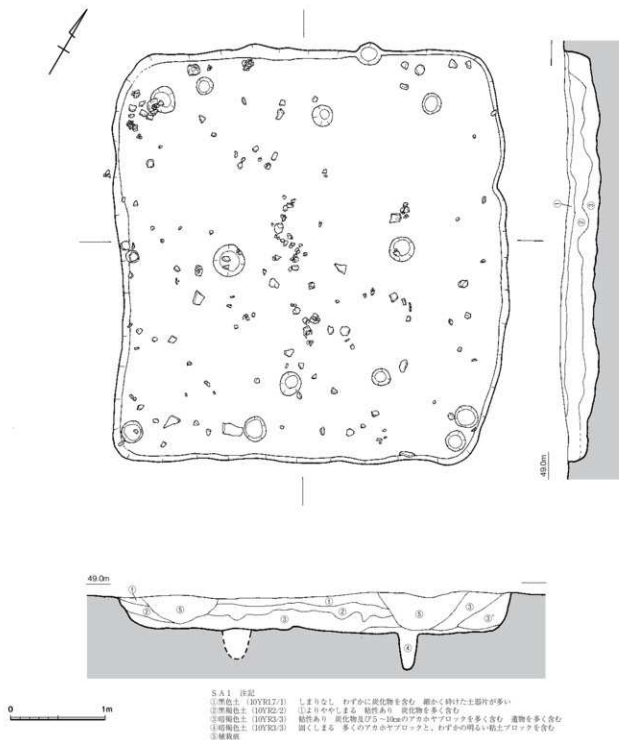
石器： 772は住居跡付近の表土剥ぎ終了後の竹の切り株とともに出土した緑色凝灰岩製の磨製石鎌である。773は千枚岩製の打製石鎌である。側縁部のくびれた五角形を呈しており野門遺跡（松山町）などでも出土している。774、775は板状砂岩製の砥石である。磨面が明瞭に研磨され凹面化している。774の周縁部には酸化鉄の付着物が観察できる。776は砂岩円礫の敲・磨石である。

2 周溝墓（第151・152図）

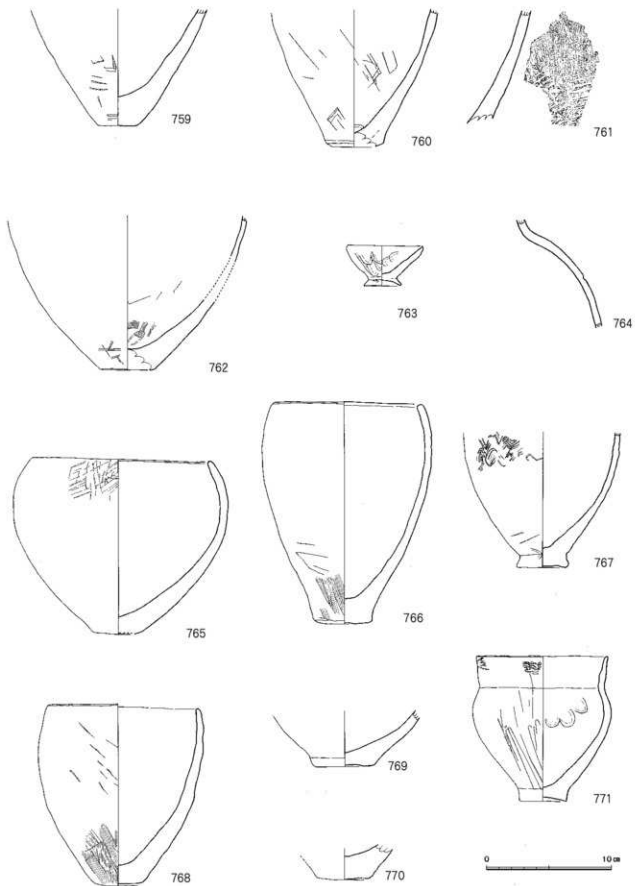
周溝と主体部のセットを2組（SM1,2）と周溝に付随する土壌墓を1基（SM3）検出している。

1号周溝墓：（第151図）

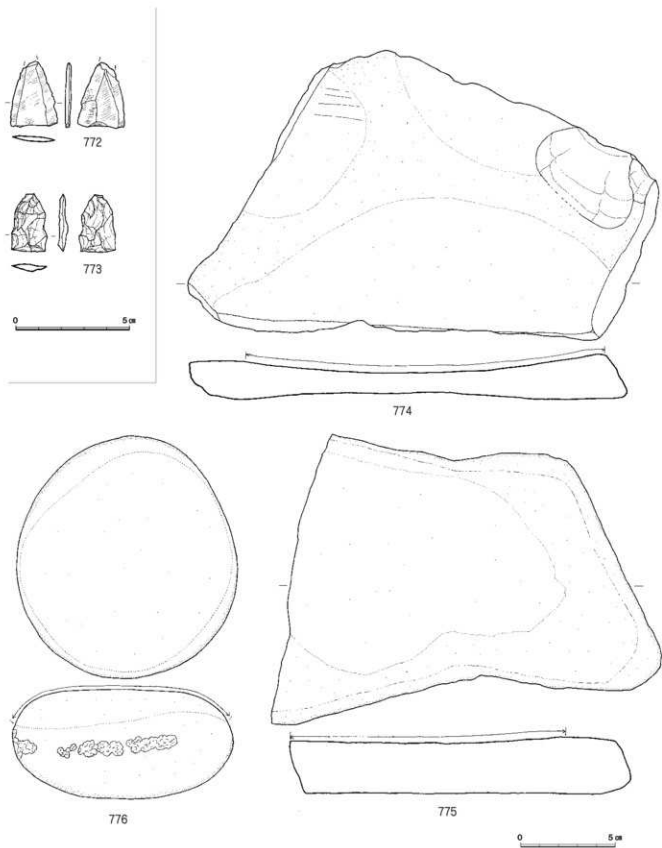
2.5m×1.4mの長方形で深さ1.1mに掘り込む一段掘りの主体部である。底部中央に1.8m×0.7mの長方形で深さ0.6mの規模の埋葬部を形成している。これは掘り上げた底部床面の周縁を幅約0.3m、高さ0.6mで土盛り固めて段を付け二段掘り土壌墓状に仕上げたものである。F-F'断面をみると埋葬部の長軸側両端に木棺の小口板を思わせる部分（断面図の⑥層）が観察できることから、木棺埋葬であった可能性が指摘できる。埋葬部の底部床面には赤色顔料が厚さ1～2mmで均質に散布されており、一部に棒状に盛り上がる部分が観察された（図版16）。



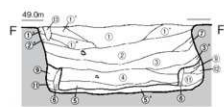
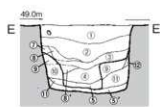
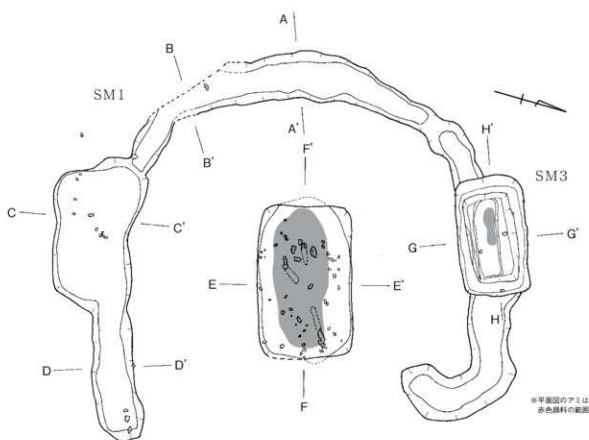
第148図 竪穴住居跡実測図 (1/40)



第149图 竖穴住居跡出土土器実測图 (1/3)



第150図 竪穴住居跡出土石器実測図
772・773 (3/5)、774~776 (1/2)



- SM1 土層 詳記
- ①黒色土 (5YR1.7/1)
 - ②黒色土 (5YR2.2)
 - ③黒色土 (5YR2.2)
 - ④黒色土 (5YR3-1)
 - ⑤赤褐色土 (7.5YR3-1)
 - ⑥赤褐色土 (7.5YR2.2)
 - ⑦赤褐色土 (7.5YR2.2)
 - ⑧赤褐色土 (7.5YR3.2)
 - ⑨赤褐色土 (10YR3-2)
 - ⑩赤褐色土 (10YR3-3)
 - ⑪赤褐色土 (7.5YR3-2)
 - ⑫赤褐色土 (7.5YR3-2)
 - ⑬赤褐色土 (10YR3-3)
 - ⑭赤褐色土 (7.5YR3-2)
 - ⑮腐葉土

- アカヤブアロクを多く含む 竹の根が多い
- ①よりアカヤブアロクが少ない
- 腐葉 アカヤブアロクを含む
- 腐葉 多くのアカヤブアロクや粘土アロクを含む
- ②より腐葉 赤褐色土を含まない
- ③より腐葉 粘土粒子を多く含む
- ④より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑤より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑥より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑦より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑧より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑨より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑩より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑪より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑫より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑬より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑭より腐葉 赤褐色土を含まない
- ⑮より腐葉 赤褐色土を含まない

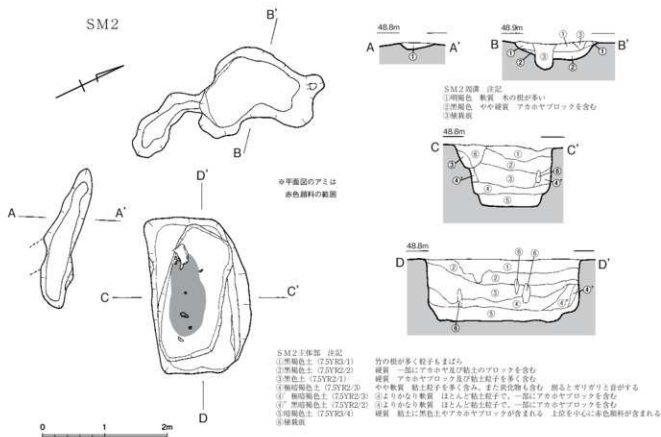
- SM1 周溝 詳記
- ①黒色土 (5YR2.2) 腐葉 アカヤブアロクを含む
 - ②黒色土 (5YR2.1) 腐葉 もみい、アカヤブアロクを含む
 - ③黒色土 (10YR1.7/1) 底層 (SA1) の粘土、しまりなし
 - ④黒色土 (10YR2.2) 底層 (SA1) の粘土、しまりあり



G-G', H-H' は、断面状態の見直し図。



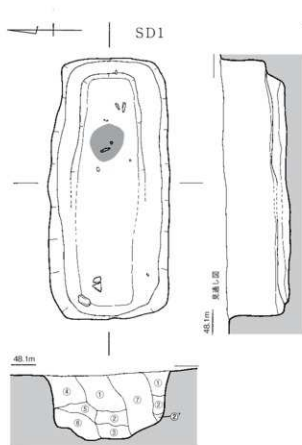
第 151 図 1号周溝墓実測図 (1/60)



第152図 2号周溝墓実測図 (1/60)

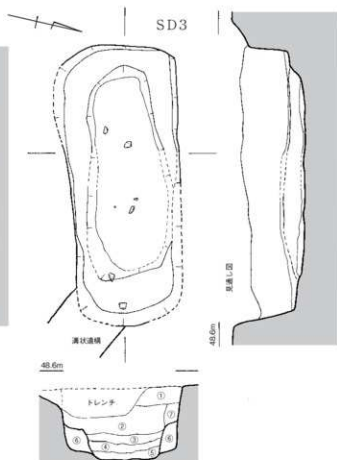
周溝は6m×7mの馬蹄形を呈し幅約0.7mで検出面（Ⅱ層上面）から0.5～0.6mの深さに掘り込まれている。遺物はある程度の量出土するが大変もろく多くが砕片になり摩擦している。周溝の左右の一部が長方形に拡大している。左側の拡大部は平面形態が2.2m×1.2mのゆがんだ長方形で、深さ0.6m程度の周溝の拡幅部分といった掘り込みである。右側の土壌墓（SM3）は2.0m×1.0mの長方形で深さ約1.2mの規模で二段掘りに掘り込まれた主体部をもつ。側壁はいずれも垂直に近く掘削されている。埋葬部となる二段目は1.8m×0.8mの長方形で深さは0.2mで底部床面に赤色顔料が散布されている。周溝と土壌墓の切り合いは不明確で時期判断に苦慮するが、埋土は類似しており同時期の可能性がある。

2号周溝墓：（第152図） 図面上では周溝が不明瞭であるが、表土剥ぎ段階では1号周溝墓とほぼ同規模で周溝が目視できた（図版16）。篠竹の地下茎が縦横に入り組んでおり、それらを除去しつつ精査をかけると周溝の残存が第152図の状況になった。主体部は2.6m×1.4mの長方形で深さ1.0mの掘り込みである。1号周溝墓の主体部のような硬質土による段状の構造はないが、掘り込みそのものにわずかな段構造が確認できる。底部には赤色顔料が散布されていた。周溝の全容は不明確ながら1号周溝墓に準ずる構造であったと思われる。



SD1 詳記

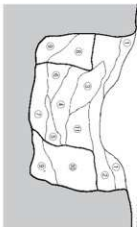
- ①黒色土 (10YR17/1) かなり軟質 しまりなし、多くのアカホヤ粒子を含む
 ②黒色土 (20YR17/1) やや軟質 しまりあり
 ③黒褐色土 (10YR2/2) やや軟質 しまりなし、わずかにアカホヤ粒子を含む
 ④黒褐色土 (10YR2/3) やや硬質 しまりあり 粒状あり
 ⑤暗褐色土 (10YR3/2) やや軟質 しまりあり アカホヤブロックを含む
 ⑥黒色土 (10YR2/1) やや硬質 しまりあり アカホヤ粒子を含む
 ⑦黒褐色土 (10YR3/2) やや軟質 しまりあり アカホヤ、褐色のアブロックを含む
 ⑧硬質土
 ⑨硬質土



SD3 詳記

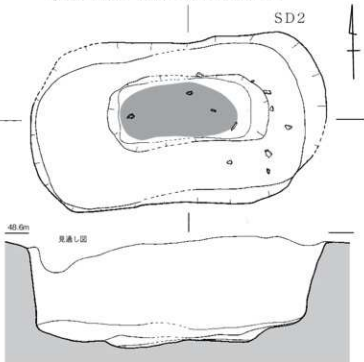
- ①黒褐色土 (10YR3/2) 軟質 しまりなし、アカホヤ粒子を多く含む
 ②黒褐色土 (10YR2/2) やや硬質 しまりあり 褐色アブロックを含む
 ③黒褐色土 (10YR2/2) やや硬質 しまりあり アカホヤアブロックを含む
 ④黒褐色土 (10YR2/3) やや硬質 しまりあり
 ⑤黒褐色土 (10YR2/2) 硬質 しまりあり アカホヤ、褐色のアブロックを含む
 ⑥黒褐色土 (10YR2/2) 硬質 しまりあり アカホヤ、褐色のアブロックを含む
 ⑦黒褐色土 (10YR2/2) やや軟質 しまりなし、アカホヤ粒子を含む

※平面図のアとは
赤色顔料の範囲

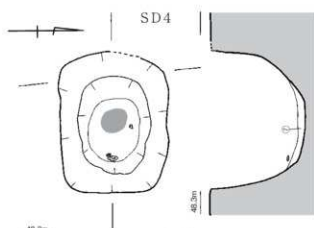


SD2 詳記

- ①暗褐色土 (10YR4/1) かなり軟質 ややしまりなし、少しのアカホヤ粒子を含む
 ②黒色土 (10YR2/1) やや軟質 しまりあり 褐色アブロックを含む
 ③黒色土 (10YR2/1) やや硬質 しまりあり
 ④黒褐色土 (10YR2/2) やや硬質 しまりあり
 ⑤黒褐色土 (10YR2/2) やや軟質 ややしまりなし
 ⑥黒褐色土 (10YR3/2) 硬質 しまりあり 褐色アブロックを含む
 ⑦暗褐色土 (10YR3/3) 硬質 しまりあり 赤色顔料を含む
 ⑧黒褐色土 (10YR2/1) かなり硬質 しまりあり 褐色アブロックを含む
 ⑨黒色土 (10YR2/1) かなり硬質 しまりあり、少しのアカホヤ粒子を含む
 ⑩黒色土 (10YR2/1) しまりややアカホヤ粒子が多い
 ⑪暗褐色土 (10YR4/5) 軟質 しまりなし、アカホヤ、褐色のアブロックを含む
 ⑫硬質土



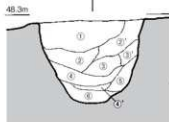
第153図 土壌実測図1 (1/30)



SD4 詳記

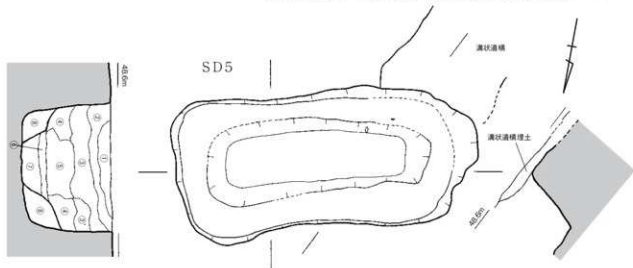
- ①黒色土 (7.5YR2/1) 軟質 しまりなし わずかに微粒子を含む
- ②黒色土 (7.5YR2/1) 軟質 しまりなし アカホヤ、粘土質アブロックをわずかに含む
- ③②とは同じ色調だが、わずかに明るく、多くの粘土粒子及び少々の黒色粒子を含む
- ④黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりわずかにしまりあり 含む粘土も少ない
- ⑤ ③よりわずかに明るく、粘性大きい
- ⑥暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりあり 粘性大きい 多くの粘土粒子を含む
- ⑦ ⑥と同じだが、粘土多く粘性大きくなる
- ⑧褐色土 (7.5YR4/4) 粘性大きくなる 写層のアブロックを含む
- ⑨褐色土 (7.5YR4/2) しまりあり、粘性大きい 粘土アブロックと赤褐色粒(腐植粒)を含む床面近くでは、わずかにざらつく
- ⑩暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりあり 粘性大きい 腐植を多く含む、にじみ状に暗褐色土が広がる

※平面図のAは赤色顔料の範囲

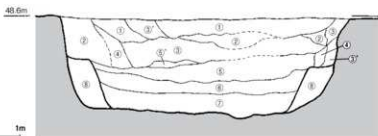


SD5 詳記

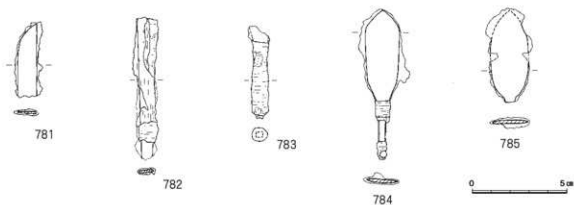
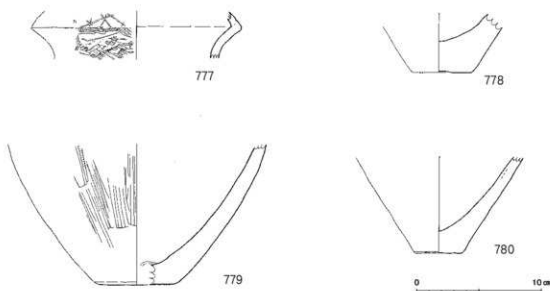
- ①黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりなし 軟質 混じりは少ない
- ②黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりなし 軟質 腐植のアカホヤ及び粘土粒子を含む
- ③黒褐色土 (7.5YR2/3) しまり無く空明多い 2-3cmのアカホヤアブロックを多く含む 粘土粒子もわずかに含む
- ④ とても軟質 1-5mm程度のアカホヤ、粘土の粒子を含む
- ⑤ 黒褐色土 (7.5YR2/3) 硬質 5-6cmのアカホヤアブロックを含む
- ⑥暗褐色土 (7.5YR2/3) しまりなし アカホヤ、黒色の粒子を含みざらついているが、均質な黒褐色土が腐植
- ⑦ 黒色土 (7.5YR2/1) はほとんど混じりの無い黒色土
- ⑧ 黒色土 (7.5YR2/1) 硬質 しまりあり 粘性大きい アカホヤ粒子はほとんど含まない
- ⑨ 暗褐色土 (7.5YR3/6) しまりあり 粘性大きい 多くの暗色粘土アブロックを含む
- ⑩暗褐色土 (7.5YR3/4) 硬質 しまりあり 粘土及び2-3cmのアカホヤアブロックを含む



※平面図中央の張り込みは埋土による段構造をあらわしている。



第154図 土壌実測図2 (1/30)



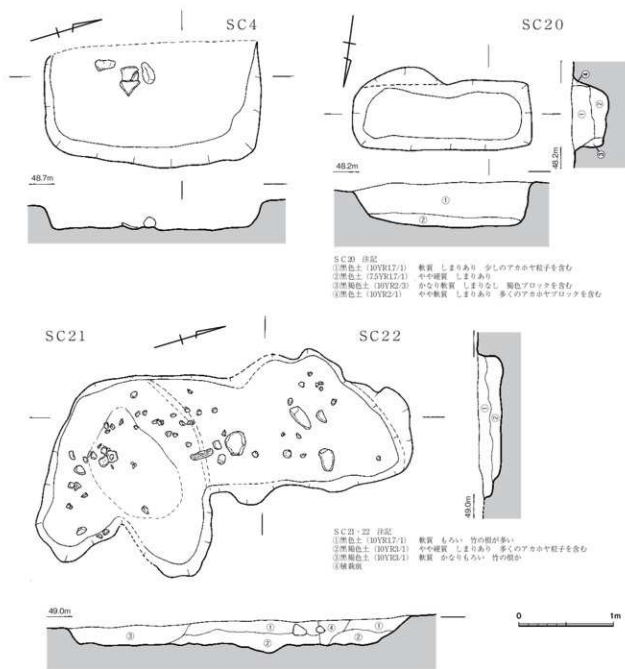
第155図 周溝墓・土壙墓出土遺物実測図
777~780 (1/3)、781~785 (1/2)

出土遺物 (第155図、遺物番号777~780)

弥生土器： 土器の出土が少なく、出土したのも大変もろく、数cm程度の摩滅した細片が多かった。777は1号周溝墓から出土した二重口縁の壺である。口縁部には三方向の斜め凹線が交差し、屈曲部にも凹線を施している。778、780は平底の甕の底部である。いずれも1号と2号周溝墓の遺物が接合したものである。779は1号周溝墓の周溝出土の甕である。

赤色顔料： 1号・2号周溝墓 (SM1、2) の主体部と1号の周溝に付随する土壙墓 (SM3) の全ての底部から赤色顔料を検出している。これらはすべて蛍光X線分析により酸化鉄の成分を検出しており、ペンガラであった (第四章-2)。

炭化種子： 1号周溝墓主体部の埋土を篩にかけたところ、直径約5.5mmの炭化種子を2点検出した。同定の結果、食用となるドンダリのなかまのツブラジイであった (第四章-4)。



第156図 弥生時代 土坑実測図 (1/40)

3 土墳墓 (第153・154図)

周溝をもたない土墳墓は5基検出した。1号周溝墓の周溝北側に存在した土墳墓 (SM3) がこの一群であるか、周溝墓の付随施設であるか判断が難しい。それぞれの規模、特徴を第5表に列挙する。底部中央は直接段掘りを行うか、硬質な埋土により段掘り状の構造を形成することにより埋葬部としているようである。4号土墳墓以外はすべてにどちらかの構造が確認できる。

赤色顔料は3号、5号土墳墓になく、鉄器の出土がないのは周溝墓関連の3基と3号土墳墓であった。赤色顔料、鉄器ともに埋葬部と考えられる部分に集中している。このように、若干の相違点はあるものの規模や主軸方向、構造等に類似点があることから周溝墓と土墳墓は近い時期の遺構であることが考えられる。

	縦 × 横 × 深さ (m) (m) (m)	主軸 方向	二段堀り 構造	硬質埋土の 段状構造	赤色 顔料	出土 鉄器
1号周溝墓主体部 (SM1)	2.5 × 1.4 × 1.1	NBOE	なし	明瞭	全城	なし
2号周溝墓主体部 (SM2)	2.6 × 1.4 × 1.0	NBOW	わずか	なし	一部	なし
1号周溝上の土壌墓 (SM3)	2.2 × 1.2 × 1.2	NBOE	明瞭	不明	一部	なし
1号土壌墓 (SD1)	2.0 × 1.0 × 0.5	EW	わずか	なし	少量	刀子、ヤリガンナ
2号土壌墓 (SD2)	2.4 × 1.3 × 0.8	EW	わずか	明瞭	全城	鉄鍔
3号土壌墓 (SD3)	2.2 × 1.0 × 0.6	NBOE	わずか	明瞭	なし	なし
4号土壌墓 (SD4)	1.1 × 0.8 × 0.6	EW	なし	なし	少量	鉄鍔
5号土壌墓 (SD5)	2.3 × 1.1 × 0.8	NBSE	なし	明瞭	なし	鉄鍔

第5表 周溝墓・土壌墓 主体部観察表

出土鉄器：(第155図、遺物番号781～785)

土壌墓から出土した土器は摩滅した細片が少量であった。5基の土壌墓のうち4基から鉄器が出土した。781は刀子の切先、782はヤリガンナの身部である。いずれも1号土壌墓の埋葬部東側からの出土である。783～785は鉄鍔で、いずれも柳葉鍔である。783は2号土壌墓埋葬部東側の出土でわずかに鍔身のついた断面が四角形の茎である。784は4号土壌墓底部東側の出土である。785は5号土壌墓埋葬部西側の出土で鍔身のみである。

赤色顔料：周溝墓と同質のベンガラと考えられる。1号、2号、4号土壌墓で検出した。

4 土坑 (第156図)

Ⅱ層(鬼界アカホヤ火山灰層)上面検出の遺構の中で周溝墓・土壌墓と同時期の遺物が出土した土坑は3基である。

4号土坑 (SC4)：一辺2.2mの方形であるが西側が杉の樹根と農耕によって破壊されており形態の全容は不明である。深さ約0.2mで底面は平坦である。多数の遺物が出土し中央には直径0.3m程度の巨礫が4個集まっていた。

20号土坑 (SC20)：1.9m×0.9m、深さ0.5mと前述の土壌墓の一群と規模や軸方向が類似している。底面の段構造、埋土による段構造の作出、赤色顔料、鉄器などいずれもなく、埋土がほぼ均質であったため土坑として記載した。

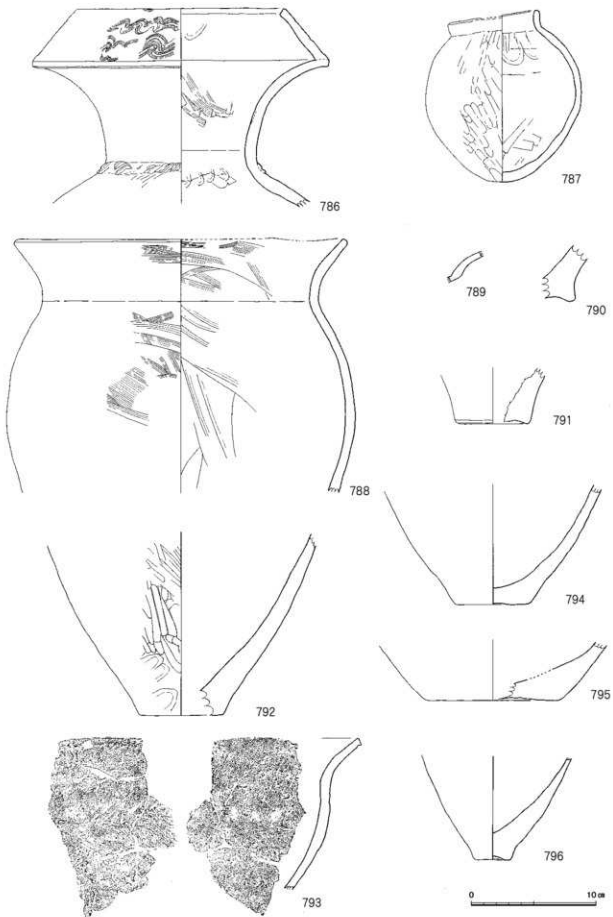
21号、22号土坑 (SC21.22)：不定形の土坑である。深さ0.2m程度でほぼ平坦であり、埋土はほとんど均質である。21が22を切っているが遺物はほぼ同様である。21号が植物による攪乱である可能性もある。

5 土坑・包含層出土の遺物

弥生土器：(第157図、遺物番号786～796)

786、788は4号土坑出土である。786は二重口縁の壺で口縁部には4条の櫛描波状文を横2列に施し、頸部の貼付突帯には刻み目を施している。788は頸部が緩やかに屈曲する甕である。

787、790、791は21号土坑出土である。787は小形の丸底壺で球胴から稜を作って短い口縁が垂直に立ち



第157图 弥生時代 土坑・包含層出土土器実測図 (1/3)

上がる。790、791はわずかに上げ底になった鉢の底部である。789は形態が土壙墓に類似する20号土坑から出土した高坏の坏部である。高坏の出土は本遺跡でこれ1点である。

792～796は遺構外出土の甕、壺、鉢である。遺構出土の遺物との類似点が多い。

第8節 中世の遺構と遺物

表採や表土剥ぎの段階から輸入陶磁器など中世の遺物は確認されていた。Ⅱ層（鬼界アカホヤ火山灰層）上面では、多くの時期の遺構を検出した（第142図）。この中で中世の遺構と考えられるものは以下の2つであった。

1 掘立柱建物跡

調査区の西側はキウイのハウス栽培で多くの遺構が破壊されていたが、中央付近（A26、A27、B26、B27グリッド付近）に200以上のピットが検出された。これらのピットのうち、比較的大形で表面形態が楕円形を呈し、ピット中に20cm程度の角礫を含むものを中心に検討すると、掘立柱建物跡と考えられる等間隔、列状の配列をなした。配列は東西方向に約1.8m間隔に5か所の柱穴が並ぶ列が南北方向に約3.6mの間隔で2列であった。一つの柱穴の楕円の長軸方向は概ね東西方向で主柱穴と床持ち柱の穴であると考えられる。柱固めの礫と思われる礫は砕いた角礫が多く、石臼を割ったものも見られた（遺物番号797、799、800）。南側列の東から2番目の柱穴は一つだけ楕円の長軸方向が南北であり、最も深い部分に傘状の石製品（遺物番号801）が傘を伏せるような状態で出土した（図版18）。

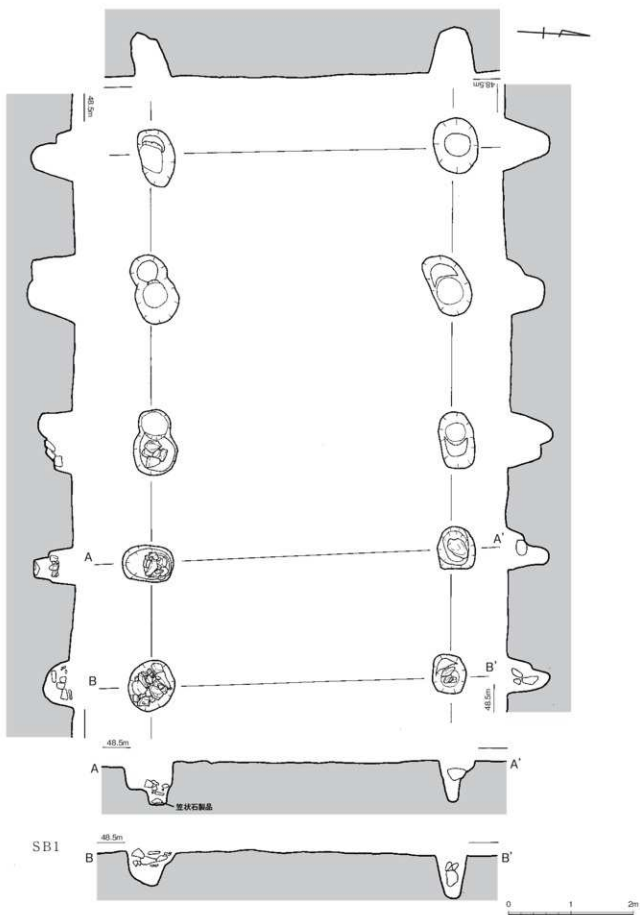
2 溝状遺構

Ⅱ層（鬼界アカホヤ火山灰層）上面からはさまざまな規模の溝状遺構を18条検出した（第159図）。ほとんどは深さ30cm以下の浅いくぼみで軟質な黒色～黒褐色土（表土）を埋土としており鬼界アカホヤ火山灰のブロックや粒子を含む。出土遺物は混在しているが陶磁器類が多いため、時期を中世とした。掘立柱建物跡の南に東西方向にのびる11号溝状遺構（第159図）は他のものと形状が違い多数のピットが溝の中心に並んでおり杭列と考えられる。

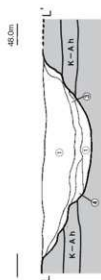
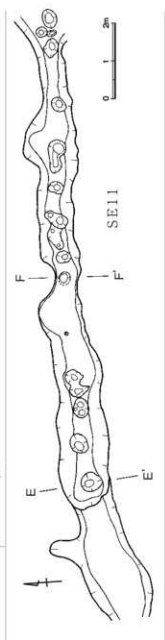
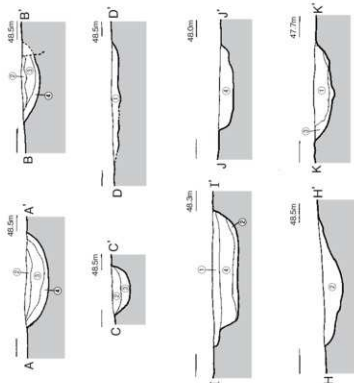
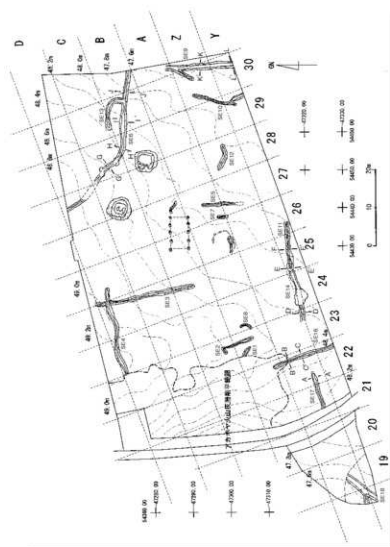
3 中世の遺物（第160～162図、遺物番号797～829）

797、799～801までは前述の掘立柱建物跡の柱穴出土の石臼と傘状石製品である。すべて、阿蘇溶結凝灰岩製であるが形状等には相違があり、割られて柱穴に投入されている。798の石臼は後述の3号不明遺構からの出土である。801は3.9kgある傘状の石製品で、延岡市教育委員会文化課でも市内に類例はないとのこと用途は不明である。

802～821は掘立柱建物跡周辺のピット群や不明遺構、溝状遺構などからの出土陶磁器類である。802は須恵器の蓋のつまみ、803は糸切り底の土師器の皿である。804～811はオリープ灰主体の青磁である。804は刻花文の小皿、805は鎚蓮弁文、806は線描蓮弁文の碗、807、808は稜花皿である。809はこまかい貫入がある端反り碗、810は壺付内まで施軸した碗の高台、811は蓮弁文の盤である。812～814は青花である。812は見込みに花文、高台内に永保長春の銘名、813は体部に梅花文、814は腰部に蕉葉文のある碗である。815は端反りの白磁碗、816は天目碗である。これらの年代はほぼ14～16世紀である。



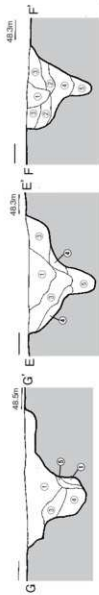
第158图 掘立柱建物跡実測图 (1/60)



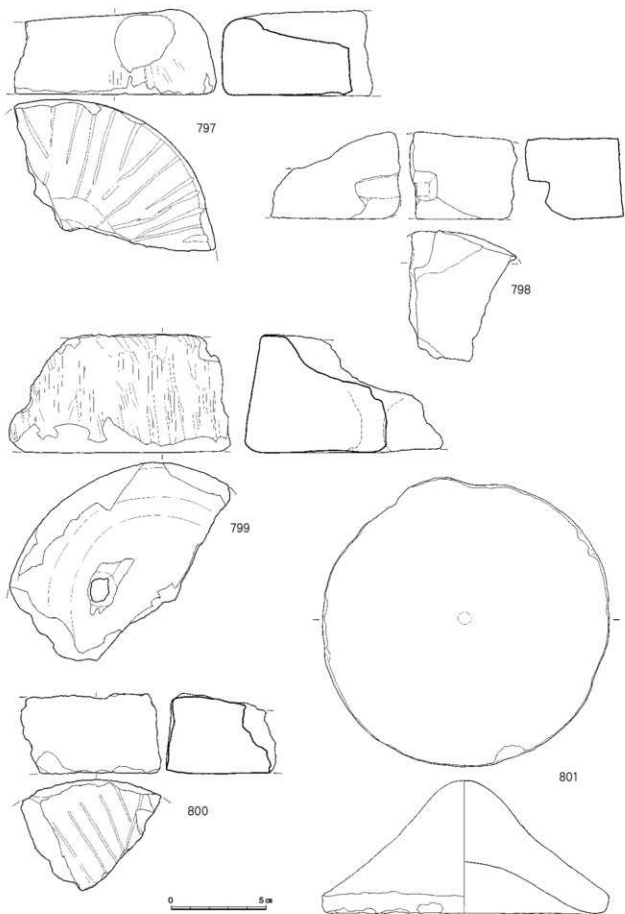
0 1m

溝状遺構断面 1/40
 ① 厚砂地土 (7237822)
 ② 厚砂地土 (7237823-1)
 ③ 厚砂地土 (7237823-1)
 ④ 厚砂地土 (7237823-2)

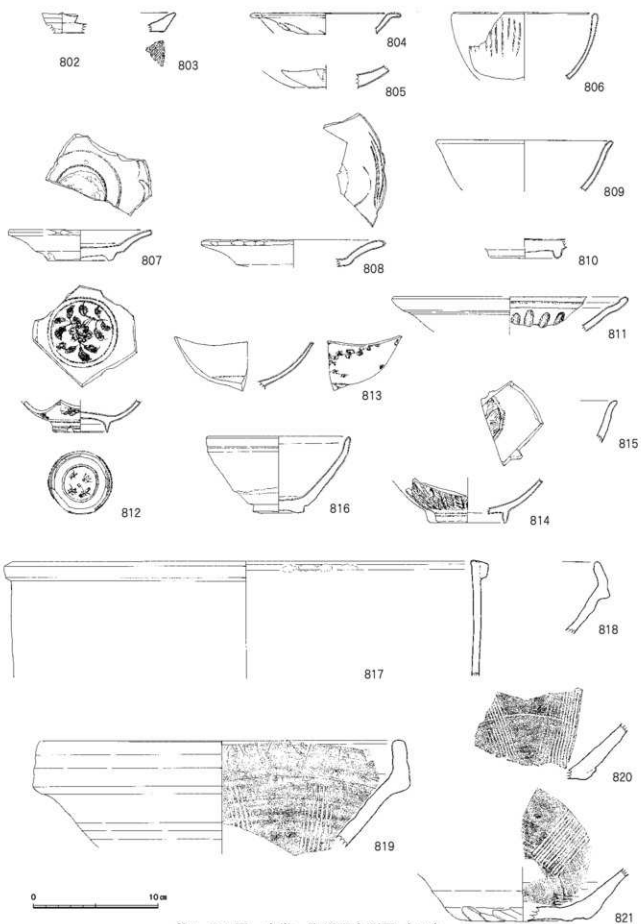
断面 中央は中心、アホヤは含まない
 断面 しまりなし、中央のアホヤを除去する
 断面 しまりなし、アホヤを除去する
 断面 しまりなし、中央のアホヤを除去する
 断面 しまりなし、中央のアホヤを除去する



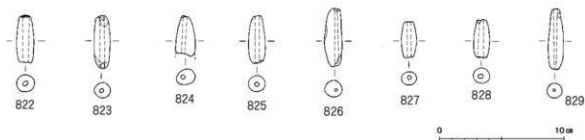
第 159 図 溝状遺構実測図 分布図 (1/1,000)、11号溝状遺構 (1/100)、土層断面図 (1/40)



第160図 中世 石製品実測図 (1/4)



第161图 中世 陶磁器实测图 (1/3)



第162図 土錐実測図 (1/3)

817は推定口径38.4cmの陶器の甕の口縁部である。818～821は播鉢である。焼成はあまり良好ではないが備前系と思われる。822～829は土錐である。最大長3～5cm、重量7g前後で統一されている。陶磁器とはほぼ同一地点からの出土が多く中世の遺物として記載した。

第9節 その他の遺構と遺物

1 不明遺構 (第163～165図)

II層 (鬼界アカホヤ火山灰層) 上面検出遺構のうち、時期、用途不明のものが6基あった。

1号不明遺構：(第163図)

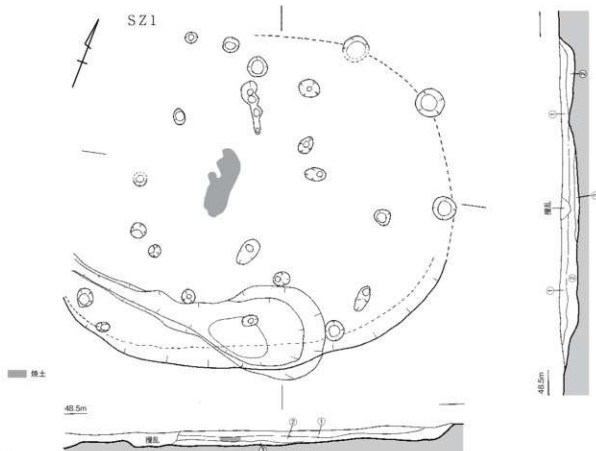
調査区南部のA26グリッドに位置しており掘立柱建物跡や周辺のビット群の南である。検出時は堅穴住居跡かと思われたが北西側の側壁が不明瞭な長楕円形の掘り込みとなり、南側の深い部分には西側からの流水によって掘られたような窪地が検出された。掘削深度は縄文時代早期の包含層に達しており、遺物は混在しているが陶磁器も出土しており、中世の遺構である可能性がある。

2号・3号不明遺構：(第164・165図)

2基はよく似た構造をしている。検出面では直径約5～6m程度の不規則な円形で内部に不規則な方形の段構造が数段作られている。3号では床面に焼土が確認され深いビットが数カ所に掘られている。埋土からは複数の時代の遺物が混在して出土する。量的には縄文時代晩期のものと考えられる組織痕土器や石斧が最も多い。これらは周辺の土坑に晩期のものだけを含むものがありここからの流入と考えられる。出土遺物のうちもっとも時代が新しいのは陶磁器類であり遺構の年代は中世である可能性が高い。用途は不明である。

4号・5号・6号不明遺構：(第163図)

調査区南部Y24グリッドに位置する。複数の遺構が切り合っている。最も古いと考えられるものは5号で約3m×3mの方形を呈し床面は深さ約0.2mではほぼ平坦である。堅穴住居跡の可能性が高いが、遺物を伴わず時代の推定はできない。中世の14号溝状遺構は5号を切っており、4号・6号に切られている。4号・6号は2基の不定形の土坑で、不規則なビットが樹痕を思わせるが、深さ約2mにおよび埋土が縞状に繰り返し堆積している。切り合いから中世以降のものとするのが人工物であるかどうかを含め時期用途不明である。

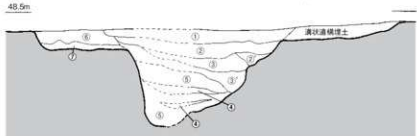
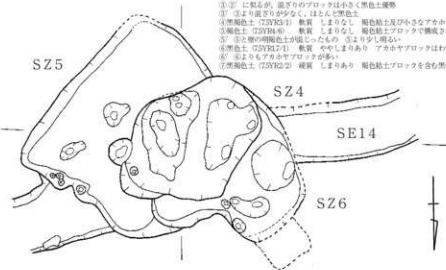
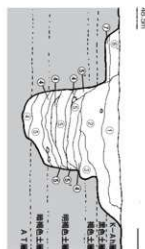


SZ1 詳記

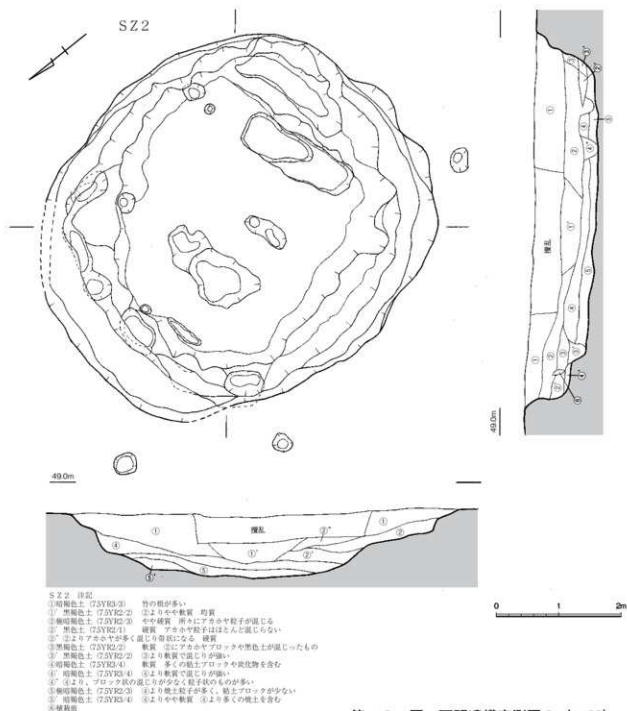
- ①黒褐色土 (7.5V33-1) 軟質 しまりなし。アカカヤ粒子をほとんど含まない。植物根多し。陶器断片等を含む。粘性は②に對し。アカカヤブロックを多く含む部分がある。焼土や大きな炭化物を含む。固くしまる。粘性大さき。わずかにアカカヤ粒子や焼土を含む。
- ②黒土 (7.5V32-1)
- ③暗褐色土 (7.5V34)

SZ4・5・6 SE14 詳記

- ①黒褐色土 (7.5V33-2) 軟質 しまりなし。少しのアカカヤブロックを含む。
- ②黒土 (7.5V32-1) 褐色粘土及び4-5cmのアカカヤのブロックを多く含む。
- ③より粘土ブロックが多い。
- ④⑤に對し。炭が、炭がりのブロックは小さく黒色土層。
- ⑥より炭がりが少なく、ほとんど黒土。
- ④黒褐色土 (7.5V33-1) 軟質 しまりなし。褐色粘土及び小さなアカカヤのブロックを含む。
- ③褐色土 (7.5V34) 軟質 しまりなし。褐色粘土ブロックで構成される。
- ⑤⑦と③の暗褐色土が混じったもの。③より少し明るい。
- ⑥黒土 (7.5V32-1) 軟質 ややしまりあり。アカカヤブロックはわずかで黒土中心。
- ⑧ ⑥よりもアカカヤブロックが多い。
- ⑦黒褐色土 (7.5V32-2) 硬質 しまりあり。褐色粘土ブロックを合れ黒土。



第163図 不明遺構実測図1 (1/60)

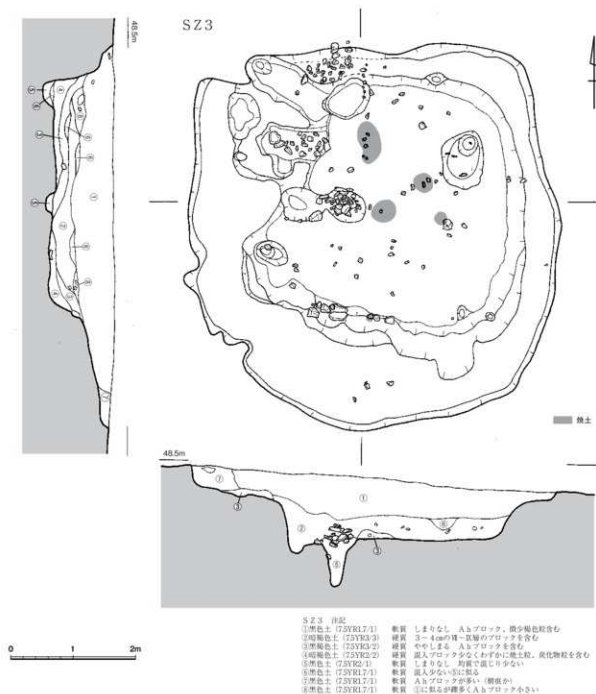


第164図 不明遺構実測図2 (1/60)

2 その他の遺物 (第166・167図、遺物番号830~844)

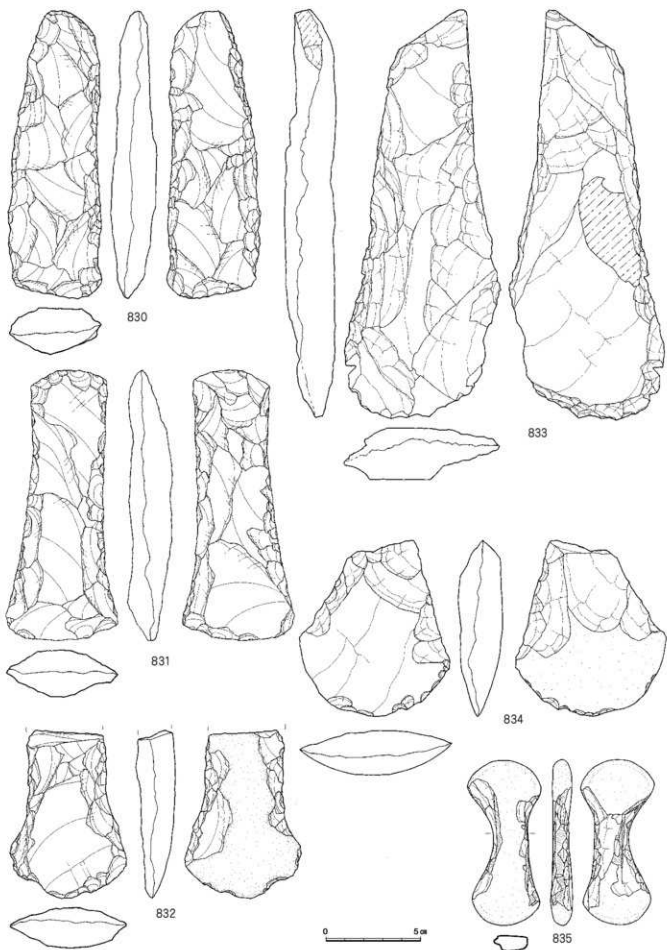
表土剥ぎ作業中の採取や農業による礫・遺物等の集積、不明遺構などⅡ層以上の層準、遺構からの出土遺物のうち分類の困難なものを一括して記載する。

830は~834は砂岩・千枚岩製の打製石斧である。833は3号不明遺構の底部のピット上に集められた礫や石臼とともに出土している。形態からは縄文時代晩期の遺物の可能性がある。835はⅡ層(鬼界アカホヤ火山灰層)上面検出のピットから出土した分銅型石製品である。扁平な円礫の両側縁を大きく挟り、

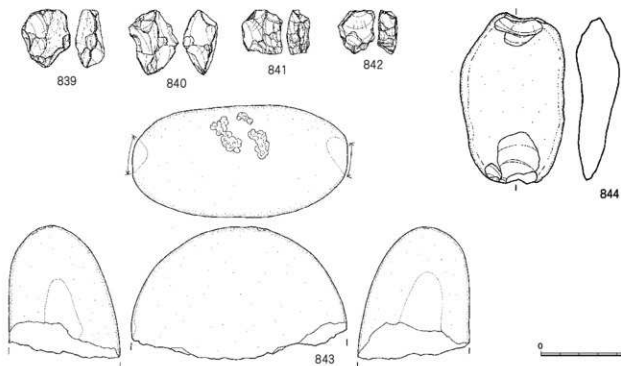
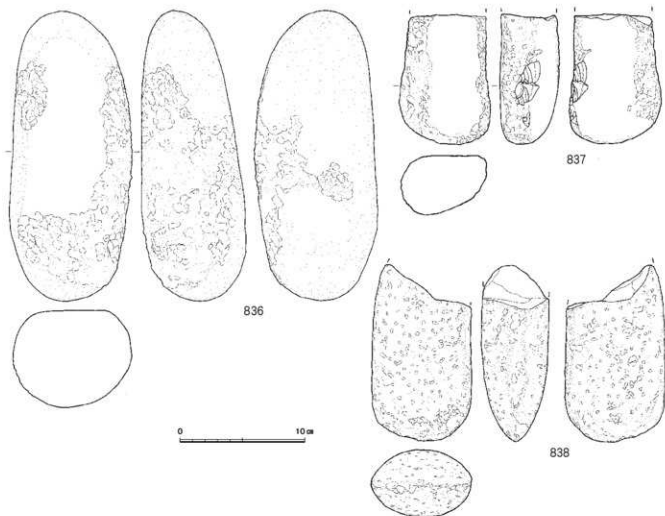


第165図 不明遺構実測図3 (1/60)

破断面を研磨している。石斧とするには刃部がなく石錘とするには抉りが深いと思われる。836~838は太い棒状の砂質礫岩製の円盤を素材としており、多数の敲打痕が残る。838の形態から磨製石斧のようであるが3点とも擦痕はなく未製品と考えられる。839~842はチャート製の明瞭に稜がつぶれた火打石である。839、841はそれぞれ2号、3号不明遺構からの出土である。843は行藤山花崗斑岩製の磨石、844は千枚岩製の両端打欠石錘である。



第166圖 時期不明 石器実測圖1 (1/2)



第167图 时期不明 石器实测图2
836~838 (1/3), 839~844 (1/2)

第IV章 自然科学分析

本遺跡では第一次調査で周溝墓のリン・カルシウム含量分析、第二次調査で炉穴群、集石遺構、周溝墓の放射性炭素年代分析と赤色顔料の蛍光X線分析、第三次調査で旧石器時代の陥し穴状遺構と炭化物集中部の放射性炭素年代分析と樹種同定、第四次調査で炉穴群出土の炭化種実による放射性炭素年代分析と種実同定を実施した。いずれも古環境研究所に分析を委託した。このほか宮崎県工業技術センターに依頼し縄文土器の胎土鉱物のE P M A分析を実施した。以下、それぞれの分析ごとに記載する。1~4は古環境研究所の分析調査報告書を改変して掲載している。

1 第一次調査における自然科学分析

リン・カルシウム含量分析

1. 分析方法： エネルギー分散型蛍光X線分析システム（日本電子㈱製、JSX3201）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。試料の処理法は次のとおりである。

- 1) 試料を絶乾（105℃・24時間）
- 2) メノウ製乳鉢を用いて試料を粉砕
- 3) 試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力15t/cm²でプレスして錠剤試料を作成
- 4) 測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定

2. 分析結果： 各元素の定量分析結果（wt%）を第6表に示し、リン酸（P₂O₅）とカルシウム（CaO）の含量を第168図に示す。

3. 所見： 一般に、未耕地の土壤中におけるリン酸含量は0.1~0.5%程度、耕地土壌でリン酸肥料が投入された場合は1.0%程度である。農耕地では施肥による影響が大きく、目的とする試料の分析結果のみから遺構・遺物内における生物遺体の存在を確認するのは困難である。このため、比較試料（遺物・遺構外の試料）との対比を行う必要がある。

(1) SM-1： SM-1の底部（東西）から採取された9点および遺構外の比較試料について分析を行った。その結果、遺構底部の試料のリン酸含量は0.69~1.31%（平均1.15%）と部分的に高い値を示しているが、比較試料の1.92%よりも低い値である。また、カルシウム含量は0.44~0.89%（平均0.64%）であり、比較試料の3.46%よりも明らかに低い値である。

以上のように、遺構底部のリン酸含量は部分的に高い値を示しており、リン酸を多く含む何らかの生物遺体が存在していたことが示唆されるが、比較試料よりも低い値であることから、後代における施肥などの影響も否定できない。カルシウムについては、一般に溶解性が大きいことから（竹追、1993）、土壌中で拡散・移動した可能性が考えられる。

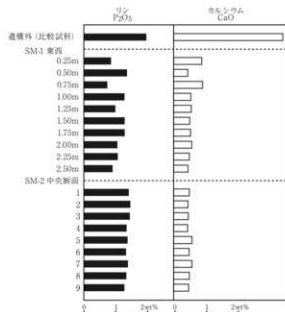
(2) SM-2： SM-2の埋土の上部（試料1）から底部（試料9）までの各試料について分析を行った。その結果、リン酸含量は1.20~1.40%（平均1.31%）といずれも高い値を示しているが、比較試料の1.92%よりも低い値である。また、カルシウム含量は0.41~0.55%（平均0.47%）であり、比較試料の3.46%よりも明らかに低い値である。

以上のように、遺構埋土のリン酸含量はいずれも高い値を示しており、リン酸を多く含む何らかの生物遺体が存在していたことが示唆されるが、比較試料よりも低い値であることや、埋土下部に向かって減少する傾向が認められることから、後代における施肥などの影響も否定できない。カルシウム含量については、前述と同様のことが考えられる。

地点・試料 番号 No. 化学式	濃度 (%)	SM-1 東西									
		1	0.25	0.50	0.75	1.00	1.25	1.50	1.75	2.00	2.25
13 Al ₂ O ₃	26.69	35.93	29.96	29.64	29.34	30.25	29.30	29.29	31.64	31.08	31.25
14 SiO ₂	51.71	51.81	51.21	48.29	51.82	51.92	51.32	53.17	51.90	50.67	50.50
15 Fe ₂ O ₃	1.92	0.82	1.31	0.69	1.23	0.94	1.34	1.23	1.00	1.01	0.85
16 SO ₃	0.51	0.80	0.68	0.78	0.65	0.71	0.58	0.65	0.64	0.70	0.79
19 K ₂ O	1.15	1.48	1.33	1.34	1.21	1.37	1.21	1.35	1.49	1.30	1.29
20 CaO	3.46	0.87	0.44	0.89	0.54	0.55	0.50	0.52	0.56	0.47	0.44
22 TiO ₂	1.56	0.79	1.50	0.83	1.47	1.37	1.56	1.39	1.25	1.49	1.51
23 V ₂ O ₅	0.03	0.03	0.08	0.03	0.07	0.04	0.08	0.06	0.05	0.06	0.06
25 MnO	0.28	0.14	0.13	0.13	0.15	0.19	0.11	0.14	0.20	0.28	0.28
26 Fe ₂ O ₃	12.60	7.23	13.23	7.30	13.40	12.55	13.96	12.17	11.17	12.80	12.90
35 Br	0.04	0.02	0.06	0.02	0.06	0.04	0.06	0.06	0.05	0.05	0.05
38 SrO	0.03	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
40 ZrO ₂	0.00	0.05	0.07	0.05	0.05	0.06	0.06	0.06	0.05	0.07	0.06

地点・試料 番号 No. 化学式	SM-2 中央断面								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
13 Al ₂ O ₃	38.85	26.44	27.20	36.69	27.28	28.23	27.28	28.23	28.57
14 SiO ₂	54.19	54.89	53.40	55.12	54.17	52.65	54.17	52.65	52.48
15 Fe ₂ O ₃	1.35	1.40	1.39	1.28	1.31	1.26	1.31	1.26	1.20
16 SO ₃	1.13	1.10	1.30	1.08	1.08	1.04	1.08	1.04	0.94
19 K ₂ O	0.66	0.71	0.74	0.72	0.76	0.82	0.78	0.82	0.99
20 CaO	0.47	0.43	0.44	0.41	0.55	0.46	0.55	0.46	0.44
22 TiO ₂	1.70	1.66	1.69	1.54	1.57	1.67	1.57	1.67	1.59
23 V ₂ O ₅	0.03	0.06	0.05	0.05	0.05	0.03	0.05	0.03	0.05
25 MnO	0.36	0.32	0.40	0.41	0.42	0.39	0.42	0.39	0.40
26 Fe ₂ O ₃	13.09	12.81	13.33	12.56	12.66	13.24	12.66	13.24	13.02
35 Br	0.10	0.10	0.08	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04
38 SrO	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01
40 ZrO ₂	0.08	0.08	0.06	0.07	0.07	0.05	0.07	0.05	0.05

第 6 表 周溝墓土壌蛍光 X 線分析値 (単位 wt %)



第 168 図 周溝墓リン・カルシウム含量図

2 第二次調査における自然科学分析

放射性炭素年代分析

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	卯穴1群, SP-1, 焼土25	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.2	卯穴1群, SP-1, 焼土2	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.3	卯穴2群, SP-2, 焼土5	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.4	卯穴2群, SP-2, 焼土10	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.5	卯穴北部群, SP-3, 焼土7	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.6	卯穴北部群, SP-4, 焼土4	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.7	集石遺構北部群, SI-9	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.8	集石遺構南部群, SI-22	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.9	集石遺構南部群, SI-23	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.10	周溝墓, SM-1	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.11	周溝墓, SM-2	炭化物	酸-74㍻・酸洗浄, 石墨調整	AMS

2. 測定結果

試料名	¹⁴ C 年代 (年 BP)	δ ¹³ C (‰)	補正 ¹⁴ C 年代 (年 BP)	暦年代 (西暦)	測定No. (Beta)
No.1	9460 ± 50	-25.9	9450 ± 50	交点: cal BC 8735 1σ: cal BC 8775 ~ 8640 2σ: cal BC 9095 ~ 9020, 8810 ~ 8610	181425
No.2	9530 ± 40	-25.9	9520 ± 40	交点: cal BC 8790 1σ: cal BC 9105 ~ 9010, 8820 ~ 8760 2σ: cal BC 9130 ~ 8985, 8920 ~ 8730	181735
No.3	9450 ± 60	-26.8	9510 ± 60	交点: cal BC 8780	181426

No.4	9550 ± 60	-26.3	9530 ± 60	1σ : cal BC 9115 ~ 9005, 8830 ~ 8735 2σ : cal BC 9150 ~ 8630 交点 : cal BC 8795	181427
No.5	9600 ± 60	-26.2	9580 ± 60	1σ : cal BC 9125 ~ 8990, 8910 ~ 8750 2σ : cal BC 9170 ~ 8690 交点 : cal BC 9115, 8895, 8895, 8845	181428
No.6	9310 ± 50	-26.4	9290 ± 50	1σ : cal BC 9160 ~ 8790 2σ : cal BC 9210 ~ 8745 交点 : cal BC 8545	181429
No.7	9020 ± 50	-25.9	9010 ± 50	1σ : cal BC 8600 ~ 8460 2σ : cal BC 8630 ~ 8320 交点 : cal BC 8245	181430
No.8	9230 ± 40	-24.1	9240 ± 40	1σ : cal BC 8265 ~ 8220 2σ : cal BC 8285 ~ 8190 交点 : cal BC 8460	181431
No.9	9490 ± 50	-27.8	9440 ± 50	1σ : cal BC 8540 ~ 8415, 8375 ~ 8325 2σ : cal BC 8580 ~ 8300 交点 : cal BC 8730	181432
No.10	1870 ± 40	-26.4	1850 ± 40	1σ : cal BC 8765 ~ 8630 2σ : cal BC 9080 ~ 9035, 8805 ~ 8600 交点 : cal AD 140	181433
No.11	1930 ± 40	-26.4	1910 ± 40	1σ : cal AD 115 ~ 230 2σ : cal AD 75 ~ 250 交点 : cal AD 85	181434
				1σ : cal AD 60 ~ 130 2σ : cal AD 20 ~ 215	

3. 所見： 加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定の結果、No1 (炉穴SP-1, 焼土25) の炭化物では9450±50年BP (1σの暦年代でBC8775~8640年)、No2 (炉穴SP-1, 焼土2) の炭化物では9520±40年BP (1σの暦年代でBC9105~9010, 8820~8760年)、No3 (炉穴SP-2, 焼土5) の炭化物では9510±60年BP (1σの暦年代でBC9115~9005, 8830~8735年)、No4 (炉穴SP-2, 焼土10) の炭化物では9530±60年BP (1σの暦年代でBC9125~8990, 8910~8750年)、No5 (炉穴SP-3, 焼土7) の炭化物では9580±60年BP (1σの暦年代でBC9160~8790年)、No6 (炉穴SP-4, 焼土4) の炭化物では9290±50年BP (1σの暦年代でBC8600~8460年)、No7 (集石遺構SI-9) の炭化物では9010±50年BP (1σの暦年代でBC8265~8220年)、No8 (集石遺構SI-22) の炭化物では9240±40年BP (1σの暦年代でBC8540~8415, 8375~8325年)、No9 (集石遺構SI-23) の炭化物では9440±50年BP (1σの暦年代でBC8765~8630年)、No10 (周溝墓SM-1) の炭化物では1850±40年BP (1σの暦年代でAD115~230年)、No11 (周溝墓SM-2) の炭化物では1910±40年BP (1σの暦年代でAD60~130年) の年代値が得られた。

No2、No3、No4、No5、No8では、放射性炭素年代測定値よりも暦年代の年代幅がかなり大きくなっているが、これは該当時期の暦年代較正曲線が不安定なためである。

蛍光X線分析

1. 試料： 試料は、周溝墓 (SM-1、SM-2、SM-3) の底部から出土した3点の赤色顔料付着土壌である。ここでは、赤色顔料の構成元素から顔料の種類を同定する目的で蛍光X線分析を行った。なお、比較試料としてSM-1の赤色顔料付着が少ない部分についても分析を行った。

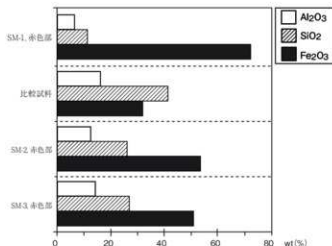
2. 分析方法： 前述のリン・カルシウム含量分析と同様である。
3. 分析結果： 各元素の定量分析結果 (wt%) を、第7表および第169図に示す。
4. 所見： 赤色顔料としては、一般的に水銀朱 (硫化水銀: HgS)、ベンガラ (酸化第二鉄: Fe₂O₃)、鉛丹 (酸化鉛: Pb₃O₄) が知られている (市毛, 1998, 本田, 1995)。分析の結果、各試料ともFe (鉄) の明瞭なピークが認められ、Hg (水銀) やPb (鉛) は検出されなかった。Fe₂O₃ の含量は、SM-1では72.1%、SM-2では53.5%、SM-3では51.0%を示しており、比較試料の31.9%よりも明らかに高い値である。以上の結果から、周溝墓 (SM-1、SM-2、SM-3) の底部から出土した赤色顔料付着土壌の赤色顔料は、いずれもベンガラと考えられる。

文献：市毛 勲 (1998) 新版朱の考古学. 考古学選書, 雄山閣出版

本田光子 (1995) 古墳時代の赤色顔料. 考古学と自然科学, 31-32, p.63-79.

地点・試料 番号/化学式	測定量値			
	SM1赤色部	比較試料	SM2赤色部	SM3赤色部
12 MgO			0.16	
13 Al ₂ O ₃	6.38	15.99	12.21	14.17
14 SiO ₂	11.04	41.17	26.08	36.75
15 P ₂ O ₅	0.76	1.28	0.71	0.96
19 K ₂ O	0.45	2.51	1.93	1.87
20 CaO	0.46	3.14	0.83	0.70
22 TiO ₂	0.88	2.62	3.29	3.28
23 V ₂ O ₅	0.08	0.11	0.17	0.21
25 MnO	7.68	0.75	0.60	0.50
26 Fe ₂ O ₃	72.10	31.90	53.48	50.96
35 Br			0.12	
37 Rb ₂ O	0.02	0.05	0.10	0.30
38 SrO	0.04	0.15	0.05	0.11
40 ZrO ₂	0.10	0.33	0.44	0.35

第7表 赤色顔料蛍光X線分析値 (単位 wt%)



第169図 赤色顔料主要元素含量比較図

3 第三次調査における自然科学分析

放射性炭素年代分析

1. 試料と方法

試料名	地点・層序	種類	前処理・調整	測定法
No.1	VI層, 陥し穴状遺構No.3	炭化物	酸-74% - 酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.2	VI層, 陥し穴状遺構No.2	炭化物	酸-74% - 酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.3	VII層, 炭化物集中部	炭化物	酸-74% - 酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.4	XI層, 炭化物集中部	炭化物	酸-74% - 酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.5	XI層, 炭化物集中部	炭化物	酸-74% - 酸洗浄, 石墨調整	AMS

2. 測定結果

試料名	測定No. (Beta)	¹⁴ C年代 (年 BP)	δ ¹³ C (‰)	補正 ¹⁴ C年代 (年 BP)	暦年代 (西暦)
No.1	184679	13000 ± 50	-26.5	12980 ± 50	交点: cal BC 13660 1σ: cal BC 13870 ~ 13200 2σ: cal BC 13960 ~ 13070

No2	184678	18680±70	-24.5	18690±70	交点:cal BC 20240 1σ:cal BC 20670～19820 2σ:cal BC 20750～19740
No3	183467	19570±90	-25.1	19570±90	-
No4	184680	30610±220	-28.5	30550±220	-
No5	183469	30650±230	-26.3	30630±230	-

3. 所見： 加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の結果、VI層陥し穴状遺構No3の炭化物では12980±50年BP（1σの暦年代でBC13870～13200年）、VI層陥し穴状遺構No2の炭化物では18690±70年BP（1σの暦年代でBC20670～19820年）の年代値が得られた。その他の試料の年代値については、暦年代較正の範囲外である。

樹種同定

1. 試料： 試料は、A区VII層炭化物集中部から採取された炭化材5点、およびB区XI層炭化物集中部から採取された炭化材4点の計9点である。
2. 方法： 試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。
3. 結果： 第8表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

試料			結果(学名/和名)	
A区	VII層炭化物集中部	No. 1	<i>Pseudotsuga japonica</i> Beissn.	トガサワラ
A区	VII層炭化物集中部	No. 2	<i>Pseudotsuga japonica</i> Beissn.	トガサワラ
A区	VII層炭化物集中部	No. 3	<i>Pseudotsuga japonica</i> Beissn.	トガサワラ
A区	VII層炭化物集中部	No. 4	<i>Pseudotsuga japonica</i> Beissn.	トガサワラ
A区	VII層炭化物集中部	No. 5	<i>Pseudotsuga japonica</i> Beissn.	トガサワラ
B区	XI層炭化物集中部	No. 1	<i>Ostrya japonica</i> Sarg.	アサダ
B区	XI層炭化物集中部	No. 2	<i>Ostrya japonica</i> Sarg.	アサダ
B区	XI層炭化物集中部	No. 3	<i>Ostrya japonica</i> Sarg.	アサダ
B区	XI層炭化物集中部	No. 4	<i>Ostrya japonica</i> Sarg.	アサダ

第8表 樹種同定結果表

トガサワラ *Pseudotsuga japonica* Beissn. マツ科

図版1-1・2

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管および垂直、水平両樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行は比較的急で、正常垂直樹脂道が見られる。放射断面：放射組織には、放射柔細胞と放射仮道管が存在する。放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型で、1分野に3～5個存在する。また仮道管の内壁には、水平に近いらせん肥厚が密に存在する。接線断面：放射組織は単列であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。仮道管の内壁には密に並ぶらせん肥厚が見られる。

横断面：中型からやや小型で丸い道管が単独あるいは2～5個放射方向に複合してややまばらに散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁には微細ならせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが上下の縁辺部には方形細胞が見れる。接線断面：放射組織は、上下の縁辺部が方形細胞からなる異性放射組織型で、1～3細胞幅である。

5. 所見： 分析の結果、A区Ⅶ層炭化物集中部から採取された炭化材5点はすべてマツ科のトガサワラ、B区XⅠ層炭化物集中部から採取された炭化材4点はすべてカバノキ科のアサダと同定された。トガサワラは、現在では本州（紀伊半島）、四国（高知県）の深山のごく限られた地域に自然分布する常緑高木で通常高さ20～30m、径60～80cmである。アサダは、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は耐朽性および保存性は中庸で、建築、家具、器具、土木、船舶、車両などに用いられる。

4 第四次調査における自然科学分析

放射性炭素年代分析

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No1	Ⅵ層上面検出 炉穴群SP1	炭化種実(クマノミズキ)	酸-7491-酸洗浄	AMS

2. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	14C年代 (年BP)	$\delta^{13}C$ (‰)	補正14C年代 (年BP)	暦年代(西暦) (1 σ :68%確率, 2 σ :95%確率)
No1	218014	9520 \pm 70	-27.1	9490 \pm 70	交点:cal BC 8770 1 σ :cal BC 9100-9010, 8820-8710 2 σ :cal BC 9150-8610

3. 所見： 加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果、炉穴群SP1の炭化種実では9490 \pm 70年BP（1 σ の暦年代でBC9100～9010, 8820～8710年）の年代値が得られた。放射性炭素年代測定値よりも暦年代の年代幅がかなり大きくなっているが、これは該当時期の較正曲線が不安定なためである。

炭化種実同定

1. 試料： 試料は、Ⅳ層上面検出の炉穴群（SP1～SP6）およびⅡ層上面検出の1号周溝溝（SM1）の7遺構から選別・採取された計44ケースの炭化種実（炭化物）である。試料の詳細を第9表に示す。

2. 方法： 肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

3. 結果

(1) 分類群

分析の結果、樹木4、草本3の計8分類群が同定された。学名、和名および粒数を第9表に示し、主要な分類群を図版2に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

試料 No	伊穴群 番号	ケース No	焼土 番号	分類群		部位	個数	炭化材片	不明炭化物	備考	
				学名	和名						
1		3	5	<i>Cornus brachypoda</i> C.A. Mey.	クマノミズキ	核 (完形)	2				
2		9	24	<i>Zanthoxylum</i>	サンショウ属	種子片	1	1		芽1, 刺1	
3		10	21	<i>Cornus brachypoda</i> C.A. Mey.	クマノミズキ	核 (破片)	1				
4		13	5							芽1	
5		23	14							虫齧1	
6		31	12	Unknown	不明種実	破片	1				
7		38	11							芽1	
8	SP1	46	8						3	芽1	
9		47	6							芽2	
10		51	3						6	昆虫片1	
11		58	26					1		虫齧7	
12		62	29							芽1	
13		64	1						2		
14		70	17	Unknown	不明						種実なし
15		80	10								芽1
16		84	23						1		
17		1	14	Rubiaceae ?	アカネ科?	種子	1				
18		14	1						3		
19		20	10							芽1	
20		24	16							虫齧1	
21	SP2	25	12							芽1	
22		67	2	<i>Broussonetia kazinoki</i> × <i>Broussonetia papyrifera</i>	コウゾ	種子片	2			虫齧1	
23		68	5					7	2		
24		72	11					3	3	虫齧1	
25		90	9	<i>Cornus brachypoda</i> C.A. Mey.	クマノミズキ	核 (破片)	4		13		
26		12	5							芽1	
27		15	4.5							芽5	
28		16	4.5							芽1	
29		17	4							芽4	
30		27	4	Cyperaceae ?	カヤツリグサ科?	果実	1				
31		28	5					1		芽1	
32	SP3	29	8						14	芽1	
33		30	9							芽1	
34		32	6					2	2		
35		57	1					2		芽6	
36		63	11						2		
37		73	10	<i>Cornus brachypoda</i> C.A. Mey.	クマノミズキ	核 (完形) (半形) (破片)	1 2 16		1		
38		86	-								芽6
39	SP4	88	25					8	1		
40		89	4	<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	10	3		芽9	
41		60	5						1		
42	SP5	65	2	Unknown	不明種実		1	3	1		
43	SP6	32	4					1	1		
44	SM1			<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky.	フアラジイ	子葉 (半形)	2				

第9表 山田遺跡における炭化種実同定結果

[樹木]

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schott. 子葉 (半形) ブナ科

子葉は広卵形を呈し、表面模様が残る。

コウソ *Broussonetia kaiznoki* × *B. papyrifera* 種子 (半形) クワ科

明黄赤色で広楕円状円形を呈す。光沢はなく、左右の両側面のうち一側面は稜になり、次第に厚さを増す。この面には幅広い浅い凹みがある。果皮にはいは状の低い突起が散生し、ざらつく。

サンショウ属 *Zanthoxylum* 種子 (破片) ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。破片のため、属レベルの同定にとどめた。

クマノミズキ *Cornus brachypoda* C. A. Mey. 核 (完形・半形・破片) ミズキ科

黒褐色で球形を呈す。表面に一本の広い溝がめぐり、数本の細い縦筋が走る。

[草本]

カヤツリグサ科? *Cyperaceae*? 果実

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。基部に針状の付属物を持つ。

黒褐色で倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。

タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒褐色で先端がとがる卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

黒褐色で先端がとがる広卵形を呈す。表面には網目模様があり、断面は両凸レンズ形である。

アカネ科? *Rubiaceae*? 種子

偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。炭化の度合いが著しく、表面模様の観察が出来ないためアカネ科?とした。

(2) 種実群集の特徴

1) SP1 (No1~No16)

クマノミズキ3、サンショウ属1不明種実1、および炭化材片、芽、刺、虫瘤、昆虫片が同定された。

2) SP2 (No17~No25)

クマノミズキ4、コウソ2、アカネ科?1、および炭化材片、芽、虫瘤が同定された。

3) SP3 (No26~No38)

クマノミズキ19、カヤツリグサ科?1、および炭化材片、芽が同定された。

4) SP4 (No39、No40)

タデ属10、および炭化材片、芽が同定された。

5) SP5 (No41、No42)

不明種実1、および炭化材片が同定された。

6) SP6 (No43)

炭化材片等が同定された。

7) SM1 (No44)

ツブラジイ2が同定された。

4. 所見：種実同定の結果、IV層上面検出の炉穴群（SP1～SP6）の試料では、クマノミズキ、コウゾ、サンショウ属、カヤツリグサ科？、タデ属、アカネ科？などが同定された。コウゾやサンショウ属は、集落に近い山地に多く、クマノミズキは谷沿いなど水分の多いところに分布する。カヤツリグサ科？、タデ属、アカネ科？は草本であり、日当たりの良いところを好む。

II層上面検出の1号周溝墓（SM1）の試料では、ツブラジイが同定された。ツブラジイは照葉樹林の主要構成要素であり、二次林にもなる。シイ類の種実（ドングリ）は、アク抜きが必要がなく、そのままでも食用となる。

5 縄文時代早期土器の胎土鉱物分析

EPMA分析

1. 分析の経緯

縄文時代早期の土器のうち赤褐色の胎土中に多数の黒色鉱物を含む1群があった。これは第三章第5節の炉穴群出土遺物の項で述べたII類の土器である。一般的に縄文土器に角閃石が含まれることは知られているが、双眼実体顕微鏡による観察では角閃石の特徴である柱状ではなく不定形でガラス光沢をもつ鉱物で観察の印象は黒曜石に類似していた。胎土に黒曜石を粉砕して混入することは考えにくく黒色鉱物を多く含む土壌の存在が予想された。そこで、遺跡の基底部を形成する阿蘇4火砕流堆積物がガラス質のレンズを含むことに着目し、これが風化した粘性の高い土壌を使用して土器を作成したのではないかと推定した。この検証のため、土器から採取した黒色鉱物と遺跡直下から採取した阿蘇4火砕流堆積物中の火山ガラス、および手持ちの九州各地の黒曜石資材により電子線マイクロアナライザー（EPMA）分析を実施することとした。また、分析依頼の準備中に野首1遺跡出土の土器にも黒曜石らしき鉱物があるとの情報があり同時に分析を実施したため山田、野首1の両遺跡試料を分離せずに記載する。分析は宮崎県工業技術センターに依頼した。結果の受領にあたってはEPMA分析にあたった同センターの中田一則部長から直接データの説明や概要報告を受けた。

2. 概要報告の要旨

- 1) 分析に使った試料は1mm角程度の粒子で、金コーティングして実施した。
- 2) 一般に工業試料の分析では数cm角の面を平滑に研磨してから電子線を照射するが今回の試料は不定形であり、電子顕微鏡下で平滑な部分を探して分析を実施した。その際、埋蔵文化財センターからの依頼はなかったが分析面の電子顕微鏡写真も撮影したので添付する。
- 3) サンプルNo1（山田遺跡土器胎土中の黒色鉱物）は、不規則に発泡しており、電子線が不規則に反射していたため、複数回分析を実施し、最も信頼できると判断したデータを採用した。
- 4) 今回の分析では正確な定量分析は望めないが、珪素Si、酸素Oなど岩石に普遍的な元素に大きな差異がなければ、元素の量比はある程度、信頼できると考えてよい。
- 5) グラフデータを見る限りでは、顕著な差異は見られず、いずれのサンプルも岩石によく見られる成分が検出されている。岩石や火山灰の分析経験がないので、比較検討についてのコメントは差し控える。データの解析や検討は、埋蔵文化財センターで実施してほしい。

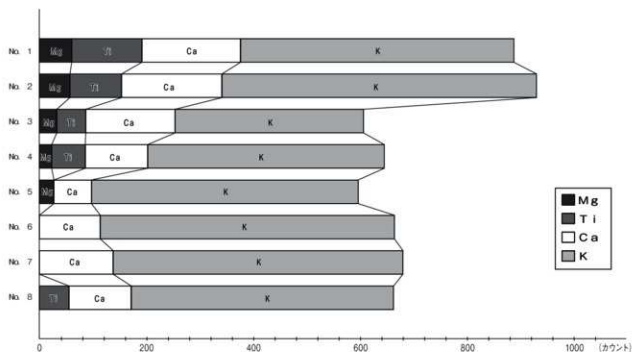
3. 解析と検討

前述の報告を受けて、センターにてデータ解析を試みた。専門の研究者が蛍光X線分析等で比較に用いている Sr、Rb、Zr といった微量元素は今回検出できていないため、グラフピークに差異の見られる Mg、Ti、Ca、K について着目し、X線強度を計数した。さらにそれぞれのデータの信頼性の検討のための標準試料として Si についても計数した。計数についてはグラフのピーク高を直接読みとり、当該する目盛り軸に対して比例配分してX線強度（単位：カウント）を算出し第10表にまとめた。解析方法は簡易の数値比較であり必ずしも正しい分析手法ではないかもしれないが、得られた情報から考察した事項を以下に記載する。

- 1) 岩石の主要成分である二酸化珪素に含まれる Si については、ほぼ全試料で47.9~62.9の間に収まり、平均値55.6からの振れ幅は-7.7と+7.3である。この数値から成分比の検討は可能であると仮定して解析を進めた。
- 2) Na1山田遺跡土器胎土中の黒色鉱物とNo2阿蘇4溶結凝灰岩中の黒曜石（火山ガラス）について Mg、Ti、Ca、Kの4元素の成分含有量とその量比が他のサンプルと比較して類似点が多い。山田遺跡の基盤岩は阿蘇4溶結凝灰岩であり、現地性の土器である可能性が高い。Na1とNo2では電子顕微鏡写真の表面構造が大きく違い、土器胎土中の鉱物の表面は著しく発泡している。このことは、溶結凝灰岩を破壊して黒色部分を意図的に混入させたものではなく、溶結凝灰岩上部の非溶結部の風化粘土層を土器作成に使用したために混入した火山ガラスである可能性が考えられる。
- 3) No3野首1遺跡土器胎土中の暗灰色鉱物とNo4桑ノ木津留産黒曜石について Mg、Ti、Ca、Kの4元素の成分含有量とその量比が他のサンプルと比較して類似点が多い。
- 4) No6腰岳産黒曜石とNo7針尾高産黒曜石については Mg と Ti がほとんど含まれない点などに類似点が見られる。
- 5) No5姫島産黒曜石では、Mg があり、Ti がない。No8の小国産黒曜石では Mg がなく、Ti がある。この2点は他のサンプルとの共通点がありません。

	サンプル名	Mg	Ti	Ca	K	Si
No.1	山田遺跡出土土器胎土中の黒色鉱物	55.7	125.7	176.0	487.1	53.9
No.2	阿蘇4溶結凝灰岩中の黒曜石（火山ガラス）	53.9	90.5	178.6	561.7	47.9
No.3	野首1遺跡出土土器胎土中の暗灰色鉱物	29.9	52.8	157.6	335.3	56.9
No.4	えびの市桑ノ木津留産黒曜石	21.0	60.4	110.7	420.8	54.5
No.5	大分県姫島産黒曜石	24.0	0.0	68.7	472.0	56.9
No.6	佐賀県腰岳産黒曜石	0.0	0.0	106.5	524.0	61.1
No.7	長崎県針尾島産黒曜石	0.0	0.0	129.9	515.6	56.9
No.8	熊本県小国産黒曜石	0.0	50.3	113.2	463.6	62.9

第10表 主要成分のX線強度表（単位：カウント）



第170図 主要成分別X線強度比較図

4. 現地確認

上記の結果からⅡ類の土器に含まれる多数の黑色鉍物が阿蘇4火砕流堆積物中の火山ガラスである可能性がでてきた。そこで調査終了後の平成17年6月に山田遺跡周辺の風化土壌の確認を行った。当時、山田遺跡の東側は橋脚工事のため大きく崖を削り遺跡のある丘陵上部から数十mの連続露頭が露出していた。このうち火砕流堆積物の上位に分布する風化層中に激しく赤化している部分がありサンプルを洗浄すると黑色不定形の火山ガラス粒が確認できた。Ⅱ類土器と同様の色調になると思われる赤褐色で黑色鉍物を含む風化火山灰土壌は分布が約数m程度しかなかった。周囲は黄褐色で角閃石を含む一般的な阿蘇4火砕流堆積物風化土壌であった。この黄褐色土壌の構成鉍物は、Ⅰ類土器の胎土に含まれるものに類似するものであった。

※ 試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取ることがある。今回は試みに Mg/Si 、 Ti/Si 、 Ca/Si 、 K/Si についてグラフ化してみた。その結果、大まかな傾向は、第170図と一致した。

第V章 まとめ

山田遺跡は旧石器時代がI期～IV期まで、縄文時代が早期と晩期、弥生時代、中世と8時期の遺構・遺物を確認した複合遺跡であった。五ヶ瀬川流域に広く分布する阿蘇4火砕流堆積物を基盤とする段丘上の遺跡である。水源は阿蘇溶結凝灰岩の上面が不透水層となり斜面の中腹で得ることができる。この丘陵上での人々の営みは約3万年間に8回（現代の耕作を加えれば9回）におよぶ。寒冷期、温暖期を通じて生活しやすい地理的な条件が整っていた場所であったと思われる。

約2年半の発掘調査で膨大な遺物と図面等のデータが得られた。第Ⅲ・Ⅳ章で主要な遺構、遺物、分析結果などについて述べたが遺跡の全容を報告するには情報が不足していることを認めざるを得ない。

以下時代ごとに概説するが、旧石器時代と縄文時代早期については実測図、写真図版等を掲載できなかったものを含めた遺物の点数・重量などを計測し遺物ボリュームを中心に報告し、まとめとしたい。

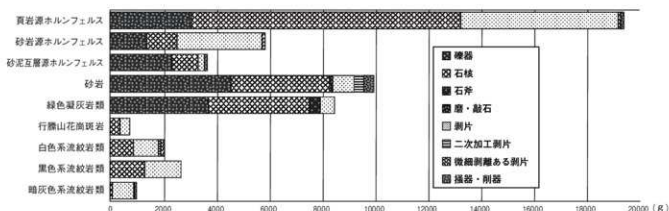
1 旧石器時代I期

I期の出土層位は始良Tn火山灰層下位のいわゆる暗色帯の最下部から段丘礫層上位に厚く堆積する明褐色ローム上面にかけてである。近年多数の旧石器遺跡が発見・発掘されている宮崎県下では複数の研究者が精力的に多面的な検討を試みている。このうち宮崎県旧石器談話会からは2005年に宮崎10段階編年とする層位、器種の形態、剥片剥離技術などの変化に視点をおいた編年案が示されている。これによると、最も古い第1段階は後牟田遺跡第Ⅲ文化層（川南町）、矢野原遺跡第Ⅰ文化層（北方町）などを指標としており始良大塚テフラ下位の暗色帯の最下部から出土する石器群となっている。地理的には矢野原遺跡が最も近く堆積状況も酷似している。本遺跡I期と矢野原遺跡第Ⅰ文化層は同層準で出土状況も同じであり、その視点では第1段階に相当すると思われる。ただ、始良深港テフラが31,000年前、始良大塚テフラが32,500年前であり本遺跡のI期炭化物集中部の放射性炭素年代分析値が2点とも30,500年前を示していることは一考の余地がある。始良Tn火山灰層下位の暗色帯が県中央から県北に至るまで一連の堆積であると考え、その最下部ということで対比することが可能であるかどうか検証の必要がある。

石材名	略号	礫器	石核	石斧	磨・敲石	剥片類			掘器・削器	石材別計
						剥片	二次加工剥片	微細剥離ある剥片		
頁岩源ホルンフェルス	H1	2986.0	10179.3	0.0	0.0	6050.9	0.0	50.0	65.0	19331.2
砂岩源ホルンフェルス	H2	1361.6	1102.7	0.0	0.0	3210.3	0.0	133.5	0.0	5808.1
砂岩互層源ホルンフェルス	H3	2278.2	979.5	0.0	0.0	256.2	0.0	0.0	70.0	3583.9
砂岩	SS	4488.7	3713.0	0.0	120.0	815.0	343.0	0.0	380.0	9859.7
緑色凝灰岩類	GT	3620.5	3822.7	441.0	0.0	514.0	0.0	0.0	0.0	8398.2
行鷹山花崗斑岩	GP	0.0	352.1	0.0	0.0	337.4	0.0	0.0	0.0	689.5
白色系流紋岩類	R1	0.0	834.9	0.0	0.0	942.3	56.4	130.0	0.0	1963.6
黒色系流紋岩類	R2	0.0	1256.6	0.0	0.0	1351.7	0.0	0.0	0.0	2608.3
暗灰色系流紋岩類	R3	0.0	74.6	0.0	0.0	810.9	0.0	23.3	46.7	955.5
器種別計		14735.0	22315.4	441.0	120.0	14288.7	399.4	336.8	561.7	53198.0

第11表 旧石器時代I期 石材・器種別重量表（単位はg）

I期の石器群の特徴は第7～18図などの礫器が卓越することにある。総量約53.2kgの石器のうち約14.7kgが礫器であった。礫器を構成する石材は主としてホルンフェルス類と砂岩、緑色凝灰岩類である。同一石材における礫器と剥片石器のボリュームの差は歴然である。このことから大形扁平の円礫の一側縁だけに残された剥離は剥片を取る目的で行ったものではなく刃部を形成するためであったと考えられる。また使用による刃部の折損と思われる資料が多数見られることから本遺跡が礫器を使用する作業



第17-1図 旧石器時代I期 重量分類図

空間であった可能性が高い。サイズの小さな剥片を取り調整を加えたり、使用痕と思われる微細剥離が観察できる資料はほとんどが流紋岩類であった。I期の石材選択は明瞭であり、硬質緻密でガラス質な流紋岩類と堆積岩もしくはそれ由来の変成岩で層理面があるため板状に割れ扁平な円礫として採取できる岩石を区別していたと思われる。

2 旧石器時代II期

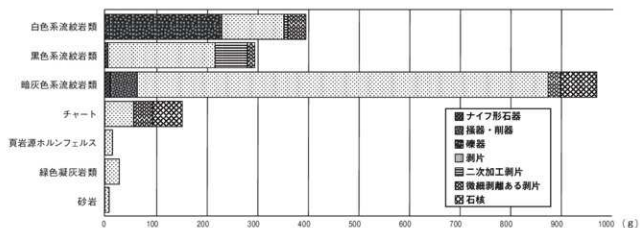
II期の出土層位は始良Tn火山灰層直下である。前述の10段階編年では第3段階とされている。これによると、この時期の石器群は小形薄手の縦長剥片を量産しナイフ形石器製作をするもの(剥離A類)、縦長に近いが厚手の不定形剥片からスクレイパー類を製作するもの(B類)、分厚い剥片から小剥片を獲得するもの(C類)の3種の様相を見せるとしている。本遺跡に於いてもこの様相が見られ違和感がない。遺物番号90~94まで小形薄手のナイフ形石器がA類、98などのスクレイパー類がB類、さらに接合資料II-①はC類にあたと考えられる。

II期の出土量は少なく総量で約1.8kgであった。使用石材のほとんどを流紋岩類が占め、ナイフ形石器や搔器・削器類はほとんど暗灰色系流紋岩類を使用していた。I期で主流を占めたホルンフェルス類、砂岩主体の大形礫器類は確認できず、剥片類もほとんど確認できない。また、チャートの使用があることもI期との差異である。

本遺跡のII期資料は礫群1基のみが始良Tn火山灰層直下から検出され、石器量が少ないことから、少人数が短期間活動した後に始良Tn火山灰によって被覆されたものと考えられる。

石材名	略号	ナイフ形石器	搔器・削器	礫器	剥片類			石核	石材別計
					剥片	二次加工剥片	微細剥離ある剥片		
白色系流紋岩類	R1	0.0	0.0	231.5	123.2	7.4	35.8	0.0	397.9
黒色系流紋岩類	R2	4.7	0.0	0.0	212.2	66.1	13.7	0.0	296.7
暗灰色系流紋岩類	R3	10.7	52.4	0.0	810.9	0.0	23.3	74.6	971.9
チャート	Ch	0.0	0.0	0.0	56.9	0.0	37.6	56.7	150.2
頁岩系ホルンフェルス	H1	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0	13.5
緑色凝灰岩類	GT	0.0	0.0	0.0	28.4	0.0	0.0	0.0	28.4
砂岩	SS	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6
器種別計		15.4	52.4	231.5	1250.7	73.5	110.4	130.3	1864.2

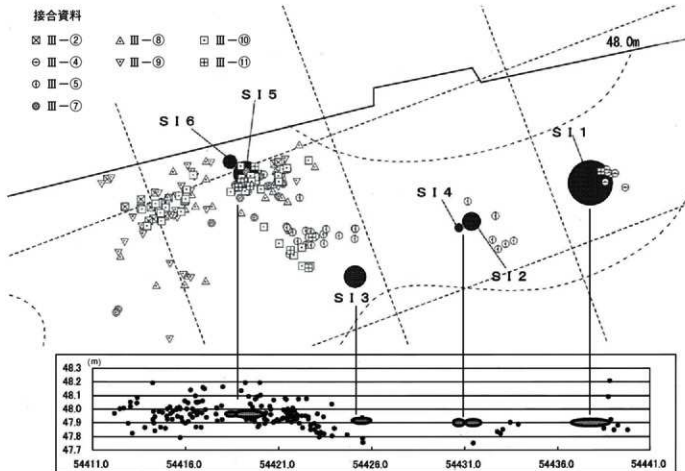
第12表 旧石器時代II期 石材・器種別重量表 (単位はg)



第172図 旧石器時代Ⅱ期 重量分類図

3 旧石器時代Ⅲ期

Ⅲ期は始良T n 火山灰層上位のⅧ層（黒褐色土層：いわゆる上位白斑ローム）上面に検出された10基の礫群の層位を出土のピークとする大量の石器群により構成される。石器群は礫群検出面下位のⅧ層中からの出土もあるが、多くは上位のⅦ層（明褐色土層）の中位まで連続する。Ⅶ・Ⅷ層は色調で明瞭に区分でき、環境の変化等を示唆すると思われる。この2つの層準において分布することが人為的な時期差であるか凍結擾乱等の自然要因による上方移動であるか発掘段階では判断が付きかねた。



第173図 旧石器時代Ⅲ期 北部水平・垂直分布図

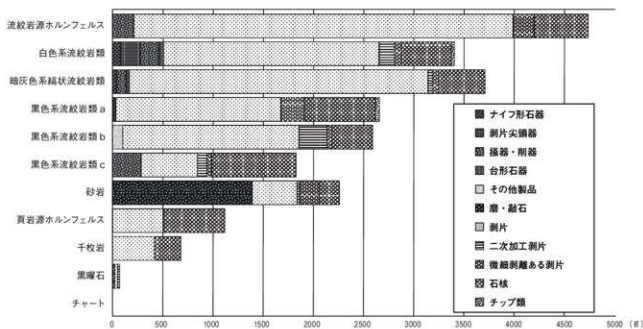
整理作業を進める段階で第三章第3節で述べたような理由からⅦ・Ⅷ層を分離して記録してきた資料をⅢ期として一括して報告することとした。第三章の旧石器時代Ⅲ期の接合資料図面では水平分布図のⅦ層とⅧ層のドットを変えて深度を表現しており(◎がⅦ層、△がⅧ層)垂直分布図を添付していない。

まとめでは、Ⅲ期の礫群と接合資料が最も集中したD26グリッドの水平分布と垂直分布を掲載した。標高47.9m前後に礫群が位置し、ここが地表面と考えられる。分布幅は下方約10cm、上方約20cmである。大きく移動しているものはD26グリッドの地表にあった杉の切り株や縄文時代早期の3号、4号穴群によるものである。これを見てもⅢ期の遺物群について水平・垂直方向ともに時期や分布を明瞭に区別できる可能性は低いと思われる。

本遺跡の旧石器時代Ⅲ期は狸谷型ナイフ形石器を中心とするナイフ形石器と剥片尖頭器、および円形の搔器・削器類を中心とする器種構成である。台形石器と角錐状石器はそれぞれ2点と1点と点数が極端に少ない。下の石材・器種別重量表には分割礫と巨礫、原石などを除外した製品、剥片、石核類の重量組成を記載した。

石材名	略号	ナイフ形石器	剥片尖頭器	搔器・削器	台形石器	その他製品	磨・敲石	剥片類			石核	チップ類	石材計
								剥片	二次加工剥片	微細剥離ある剥片			
流紋岩源ホルンフェルス	R 1 f	0.0	0.0	223.4	0.0	0.0	0.0	3743.5	0.0	204.0	554.1	2.3	4727.3
白色系流紋岩類	R 1	85.7	172.2	213.2	6.9	25.6	0.0	2126.0	154.3	61.1	507.4	18.1	3370.5
暗灰色系縞状流紋岩類	R 3 s	27.8	0.0	105.0	7.5	24.5	0.0	2952.4	31.4	66.4	455.7	7.6	3678.3
黒色系流紋岩類 a	R 2 a	3.7	26.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1622.7	0.0	238.0	700.4	19.4	2611.0
黒色系流紋岩類 b	R 2 b	0.0	0.0	0.0	0.0	103.2	0.0	1729.7	291.2	38.8	396.4	10.5	2559.8
黒色系流紋岩類 c	R 2 c	0.0	0.0	285.3	0.0	0.0	0.0	537.8	100.0	38.2	837.4	0.1	1798.8
砂岩	SS	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1374.1	436.7	24.5	195.9	195.9	0.0	2227.1
頁岩源ホルンフェルス	H 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	482.8	0.0	0.0	609.1	0.0	1091.9
千枚岩	Ph	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	398.6	0.0	0.0	250.6	0.0	649.2
黒曜石	O b	0.0	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0	26.4	12.6	0.0	0.0	0.0	52.5
チャート	C h	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.1	6.4
器種別計		117.2	199.0	840.4	14.4	153.3	1374.1	14062.9	604.0	842.4	4507.0	58.1	22772.8

第13表 旧石器時代Ⅲ期 石材・器種別重量表 (単位はg)



第174図 旧石器時代Ⅲ期 重量分類図

本遺跡ではナイフ形石器と剥片尖頭器の多くが白色系流紋岩類であり、次いで黒色系・暗灰色系流紋岩類、流紋岩源ホルンフェルスと流紋岩質の石材を中心に使用している。えびの市桑ノ木津留産の黒曜石の出土もある。狸谷型ナイフ形石器と剥片尖頭器を指標とする石器群は前述の10段階編年によれば第5段階に相当する。県北地区では矢野原遺跡第Ⅱ文化層、赤木遺跡第1文化層などと対比でき、県央地区には小並第1遺跡、木脇遺跡、長瀬原遺跡など東九州自動車道路建設工事関連に発掘調査で近年多数の類例がでてきている。

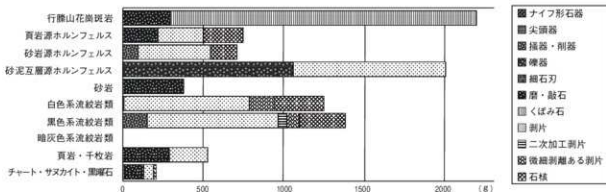
第Ⅲ章で述べたように本遺跡では礫群を伴う直径約30mと礫群を伴わない約70mの大小の弧状の遺物分布が特徴的である。石器ブロックの弧状の分布は長瀬原遺跡（佐土原町）において層位が不安定ながら顕著である。長瀬原遺跡では環状に広がるブロックと表現しており、直径約50mである。また礫群の形態にも類似点が見られる。同じ佐土原町の上ノ原遺跡の第Ⅱ石器文化でも直径約40mの2つの弧状ブロックが重複するような分布を見せている。延岡市の赤木遺跡や矢野原遺跡では広い面積を調査しておらず不明瞭ながら同時期の遺物の分布に列状の構造が若干見られる。ブロックごとの器種組成や層位の問題など詳細な検討が必要であり、ここでは分布図に類似性が見られることのみ指摘しておきたい。

4 旧石器時代Ⅳ期

Ⅳ期は細石刃石器群を含む段階である。前述の10段階編年では細石刃石器群の編年を層位ではなく遺物の形態によっている。本遺跡では細石刃核の出土がなく対比が困難である。

石材名	略号	ナイフ形石器	尖頭器	掻器・削器	礫器	細石刃	磨・敲石	くぼみ石	剥片類			石核	石材別計	
									剥片	微細剥離ある剥片				
										二次加工剥片	微細剥離ある剥片			
行徳山花崗斑岩	GP	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	297.5	1900.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2197.9	
頁岩源ホルンフェルス	H 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	223.7	0.0	279.1	0.0	0.0	0.0	248.3	751.1
砂岩源ホルンフェルス	H 2	0.0	0.0	98.0	0.0	0.0	0.0	0.0	451.3	0.0	0.0	0.0	165.3	714.6
砂泥互層源ホルンフェルス	H 3	0.0	0.0	0.0	1060.0	0.0	0.0	0.0	943.4	0.0	0.0	0.0	2003.4	
砂岩	SS	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	376.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	376.5
白色系流紋岩類	R 1	5.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	781.8	6.9	147.9	310.1	1252.1	
黒色系流紋岩類	R 2	0.0	0.0	154.4	0.0	0.0	0.0	0.0	812.9	53.0	73.8	284.3	1378.4	
暗灰色系流紋岩類	R 3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
頁岩・千枚岩	S h・P h	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	293.5	0.0	234.6	0.0	0.0	0.0	528.1	
チャート・サスカイト・黒曜石	ch・Sn・Ob	0.0	12.3	0.0	0.0	0.0	126.1	0.0	53.4	4.0	11.1	0.0	206.9	
器種別計		5.0	12.3	252.4	1060.0	1.0	1317.3	1900.4	3556.5	63.9	232.8	1008.0	9409.6	

第14表 旧石器時代Ⅳ期 石材・器種別重量表 (単位はg)



第175図 旧石器時代Ⅳ期 重量分類図

Ⅳ期の出土量は少なく、花崗斑岩製の凹石2点と砂泥互層源ホルンフェルスの礫器1点の大形石器3点で全重量の1/3を占めており、重量分類に特徴が出にくい。3点の細石刃は白色系2点、暗灰色系1点で全て流紋岩類製であった。剥片はホルンフェルス類と流紋岩類が同程度の出土である。搔器・削器類や微細彫刻ある剥片など切断等に使用した可能性を伺わせるものは白色系と黒色系の流紋岩類に多い。1点ずつではあるがサヌカイト製の端正な調整を施した尖頭器や佐賀県腰岳産の黒曜石など遠距離からの搬入品が出土する。

Ⅳ期の遺構として陥し穴状遺構7基を検出した。第Ⅲ章第4節で述べたように放射性炭素年代測定の値は約13,000～18,000年前を示していた。遺物量の少なさから、この時期は主として居住空間としての活用は少なかったと考えられる。陥し穴状遺構の配列は緩斜面中央のわずかな凹地帯に沿っており、これは獣道や降雨時の流路であった可能性もある。

5 縄文時代早期

本遺跡において遺構・遺物ともっともボリュームがある時代である。集石遺構44基、炉穴群11群・約135基、円形配石遺構4基、竪穴状遺構1基、土坑27基、配石遺構1基を検出した。包含層はⅢ～Ⅴ層であり、Ⅴ層上面で集石遺構を検出している。炉穴群はⅥ層上面検出であるが掘り込み面はやや上位のⅤ層中位の可能性がある（第Ⅲ章第5節参照）。このことから縄文時代早期には一定期間の生活が営まれており、炉穴群と集石遺構の構築時期に前後関係があると思われる。土器の型式など遺物では炉穴群出土のものと同位の包含層のものに明瞭な変遷は追えなかった。放射性炭素年代の測定値では約9,200年前周辺でオーバーラップし約200～400年炉穴群からのデータの方が古い数値を得ており調査段階の層位的上下関係を追認するものであった。

遺物量は土器の総量が約28.6kg、1,767点、石器の総量が約139.6kg、2,425点であった。この詳細な内訳は第16～18表に一覧として記載する。出土の頻度は下表のように土器、石器ともⅢ層から次第にⅣ、Ⅴ層に向かって増加しており炉穴群内にもⅤ層に匹敵する遺物量がある。すなわち、炉穴群構築から集石遺構構築に至る約9,500年前から約9,000年前が山田遺跡の縄文時代早期文化の隆盛期であったと考えられる。

遺構・層位	縄文土器		石器	
	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数
Ⅲ層	1,822.1	147	4,719.2	261
Ⅳ層	5,009.2	267	22,959.0	728
Ⅴ層	11,934.0	722	55,777.7	1,140
炉穴群・円形配石遺構	9,828.2	631	56,146.6	296

第15表 縄文時代早期の出土頻度表

縄文土器について

本書の土器分類は器形・文様・調整といった点も考慮しつつ胎土鉱物と色調に大きな割合を置いて実施している。重量占有率はⅠ類56％とⅡ類21％であり、この2グループで本遺跡の土器総量の実に77％を占めている。Ⅰ類の胎土にはぶい黄褐色で針状の角閃石が肉眼で多数確認できる（器形・文様等は第Ⅲ章参照）。九州中央部で角閃石が卓越する土壌は阿蘇4火砕流由来の堆積物が一般的である。Ⅰ類土

		I類 (にぶい黄褐色 厚手)				II類 (赤褐色 黒点土器)			III類 (薄手)		小計									
		a(無文)	b(条線文)	c(表面刻落)	d(刻文・押引)	a(無文)	b(条線文)	c(口縁施文)	a(無文)	b(条線文)										
		重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量			個数							
II層	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	46.3	4	21.2	1							
	胴部	142.7	6	122.3	6	162.5	10	34.9	2	0	0	366.7	42	0	0					
	底部	45.7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	小計	188.4	8	122.3	6	162.5	10	0	0	375	36	75.7	3	0	433	46	21.2	1		
IV層	口縁部	285.5	5	0	0	0	121.6	1	27.9	1	0	0	28.3	1	0	0	5.7	1		
	胴部	841.3	35	629.6	14	571.2	43	0	0	1450.4	74	86.2	5	0	0	430.3	54	69.6	10	
	底部	12.8	1	0	0	0	0	0	0	133.1	5	0	0	0	0	96.5	2	0	0	
	小計	1139.6	41	629.6	14	571.2	43	121.6	1	1611.4	80	86.2	5	28.3	1	526.8	56	75.3	11	
V層	口縁部	60.7	1	74.6	1	0	336.4	3	264.7	10	323.7	12	29.4	1	367.4	20	112.5	2		
	胴部	2487.9	97	1404.9	31	1443.8	105	0	0	2130.9	146	297.4	12	0	0	1396.8	175	125.9	42	
	底部	0	0	0	0	0	0	0	85.2	2	0	0	0	0	333.3	5	0	1		
	小計	2548.6	98	1479.5	32	1443.8	105	336.4	3	2480.8	158	621.1	24	29.4	1	2097.5	200	238.4	45	
伊穴1	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	150	5				0	0					
	胴部	200.6	4	102.7	2	33.7	2		173.8	7				177.3	19					
	底部	64.2	2	0	0	0	0		186	1				47.5	1					
	小計	264.8	6	102.7	2	33.7	2	0	0	509.8	13	0	0	0	224.8	20	0	0		
伊穴2	口縁部	0	0	81.3	1	0	157.5	2	8.8	2				212	9	19.6	1			
	胴部	1549.5	58	494.6	15	275.3	77	0	0	91.8	7			234.6	47	0	0			
	底部	57.9	1	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0			
	小計	1807.4	59	575.9	16	275.3	77	157.5	2	100.6	9	0	0	0	446.6	56	19.6	1		
伊穴3	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25.2	5			
	胴部	68.1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88.6	13	0	0			
	底部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	小計	68.1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88.6	13	25.2	5			
伊穴4	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	胴部	160.9	4	147.2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	28	9					
	底部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	小計	160.9	4	147.2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	28	9	0	0			
伊穴5	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	胴部	91.7	7	40	3	64.4	17		25.2	1										
	底部	0	0	0	0	0	0		11.2	1										
	小計	91.7	7	40	3	64.4	17	0	0	36.4	2	0	0	0	0	0	0	0		
伊穴6	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	胴部	58.3	3			8.9	1													
	底部	0	0			0	0													
	小計	58.3	3	0	0	8.9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
伊穴8	口縁部	0	0	29.4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	23.9	2					
	胴部	354.6	12	366.4	11	67.8	7		69.4	6	18	2		49.9	3					
	底部	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0					
	小計	354.6	12	395.8	12	67.8	7	0	0	69.4	6	18	2	0	0	73.8	5	0	0	
伊穴9	口縁部	249.9	5	98.2	3	0	0	0	10.7	1				0	0	42.9	3			
	胴部	975.3	34	230.8	8	284.1	68		65.5	7				59.2	8	21.3	1			
	底部	188.2	4	0	0	27.7	1		0	0				13.4	1	0	0			
	小計	1413.4	43	329	11	311.8	69	0	0	76.2	8	0	0	0	0	72.6	9	64.2	4	
伊穴10	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36.8	2					
	胴部	11.1	1			11.1	5		54.9	2				13.5	2					
	底部	0	0			0	0		0	0				0	0					
	小計	11.1	1	0	0	11.1	5	0	0	54.9	2	0	0	0	0	50.3	4	0	0	
伊穴11	口縁部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	胴部	120.8	7	37.9	2	145.6	24		145.8	7				37.1	4	14.5	1			
	底部	0	0	0	0	0	0		0	0				0	0	0	0			
	小計	120.8	7	37.9	2	145.6	24	0	0	145.8	7	0	0	0	37.1	4	14.5	1		
円形配石	口縁部	0	0	0	0	0	118.5	1	1	1				0	0					
	胴部	176.9	7	101.4	2	84.5	17	0	0	36.1	8			48.5	7					
	底部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0					
	小計	176.9	7	101.4	2	84.5	17	118.5	1	37.1	9	0	0	0	48.5	7	0	0		
分類別計	8214.6	300	3961.3	103	3180.6	377	734	7	5497.4	330	801	34	57.7	2	4127.6	429	458.4	68	27032.6	1650

(重量の単位はg)

第16表 縄文時代早期土器分類表 1

	IV類 (別文文口縁)	V類 (対み目口縁)	VI類 (3列縦条線)	VII類 (押型文)				VIII類 (沈線文)				その他の土器						小計	遺構・層位計					
				a (山形)		b (横内)		a (口縁横方向)		b (口縁縦方向)		1 (晩期 赤系)		2 (晩期 黒系)		3 (弥生・埴形不明)								
				重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数							
III層	口縁部	/	/	/	0	0	0	0	/	/	/	/	53.2	3	74.5	3	0	0						
	胴部	/	/	/	9.2	2	35.3	1	0	0	0	0	116.2	12	50.8	3	70.9	12						
	底部	/	/	/	0	0	0	0	/	/	/	/	33.9	1	0	0	0	0						
	小計	0	0	0	9.2	2	35.3	1	0	0	0	0	203.3	16	125.3	6	70.9	12						
IV層	口縁部	0	0	/	0	0	/	/	/	/	/	30.1	1	15.7	1	75.3	2							
	胴部	13.9	1	/	8.8	2	/	/	/	/	/	75.4	8	0	0	0	0							
	底部	0	0	/	0	0	/	/	/	/	/	0	0	0	0	0	0							
	小計	13.9	1	0	8.8	2	0	0	0	0	0	106.5	9	15.7	1	75.3	2							
V層	口縁部	/	95.6	1	28.7	1	0	0	17.9	1	/	0	0	55.9	3	0	0							
	胴部	/	18.1	1	18	1	17.6	1	0	0	/	239.1	32	65.1	3	102.1	12							
	底部	/	0	0	0	0	0	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0							
	小計	0	113.7	2	46.7	2	17.6	1	17.9	1	0	239.1	32	121	6	102.1	12							
伊穴1	口縁部	/	7.6	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	7.6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴2	口縁部	/	/	/	/	/	/	/	60.6	2	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	60.6	2	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴3	口縁部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴4	口縁部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴5	口縁部	/	/	/	/	/	/	26.6	1	/	/	0	0	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	0	0	/	/	17.2	1	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	0	0	/	/	0	0	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	26.6	1	0	0	17.2	1	0	0	0	0							
伊穴6	口縁部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴8	口縁部	/	8.9	1	66.3	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	0	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	0	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	8.9	1	66.3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴9	口縁部	/	/	43.3	1	/	/	/	6.7	1	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	0	0	/	/	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	0	0	/	/	/	0	0	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	43.3	1	0	0	0	6.7	1	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴10	口縁部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
伊穴11	口縁部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
内附配石	口縁部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	胴部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	底部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
分類別計	13.9	1	130.2	4	156.3	4	35.6	5	35.3	1	44.5	2	67.3	3	547.9	57	279.2	14	248.3	26	1561	117	2859.1	1767

(重量の単位はg)

第17表 縄文時代早期土器分類表2

III層

石 材	石鏡	儀器・測器	機器	磨盤・凹石	合石・石皿	石鏡	石槌	石斧	副計書			石槌	分割機	チップ類	石材別計
									副計	一次加工品	既製品(数量)				
チャート1(赤)									72.2						72.2
チャート2(青赤)	1.1								24.3		8.7	12.0			14.6
チャート3(青)	5.9								106.6	5.1	3.9	14.6	56.7	0.3	165.3
チャート4(黒)	0.9								59.0	4.5		46.3			112.2
チャート5(黒緑)									20.3	14.4				0.5	35.2
青良瀬カレンフェルス					143.3				114.6	146.7	9.0			0.2	413.2
砂岩カレンフェルス									75.0			115.2			190.2
砂岩			1367.1				195.4	376.0			36.8	241.5			2253.3
流紋岩類①(白色)								21.6							21.6
流紋岩類②(黒色)								49.7			66.2	94.6			210.5
流紋岩類③(黒色)								54.0			14.8				68.8
流紋岩類④(褐色)			61.5					57.8			5.4				127.2
緑色凝灰岩			223.9												223.9
千枚岩	2.0								27.1						29.1
水晶									1.8						1.8
黒曜石	1.5														1.5
副材別計	11.4	285.4	1367.1			143.3		195.4	1134.3	169.7	151.5	1166.0	56.7	1.2	4719.2

IV層

石 材	石鏡	儀器・測器	機器	磨盤・凹石	合石・石皿	石鏡	石槌	石斧	副計書			石槌	分割機	チップ類	石材別計
									副計	一次加工品	既製品(数量)				
チャート1(赤)									110.4						110.4
チャート2(青赤)	2.2								202.3	0.5		84.8			290.8
チャート3(青)	7.9								172.6	9.3	15.6	30.0	32.8	5.6	274.7
チャート4(黒)	3.5								177.4			52.7		2.6	236.2
チャート5(黒緑)									15.0	1.0		44.6		0.4	61.0
青良瀬カレンフェルス			184.2	117.4					835.3	242.9	138.3	137.6			1454.2
砂岩カレンフェルス			81.9	143.2					525.3	145.7		105.9			1090.5
砂岩層連カレンフェルス			46.4	2740.0					27.8	220.4	266.4	81.1			4135.7
砂岩			187.2	874.6					888.0	374.4		3487.2			5895.6
砂岩									8.6	17.0					105.6
流紋岩類①(白色)									241.4	189.0	244.4	1813.8		0.2	1972.8
流紋岩類②(黒色)			45.2						155.2		140.7	33.2		1.4	230.5
流紋岩類③(黒色)									57.9			85.8		0.1	143.8
流紋岩類④(褐色)				1891.8											1891.8
花崗岩類									591.4		124.2	244.3			1031.9
緑色凝灰岩			335.5						363.6		55.8	795.9			1295.0
頁岩			97.8												97.8
赤色頁岩															3.1
千枚岩			208.9	303.6					716.9			444.9			1465.4
水晶	0.3									9.2					9.5
黒曜石	0.8														0.8
サマコイト	1.2														1.2
副材別計	15.9	1185.1	4884.1	1831.8		30.3	6.9		5295.2	1201.5	1255.5	6892.4	59.7	10.7	22919.0

V層

石 材	石鏡	儀器・測器	機器	磨盤・凹石	合石・石皿	石鏡	石槌	石斧	副計書			石槌	分割機	チップ類	石材別計	
									副計	一次加工品	既製品(数量)					
チャート1(赤)	2.0								76.8			55.5	21.7		156.0	
チャート2(青赤)	4.6								336.1			123.8		0.4	464.9	
チャート3(青)	12.1								262.5	16.3	2.4	75.2	63.9	11.2	546.7	
チャート4(黒)	4.1								232.2			66.9		1.3	360.6	
チャート5(黒緑)	1.0								43.5	5.5				0.4	50.4	
青良瀬カレンフェルス			189.1	1799.4					1493.2			265.1	2192.7		9.9	3991.3
砂岩カレンフェルス			30.6	2451.0					1113.7	616.3					4354.4	
砂岩層連カレンフェルス			74.8	2672.9					289.6	282.9		110.2			3364.1	
砂岩			487.9	1159.7	2118.9	1781.8	97.4		4777.4	925.9	68.0	4830.6			11815.6	
砂岩									312.3	79.4	37.6	19.4			449.7	
流紋岩類①(白色)									616.1	215.8	273.4	366.6		0.3	1624.1	
流紋岩類②(黒色)			151.9						247.8		121.9	440.4			918.7	
流紋岩類③(黒色)			109.0												109.0	
流紋岩類④(褐色)			20.0						182.8		7.7	60.2			270.7	
花崗岩類					1890.4										1890.4	
緑色凝灰岩			37.7	447.8					330.9	9.4				0.3	826.1	
頁岩			91.5						191.8	424.2	726.7	17.2	197.8		1559.0	
千枚岩									161.8			639.4		0.1	914.0	
石英									9.1	0.4		18.4			27.9	
水晶	1.2								2.9						2.9	
黒曜石									2.9						2.9	
副材別計	25.0	1392.6	8512.0	4818.4	17818.0	166.3	4.1	468.9	10631.9	2858.2	792.9	9180.1	85.6	15.9	35776.9	

炉穴群

石 材	石鏡	儀器・測器	機器	磨盤・凹石	合石・石皿	石鏡	石槌	石斧	副計書			石槌	分割機	チップ類	石材別計
									副計	一次加工品	既製品(数量)				
チャート1(赤)									13.0						13.0
チャート2(青赤)									24.3						24.3
チャート3(青)	4.5								69.8					0.2	74.6
チャート4(黒)									14.5						14.5
チャート5(黒緑)									207.0			163.6			444.6
青良瀬カレンフェルス			610.4						449.7	473.7	95.7	514.5			2662.0
砂岩カレンフェルス			479.0	849.4					51.7			147.1			1051.8
砂岩層連カレンフェルス			311.2			10008.0			143.0						143.0
砂岩			258.4	3835.1	12519.0				2482.2	851.3		1237.3			2725.5
砂岩									76.5						97.2
流紋岩類①(白色)			26.7						160.8		30.5				191.3
流紋岩類②(黒色)									502.2			2897.0			3410.2
流紋岩類③(黒色)			101.0						60.9						65.9
流紋岩類④(褐色)									77.8						77.8
花崗岩類					10494.8					81.9					10576.8
デイサイト					602.8										602.8
緑色凝灰岩			196.7						47.3						238.0
千枚岩									17.8						17.8
水晶									5.4						5.4
黒曜石									2.9						2.9
副材別計	4.6	1993.0	907.8	14932.3	23310.0				7028.4	1406.9	126.2	6241.3		0.2	15614.0

(単位はg)

第18表 縄文時代早期石器 重量一覧表

器の胎土は鉱物種や色調、粒度などから本遺跡層序でいうX I層の阿蘇火砕流堆積物の風化土壌を原料としている可能性が大変高い。X I層は自然堆積の状態で2mm程度の鉱物粒を豊富に含んでおり土器製作をするならば、ほとんど混和材の投入が不要であったと思われる。また、発掘調査の妨げになるほど粘性が高く、層厚は約2.5m以上ある。すなわちI類はどこの水場でも崖でも採取できた最もポピュラーな土を使用して製作したと考えられる。これに対しII類は赤褐色で黒色鉱物粒が顕著に含まれる土器群である。第Ⅲ、Ⅳ章で述べたように阿蘇火砕流堆積物中の黒色火山ガラスを含む溶結凝灰岩が赤色に風化した部分を選択的に選んで採取し製作していると考えられる。遺跡下の橋脚工事現場の幅約30mの大露頭でも当該の赤色風化部分は厚さ20~30cm、幅1mにも満たなかった。赤褐色の器壁に黒色鉱物の斑文が浮き上がる土器を意図的にねらったものかどうかは想像の域を出ないが、多量に製作しているところを見ると偶然この土が採取できた時だけ製作したとも考えにくい。また、平底で円筒形の無文または条痕土器といったところまでは共通であり大形のI類とやや小形のII類の胎土が全く異なることはなんらかの意図を感じさせる。

6 縄文時代晩期

縄文時代晩期については遺構の分布がはっきりとつかめず晩期の土器を出土した土坑6基のみを認定した。遺物は陶磁器や弥生土器との混在があり元位置からの移動・集積が予想され分布が不明瞭である。特に石器は晩期と確定できる出土状況のものは少なかった。縄文土器については一般に知られる土器形態での分類となった。特筆すべきは、遺物番号751の組織痕のある深鉢の出土である。複数のピット、土坑、不明遺構からの出土であるにもかかわらずほぼ完形に復元された。758の磨研土器の深鉢も杉の巨樹の根に絡む形で出土しほぼ完形に復元された。

7 弥生時代

周溝墓2基、土壙墓5基、土坑3基、竪穴住居跡1軒を検出した。弥生時代終末期と考えられる遺物が出土している。本遺跡から細見川を渡って約800m南の隣の丘陵上には県北有数の弥生集落、中尾原遺跡が所在している。両遺跡はともに標高約50mで阿蘇火砕流堆積物によってできた河岸段丘上に立地しており、条件がほぼ同じである。中尾原遺跡が多数の竪穴住居跡を検出した集落遺跡であることにに対し、本遺跡は墓域の様相を呈している。主体部は約2m×1m、深さ約1mでほぼそろっており主軸の方向は東西方向から20°以上ずれるものがない。二段掘りの構造や赤色顔料の遺存、柳葉鏃などの鉄製品の出土など共通点が多く、同一時期に構築された可能性がある。竪穴住居跡は1号周溝墓の周溝を切っており、やや新しい時期のものと考えられる。

8 中世

掘立柱建物跡1棟と溝状遺構が検出された。第Ⅲ章第9節で不明遺構とした大形の土坑もこの時期のものである可能性が高い。時代決定は主として貿易陶磁器によるものである。鎬連弁文の青磁碗や青磁の稜花皿などは14~16世紀の範疇に収まる遺物群である。当時延岡は土持氏の所領であり1444年には本遺跡から3kmほど東の五ヶ瀬川北岸に松尾城を築いている。掘立柱建物跡の柱穴は高さの違う二段掘りになったものが多く桁行方向に側柱に接して東柱が存在したと考えられる。柱穴内には角礫や石臼の分割したものなどで根固めを施している。表土剥ぎの段階で柱穴の根固め石が集石状に露出してきたところもあり表土直下から石を積んでいたようである。南側の東から二本目の柱穴下部からは凝灰岩製の傘状の石製品が据え置かれたような位置で出土している(図版18)。

<参考・引用文献> (敬省略)

- 「地蔵ヶ森遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第31集 宮崎県教育委員会 1988
- 「片田遺跡(概報)」『延岡市文化財調査報告書』第5集 延岡市教育委員会 1990
- 「林遺跡」『一般国道10号土々呂バイパス建設関係発掘調査報告書』 宮崎県教育委員会 1990
- 「上南方地区遺跡 中尾原遺跡・畑山遺跡」『延岡市文化財調査報告書』第8集 延岡市教育委員会 1992
- 「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」
「一般国道218号椎畑バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」宮崎県教育委員会 1995
- 「上野原遺跡(第10地点)」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(27) 鹿児島県教育委員会2000
- 「木脇遺跡(旧石器時代～弥生時代編)」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第43集 宮崎県教育委員会 2001
- 「赤木遺跡(第7次)」『延岡市文化財調査報告書』第25集 延岡市教育委員会 2002
- 「下原敷遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第56集 宮崎県教育委員会 2002
- 「長園原遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第57集 宮崎県教育委員会 2002
- 「上ノ原遺跡(第1分冊旧石器時代編)」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第58集 宮崎県教育委員会 2002
- 「別府原遺跡・西ヶ迫遺跡・別府原第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第61集 宮崎県教育委員会 2002
- 「野首第1遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第86集 宮崎県教育委員会 2004
- 「高野原遺跡第5地点」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第89集 宮崎県教育委員会 2004
- 「唐木戸第4遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第126集 宮崎県教育委員会 2006
- 橘昌信・佐藤宏之・山田哲 「後牟田遺跡 宮崎県川南町後牟田遺跡における旧石器時代の研究」
後牟田遺跡調査団・川南町教育委員会 2002
- 秋成雅博・藤木聡・松本茂 「宮崎県域における旧石器資料の検討(1)」
-北方町矢野原遺跡第I文化層(AT下位)石器群- 『古文化談義』第50集 九州古文化研究会 2003
- 宮崎県旧石器文化談話会 「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」 『旧石器考古学』66 旧石器文化談話会 2005

報告書 番号	建物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
1	5010	X I	B25	H1	礎石	13.0	13.0	5.1	10000	-47295.530	54416.175	46.565	
2	6361	X b	B28	H1	礎石	10.3	11.0	3.9	4300	-47276.977	54448.437	46.656	
3	5028	X I	C24	H1	礎石	10.5	7.0	3.2	2505	-47281.630	54409.009	46.814	
4	4106	X I	D26	H1	礎石	9.3	6.8	3.3	2500	-47261.780	54430.592	47.067	
5	6193	X b	A30	H1	礎石	9.9	6.8	3.2	2550	-47280.124	54469.015	46.324	
6	6289	X b	B28	H1	礎石	13.5	6.9	4.1	3500	-47284.755	54447.125	46.494	
7	7151	X I	Z28	H1	削片	4.8	6.0	1.5	500	-47294.718	54452.688	46.261	
8	7695	X b	C22	H1	石核	11.6	10.7	5.5	7300	-47289.618	54387.650	46.751	
9	5051	X I	D25	H1	石核	11.6	10.8	5.8	9200	-47267.626	54411.578	47.060	
10	6759	X I	A30	H1	掃器	6.6	6.7	1.7	650	-47279.856	54467.759	46.362	
11	7898	X I	A21	H1	石核	8.5	8.7	7.6	7474	-47309.854	54382.421	46.290	接合 I-①
12	7847	X I	A21	H1	石核	10.0	8.2	5.5	4918	-47308.678	54386.105	46.410	接合 I-①
13	7890	X I	A21	H1	削片	2.6	3.5	1.4	91	-47307.735	54382.471	46.370	接合 I-①
14	7826	X I	A21	H1	削片	3.4	1.8	0.9	41	-47308.336	54383.670	46.345	接合 I-①
15	7645	X I	B21	H1	削片	6.5	5.1	3.3	807	-47305.466	54383.872	46.461	接合 I-①
16	7892	X I	A21	H1	削片	3.6	6.2	2.5	437	-47307.963	54382.612	46.393	接合 I-①
17	7652	X I	B21	H1	削片	6.5	4.0	3.2	751	-47307.683	54384.139	46.462	接合 I-①
18	7828	X I	A21	H1	削片	4.1	6.9	1.4	335	-47308.824	54383.966	46.334	接合 I-①
19	7895	X I	A21	H1	削片	5.2	3.7	2.7	694	-47308.669	54382.268	46.340	接合 I-①
20	7100	X b	B31	H1	礎石	9.3	5.9	3.4	2233	-47266.943	54474.578	46.312	接合 I-②
21	7038	X b	C31	H1	礎石	10.1	5.1	4.1	2272	-47263.960	54472.224	46.436	接合 I-②
22	6580	X I	C30	H1	削片	3.2	4.5	1.4	169	-47262.737	54466.399	46.498	接合 I-②
23	7263	X b	B31	H1	削片	4.3	2.8	1.8	173	-47266.306	54475.537	46.496	接合 I-②
24	6290	X b	B28	H1	石核	13.3	5.2	3.7	2632	-47284.712	54447.414	46.496	接合 I-③
25	6287	X b	B28	H1	石核	16.8	7.9	4.2	5830	-47284.758	54447.765	46.505	接合 I-③
26	6291	X b	B28	H1	石核	11.9	8.3	5.1	3458	-47284.650	54447.489	46.478	接合 I-③
27	6300	X b	B28	H1	削片	4.1	5.6	0.9	257	-47283.582	54447.371	46.487	接合 I-③
28	6286	X b	B28	H1	削片	9.6	7.7	2.6	2120	-47284.854	54447.601	46.479	接合 I-③
29	4112	X I	D26	H2	石核	10.5	10.1	5.9	6072	-47259.927	54432.394	47.084	
30	6762	X I	A30	H2	礎石	11.8	9.6	2.8	4226	-47277.226	54466.983	46.405	
31	6375	X b	B28	H2	削片	7.2	8.1	2.3	1335	-47275.519	54447.751	46.685	
32	7179	X I	Y29	H2	石核	11.0	9.7	5.0	5921	-47301.644	54466.440	45.936	
33	6222	X b	B29	H2	礎石	14.9	10.6	4.9	9390	-47279.871	54455.645	46.591	
34	4136	X I	D27	H2	石核	11.2	9.1	6.2	7197	-47264.325	54428.316	46.931	接合 I-④
35	4096	X I	D27	H2	削片	3.8	6.2	2.0	459	-47261.005	54428.197	47.076	接合 I-④
36	5061	X b	D26	H3	礎石	10.2	9.6	5.2	6700	-47266.937	54420.703	46.955	
37	7283	X b	C31	H3	削片	7.0	4.5	2.1	700	-47262.192	54474.865	46.519	
38	7156	X I	Z29	H3	礎石	9.1	13.4	6.6	9432	-47296.900	54460.669	46.144	
39	7890	X I	A22	H3	礎石	11.5	11.5	4.6	6650	-47314.576	54395.085	46.508	
40	6367	X b	B28	SS	礎石	13.4	13.0	4.4	7232	-47275.388	54449.561	46.696	
41	5043	X b	D24	SS	礎石	9.9	8.2	3.2	3595	-47269.805	54404.669	47.078	
42	6532	X b	C29	SS	二次加工削片	13.2	9.5	4.5	3430	-47261.276	54456.174	46.738	
43	7141	X I	Z28	SS	礎石	15.7	15.3	3.7	11500	-47299.399	54453.656	46.232	
44	7893	X b	A21	SS	礎石	9.6	12.2	4.7	5930	-47308.357	54382.916	46.498	
45	6787	X I	C30	SS	礎石	13.7	9.0	4.2	7800	-47259.616	54461.172	46.620	
46	7150	X I	Z28	SS	削片	9.1	10.8	4.1	3800	-47294.197	54455.992	46.209	
47	6761	X I	A30	SS	礎石	14.2	12.0	4.8	8830	-47277.868	54466.550	46.377	
48	5049	X I	D25	GT	礎石	12.9	11.7	4.0	7900	-47267.554	54409.506	47.035	
49	7149	X I	Z28	GT	礎石	10.2	15.3	4.5	10537	-47297.402	54455.745	46.189	
50	7644	X I	B21	GT	削片	6.5	6.1	2.4	750	-47305.401	54383.713	46.457	7840 と接合
51	7840	X I	A21	GT	削片	2.0	3.1	1.0	65	-47309.139	54385.311	46.406	7644 と接合
52	4184	X b	C26	GT	礎石	14.5	9.0	4.0	7950	-47277.749	54427.277	46.714	
53	6619	X I	C30	GT	礎石	10.2	12.4	4.0	5726	-47261.087	54466.237	46.542	
53	7157	X I	Z29	GT	礎石	12.2	7.2	3.9	4092	-47296.526	54460.487	46.136	接合 I-⑤、未製品
54	7158	X I	Z29	GT	削片	9.2	7.0	3.9	1943	-47296.297	54460.896	46.138	接合 I-⑤
54	7161	X I	Z29	GT	削片	5.7	3.3	1.3	143	-47298.248	54462.528	46.020	接合 I-⑤
55	7680	X I	B22	GT	石芥	11.1	5.7	2.8	2200	-47304.588	54388.566	46.580	
56	7687	X I	B22	GT	石芥	11.0	5.8	3.3	2210	-47303.662	54387.630	46.600	
57	7300	X b	C31	R1	直線削片	7.5	6.4	1.9	821	-47258.632	54474.508	46.510	
58	4009	X b	D27	R2	削片	7.3	4.1	2.5	617	-47260.352	54433.385	47.101	
59	6917	X b	C31	R1	削片	5.5	5.0	2.5	370	-47257.124	54472.992	46.625	
60	6858	X b	D30	R1	石核	5.6	8.2	2.5	920	-47255.182	54464.690	46.686	
61	5069	X b	D25	R1	石核	6.2	7.5	3.6	1723	-47264.948	54407.230	47.137	

第19表 石器観察表1

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
62	4110	X I	D27	R11	剥片	5.3	7.7	1.9	28.0	-47260.924	54432.025	47.070	
63	4596	X I	D27	R11	石核	4.9	3.9	3.6	44.8	-47262.004	54428.636	47.018	
64	4008	X b	D27	R3	削器	6.7	6.6	2.6	46.7	-47260.080	54434.046	47.150	
65	4617	X I	D28	R3	微細彫刻ある剥片	5.6	6.7	1.1	23.3	-47260.559	54436.349	46.966	
66	7642	X b	B21	R1	剥片	5.2	3.9	1.3	21.9	-47304.620	54383.300	46.630	接合 I-⑥
67	7740	X b	A21	R1	剥片	1.8	3.0	0.7	4.0	-47308.569	54387.496	46.804	接合 I-⑥
68	7672	X I	B21	R1	剥片	4.8	4.2	1.4	17.3	-47304.404	54386.017	46.548	接合 I-⑥
69	7664	X I	B21	R1	石核	3.0	4.4	2.5	24.3	-47305.764	54386.425	46.565	接合 I-⑥
70	7686	X I	B22	R1	剥片	3.7	1.6	1.0	4.4	-47304.560	54387.972	46.588	接合 I-⑥
71	7758	X b	A21	R1	剥片	3.1	2.2	0.9	3.1	-47309.290	54383.758	46.734	接合 I-⑥
72	7899	X I	A21	R1	微細彫刻ある剥片	5.7	3.3	0.8	11.1	-47309.985	54382.494	46.355	接合 I-⑥
73	7677	X I	B22	R1	剥片	2.5	3.1	0.4	2.7	-47305.256	54388.091	46.601	接合 I-⑥
74	7894	X I	A21	R1	剥片	2.4	2.2	0.8	3.3	-47308.244	54383.664	46.334	接合 I-⑥
75	7792	X I	A22	R1	石核	8.9	8.5	6.4	546.3	-47307.118	54388.325	46.499	接合 I-⑥
76	7674	X b	B21	R1	剥片	6.3	5.2	2.0	40.9	-47304.862	54386.271	46.639	接合 I-⑥
77	7745	X b	A21	R1	剥片	2.5	1.6	0.6	1.7	-47307.662	54385.942	46.734	接合 I-⑥
78	7665	X b	B21	R1	剥片	2.4	1.5	0.3	1.0	-47306.179	54385.744	46.678	接合 I-⑥
79	7919	X I	A21	R1	微細彫刻ある剥片	6.4	3.9	1.7	36.8	-47309.935	54382.487	46.277	接合 I-⑥
80	7819	X I	A21	R1	二次加工剥片	6.6	3.9	2.5	56.4	-47307.627	54385.398	46.446	接合 I-⑥
81	6586	X b	C30	R2	剥片	2.6	3.0	0.7	3.1	-47262.550	54464.285	46.546	接合 I-⑦
82	7025	X I	C31	R2	剥片	4.2	1.9	0.5	3.7	-47263.382	54470.570	46.705	接合 I-⑦ X a層出土
83	6587	X b	C30	R2	剥片	5.8	6.2	1.8	43.7	-47263.507	54463.539	46.571	接合 I-⑦
84	6617	X I	C30	R2	剥片	8.6	5.1	5.2	185.0	-47261.917	54465.542	46.496	接合 I-⑦
85	6620	X I	C30	R2	剥片	6.0	6.0	2.0	100.7	-47260.190	54463.937	46.619	接合 I-⑦
86	6614	X I	C30	R2	石核	5.9	8.8	6.3	334.3	-47261.416	54462.231	46.623	接合 I-⑦
87	6934	X a	C31	R3	石核	5.5	5.2	2.3	74.6	-47259.216	54472.946	46.670	接合 II-①
88	6947	X a	C31	R3	剥片	2.9	1.5	0.6	1.8	-47259.292	54471.939	46.664	接合 II-① X b層出土
89	6936	X a	C31	R3	剥片	3.1	2.9	0.7	5.2	-47259.040	54473.038	46.655	接合 II-①
90	7009	X a	C31	R3	ナイフ形石器	2.3	14.5	5.5	1.4	-47262.161	54469.879	46.735	
91	7099	X a	B31	R3	ナイフ形石器	2.3	1.4	0.5	1.4	-47266.784	54474.528	46.326	X b層で出土
92	6998	X a	C31	R3	ナイフ形石器	3.8	1.8	0.5	2.4	-47261.622	54471.651	46.720	
93	7762	X a	A21	R2	ナイフ形石器	5.2	1.8	0.6	4.7	-47312.828	54384.526	46.989	
94	7303	X a	C31	R3	ナイフ形石器	5.2	1.6	0.8	5.5	-47258.146	54475.203	46.916	
95	7310	X a	Z29	R1	礫器	8.2	7.5	3.7	231.5	-47292.569	54463.088	46.494	
96	6949	X a	C31	R1	剥片	5.9	4.7	8.5	22.2	-47260.085	54471.560	46.827	
97	6955	X a	C31	R1	微細彫刻ある剥片	6.4	2.3	3.5	5.4	-47260.704	54471.562	46.810	6956 と接合
97	6956	X a	C31	R1	微細彫刻ある剥片	-	-	-	-	-47260.676	54471.600	46.777	6955 と接合
98	6954	X a	C31	R2	掻器	5.4	4.6	2.5	52.4	-47260.328	54471.625	46.807	
99	6928	X a	C31	R3	剥片	4.6	1.6	1.4	9.2	-47259.428	54473.965	46.729	
100	6929	X a	C31	R3	剥片	4.7	4.9	1.5	35.1	-47259.411	54473.827	46.703	
101	6961	X a	C31	R3	剥片	4.6	4.6	1.6	32.2	-47260.908	54472.266	46.809	
102	7076	X a	C31	R3	剥片	8.8	5.1	2.0	40.4	-47265.504	54472.970	46.576	
103	7089	X a	B31	R3	剥片	3.2	6.4	2.4	39.7	-47266.219	54472.060	46.583	
104	7112	X a	B31	R2	微細彫刻ある剥片	5.9	3.0	1.2	13.7	-47269.742	54473.550	46.548	
105	7113	X a	B31	R1	微細彫刻ある剥片	8.9	3.0	1.3	30.4	-47270.146	54473.324	46.528	
106	6933	X a	C31	R2	剥片	5.3	4.8	1.6	37.7	-47259.260	54473.124	46.740	
107	6912	X a	C31	R2	剥片	4.1	4.5	1.4	22.7	-47257.690	54472.121	46.544	
108	7299	X a	C31	R2	剥片	7.7	4.9	1.7	55.3	-47258.651	54474.573	46.685	
109	6585	X a	C30	R1	剥片	6.5	1.7	1.1	7.4	-47262.313	54464.859	46.807	
110	7080	X a	B31	Ch	石核	3.1	3.3	1.9	20.5	-47267.530	54471.544	46.713	
111	7098	X a	B31	Ch	微細彫刻ある剥片	3.4	2.5	1.6	11.4	-47266.893	54474.771	46.491	
112	7011	X a	C31	Ch	微細彫刻ある剥片	4.5	3.7	1.2	26.2	-47262.851	54469.296	46.685	
113	7079	X a	B31	Ch	石核	3.8	3.5	2.5	35.2	-47267.295	54471.226	46.534	
114	4793	VII	C25	R1	剥片・尖頭器	(6.4)	3.7	0.9	20.4	-47277.454	54413.018	47.925	
115	3105	VII	D26	R1	剥片・尖頭器	(7.7)	2.9	1.2	24.5	-47264.888	54421.116	48.036	
116	3906	VII	D26	R1	剥片・尖頭器	6.9	3.2	0.9	16.2	-47262.347	54419.390	48.143	
117	6014	VII	D29	R1	剥片・尖頭器	(6.7)	3.0	1.1	15.8	-47259.336	54450.828	47.788	
118	6010	VII	D29	R1	剥片・尖頭器	7.1	2.5	1.2	17.1	-47260.777	54450.780	47.809	
119	SI2-5	VII	D27	R1	剥片・尖頭器	(6.5)	3.4	1.4	25.0	-47264.856	54430.599	47.860	
120	6114	VII	A29	R1	剥片・尖頭器	7.6	2.6	1.0	18.8	-47292.930	54453.526	47.115	
121	3048	VII	D26	R1	剥片・尖頭器	4.5	3.2	1.2	15.3	-47263.645	54421.582	48.070	
122	3567	VII	D26	R1	基部加工ありナイフ	5.0	2.8	1.4	13.9	-47264.111	54420.815	47.994	
123	2784	VII	D28	R1	基部加工ありナイフ	5.7	2.2	1.2	11.1	-47263.275	54439.494	48.055	

第20表 石器観察表2

報告番号	遺物番号	層	グリップ	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
124	2817	Ⅴ	B28	R1	基壇加工ありナイフ	5.4	3.1	1.2	14.7	-47264.991	54438.797	47.967	
125	7414	Ⅴ	D22	R1	ナイフ形石器	4.5	2.2	1.3	7.8	-47283.553	54388.615	48.043	
126	3178	Ⅴ	B26	R1	ナイフ形石器	3.7	2.5	1.1	4.9	-47281.130	54429.185	47.894	V層出土
127	4797	Ⅴ	C25	R1	ナイフ形石器	3.8	1.2	0.9	6.7	-47284.871	54415.784	47.599	
128	4970	Ⅴ	C23	R1	ナイフ形石器	5.4	2.1	1.1	7.7	-47286.276	54391.832	47.750	
129	2108	Ⅴ	C28	R1	ナイフ形石器	4.9	1.7	1.1	6.1	-47273.905	54444.286	47.638	
130	2009	Ⅴ	A27	R1	ナイフ形石器	4.7	1.7	0.6	3.8	-47297.901	54439.941	47.691	V層出土
131	2847	Ⅴ	D28	R1	ナイフ形石器	5.3	2.1	0.9	9.0	-47262.012	54439.311	47.881	
132	4802	Ⅴ	C25	R1	撻器	5.1	6.3	2.2	82.2	-47285.860	54414.775	47.702	
133	3671	Ⅴ	B26	R1	撻器	5.8	5.7	1.5	45.1	-47282.976	54426.401	47.462	
134	4981	Ⅴ	C23	R1	撻器	4.6	4.0	1.1	23.5	-47284.483	54396.402	47.748	
135	5960	Ⅴ	D30	R1	撻器	4.9	5.0	2.0	36.9	-47254.816	54459.533	47.757	
136	5856	Ⅴ	D29	R1	微細研磨ある剥片	6.2	5.8	2.2	61.1	-47259.672	54451.563	47.842	
137	D26 Ⅴ	Ⅴ	D26	R1	剥片	7.3	3.0	1.2	18.3	-	-	-	
138	3943	Ⅴ	D26	R1	剥片	7.1	2.7	1.3	11.4	-47264.118	54417.415	48.076	
139	2828	Ⅴ	D28	R1	撻器	4.6	2.7	2.0	25.5	-47263.677	54438.953	48.023	3329と接合・重量は合計
139	3329	Ⅴ	D28	R1	撻器	5.1	2.1	1.7	-	-47263.983	54438.566	47.866	2828と接合
140	5879	Ⅴ	C29	R1	石鏝	6.9	3.8	1.3	25.6	-47266.714	54450.977	47.730	
141	2139	Ⅴ	C28	R1	剥片	4.9	3.9	1.8	25.0	-47273.888	54443.272	47.605	接合面①
142	2147	Ⅴ	C28	R1	石核	6.4	6.7	5.0	110.6	-47271.554	54443.180	47.541	接合面①
143	2149	Ⅴ	C28	R1	剥片	5.2	3.9	2.5	27.5	-47271.967	54443.878	47.614	接合面①
144	4217	Ⅴ	D25	R1	剥片	6.6	4.0	1.8	39.4	-47264.400	54415.008	47.947	接合面②
145	4333	Ⅴ	D25	R1	剥片尖頭器	8.3	3.2	1.3	19.1	-47265.168	54414.784	47.974	接合面②
146	3808	Ⅴ	D26	R1	剥片	7.5	3.0	1.8	24.9	-47265.635	54415.546	47.995	接合面②
147	3168	Ⅴ	D27	R1	剥片	3.8	3.1	0.8	8.0	-47262.901	54421.277	47.992	接合面②
148	3526	Ⅴ	D26	R1	剥片	9.0	3.4	1.5	57.3	-47263.147	54421.804	47.946	接合面②
149	4223	Ⅴ	D26	R1	剥片	6.6	3.6	1.7	32.0	-47264.930	54415.551	48.004	接合面②
150	3778	Ⅴ	D25	R1	剥片	4.5	2.5	0.8	6.5	-47265.226	54414.244	48.191	接合面②・4332と接合
150	4332	Ⅴ	D25	R1	剥片	4.5	2.4	0.8	8.4	-47264.749	54414.271	47.923	接合面②・3778と接合
151	4329	Ⅴ	D25	R1	剥片	7.1	3.0	1.2	15.6	-47265.779	54414.934	47.858	接合面②・4330と接合
151	4330	Ⅴ	D25	R1	剥片	2.1	1.4	0.6	1.7	-47265.879	54414.679	47.865	接合面②・4329と接合
152	5588	Ⅴ	D25	R1	剥片	5.6	6.0	2.7	75.9	-47263.683	54412.493	48.000	接合面②
153	3776	Ⅴ	D25	R1	剥片	4.9	2.7	1.2	9.4	-47265.135	54413.421	48.082	接合面②
154	3454	Ⅴ	D26	R1	剥片	6.9	2.3	0.9	13.8	-47262.812	54421.491	47.970	接合面②
155	4239	Ⅴ	D26	R1	剥片	8.8	3.6	1.3	40.6	-47264.767	54416.628	48.047	接合面②
156	3971	Ⅴ	D26	R1	剥片	9.8	3.2	1.8	49.6	-47265.352	54415.222	47.966	接合面②
157	4225	Ⅴ	D26	R1	石核	6.1	6.2	2.4	86.8	-47264.694	54415.736	48.001	接合面②
158	4835	Ⅴ	B25	R1	剥片	3.2	2.4	0.8	5.3	-47288.710	54415.118	47.706	接合面③
159	4829	Ⅴ	B25	R1	剥片	2.9	3.0	0.7	6.6	-47287.696	54413.830	47.728	接合面③
160	4823	Ⅴ	B25	R1	台形石器	3.7	2.3	0.6	6.9	-47287.112	54415.180	47.742	接合面③
161	4813	Ⅴ	C25	R1	石核	6.8	4.4	2.8	67.0	-47285.860	54412.709	47.649	接合面③
162	4825	Ⅴ	B25	R1	剥片	3.3	3.5	1.5	12.1	-47287.195	54414.461	47.551	接合面③
163	4807	Ⅴ	C25	R1	剥片	4.2	2.9	1.0	9.5	-47285.815	54413.342	47.705	接合面③
164	4827	Ⅴ	B25	R1	剥片	5.7	3.4	1.9	26.4	-47287.455	54414.331	47.692	接合面③
165	4831	Ⅴ	B25	R1	剥片	2.9	3.8	0.6	9.9	-47287.763	54414.482	47.613	接合面③
166	4828	Ⅴ	B25	R1	剥片	3.3	3.0	0.6	6.5	-47287.606	54414.260	47.650	接合面③
167	4804	Ⅴ	C25	R1	剥片	3.6	2.3	1.0	7.8	-47286.151	54414.480	47.605	接合面③
168	4819	Ⅴ	B25	R1	剥片	3.0	3.2	0.9	7.4	-47287.249	54413.763	47.586	接合面③
169	4830	Ⅴ	B25	R1	剥片	3.0	1.8	0.8	3.9	-47287.916	54413.912	47.673	接合面③
170	4821	Ⅴ	B25	R1	剥片	3.2	3.4	1.6	7.3	-47286.893	54414.295	47.705	接合面③
171	4834	Ⅴ	B25	R1	剥片	2.7	2.3	0.7	2.0	-47287.630	54415.257	47.692	接合面③
172	3399	Ⅴ	D28	R2a	剥片尖頭器	(6.5)	3.4	1.4	26.8	-47264.540	54437.333	47.765	
173	7713	Ⅴ	Z22	R2a	ナイフ形石器	(3.7)	2.0	0.7	3.7	-47314.146	54397.291	47.564	
174	5866	Ⅴ	D29	R2a	微細研磨ある剥片	6.8	2.5	1.0	16.1	-47260.989	54450.277	47.881	
175	2883	Ⅴ	D28	R2a	微細研磨ある剥片	4.3	1.9	6.0	4.3	-47264.778	54439.293	47.871	
176	2785	Ⅴ	D28	R2a	微細研磨ある剥片	6.5	2.5	1.2	12.1	-47263.248	54439.217	48.017	
177	4859	Ⅴ	B22	R2b	石核	5.0	4.4	5.2	115.2	-47297.379	54392.618	47.714	
178	S11-11	Ⅴ	D28	R2b	微細研磨ある剥片	8.7	2.9	1.0	17.2	-	-	-	
179	6137	Ⅴ	C29	R2c	撻器	7.5	9.7	2.1	118.9	-47261.471	54455.567	47.641	
180	4801	Ⅴ	C25	R2c	撻器	6.1	5.2	2.3	56.1	-47285.846	54415.057	47.635	
181	2719	Ⅴ	B27	R2c	微細研磨ある剥片	6.7	4.3	1.7	38.2	-47289.200	54437.033	47.605	
182	6144	Ⅴ	D30	R2c	撻器	5.2	5.4	2.4	78.8	-47254.703	54459.366	47.657	
183	7530	Ⅴ	D22	R2c	撻器	4.5	5.2	1.7	31.5	-47280.656	54388.066	47.869	

第2表 石器観察表3

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
184	3345	VII	D28	R2a	銅片	3.2	2.7	1.6	12.2	-47263.557	54439.047	47.844	接合部④
185	3424	VII	D26	R2a	銅片	4.2	2.3	1.3	12.1	-47263.523	54421.569	47.973	接合部④
186	3362	VII	D28	R2a	石核	3.5	3.1	2.0	24.7	-47263.460	54438.870	47.920	接合部④
187	2826	VI	D28	R2a	銅片	3.7	3.0	2.5	17.6	-47263.969	54438.743	48.087	接合部④
188	3600	VII	D26	R2a	銅片	6.5	6.5	2.8	72.6	-47266.338	54425.519	47.784	接合部④
189	3528	VII	D26	R2a	銅片	9.0	2.7	3.0	38.1	-47263.180	54421.810	47.934	接合部④
190	3292	VII	D28	R2a	銅片	6.1	5.0	1.2	30.6	-47264.264	54439.799	47.843	接合部④
191	4271	VII	D26	R2a	銅片	4.9	3.5	1.8	24.6	-47264.083	54419.395	47.934	接合部④
192	2776	VII	D28	R2a	銅片	2.5	1.7	2.3	7.6	-47263.305	54438.802	48.205	接合部④-3380と接合V区画土、重量合計
192	3360	VII	D28	R2a	銅片	1.6	1.5	0.7	-	-47263.513	54439.257	47.876	接合部④-4) 2776と接合
193	3922	VII	D26	R2a	銅片	2.1	1.9	1.3	4.1	-47263.435	54420.580	47.959	接合部⑤
194	2400	VII	D26	R2a	銅片	9.7	2.7	2.3	37.0	-47267.175	54422.938	47.850	接合部⑤
195	2369	VII	D26	R2a	銅片	4.9	2.4	0.7	15.5	-47266.446	54422.942	47.893	接合部⑤-3) 3055と接合、重量合計
195	3055	VI	D26	R2a	銅片	3.4	2.6	1.0	-	-47267.651	54422.067	48.073	接合部⑤-3) 3633と接合
195	3633	VI	D26	R2a	銅片	1.3	2.4	0.5	-	-47263.463	54420.741	48.067	接合部⑤-3) 3055と接合
196	2460	VI	D26	R2a	銅片	8.2	3.5	2.0	39.7	-47264.704	54422.614	47.944	接合部⑤
197	3009	VII	D27	R2a	微細網線ある銅片	6.5	3.1	1.0	22.5	-47266.952	54432.768	47.833	接合部⑤-3) S12-6と接合
197	S12-6	VII	D27	R2a	微細網線ある銅片	3.8	2.3	0.9	5.1	-47264.938	54431.474	47.750	接合部⑤-3) 3009と接合
198	S12-1	VII	D27	R2a	微細網線ある銅片	9.8	2.7	1.8	52.2	-47265.716	54432.928	47.818	接合部⑤
199	3594	VII	D26	R2a	銅片	9.5	2.6	1.8	25.0	-47267.101	54423.890	47.804	接合部⑤
200	3012	VII	D27	R2a	微細網線ある銅片	7.1	3.1	1.8	32.9	-47267.180	54433.458	47.901	接合部⑤
201	2560	VII	D26	R2a	銅片	3.2	2.5	1.0	4.8	-47263.217	54421.995	47.931	接合部⑤
202	3111	VII	D26	R2a	銅片	3.9	3.4	0.7	4.8	-47266.503	54422.238	47.951	接合部⑤
203	3110	VII	D26	R2a	石核	5.2	3.1	1.8	28.7	-47266.374	54422.008	47.954	接合部⑤
204	3495	VII	D26	R2a	石核	4.7	5.2	2.2	55.2	-47263.685	54421.510	47.989	接合部⑤
205	3496	VII	D26	R2a	石核	4.5	5.4	2.5	25.0	-47263.689	54421.481	47.941	接合部⑤
206	2523	VII	D26	R2a	銅片	8.8	2.9	2.4	60.4	-47266.212	54421.920	47.923	接合部⑤
207	2577	VII	D26	R2a	銅片	6.5	3.0	1.5	33.6	-47266.484	54423.192	47.795	接合部⑤
208	3013	VII	D27	R2a	微細網線ある銅片	6.0	4.4	1.6	25.8	-47267.015	54433.886	47.887	接合部⑤
209	3058	VI	D26	R2a	銅片	5.2	2.7	2.5	36.6	-47266.615	54423.860	48.036	接合部⑤
210	2383	VII	D26	R2a	銅片	6.3	4.0	2.1	49.5	-47266.758	54423.085	47.872	接合部⑤
211	3011	VII	D27	R2a	微細網線ある銅片	8.9	3.3	2.2	67.0	-47267.453	54433.057	47.849	接合部⑤
212	3595	VII	D26	R2a	銅片	7.9	2.8	2.4	55.2	-47266.354	54424.010	47.859	接合部⑤
213	3566	VII	D26	R2a	銅片	6.2	4.5	2.8	62.4	-47264.081	54420.939	47.921	接合部⑤
214	3418	VII	D26	R2a	銅片	5.9	3.0	1.7	18.6	-47263.721	54421.688	47.968	接合部⑤
215	3051	VI	D26	R2a	銅片	5.0	4.1	1.9	29.0	-47266.976	54422.499	48.076	接合部⑤
216	2510	VII	D26	R2a	石核	5.8	6.5	2.5	86.8	-47267.180	54423.209	47.799	接合部⑤
217	3109	VII	D26	R2a	石核	7.1	5.8	2.4	88.7	-47266.272	54421.949	47.947	接合部⑤
218	3117	VII	D26	R2a	銅片	7.8	5.4	2.9	74.9	-47266.716	54423.454	47.819	接合部⑤
219	3598	VII	D26	R2a	銅片	7.3	2.0	1.3	16.4	-47266.691	54424.692	47.812	接合部⑤
220	3601	VI	D26	R2a	銅片	6.6	2.7	0.8	12.3	-47266.868	54425.507	47.936	接合部⑤-3) 3657と接合
220	3657	VII	D27	R2a	銅片	-	-	-	-	-47266.343	54425.546	47.755	接合部⑤-3) 3601と接合
221	3300	VII	D28	R2b	銅片	5.1	5.4	3.4	99.9	-47264.158	54440.116	47.804	接合部⑥
222	3702	VII	D28	R2b	銅片	6.3	7.0	2.7	109.2	-47264.219	54440.123	47.792	接合部⑥
223	3331	VII	D28	R2b	銅片	9.6	6.4	3.6	151.0	-47264.292	54438.799	47.834	接合部⑥
224	S11-1	VII	D28	R2b	銅片	11.1	5.9	3.9	199.9	-47264.796	54440.515	47.832	接合部⑥
225	S11-6	VII	D28	R2b	挟入石器	7.3	6.3	3.1	103.2	-47264.343	54437.559	47.827	接合部⑥
226	S11-10	VII	D28	R2b	石核	11.0	7.2	4.1	281.2	-47263.928	54437.471	47.877	接合部⑥
227	S11-17	VII	D28	R2b	銅片	2.3	4.2	2.2	22.8	-47264.401	54439.588	47.800	接合部⑥
228	2801	VI	D28	R2b	銅片	4.2	2.1	0.8	5.4	-47264.745	54439.734	48.079	接合部⑥
229	3295	VII	D28	R2b	銅片	3.7	2.3	0.9	4.9	-47264.499	54439.149	47.855	接合部⑥
230	2875	VII	D28	R2b	微細網線ある銅片	5.9	3.4	1.1	14.8	-47264.146	54439.578	47.879	接合部⑥
231	3257	VII	D28	R2b	銅片	6.5	3.2	1.1	16.4	-47263.934	54440.406	47.832	接合部⑥
232	3267	VII	D28	R2b	銅片	7.9	3.4	1.9	30.3	-47265.178	54440.875	47.815	接合部⑥
233	2862	VII	D28	R2b	銅片	16.7	3.6	3.6	4.7	-47264.683	54440.418	47.897	接合部⑥
234	2868	VII	D28	R2b	銅片	6.7	4.0	0.8	28.8	-47264.609	54439.879	47.893	接合部⑥
235	3253	VII	D28	R2b	銅片	4.9	1.2	0.7	3.0	-47263.943	54440.039	47.900	接合部⑥
236	3265	VII	D28	R2b	銅片	3.5	6.2	3.1	39.6	-47264.663	54440.451	47.840	接合部⑥
237	3263	VII	D28	R2b	銅片	7.9	3.2	1.8	26.7	-47264.432	54440.381	47.802	接合部⑥
238	3264	VII	D28	R2b	銅片	7.7	2.3	1.9	30.3	-47264.466	54440.350	47.813	接合部⑥
239	3270	VII	D28	R2b	銅片	3.7	2.6	1.3	8.6	-47264.834	54440.149	47.847	接合部⑥
240	3273	VII	D28	R2b	銅片	7.1	5.6	2.7	62.2	-47264.184	54440.215	47.802	接合部⑥
241	3276	VII	D28	R2b	銅片	5.6	5.4	1.8	62.4	-47264.426	54440.071	47.824	接合部⑥

第2表 石器観察表4

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
242	3289	Ⅴ	D28	R2b	剥片	4.9	4.8	2.3	31.3	-47264.179	54439.975	47.815	接合目⑥
243	7534	Ⅴ	C22	R3s	角錐状石器	(6.5)	2.6	1.6	24.5	-47295.040	54387.275	47.493	
244	7729	Ⅴ	A21	R3s	ナイフ形石器	3.7	2.1	1.1	7.2	-47307.989	54387.212	47.326	
245	6027	Ⅴ	C29	R3s	台形石器	3.8	2.5	1.0	7.5	-47267.552	54448.568	47.540	
246	6254	Ⅴ	A30	R3s	ナイフ形石器	3.6	1.2	0.5	2.1	-47278.142	54463.964	47.101	
247	5966	Ⅴ	D30	R3s	ナイフ形石器	(4.3)	1.3	0.9	5.4	-47258.738	54457.995	47.802	
248	3228	Ⅴ	B26	R3s	ナイフ形石器	4.7	1.9	1.0	5.6	-47289.458	54433.344	47.426	
249	4963	Ⅴ	C24	R3s	ナイフ形石器	3.7	2.0	1.0	4.7	-47283.169	54407.719	47.861	
250	4914	Ⅴ	C23	R3s	ナイフ形石器	3.4	1.9	0.7	2.8	-47289.624	54402.011	47.641	
251	4885	Ⅴ	B24	R3s	掻器	6.6	6.4	3.3	105.0	-47287.543	54411.015	47.645	
252	2146	Ⅴ	C28	R3s	剥片	5.3	5.8	15.5	49.2	-47272.982	54442.722	47.530	
253	3926	Ⅴ	D26	R3s	微細剥離ある剥片	7.1	4.9	0.9	29.5	-47264.004	54420.678	47.940	
254	6182	Ⅴ	B31	R3s	微細剥離ある剥片	4.3	2.8	1.1	10.9	-47270.680	54473.970	46.833	
255	6180	Ⅴ	C31	R3s	剥片	3.5	3.5	1.0	8.2	-47261.857	54472.189	47.071	
256	S11-5	Ⅴ	D28	R1f	剥片	8.7	4.1	1.2	20.4	-	-	-	
257	6018	Ⅴ	D29	R1f	剥片	7.7	3.2	1.9	21.2	-47261.040	54449.076	47.790	
258	3502	Ⅴ	D26	R3s	剥片	5.6	4.4	3.7	80.2	-47263.908	54421.414	47.976	接合目⑦
259	3407	Ⅴ	D26	R3s	剥片	5.5	2.8	1.2	15.4	-47263.957	54421.757	48.008	接合目⑦
260	3101	Ⅴ	D26	R3s	剥片	2.4	3.3	1.8	8.0	-47264.633	54421.496	47.999	接合目⑦
261	3564	Ⅴ	D26	R3s	剥片	1.9	1.6	0.5	1.4	-47264.059	54421.016	47.911	接合目⑦
262	3774	Ⅴ	D25	R3s	剥片	3.0	6.0	2.2	26.1	-47270.524	54413.048	48.017	接合目⑦
263	3775	Ⅴ	D25	R3s	剥片	5.6	6.5	2.4	74.0	-47270.693	54412.933	47.894	接合目⑦
264	4264	Ⅴ	D26	R3s	剥片	6.3	2.7	2.4	36.6	-47264.385	54419.053	47.975	接合目⑦
265	3894	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.8	1.7	0.6	2.2	-47264.701	54419.487	48.037	接合目⑦
266	3904	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.5	2.9	1.0	7.1	-47265.735	54420.233	47.954	接合目⑦
267	3919	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.3	1.6	1.0	4.2	-47263.283	54419.811	48.080	接合目⑦
268	3923	Ⅴ	D26	R3s	剥片	5.9	3.3	1.3	20.3	-47263.574	54420.533	48.020	接合目⑦
269	4283	Ⅴ	D26	R3s	剥片	6.5	5.0	1.9	22.3	-47263.920	54419.724	47.908	接合目⑦
270	3876	Ⅴ	D26	R3s	石核	2.0	2.6	0.9	92.1	-47263.192	54419.856	48.090	接合目⑦-⑦4273 と接合・重量合計
270	4273	Ⅴ	D26	R3s	剥片	6.4	5.6	3.7	-	-47264.797	54419.717	47.932	接合目⑦-⑦3876 と接合
271	4286	Ⅴ	D26	R3s	剥片	7.9	4.9	2.8	99.3	-47264.230	54419.887	47.949	接合目⑦
272	4287	Ⅴ	D26	R3s	剥片	4.0	2.0	0.6	5.0	-47264.388	54419.892	47.871	接合目⑦
273	4301	Ⅴ	D26	R3s	剥片	9.9	2.8	2.0	35.2	-47263.550	54420.370	47.918	接合目⑦
274	4944	Ⅴ	D25	R3s	剥片	7.6	2.2	1.3	17.2	-47263.618	54419.969	47.883	接合目⑦
275	3798	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.5	2.7	0.8	6.9	-47266.009	54417.979	47.923	接合目⑦
276	3822	Ⅴ	D26	R3s	剥片	4.5	2.0	1.0	6.5	-47264.013	54419.224	48.194	接合目⑦-VI層出土
277	3503	Ⅴ	D26	R3s	剥片	8.5	4.3	1.1	32.2	-47263.842	54421.513	47.939	接合目⑧
278	3794	Ⅴ	D26	R3s	剥片	5.3	2.0	0.9	6.8	-47269.278	54416.542	48.096	接合目⑧
279	3070	Ⅴ	D26	R3s	剥片	7.3	1.2	0.8	6.4	-47263.083	54423.422	47.943	接合目⑧
280	2649	Ⅴ	D26	R3s	剥片	7.4	3.2	1.5	37.4	-47261.944	54422.599	47.926	接合目⑧
281	3395	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.1	2.6	2.5	20.3	-47264.930	54421.972	47.954	接合目⑧
282	3968	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.2	1.7	0.7	7.5	-47265.158	54418.016	48.163	接合目⑧
283	3516	Ⅴ	D26	R3s	剥片	7.5	5.9	1.5	46.7	-47264.037	54421.261	47.934	接合目⑧
284	3976	Ⅴ	D26	R3s	剥片	8.0	2.4	1.5	29.9	-47263.717	54417.693	48.004	接合目⑧
285	3439	Ⅴ	D26	R3s	剥片	8.4	2.8	1.2	17.6	-47263.044	54421.808	47.929	接合目⑧
286	3793	Ⅴ	D26	R3s	剥片	4.8	2.5	1.6	40.8	-47268.808	54416.698	47.976	接合目⑧-⑧5582 と接合・重量合計
286	5582	Ⅴ	E26	R3s	剥片	4.6	2.4	2.1	-	-47262.786	54417.688	48.010	接合目⑧-⑧3793 と接合
287	4224	Ⅴ	D26	R3s	剥片	6.0	4.0	1.6	18.3	-47264.666	54415.680	48.012	接合目⑧
288	3948	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.4	2.4	1.6	11.0	-47264.553	54416.933	48.158	接合目⑧
289	3738	Ⅴ	D26	R3s	剥片	2.8	1.3	0.6	1.9	-47269.081	54417.648	47.963	接合目⑧
290	3099	Ⅴ	D26	R3s	剥片	4.0	2.2	1.2	10.0	-47264.718	54421.685	47.983	接合目⑧
291	3507	Ⅴ	D26	R3s	剥片	5.5	6.4	2.2	70.2	-47263.905	54421.704	47.906	接合目⑧
292	3387	Ⅴ	D26	R3s	剥片	2.4	2.2	1.1	3.8	-47263.339	54421.348	48.081	接合目⑧-⑧4238 と接合
292	4238	Ⅴ	D26	R3s	剥片	4.1	5.9	1.5	33.1	-47265.163	54417.129	47.938	接合目⑧-⑧3387 と接合
293	5558	Ⅴ	E26	R3s	石核	5.3	4.5	2.8	77.7	-47263.316	54415.966	48.058	接合目⑧
294	3573	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.6	8.5	2.5	73.5	-47264.712	54420.806	47.907	接合目⑧
295	4953	Ⅴ	D25	R3s	剥片	3.7	5.4	4.6	87.8	-47267.757	54413.162	47.820	接合目⑧
296	3759	Ⅴ	D25	R3s	剥片	5.3	2.8	1.1	15.9	-47269.297	54415.049	48.000	接合目⑧
297	3520	Ⅴ	D26	R3s	石核	5.2	3.0	2.9	57.2	-47264.400	54421.203	47.930	接合目⑧
298	3940	Ⅴ	D26	R3s	剥片	5.5	1.8	1.5	13.7	-47265.515	54419.531	47.925	接合目⑧
299	4234	Ⅴ	D26	R3s	剥片	3.9	2.2	0.7	5.0	-47265.304	54416.577	47.867	接合目⑧
300	3780	Ⅴ	D25	R3s	剥片	6.0	3.4	2.5	48.1	-47266.186	54414.360	47.943	接合目⑧
301	3758	Ⅴ	D26	R3s	剥片	6.5	3.8	3.6	77.6	-47268.063	54415.782	47.936	接合目⑧

第23表 石器観察表5

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
302	4227	VII	D26	R3s	石核	3.0	6.1	3.3	42.3	-47265.656	54416.165	47.907	接合Ⅲ-⑨
303	3085	VII	D26	R3s	削片	2.4	2.6	0.5	2.3	-47263.535	54421.411	48.070	接合Ⅲ-⑨
304	5573	VII	E26	R3s	削片	7.4	3.8	2.1	41.5	-47262.933	54416.717	48.051	接合Ⅲ-⑨
305	4255	VII	D26	R3s	削片	2.9	1.5	0.5	1.5	-47265.258	54417.715	47.912	接合Ⅲ-⑨
306	2608	VII	D26	R3s	削片	3.0	2.5	1.1	7.2	-47263.784	54422.455	47.950	接合Ⅲ-⑨
307	3765	VII	D25	R3s	削片	2.4	3.0	1.1	2.9	-47267.474	54413.062	48.050	接合Ⅲ-⑨ 3954 と接合
307	3954	VII	D26	R3s	削片	3.7	3.0	1.1	13.3	-47264.382	54415.182	48.014	接合Ⅲ-⑨ 3765 と接合
308	3791	VII	D26	R3s	削片	6.0	3.0	1.3	18.2	-47268.641	54416.472	47.984	接合Ⅲ-⑨
309	4243	VII	D26	R3s	削片	6.4	4.9	1.3	24.0	-47268.809	54416.856	47.866	接合Ⅲ-⑨
310	4246	VII	D26	R3s	削片	7.7	3.9	1.8	37.6	-47264.512	54416.139	48.046	接合Ⅲ-⑨
311	3427	VII	D26	R3s	削片	10.6	3.9	2.6	81.9	-47263.355	54421.631	47.969	接合Ⅲ-⑨
312	4951	VII	D25	R3s	削片	9.1	3.9	2.7	69.6	-47265.647	54413.824	47.864	接合Ⅲ-⑨
313	4325	VII	D26	R3s	削片	2.1	2.4	1.1	6.2	-47265.299	54416.077	48.001	接合Ⅲ-⑨
314	4957	VII	D25	R3s	削片	5.4	3.1	1.0	15.0	-47272.047	54415.737	47.789	接合Ⅲ-⑨
315	3510	VII	D26	R3s	削片	3.2	3.8	1.4	10.2	-47264.048	54421.477	47.917	接合Ⅲ-⑨
316	3169	VII	D27	R3s	削片	6.3	4.2	2.2	35.4	-47262.601	54421.855	47.988	接合Ⅲ-⑨
317	5585	VII	D25	R3s	削片	6.2	3.6	2.5	44.7	-47263.564	54412.701	48.005	接合Ⅲ-⑨
318	3779	VII	D25	R3s	削片	5.8	3.1	1.5	24.0	-47266.102	54414.305	47.981	接合Ⅲ-⑨
319	4334	VII	D25	R3s	削片	4.5	3.8	1.6	21.1	-47266.508	54414.361	47.839	接合Ⅲ-⑨
320	5600	VII	E25	R3s	削片	5.4	5.1	8.0	25.8	-47263.507	54417.085	47.995	接合Ⅲ-⑨
321	5991	VII	D25	R3s	削片	8.2	3.7	3.2	76.1	-47263.863	54412.191	47.968	接合Ⅲ-⑨
322	4247	VII	D26	R3s	削片	5.9	2.3	1.5	20.0	-47264.001	54416.386	47.999	接合Ⅲ-⑨
323	4214	VII	D26	R3s	削片	4.8	3.1	2.1	21.4	-47264.497	54416.277	48.140	接合Ⅲ-⑨
324	4250	VII	D26	R3s	削片	2.9	1.9	1.1	5.4	-47264.259	54416.884	47.972	接合Ⅲ-⑨
325	4231	VII	D26	R3s	削片	2.6	4.3	1.6	16.1	-47265.579	54416.004	47.895	接合Ⅲ-⑨
326	5576	VII	E26	R3s	削片	5.6	3.9	1.1	18.4	-47263.242	54416.923	48.060	接合Ⅲ-⑨
327	3764	VII	D25	R3s	削片	4.8	2.7	1.9	17.3	-47266.923	54413.397	48.042	接合Ⅲ-⑨
328	4261	VII	D26	R3s	削片	5.4	5.9	1.2	26.0	-47262.771	54417.941	48.024	接合Ⅲ-⑨
329	3422	VII	D26	R3s	石核	4.7	6.7	2.7	86.1	-47263.530	54421.666	47.947	接合Ⅲ-⑨
330	4230	VII	D26	R3s	石核	5.7	6.4	3.3	100.3	-47265.530	54415.856	47.909	接合Ⅲ-⑨
331	4282	VII	D26	R11	削片	6.3	3.0	1.2	11.5	-47263.770	54419.732	47.986	接合Ⅲ-⑨
332	4272	VII	D26	R11	撻器	5.7	4.9	1.8	30.7	-47264.147	54419.268	47.922	接合Ⅲ-⑨
333	4327	VII	D26	R11	削片	3.7	2.8	1.3	7.4	-47265.900	54415.345	47.984	接合Ⅲ-⑨
334	3890	VII	D26	R11	削片	4.0	3.2	1.0	6.3	-47264.380	54418.997	48.135	接合Ⅲ-⑨
335	3782	VII	D26	R11	削片	6.5	2.6	1.4	12.4	-47266.159	54414.594	47.982	接合Ⅲ-⑨
336	3812	VII	D26	R11	削片	5.5	2.8	1.4	9.8	-47265.413	54416.387	47.939	接合Ⅲ-⑨
337	2564	VII	D26	R11	削片	4.4	2.2	1.1	7.8	-47262.729	54423.098	47.965	接合Ⅲ-⑨
338	3587	VII	D26	R11	削片	5.6	2.2	0.9	6.0	-47267.307	54422.723	47.849	接合Ⅲ-⑨
339	4249	VII	D26	R11	削片	5.9	5.4	1.0	14.8	-47264.249	54416.677	47.977	接合Ⅲ-⑨
340	4298	VII	D26	R11	削片	8.6	4.3	3.0	75.4	-47263.872	54420.241	47.930	接合Ⅲ-⑨ 4298 と接合、重量合計
340	4299	VII	D26	R11	削片	3.6	1.9	2.3	-	-47263.790	54420.322	47.972	接合Ⅲ-⑨ 4298 と接合
341	4949	VII	D25	R11	削片	5.7	3.2	2.5	27.4	-47263.018	54419.528	47.964	接合Ⅲ-⑨
342	3153	VII	D26	R11	削片	2.4	2.6	1.5	3.6	-47263.550	54421.501	47.996	接合Ⅲ-⑨
343	3116	VII	D26	R11	削片	2.1	2.6	1.3	3.2	-47267.087	54421.535	47.976	接合Ⅲ-⑨
344	4303	VII	D26	R11	削片	7.6	2.0	1.8	15.8	-47263.593	54420.277	47.963	接合Ⅲ-⑨
345	3873	VII	D26	R11	削片	2.0	3.1	0.6	14.3	-47263.543	54420.041	48.102	接合Ⅲ-⑨ 3888 と接合、重量合計
345	3888	VII	D26	R11	削片	4.7	3.1	1.3	-	-47264.338	54419.759	48.073	接合Ⅲ-⑨ 3873 と接合
346	4948	VII	D25	R11	削片	8.8	3.7	2.7	46.8	-47264.576	54416.275	47.961	接合Ⅲ-⑨
347	4295	VII	D26	R11	削片	4.1	1.7	0.7	2.6	-47264.242	54420.580	47.998	接合Ⅲ-⑨
348	3524	VII	D26	R11	石核	7.5	7.7	2.5	147.0	-47263.847	54421.531	47.944	接合Ⅲ-⑨
349	3931	VII	D26	R11	削片	6.9	2.7	2.0	18.5	-47263.838	54420.087	48.021	接合Ⅲ-⑨
350	4240	VII	D26	R11	削片	4.8	2.2	0.6	2.8	-47264.861	54416.571	48.049	接合Ⅲ-⑨
351	4314	VII	D26	R11	削片	5.7	3.6	1.5	15.2	-47263.648	54419.560	47.958	接合Ⅲ-⑨
352	4331	VII	D25	R11	削片	6.6	5.5	2.4	32.0	-47265.281	54414.318	47.895	接合Ⅲ-⑨
353	5578	VII	E26	R11	削片	3.5	2.2	0.8	4.7	-47263.477	54417.026	48.150	接合Ⅲ-⑨
354	4221	VII	D26	R11	削片	7.5	4.0	1.4	20.7	-47265.182	54415.576	47.946	接合Ⅲ-⑨
355	3972	VII	D26	R11	削片	10.1	4.7	2.3	73.8	-47265.476	54415.299	47.925	接合Ⅲ-⑨
356	4947	VII	D25	R11	削片	9.5	2.9	2.9	42.2	-47264.747	54416.622	47.958	接合Ⅲ-⑨
357	3589	VII	D26	R11	削片	9.9	4.0	1.4	26.3	-47267.718	54422.295	47.862	接合Ⅲ-⑨
358	3937	VII	D26	R11	削片	8.6	4.4	1.2	22.0	-47263.944	54419.599	48.013	接合Ⅲ-⑨
359	4218	VII	D26	R11	削片	7.1	5.4	3.5	100.5	-47264.985	54415.034	47.925	接合Ⅲ-⑨
360	3527	VII	D26	R11	削片	9.1	2.7	1.7	29.8	-47263.187	54421.760	47.939	接合Ⅲ-⑨
361	3590	VII	D26	R11	削片	10.8	5.2	2.3	62.1	-47268.277	54423.155	47.873	接合Ⅲ-⑨

第24表 石器観察表6

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
362	2559	V	D26	R1f	剥片	9.1	7.3	2.4	104.2	-47263.130	54421.960	47.961	接合Ⅲ-①
363	3860	V	D26	R1f	石核	6.8	6.0	2.7	73.4	-47266.220	54420.731	47.904	接合Ⅲ-①
364	3591	V	D26	R1f	剥片	8.6	5.3	3.2	64.4	-47268.268	54422.729	47.879	接合Ⅲ-①
365	4281	V	D26	R1f	剥片	9.6	3.3	2.6	57.1	-47263.840	54419.697	47.970	接合Ⅲ-①
366	S11-16	V	D28	R1f	接器	6.4	10.8	3.5	192.7	-47263.405	54438.504	47.855	接合Ⅲ-①
367	2521	V	D26	R1f	剥片	6.0	6.9	1.3	42.4	-47266.761	54423.276	47.831	接合Ⅲ-①
368	4278	V	D26	R1f	剥片	6.3	6.4	3.0	63.6	-47263.874	54419.526	47.973	接合Ⅲ-①
369	3588	V	D26	R1f	剥片	5.4	4.3	1.7	21.6	-47267.445	54422.126	47.895	接合Ⅲ-①
370	2534	V	D26	R1f	剥片	8.3	4.8	2.7	45.1	-47268.376	54423.071	47.828	接合Ⅲ-①
371	3819	V	D26	R1f	剥片	5.3	3.8	1.4	21.4	-47264.072	54420.002	48.193	接合Ⅲ-① 3819と接合Ⅲ-①
371	3875	V	D26	R1f	剥片	2.9	2.5	1.4	-	-47264.118	54419.398	48.091	接合Ⅲ-① 3819と接合Ⅲ-①
372	4950	V	D26	R1f	剥片	7.9	4.6	1.9	44.1	-47263.045	54420.266	47.893	接合Ⅲ-①
373	4799	V	C25	Ob	削器	4.2	3.0	1.5	13.5	-47284.777	54417.350	47.747	
374	4915	V	C23	Ob	剥片	3.0	2.0	0.8	8.6	-47289.538	54400.662	47.832	4926と接合Ⅲ/木津産産、重量合計
374	4926	V	C23	Ob	剥片	3.3	2.4	1.3	-	-47287.513	54399.560	47.722	4915と接合Ⅲ/木津産産
375	4782	V	B23	SS	微細削器ある剥片	10.2	6.6	3.7	195.9	-47294.404	54404.458	47.810	
376	2820	V	D28	SS	剥片	2.8	2.9	1.1	8.6	-47264.868	54438.121	48.045	
377	2808	V	D28	SS	剥片	2.7	5.6	1.0	11.7	-47264.990	54439.552	48.029	
378	S11-21	V	D28	SS	剥片	6.9	2.6	1.0	10.7	-	-	-	
379	4796	V	C25	SS	二次加工剥片	3.9	1.9	0.7	4.2	-47284.489	54414.191	47.943	
380	4990	V	C23	SS	剥片	15.1	5.9	2.3	139.5	-47287.361	54391.667	47.639	
381	7199	V	Z25	SS	融・磨石	12.2	10.3	5.8	997.6	-47313.132	54428.790	47.154	
382	7396	V	C22	R1	ナイフ形石器	3.7	1.8	0.9	5.0	-47293.261	54385.909	47.850	
383	5244	V	D29	R3	細石刃	2.7	0.8	0.4	0.6	-47261.176	54452.248	48.287	V層出土
384	1618	V	B24	R1	細石刃	1.6	0.8	0.2	0.2	-47297.011	54408.581	48.330	V層出土
385	2709	V	A27	R1	細石刃	1.8	0.6	0.2	0.2	-47299.581	54436.958	47.664	
386	4918	V	C23	R1	二次加工剥片	4.3	2.4	0.8	6.9	-47286.989	54401.178	48.092	
387	5761	V	C28	R1	剥片	2.4	2.3	1.1	4.9	-47269.184	54447.259	47.846	
388	4776	V	B23	R1	剥片	2.7	1.7	0.6	2.2	-47293.030	54400.391	47.963	
389	7359	V	C22	R1	石核	4.9	3.6	4.3	84.7	-47294.150	54388.055	47.762	
390	4911	V	B23	R1	石核	6.0	6.0	3.3	106.7	-47295.447	54398.826	47.926	
391	7763	V	A21	R2a	剥片	3.8	1.4	0.9	3.2	-47309.355	54383.332	47.446	
392	2669	V	A26	R2a	微細削器ある剥片	5.4	3.1	0.8	8.7	-47297.142	54428.997	47.731	
393	2658	V	A26	R2a	微細削器ある剥片	5.0	7.1	1.4	33.3	-47294.608	54429.666	47.784	
394	2761	V	B27	R2b	二次加工剥片	4.7	6.6	1.0	29.1	-47283.501	54433.420	47.790	
395	2772	V	B27	R2b	石核	5.3	4.3	2.6	67.3	-47282.787	54434.428	47.799	
396	2716	V	B27	R2b	二次加工剥片	4.2	2.9	1.7	10.6	-47290.501	54437.256	47.745	
397	6138	V	C29	R2a	二次加工剥片	3.2	3.7	1.3	13.3	-47264.210	54457.042	48.031	
398	2668	V	A26	R2a	接器	8.7	5.8	2.5	106.1	-47296.499	54430.581	47.765	
399	2659	V	A26	R2a	微細削器ある剥片	7.5	4.6	2.1	31.8	-47295.607	54428.675	47.783	
400	2660	V	A26	R2a	削器	4.5	10.8	1.5	48.3	-47293.606	54428.671	47.786	
401	7380	V	C22	R1	剥片	4.1	4.0	2.2	21.1	-47288.819	54388.434	47.976	接合Ⅳ - ①
402	7398	V	C22	R1	剥片	4.0	1.9	1.0	5.4	-47289.364	54388.969	47.950	接合Ⅳ - ①
403	7376	V	C22	R1	剥片	3.9	2.0	1.0	4.8	-47290.126	54388.661	48.027	接合Ⅳ - ①
404	7381	V	C22	R1	剥片	5.8	4.1	2.2	25.9	-47289.608	54388.225	48.007	接合Ⅳ - ①
405	7370	V	C22	R1	石核	8.0	5.3	3.0	118.7	-47291.909	54390.200	47.793	接合Ⅳ - ①
406	6139	V	C29	H2	接器	8.8	6.0	2.0	98.0	-47263.765	54456.138	48.019	
407	5827	V	B29	H2	石核	8.9	6.4	2.4	165.3	-47281.886	54454.152	47.730	
408	5744	V	D29	H3	機器	13.3	13.3	5.3	1060.0	-47257.206	54449.815	48.263	
409	4770	V	C23	SS	融・磨石	15.4	5.3	4.0	376.5	-47289.005	54396.999	47.933	4879-4935と接合、重量合計
409	4879	V	C23	SS	融・磨石	6.2	4.2	1.0	-	-47289.509	54397.735	47.973	4770と接合Ⅳ層出土
409	4935	V	C23	SS	融・磨石	3.9	4.5	1.5	-	-47289.365	54398.216	47.910	4770と接合Ⅳ層出土
410	4768	V	C23	H1	融・磨石	7.2	1.9	2.1	27.1	-47289.592	54397.519	48.093	4768・4880と接合
410	4769	V	C23	H1	融・磨石	8.3	5.2	2.3	119.9	-47289.086	54397.055	47.984	4768・4880と接合
410	4880	V	C23	H1	融・磨石	5.2	4.5	2.4	76.7	-47289.342	54397.693	47.957	4768・4769と接合
411	5767	V	B30	Sn	尖頭器	(7.5)	2.6	0.7	12.3	-47271.520	54466.588	47.467	サヌカイト
412	3179	V	B26	Ob	二次加工剥片	2.7	1.9	1.1	4.0	-47282.126	54430.693	47.818	腰岳産
413	7181	V	Z27	Ch	微細削器ある剥片	3.2	2.3	0.7	3.9	-47301.669	54449.026	47.220	
414	2677	V	A26	Ch	微細削器ある剥片	3.2	2.1	1.2	7.2	-47292.641	54428.176	47.851	
415	7341	V	C22	Ch	融・磨石	6.2	4.4	3.5	126.6	-47295.175	54388.644	47.733	
416	5743	V	D29	GP	凹石	9.0	8.4	5.2	550.4	-47257.803	54450.676	48.311	
417	7720	V	Z19	GP	凹石	13.1	9.8	7.8	1350.0	-47333.515	54371.960	46.577	
465	7223	SP2	Z26	GP	凹石	9.3	11.6	5.4	818.4	-47305.473	54439.343	47.357	

第25表 石器観察表7

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土産標 X座標	国土産標 Y座標	レベル	備考
466	SP1 西	SP1	B23	SS	敲・磨石	7.9	4.1	3.4	159.7	-	-	-	
467	SP1-26	SP1	B23	R1	削器	4.3	6.6	1.2	20.7	-	-	-	
468	5920	SP2	Z26	H2	播器	10.7	8.0	2.3	207.2	-47302.997	54439.227	47.575	
469	SP2-20	SP2	A26	H1	石核	7.2	9.6	5.6	486.2	-	-	-	
470	6665	SP2	Z26	SS	台石	28.3	24.4	7.0	7000.0	-47303.996	54435.388	47.622	
471	2598	SP2	Z26	SS	敲・磨石	15.5	12.3	4.9	1400.0	-47301.947	54436.070	47.554	
472	5712	SP5	B28	GP	敲・磨石	7.6	7.1	4.2	310.2	-47283.146	54446.548	47.939	
473	6150	SP5	B28	GP	敲・磨石	13.1	10.7	6.4	1315.0	-47280.791	54446.921	47.532	
474	6640	SP2	Z26	GP	敲・磨石	12.6	7.6	7.4	1047.1	-47305.620	54439.441	47.335	
475	5904	SP5	B28	H2	削器	9.4	5.2	1.4	78.6	-47280.238	54446.972	47.650	
476	5725	SP5	B28	H1	播器	7.8	4.7	3.2	113.5	-47279.158	54447.299	48.038	
477	7246	SP9	Z30	H2	石核	9.0	5.3	3.0	176.1	-47292.990	54473.801	46.928	
478	6461	SP9	Z30	GP	敲・磨石	13.1	8.0	5.2	852.2	-47291.911	54468.290	46.887	
479	6409	SP9	Z30	SS	石核	13.2	11.8	5.3	872.8	-47288.823	54467.073	47.020	
480	SP11-3	SP11	Y28	SS	敲・磨石	(11.1)	(10.5)	5.1	494.5	-	-	-	
481	SP11-27	SP11	Y28	SS	敲・磨石	11.3	8.6	4.0	475.8	-	-	-	
482	SP11-30	SP11	Y28	H1	石核	9.6	8.2	5.1	402.9	-	-	-	
483	5978	SP10	B30	H3	石核	7.4	7.4	2.7	157.8	-47271.319	54460.604	47.764	
484	5943	Ⅰ-Ⅱ	C30	SS	石核	8.8	9.7	2.8	264.5	-47259.875	54463.582	47.646	
485	Ⅰ-ⅡA30	Ⅰ-Ⅱ	A30	G1	播器	9.8	8.7	2.0	190.7	-	-	-	
486	5951	Ⅰ-Ⅱ	C30	H1	播器	8.2	9.8	2.8	237.8	-47263.424	54465.315	47.500	
487	5690	ⅡH上	C30	H1	削器	6.4	7.6	2.3	90.2	-47261.297	54463.468	47.735	
545	7514	Ⅲ	Y22	Ch3	石鏢	2.1	1.7	0.4	1.1	-47292.990	54397.277	47.161	1a
546	784	Ⅳ	C28	Ch3	石鏢	2.1	1.9	0.4	1.0	-47267.450	54441.022	48.339	1a
547	Y29 Ⅱ	Ⅱ	Y29	Ch3	石鏢	1.9	1.6	0.3	0.7	-	-	-	1a
548	1812	V	A24	Ch2	石鏢	1.9	1.6	0.3	0.6	-47298.515	54415.369	48.017	1a
549	861	Ⅳ	D25	Ch3	石鏢	1.8	1.7	0.4	0.9	-47273.572	54416.342	48.543	1a
550	308	Ⅲ	A24	Ch2	石鏢	1.5	1.3	2.5	0.3	-47302.205	54413.611	48.308	1a
551	1020	Ⅳ	A27	Ch3	石鏢	1.6	1.4	0.2	0.5	-47294.233	54444.742	47.695	1a
552	727	Ⅳ	D26	Ch3	石鏢	1.4	1.4	0.3	0.6	-47266.825	54423.217	48.493	1a
553	1019	Ⅳ	A27	Ch4	石鏢	1.4	1.3	0.2	0.3	-47294.351	54443.408	47.643	1a
554	1664	V	C25	Ch3	石鏢	1.3	1.3	0.2	0.3	-47290.086	54422.647	48.111	1a
555	1821	V	A24	Ch3	石鏢	1.0	1.0	0.2	0.1	-47300.862	54407.174	48.045	1a
556	1880	V	B24	Ch4	石鏢	1.3	1.4	0.4	0.6	-47291.862	54406.794	48.291	1a
557	567	Ⅳ	C25	Ch3	石鏢	1.2	1.2	0.2	0.3	-47282.768	54414.969	48.443	1a
558	1357	V	C23	Ch3	石鏢	(2.1)	2.1	0.3	1.0	-47284.640	54400.409	48.598	1a
559	579	Ⅳ	C25	Ob	石鏢	1.3	1.2	0.2	0.3	-47280.038	54414.831	48.421	1a 阿蘇産黒曜石
560	1620	V	B24	QzA	石鏢	1.5	1.3	0.4	0.7	-47298.335	54410.637	48.154	1a
561	1792	V	A23	Ch5	石鏢	1.8	1.6	0.3	0.5	-47309.417	54406.453	48.231	1b
562	1209	Ⅳ	D25	Ch3	石鏢	1.8	1.8	0.3	0.6	-47265.089	54411.202	48.609	1b
563	28	Ⅲ	A23	Ch4	石鏢	1.4	1.3	0.3	0.4	-	-	-	1b
564	1823	V	A23	Ch3	石鏢	1.5	1.5	0.3	0.4	-47307.642	54405.408	48.248	1b
565	1441	V	C25	Ch3	石鏢	1.3	1.2	0.4	0.4	-47280.272	54417.017	48.247	1b
566	311	Ⅲ	A24	Ch3	石鏢	1.3	1.3	0.4	0.4	-47302.460	54416.528	48.262	1b
567	SP1-30	SP1	B23	Ch3	石鏢	1.5	1.3	0.4	0.4	-	-	-	1b
568	339	Ⅲ	Z24	Ch4	石鏢	1.6	1.3	0.3	0.5	-47311.617	54411.490	48.209	1b
569	2553	SP2	Z26	Ch3	石鏢	(1.9)	(1.2)	0.4	0.6	-47303.137	54432.727	47.248	1b
570	257	Ⅲ	B25	Ch3	石鏢	(1.5)	(1.1)	0.2	0.2	-47290.692	54420.499	48.372	1b
571	7452	Ⅳ	A22	Sn	石鏢	2.3	1.8	0.4	1.2	-47313.749	54393.986	48.244	1b 無頭品安山岩
572	6643	SP2	Z26	Ch3	石鏢	2.4	1.1	0.4	0.9	-47307.102	54438.562	47.477	1b
573	1784	V	A23	Ch3	石鏢	1.8	1.4	0.3	0.5	-47304.444	54406.686	48.272	1b
574	956	Ⅳ	B27	Ch3	石鏢	1.5	1.1	0.4	0.4	-47278.494	54437.572	48.081	1b
575	1236	Ⅳ	A26	Ch4	石鏢	1.7	1.5	0.4	0.6	-47290.265	54431.717	48.086	1b
576	100	Ⅲ	D24	Ch3	石鏢	2.0	1.3	0.5	0.9	-47273.691	54404.576	48.875	1b
577	1868	V	B25	Ch3	石鏢	2.8	(1.5)	0.5	1.6	-47293.059	54421.909	48.021	1b
578	5798	SP3	A29	Ch3	石鏢	(2.1)	(1.2)	0.4	0.9	-47280.066	54461.713	47.501	1b
579	489	Ⅳ	B24	Ch4	石鏢	(2.0)	(1.4)	0.4	0.8	-47289.548	54410.672	48.478	1b
580	163	Ⅲ	C24	Ch3	石鏢	(1.5)	1.6	0.3	0.8	-47286.970	54408.537	48.682	1b
581	2732	Ⅳ	B27	Ch3	石鏢	2.1	1.3	0.4	0.6	-47286.636	54441.795	47.783	1b
582	165	Ⅲ	C24	Ch3	石鏢	1.3	1.4	0.3	0.5	-47282.594	54407.485	48.659	1b
583	1246	Ⅳ	A26	Ch3	石鏢	1.7	1.2	0.3	0.3	-47292.872	54435.671	47.919	1b
584	1639	V	B24	Ch5	石鏢	1.8	1.3	0.4	0.5	-47292.441	54413.281	48.249	1b
585	1368	V	C24	Ch3	石鏢	1.7	1.4	0.4	0.5	-47287.439	54405.457	48.541	1b

*Chは色調により1～5に分類 (P.155参照)

第26表 石器観察表8

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
586	450	IV	B25	Ch3	石鏡	1.6	1.2	0.4	0.5	-47288.642	54421.550	48.243	IIb
587	1791	V	A23	Ch4	石鏡	1.9	1.4	0.4	0.7	-47308.877	54406.760	48.124	IIb
588	532	IV	C24	Ch4	石鏡	(1.9)	1.4	0.3	0.4	-47281.809	54405.893	48.655	IIb
589	196	III	C25	Ch2	石鏡	(2.5)	(1.2)	0.4	0.8	-47281.939	54414.334	48.461	IIb
590	1638	V	B24	Ch3	石鏡	(3.3)	1.7	0.5	2.4	-47293.295	54405.424	48.219	IIIa
591	767	III	D28	Ch3	石鏡	2.2	1.3	0.4	1.0	-47259.921	54439.501	48.601	IIIa
592	1629	V	B24	Ch3	石鏡	(1.3)	1.3	0.3	0.5	-47290.637	54411.205	48.328	IIIa
593	2424	V	A24	QzB	石鏡	(1.0)	1.3	0.3	0.5	-47300.724	54416.035	47.742	IIIa
594	1164	IV	C25	QzB	石鏡	(1.8)	(1.3)	0.4	0.8	-47275.135	54415.976	48.401	IIIa
595	5340	V	A30	Ch3	石鏡	2.0	1.4	0.3	0.8	-47279.280	54467.107	47.530	IIIb
596	1161	IV	C25	Ch3	石鏡	1.6	1.1	0.4	0.5	-47274.339	54416.396	48.419	IIIb
597	1499	V	D25	Ch3	石鏡	1.8	1.2	0.3	0.5	-47268.295	54410.845	48.514	IIIb
598	1284	IV	C26	Ch3	石鏡	(2.1)	1.6	0.3	0.7	-47271.831	54427.822	48.302	IIIb
599	751	IV	D27	Ch3	石鏡	(2.8)	(1.6)	4.5	1.6	-47267.712	54429.969	48.399	IIIb
600	5360	V	Y27	Ch4	石鏡	2.8	1.2	0.3	1.0	-47307.262	54443.753	47.540	IIIc
601	2596	SP2	Z26	Ch3	石鏡	2.6	1.2	0.4	0.9	-47302.713	54434.984	47.815	IIIc
602	3226	V	A26	Ch1	石鏡	2.1	1.7	0.7	1.6	-47292.352	54429.822	47.815	IV
603	1790	V	A23	Ch4	石鏡	1.9	(1.6)	0.4	1.2	-47309.031	54406.566	48.228	IV
604	266	III	B25	Ch3	石鏡	2.2	2.1	0.4	1.0	-47288.811	54417.654	48.395	V
605	1613	V	B24	Ch3	石鏡	(2.4)	2.6	0.5	1.7	-47292.474	54405.863	48.459	V
606	980	III	B28	Ob	石鏡	2.8	2.4	0.5	1.5	-47280.032	54444.307	48.089	VI
607	1069	IV	Z26	Ph	石鏡	3.4	2.1	0.4	2.0	-47302.511	54430.323	48.303	VI
608	1624	V	B24	Ch3	くさび形石器	2.9	2.0	0.8	4.8	-47303.302	54413.651	48.034	
609	1667	V	C25	Ch3	くさび形石器	2.1	2.2	0.6	3.0	-47290.208	54421.382	48.153	
610	7496	V	Y22	Ch3	石匙	3.5	2.0	0.7	3.6	-47324.679	54400.607	47.948	
611	5137	IV	Y27	QzA	くさび形石器	4.5	1.8	1.0	7.8	-47309.009	54451.490	47.418	
612	1665	V	C25	Ch2	石核	3.1	4.4	3.0	48.3	-47289.937	54422.208	48.183	接合 縄文①
613	1656	V	B25	Ch2	石核	3.5	3.3	3.0	20.1	-47292.295	54421.170	48.157	接合 縄文①
614	1005	III	B28	SS	石斧	13.4	6.2	1.9	195.4	-47286.593	54445.617	47.808	
615	5448	V	A29	SS	二次加工剥片	14.8	6.6	3.0	260.9	-47296.391	54460.496	47.568	
616	733	IV	D25	SS	石核	9.0	8.9	5.0	535.5	-47262.806	54420.826	48.542	
617	663	IV	D25	SS	二次加工剥片	6.5	6.4	2.0	83.3	-47272.906	54416.102	48.465	
618	5364	IV	Z26	SS	二次加工剥片	12.6	4.2	1.1	51.9	-47310.324	54432.238	47.871	
619	2396	V	A24	SS	播磨	4.4	8.2	2.3	66.3	-47303.623	54412.810	47.766	
620	416	IV	A25	SS	播磨	4.9	5.4	0.7	22.3	-47295.678	54420.952	48.164	
621	5104	IV	Z25	SS	播磨	7.4	8.4	3.3	153.4	-47311.502	54428.779	47.873	
622	5357	IV	Y27	SS	播・削器	9.7	3.9	1.6	68.3	-47309.347	54443.861	47.687	
623	1068	IV	A26	SS	二次加工剥片	8.5	7.9	3.2	193.0	-47302.462	54431.227	48.019	
624	712	IV	D26	SS	播磨	5.5	4.6	1.7	53.9	-47268.462	54416.665	48.461	
625	5421	V	Z29	SS	二次加工剥片	8.1	8.3	4.5	169.2	-47299.614	54461.328	47.299	
626	1213	III	E24	SS	礫器	10.3	10.5	2.9	356.0	-47268.603	54401.414	49.066	
627	5160	IV	Z28	SS	礫器	9.3	13.8	4.4	491.3	-47300.662	54458.008	47.471	
628	5429	V	Z29	SS	二次加工剥片	6.4	13.2	2.6	171.9	-47292.914	54465.988	47.325	
629	5675	V	Z28	SS	二次加工剥片	5.3	7.1	1.8	52.1	-47296.954	54455.931	47.416	
630	5175	V	Z29	SS	礫器	12.0	10.0	4.4	528.4	-47297.122	54461.910	47.404	
631	5544	V	A29	SS	礫器	8.3	11.6	3.9	426.2	-47288.457	54460.707	47.479	
632	5120	IV	Z27	SS	礫器	12.4	9.6	3.3	487.5	-47306.496	54441.114	47.775	
633	5110	IV	Y26	SS	二次加工剥片	11.8	5.5	3.6	181.4	-47313.935	54439.073	47.646	
634	775	IV	D27	SS	削器	10.5	5.5	5.0	309.6	-47261.231	54439.534	48.520	
635	522	IV	C24	SS	石核	11.3	5.9	3.9	277.5	-47287.228	54403.706	48.634	
636	5315	V	B30	SS	礫器	9.4	6.2	3.3	232.1	-47275.753	54465.032	47.653	
637	764	IV	D27	SS	石鏡	8.1	4.2	1.3	57.4	-47262.170	54426.992	48.581	
638	5139	IV	Y27	SS	敲・磨石	14.7	3.9	3.7	277.2	-47308.293	54451.282	47.439	
639	2189	V	B25	SS	敲・磨石	13.7	9.3	4.9	918.4	-47289.010	54417.070	47.997	
640	911	IV	B26	SS	敲・磨石	10.4	9.1	4.9	669.7	-47287.747	54423.485	48.109	
641	5661	V	A28	SS	敲・磨石	3.0	3.1	2.9	36.7	-47289.989	54453.571	47.544	
642	5380	IV	Z28	SS	敲・磨石	3.8	3.6	2.6	45.7	-47292.929	54454.940	47.535	
643	1843	V	B25	SS	台石	40.0	27.3	6.1	9800.0	-47292.446	54417.955	48.118	
644	S125 V	V	B27	SS	台石	25.1	20.5	9.6	8000.0	-	-	-	
645	5453	V	Z30	SS	台石	16.1	12.5	3.1	1015.8	-47289.506	54471.426	47.324	
646	2243	V	D26	H3	石核	7.9	11.3	4.0	384.4	-47269.845	54421.959	48.215	
647	5648	V	C29	H1	播磨	6.5	6.7	2.2	101.2	-47268.315	54449.157	48.218	
648	521	IV	C24	H1	播磨	5.4	5.8	2.0	59.7	-47285.994	54404.983	48.672	

※Chは色調により1～5に分類 (P.155参照)

第27表 石器観察表9

報告書番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
649	5513	V	Z26	H1	振器	4.6	5.3	2.0	51.5	-47304.253	54439.623	47.777	
650	1555	V	D28	H1	微細研磨ある削片	8.6	7.2	1.7	88.9	-47257.583	54440.414	48.422	
651	5184	IV	A29	H1	振器	6.2	6.6	1.8	104.5	-47286.594	54465.587	47.491	
652	910	IV	B26	H2	振器	4.9	3.7	0.9	20.3	-47288.793	54425.305	48.145	
653	7439	V	Z23	H2	削器	9.2	11.5	2.2	30.6	-47313.709	54403.609	48.214	
654	831	IV	C27	H2	二次加工削片	7.7	7.9	3.2	143.2	-47273.003	54435.157	48.254	
655	527	IV	Z24	H2	二次加工削片	5.4	6.5	2.0	61.6	-47285.693	54403.625	48.685	
656	5121	IV	Z27	H3	石核	8.2	10.7	6.0	606.7	-47307.573	54441.949	47.709	
657	1123	IV	B24	H3	削片	3.1	2.4	1.7	188.6	-47296.000	54414.800	48.274	
657	7457	IV	A22	H3	石核	7.5	8.6	3.0	-	-47313.040	54392.124	48.159	7457と接合・重量合計
658	5272	V	C30	H3	二次加工削片	4.4	4.4	1.1	23.5	-47263.503	54458.580	48.208	1123と接合
659	5612	V	B30	H3	礫器	12.2	14.0	6.0	1140.3	-47270.624	54462.018	47.834	
660	1802	V	A24	H1	振器	5.4	8.0	2.7	143.4	-47306.837	54417.362	48.022	
661	1842	V	A24	H2	礫器	18.3	13.3	7.2	2195.0	-47298.407	54414.065	48.152	
662	1869	V	B25	H1	礫器	6.6	13.0	4.4	441.3	-47293.648	54419.182	48.193	
663	5615	V	B30	H1	二次加工削片	9.2	8.4	2.6	234.2	-47273.765	54462.483	47.669	
664	5235	V	D29	H3	二次加工削片	9.5	9.4	3.0	301.9	-47262.076	54450.541	48.329	
665	1826	V	A23	H2	石斧	11.1	4.7	2.3	142.3	-47309.937	54408.370	48.218	
666	5452	V	Z30	H2	削片	5.8	4.0	1.8	213.6	-47290.281	54470.594	47.376	
667	340	III	Z24	H1	石錘	(3.9)	3.2	0.7	12.8	-47310.743	54416.258	48.132	
668	15	III	A23	H1	石錘	6.7	3.5	1.9	130.9	-	-	-	
669	1914	V	B24	H3	礫器	12.3	7.5	4.4	507.7	-47293.228	54409.130	47.985	
670	1259	IV	A27	H3	礫器	11.3	10.6	3.7	579.6	-47289.355	54445.096	47.747	
671	7616	V	A23	H2	礫器	10.8	6.4	2.9	256.5	-47309.784	54403.444	48.235	
672	5759	V	C28	GT	石核	11.0	10.5	3.2	447.8	-47270.696	54446.432	48.169	
673	1341	IV	A27	GT	振器	7.0	6.4	2.3	122.6	-47293.909	54441.829	47.725	
674	1324	IV	D25	GT	二次加工削片	4.3	3.9	1.4	17.6	-47273.573	54408.445	48.626	
675	2117	V	A24	GT	二次加工削片	4.2	2.3	9.0	9.4	-47300.812	54415.713	47.919	
676	1062	IV	A26	GT	振器	9.8	9.7	2.2	215.3	-47305.206	54427.779	48.005	
677	1101	IV	A25	GT	石核	8.5	6.0	4.3	244.3	-47298.948	54421.148	48.112	
678	742	III	D27	GT	削器	11.2	9.4	2.8	223.9	-47264.744	54427.108	48.622	
679	7204	V	Y24	GT	振器	6.0	5.1	1.4	37.7	-47319.035	54420.777	47.646	
680	1210	IV	D25	R2a	微細研磨ある削片	5.3	4.9	1.1	14.3	-47266.491	54406.787	48.783	
681	1998	V	A26	R2a	微細研磨ある削片	6.9	2.9	0.9	13.4	-47295.667	54429.009	47.938	
682	5517	V	Z26	R2a	微細研磨ある削片	5.2	2.6	1.0	9.1	-47302.667	54439.800	47.742	
683	721	IV	D26	R2a	微細研磨ある削片	5.6	3.0	1.3	12.7	-47269.928	54422.562	48.490	
684	566	IV	C25	R2a	二次加工削片	3.5	2.6	0.7	3.8	-47282.231	54414.524	48.419	
685	642	IV	D25	R2a	二次加工削片	6.0	2.4	1.1	12.4	-47267.839	54410.353	48.670	
686	5136	IV	Y27	R2a	石核	10.4	8.6	4.7	438.8	-47309.295	54449.027	47.452	
687	1650	V	B25	R2a	削器	5.0	4.6	1.0	23.1	-47291.853	54418.337	48.196	
688	1841	V	Z24	R2a	石核	5.9	6.8	2.6	103.9	-47312.157	54414.428	47.866	
689	5336	V	B30	R2a	微細研磨ある削片	4.2	5.1	1.1	20.8	-47276.096	54467.657	47.589	
690	5347	V	A30	R2b	削器	7.5	6.0	3.3	76.6	-47282.389	54473.770	47.276	
691	421	IV	A25	R2b	二次加工削片	5.6	4.2	1.6	43.3	-47300.857	54420.899	48.135	
692	1807	V	A25	R2b	削器	5.9	6.8	1.8	75.3	-47299.194	54421.104	48.053	
693	1658	V	B25	R3	石核	4.9	4.8	2.1	51.7	-47292.578	54421.051	48.064	
694	7580	V	Y22	R3	微細研磨ある削片	4.4	5.6	1.2	24.7	-47326.538	54396.980	47.920	接合 縄文②
695	カクラン	III	Z25	R3	削器	5.2	8.7	1.2	61.4	-	-	-	接合 縄文②
695	564	IV	C25	R3	削片	4.3	4.3	1.6	20.0	-47281.544	54413.317	48.429	接合 縄文②
696	7194	V	Z25	R1	二次加工削片	6.4	4.8	1.6	51.7	-47309.871	54428.551	47.570	
697	5533	V	Y28	R2a	微細研磨ある削片	5.7	5.9	2.2	50.6	-47305.617	54456.110	47.364	
698	1931	V	C26	R1	二次加工削片	4.1	5.0	1.5	27.7	-47277.678	54425.245	48.230	
699	872	IV	C26	R2b	微細研磨ある削片	5.2	7.8	2.1	46.9	-47278.060	54428.558	48.152	
700	379	IV	A23	Ph	振器	4.9	4.9	1.3	37.3	-47311.070	54406.036	48.303	
701	458	IV	B25	Ph	振器	8.9	8.8	1.5	168.5	-47287.334	54419.654	48.271	
702	7588	V	Z19	Ph	石錘	5.9	5.5	1.7	75.6	-47325.696	54371.336	46.745	
703	1053	IV	A26	Ph	石錘	4.3	4.2	1.1	30.3	-47299.531	54427.813	48.051	
704	Y27	V	Y27	Ph	石錘	3.3	6.9	1.5	56.2	-	-	-	
705	5138	IV	Y27	Ph	礫器	9.9	8.2	2.9	303.6	-47308.172	54451.949	47.433	
706	1730	V	B23	Ph	石核	6.5	1.0	0.6	4.1	-47294.127	54398.824	48.467	
707	562	IV	C25	GT	石核	6.6	1.2	0.4	3.7	-47279.189	54413.471	48.520	
708	857	IV	C26	RS	石核	(4.6)	1.1	0.5	3.1	-47278.628	54425.010	48.226	
709	6252	V	Y30	Ph	垂飾	3.9	1.6	0.4	3.0	-47296.818	54477.343	47.182	

第28表 石器観察表10

報告書 番号	遺物番号	層	グリッド	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル	備考
710	7589	V	Z19	GP	石斧	11.2	6.3	2.2	224.1	-47326.435	54370.668	46.757	
711	420	IV	A25	Sh	二次加工削片	(8.3)	4.5	2.1	101.6	-47299.079	54420.657	48.097	
712	1110	IV	A23	Sh	播磨	5.3	3.0	1.0	17.7	-47311.718	54408.156	48.213	
713	1330	IV	A24	Sh	播磨	6.6	5.5	1.9	80.1	-47300.380	54406.498	48.329	
714	506	IV	C24	Sh	幾帳面類ある削片	5.0	7.2	1.5	36.9	-47288.221	54403.389	48.658	接合 縄文-③
715	S141-1	V	Y25	Sh	石核	8.7	6.8	2.8	197.8	-	-	-	接合 縄文-③
716	1521	V	D26	Sh	播磨	3.9	7.2	2.3	52.9	-47269.332	54422.615	48.392	
717	1517	V	E25	Sh	播磨	4.5	6.8	1.2	38.6	-47265.642	54409.478	48.582	
718	1297	IV	B26	Sh	石核	7.1	11.8	6.3	687.8	-47292.185	54424.562	48.121	
719	1427	V	C25	Sh	二次加工削片	7.3	5.4	2.2	85.6	-47280.401	54414.850	48.385	
720	5301	V	B30	GP	敲・磨石	9.4	7.8	3.2	346.8	-47272.125	54458.466	47.876	
721	640	IV	E25	GP	敲・磨石	7.6	8.5	4.2	414.2	-47267.760	54407.811	48.683	
722	V S130	V	Y30	GP	凹石	9.5	8.2	4.1	457.0	-	-	-	
723	1042	IV	A26	GP	敲・磨石	12.4	(6.7)	5.0	617.6	-47293.741	54430.595	47.958	
724	Y27 V	V	Y27	GP	敲・磨石	6.2	5.7	3.3	126.6	-	-	-	
772	山田 B	表採	B区	GT	石鏃	2.9	2.1	0.3	1.5	-	-	-	磨製
773	SA1-16	SA1	D26	Ph	石鏃	2.6	1.6	0.4	1.4	-	-	-	
774	SA1-86-79	SA1	D26	SS	砥石	15.3	24.8	2.4	916.8	-	-	-	
775	SA1-47-70	SA1	D26	SS	砥石	20.5	15.2	3.0	1370.0	-	-	-	
776	SA1-23	SA1	D26	SS	敲・磨石	12.8	11.7	5.8	1320.0	-	-	-	
781	SD-1-No1	SD1	A29	鉄	刀子	(3.8)	1.0	0.2	2.7	-	-	-	切先のみ
782	SD-1-No7	SD1	A29	鉄	ヤリガンナ	(7.4)	1.0	0.2	5.6	-	-	-	身部のみ
783	SD-2-No6	SD2	C29	鉄	鉄鏃	(4.9)	1.9	0.2	4.0	-	-	-	茎のみ
784	SD-4-No1	SD4	B29	鉄	鉄鏃	(7.9)	1.8	0.3	9.9	-	-	-	
785	SD-5-No1	SD5	C28	鉄	鉄鏃	(4.7)	2.0	0.2	8.5	-	-	-	鏃身のみ
797	SB1-10	SB1	B27	WT	石臼	推定径 31.0	-	最大高 31.0	2670.0	-	-	-	
798	SZ3-10	SZ3	B29	WT	石臼	推定径 42.0	-	最大高 9.15	1140.0	-	-	-	
799	S15-1	SB1	B27	WT	石臼	推定径 32.0	-	最大高 12.45	3595.0	-	-	-	
800	S13-1	SB1	A27	WT	石臼	-	-	最大高 8.60	1355.0	-	-	-	
801	SB1-9	SB1	A27	WT	傘状石製品	最大径 35.0	-	最大高 14.0	3900.0	-	-	-	
830	S11	SB1	A27	SS	石斧	15.2	4.9	2.5	199.6	-	-	-	
831	山田 B	表採	B区	SS	石斧	14.3	5.9	2.3	198.6	-	-	-	
832	S11-3	表採	B26	SS	石斧	8.8	6.2	2.1	115.2	-	-	-	
833	SZ3-2	SZ3	B29	Ph	石斧	21.6	8.2	2.7	458.1	-	-	-	
834	SZ3-7	SZ1	A26	SS	石斧	9.3	7.9	2.2	157.8	-	-	-	
835	Ah上 Sh	表採	B28	Ph	分銅型石製品	8.8	3.9	1.2	50.1	-	-	-	SP5 上面
836	Ah上 SH20	表採	B区	砂質礫岩	石斧未製品	23.8	9.7	8.3	2840.0	-	-	-	
837	II SC16	SC16	A28	砂質礫岩	石斧未製品	(10.2)	7.3	4.7	560.0	-	-	-	
838	B北 I	表採	B区	砂質礫岩	石斧未製品	(14.0)	7.8	5.3	790.2	-	-	-	
839	SZ2	SZ1	A26	Ch3	火打石	3.0	2.6	1.6	12.3	-	-	-	
840	Ah上 SH22	SH22	B26	Ch3	火打石	3.4	2.6	1.8	11.2	-	-	-	SB1 西側ビット
841	SZ3 上層	SZ3	B28	Ch4	火打石	2.3	2.1	1.2	6.1	-	-	-	
842	B南 I	表採	A26	Ch3	火打石	2.3	2.0	1.0	5.3	-	-	-	
843	SZ1-15	SZ1	A26	GP	敲・磨石	7.0	11.4	6.0	625.0	-	-	-	
844	BZ7Ah上	表採	B27	Ph	石鏃	9.0	5.5	2.3	149.2	-	-	-	

第29表 鉄器・石器観察表

報告番号	類別 など	出土 地点	遺構 種類	瓦種	部位	法量				色面		調整・文様ほか		胎土		備考	
						口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面	前面	側面	胎土		
															前面		側面
418	縄文土器Ⅰa	Z25	SP1 SP2 V	深鉢	胴部				明黄褐色	黄褐色	横方向のナデ(美化ずみ)	横方向のナデ	2mm以上の白色染み多量。1～2mmの黒色粒状・1mm以下の黒色粒こくわず。若干いす。				
419	縄文土器Ⅰb	PQ39	SP1 SP2	深鉢	胴部			黄	にがい黄褐色	黄褐色	横方向の条線文	ナデ	1～2mmの黒色粒状わず。1mm以下の白色粒こくわず。若干いす。				
420	縄文土器Ⅰb	B23	SP1	深鉢	口縁部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	ナデ、工具痕	横方向の調整痕	横方向の調整痕	2mm以上の白色染み多量。1～2mmの黒色粒状こくわず。若干いす。			全面に深く炭化物付着	
421	縄文土器Ⅰb	B23	SP1	深鉢	底面			にがい黄褐色	にがい黄褐色	工具によるナデ、ナデ	ナデ、一部黒染	ナデ、一部黒染	1mm以下の黒色粒状・白色粒少。若干いす。				
422	縄文土器Ⅰb	B23	SP1	深鉢	口縁部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	口縁部にやや斜方向に不規則な刻み目、横方向のナデ	ナデ、工具痕、一部黒染	ナデ、工具痕、一部黒染	1～2mmの黒色粒状わず。若干いす。1mm以下の白色粒少。若干いす。			口縁部の前部中心にひかかってやや斜、不定形で平行的に施されている	
423	縄文土器Ⅰb	B25 Z26	SP2 SP2 V	深鉢	口縁部 一部			灰黄褐色	灰黄褐色	ナデ、口縁部に竹管刺突文、未通過穿孔あり、斜方向の条線文	ナデ(黒化ずみ)	ナデ(黒化ずみ)	1～2mmの黒色粒状わず。若干いす。1mm以下の白色粒多。若干いす。				
424	縄文土器Ⅰa	Z26	SP2	深鉢	胴部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	ナデ、スズ付着	ナデ、工具痕	ナデ、工具痕	1～2mmの黒色粒状少・黒色粒こくわず。若干いす。1mm以下の白色粒少。若干いす。				
425	縄文土器Ⅰa	C23 Y23	SP2 SP2 V	深鉢	胴部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	横方向のナデ、工具痕、一部スズ付着、一部黒染	ナデ(黒化ずみ)	ナデ(黒化ずみ)	2mm以上の白色染み多量。若干いす。1～2mmの黒色粒少。若干いす。黒色粒状こくわず。若干いす。				
426	縄文土器Ⅰa	A26	SP2	深鉢	底面			明黄褐色	明黄褐色	ナデ	ナデ	ナデ	2mmの乳白色粒少・1mm以下の黒色粒状少・赤褐色粒状わず。若干いす。				
427	縄文土器Ⅰb	Z26	SP2	深鉢	口縁部 一部			灰黄褐色	灰黄褐色	斜方向の条線文、部分のスズ付着	斜線区画、黒染	斜線区画、黒染	2mm以上の赤褐色染み多量こくわず。1～2mmの黒色粒状少。若干いす。白色粒少若干いす。黒色粒こくわず。若干いす。				
428	縄文土器Ⅰb	Z26	SP2	深鉢	胴部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	横・斜方向の条線文	横・斜方向の条線文	横・斜方向の条線文	2mm以上の赤片少。若干いす。1～2mmの赤片わず。白色粒こくわず。若干いす。黒色粒多。若干いす。			胴面に粘土結合痕あり	
429	縄文土器Ⅰb	Z26	SP2	深鉢	胴部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	横方向の条線文	横方向のナデ(黒化ずみ)	横方向のナデ(黒化ずみ)	1～2mmの黒色粒状わず。1mm以下の白色粒少・黒色粒わず。若干いす。				
430	縄文土器Ⅰb	Z26	SP2	深鉢	口縁部 一部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	ナデ	ナデ	ナデ	2mm以上の褐色染み多量こくわず。1mm以下の黒色粒状・乳白色粒状わず。若干いす。				
431	縄文土器Ⅰb	Z26	SP2	深鉢	口縁部 一部			にがい黄褐色	黄	ナデ、スズ付着	ナデ	ナデ	1～2mmの黒色粒状多。1mm以下の白色粒多。若干いす。				
432	縄文土器Ⅰb	Z26	SP2	深鉢	口縁部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	ナデ	横方向のナデ、文様による調整痕	横方向のナデ、文様による調整痕	1～2mmの黒色粒状こくわず。1mm以下の白色粒状わず。若干いす。			全面に深く炭化物付着	
433	縄文土器Ⅰb	A26	SP2	深鉢	口縁部			灰黄褐色	灰黄褐色	ナデ、口縁部に斜方向の不規則な文様、工具痕、赤染みあり	横・やや斜方向の条線文	横・やや斜方向の条線文	2mm以上の白色染み多量。1mm以下の白色粒多。黒色粒わず。若干いす。				
434	縄文土器Ⅰb	A26	SP2	深鉢	口縁部			灰黄褐色	黒染	ナデ、口縁部に不規則的な文様、一部斜筋の文様、部分あり、横方向の条線文	ナデ、スズ付着	ナデ、スズ付着	1～2mmの黒色粒状わず。白色粒少。若干いす。1mm以下の黒色粒状少。若干いす。				
435	縄文土器Ⅰb	D06	SP3	深鉢	口縁部			灰黄褐色	にがい黄褐色	ナデ、斜方向の条線文、スズ付着	横方向のナデ	横方向のナデ	1～2mmの黒色粒状こくわず。1mm以下の白色粒少。若干いす。				
436	縄文土器Ⅰb	D26	SP3	深鉢	胴部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	斜方向の条線文	ナデ、スズ付着	ナデ、スズ付着	1mm以下の白色粒こくわず。若干いす。				
437	縄文土器Ⅰa	D26	SP4	深鉢	胴部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	横・縦、斜方向のナデ、黒染少	横方向のナデ、斜筋区画	横方向のナデ、斜筋区画	2mm以上の乳白色染み多量。1～2mmの黒色粒状少。若干いす。1mm以下の白色粒少。若干いす。			胴面に粘土結合痕あり	
438	縄文土器Ⅰb	D26	SP4	深鉢	胴部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	横・斜方向の貝殻多量文	ナデ、黒染	ナデ、黒染	1～2mmの黒色粒状わず。1mm以下の白色粒・黒色粒少。若干いす。				
439	縄文土器Ⅰb	B29	SP5	深鉢	口縁部			黒染	灰黄褐色	口縁部に横3本の条線、ナデ、赤みあり	ナデ、一部スズ付着	ナデ、一部スズ付着	2mmの黒色粒こくわず。1～2mmの黒色粒状多。1mm以下の白色粒多。若干いす。				
440	縄文土器Ⅰb	A30	SP8	深鉢	胴部			明黄褐色	にがい黄褐色	ナデ(黒化ずみ)	ナデ	ナデ	1～2mmの白・黒色粒少。黒色粒こくわず。若干いす。				
441	縄文土器Ⅰb	A30	SP8	深鉢	口縁部 一部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	横方向のナデ	ナデ	ナデ	2mm以上の白色染み多量。1mm以下の白色粒多。黒色粒わず。若干いす。				
442	縄文土器Ⅰb	A30	SP8 V	深鉢	胴部			明黄褐色	にがい黄褐色	横方向の条線文	ナデ、部分的に調整痕	ナデ、部分的に調整痕	2mm以下の褐色染み多量。1～2mmの黒色粒状こくわず。1mm以下の白色・黒色粒わず。若干いす。				
443	縄文土器Ⅰb	A29 Z29	SP8 V	深鉢	口縁部			暗褐色	暗褐色	口縁部に横方向の列状刻目、斜方向のナデ	横方向のナデ	横方向のナデ	2mm以上の褐色染みこくわず。1～2mmの黒色粒状多・白色粒少。1mm以下の黒色粒少。若干いす。				
444	縄文土器Ⅰb	A29	SP8	深鉢	口縁部			黄	明赤褐色	口縁部に斜方向の連続刻目目、横・斜方向のナデ	斜方向のナデ	斜方向のナデ	2mm以上の白色粒こくわず。1mm以下の黒色粒状多・白色粒少。若干いす。				
445	縄文土器Ⅰb	A30	SP8	深鉢	口縁部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	ナデ、斜筋の平細な条線一部乳白色粒状、口縁部にスズ付着、黒染	ナデ	ナデ	1mm以下の白色粒多。若干いす。1mm以下の黒色粒状少。若干いす。				
446	縄文土器Ⅰb	Z30	SP9	深鉢	口縁部(11.000)			にがい黄褐色	灰黄褐色	横・斜方向の条線文、一部スズ付着	ナデ、部分的に調整痕	ナデ、部分的に調整痕	1～2mmの黒色粒状少。白色粒わず。黒色粒こくわず。黒色粒こくわず。若干いす。			胴面に粘土結合痕あり	
447	縄文土器Ⅰb	Z30	SP9	深鉢	胴部			にがい黄褐色	灰黄褐色	斜方向のナデ、胴面に粘土結合痕あり、結合部の調整痕	ナデ(一部黒化ずみ)	ナデ(一部黒化ずみ)	1～2mmの黒色粒状少。白色粒わず。黒色粒こくわず。黒色粒こくわず。若干いす。			胴面に粘土結合痕あり	
448	縄文土器Ⅰa	Z30	SP9	深鉢	口縁部			黄	黒染	横方向のナデ、スズ付着、黒染	ナデ、部分的に調整痕	ナデ、部分的に調整痕	4mm以下の白色粒こくわず。1～2mmの黒色粒状・白色粒多。若干いす。				
449	縄文土器Ⅰb	Z29	SP9	深鉢	胴部 一部	(4.20)		黄	にがい黄褐色	ナデ	ナデ(黒化ずみ)	ナデ(黒化ずみ)	1～2mmの黒色粒状わず。1mm以下の白色粒少。若干いす。				
450	縄文土器Ⅰb	Z30	SP9	深鉢	口縁部			にがい黄褐色	にがい黄褐色	横方向の条線文、結合痕	ナデ(黒化ずみ)	ナデ(黒化ずみ)	2mm以上の褐色染み多量。1～2mmの白色粒状わず。若干いす。			胴面に粘土結合痕あり	

第30表 土器観察表1

報告書番号	種別	出土地点	遺構番号	遺構種類	部位	法量		色調		調整・文様ほか		胎土	備考	
						口徑	底径	器高	外面	内面	外面			内面
451	縄文土器Ⅱa	Z30	SP9	深鉢	口縁部	(13.00)			外側	内側	ナデ、椀方向のナデ、顔面圧痕、スス付痕	椀方向のナデ、顔面圧痕、スス付痕	1～2mmの黒色針状くずほか、1mm以下の白色粉くず、そうい平高	
452	縄文土器Ⅱa	Z30	SP9	深鉢	底面		(4.10)		外側	内側	ナデ、顔面圧痕	ナデ、顔面圧痕	1mm以下の白色粉くずほか、黒色針状くずほか、そうい平高	
453	縄文土器Ⅱa	Z30	SP9	深鉢	口縁部				外側	内側	ナデ、椀・椀方向の溝痕、工具痕	ナデ、椀・椀方向の溝痕、工具痕	1mm以下の白色粉少、そうい平高、黒色針状くずほか、そうい平高	
454	縄文土器Ⅱa	Z30	SP9	深鉢	口縁部				外側	内側	ナデ、椀方向の顔面圧痕の一部スス付痕	ナデ、工具痕	2mm以上の褐色角礫くずほか、1～2mmの黒色針状多・白色粉少、そうい平高	
455	縄文土器Ⅱa	Z30	SP9	深鉢	口縁部				裏側	表側	ナデ、口徑近く椀方向の浅溝文	ナデ	2～3mmの白色角礫くずほか、1mm以下の白色粉くずほか、黒色針状くずほか、そうい平高	
456	縄文土器Ⅱb	B30	SP10	深鉢	胴部				外側	内側	椀方向の貝殻痕並文	椀方向の貝殻痕並文	2mm以上の黒色角礫少、1～2mmの白色粉くずほか、そうい平高	
457	縄文土器Ⅱb	Y28	SP11	深鉢	胴部				外側	内側	椀方向の条線文	ナデ	1～2mmの白色粉多、白色粉くずほか、そうい平高	胴部に粘土粒含みあり
458	縄文土器Ⅱa	Y28	SP11	深鉢	胴部				裏側	外側	ナデ、椀方向の工具痕	ナデ	2mm以上の白色角礫くずほか、1～2mmの黒色針状・黒色粉・白色粉多、そうい平高	
459	縄文土器Ⅱa	Y28	SP11	深鉢	口縁部				裏側	椀底	椀方向のナデ	ナデ	2mm以上の白色角礫くずほか、1～2mmの白色粉少・黒色針状少ほか、1mm以下の黒色針状くずほか、そうい平高	
460	縄文土器Ⅱa	Y28	SP11	深鉢	口縁部一部				外側	内側	ナデ、工具痕	ナデ、工具痕、顔面圧痕	2mm以上の白色角礫くずほか、そうい平高、1～2mmの黒色針状少、そうい平高、1～2mmの白色粉くずほか、そうい平高	
461	縄文土器Ⅱb	B30	SP10	深鉢	口縁部				表側	表側	ナデ、椀方向のナデ、非完成穿孔、一部スス付痕	椀方向のナデ、ナデ	1～2mmの白色粉少、1mm以下の黒色針状多、そうい平高	
462	縄文土器Ⅱa	C30	SP11	深鉢	胴部				明褐色	横	ナデ、スス付痕	ナデ	2mm以上の白色角礫少、1～2mmの片状・白色粉少、黒色針状くずほか、1mm以下の黒色針状くずほか、そうい平高	
463	縄文土器Ⅱb	C30	SP11	深鉢	胴部				表側	表側	椀方向の非完成並文、一部スス付痕、顔面	横・椀方向のナデ(顔面圧痕)、顔面圧痕、顔面	2mm以上の片状・白色角礫くずほか、1～2mmの黒色針状少、1mm以下の白色粉少、そうい平高	
464	縄文土器Ⅱd	C30	SP11	深鉢	口縁部一部				外側	内側	顔面圧痕(非完成の顔面圧痕)付、非完成の顔面圧痕(非完成の顔面圧痕)付、顔面圧痕	椀方向のナデ、一部椀方向の工具痕(顔面圧痕)付(調整不能)	2mm以上の白・褐色角礫くずほか、1～3mmの黒色針状少、1～2mmの白色粉少、そうい平高	
468	縄文土器Ⅱb	C24	IV	深鉢	胴部				表側	外側	椀方向のナデ、工具痕	椀方向のナデ、工具痕	2mm以上の白色角礫少、1～2mmの黒色針状多・白色粉くずほか、そうい平高	
469	縄文土器Ⅱa	B23	V	深鉢	口縁部一部				外側	内側	ナデ、椀方向のナデ(顔面圧痕)	椀方向のナデ	1～2mmの白色粉少・黒色針状くずほか、そうい平高、1mm以下の黒色針状くずほか、そうい平高、顔面圧痕	
490	縄文土器Ⅱa	B27	IV	深鉢	口縁部一部				外側	内側	ナデ	ナデ、工具痕	1～2mmの黒色針状少、そうい平高、1～2mmの白色粉少、そうい平高	
491	縄文土器Ⅱb	B25	S124	深鉢	胴部				明褐色	表側	椀方向の条線文	ナデ、顔面圧痕	2mm以上の白・褐色角礫くずほか、1～2mmの白色粉少・黒色針状少・黒色粉少ほか、そうい平高	
492	縄文土器Ⅱa	A23	II	深鉢	胴部				外側	内側	椀・椀方向の貝殻痕並文、顔面圧痕、一部並文	横・椀方向の貝殻痕並文、顔面圧痕、顔面	2mm以上の片状・白色角礫くずほか、1～2mmの黒色針状多、1mm以下の白色粉少、そうい平高	胴部に粘土粒含みあり
493	縄文土器Ⅱb	B28	V	深鉢	胴部				裏側	外側	椀方向の条線文、一部スス付痕	ナデ、工具痕、顔面圧痕の欠損による凹凸あり	1～2mmの白色粉少・黒色針状くずほか、そうい平高	
494	縄文土器Ⅱa	B24	V	深鉢	胴部				外側	内側	横・椀方向の貝殻痕並文、顔面圧痕、スス付痕、顔面	横・椀方向の条線、顔面圧痕、顔面	2mm以上の白色角礫くずほか、1mm以下の黒色針状多・白色粉少、そうい平高	
495	縄文土器Ⅱa	A25	IV	深鉢	胴部				外側	内側	椀方向の条線文、一部並文、一部並文、一部並文	椀方向のナデ、顔面圧痕、顔面	2mm以上の褐色角礫多・白色角礫少・褐色角礫くずほか、1～2mmの黒色針状少、そうい平高	胴部に粘土粒含みあり
496	縄文土器Ⅱb	B23	V	深鉢	口縁部一部				表側	表側	椀方向の条線文	ナデ、顔面圧痕	2mm以上の黒色針状くずほか、1～2mmの黒色粉多・白色粉くずほか、そうい平高	
497	縄文土器Ⅱa	A23	V	深鉢	口縁部一部				外側	内側	顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付	椀方向のナデ(黒色・褐色)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付	2mm以上の片状・白色角礫少、1～2mmの黒色針状多・白色粉多、そうい平高	
498	縄文土器Ⅱa	D27	IV	鉢	口縁部				外側	内側	椀方向の押し引き文、椀方向のナデ、顔面	椀方向の押し引き文、椀方向のナデ、顔面	2mm以上の白・褐色角礫多、1～2mmの黒色針状多・白色粉少、そうい平高	
499	縄文土器Ⅱa	D24	SZ1	深鉢	口縁部				表側	外側	椀方向の押し引き文、椀方向のナデ	ナデ(黒化済み)、一部並文	2mm以上の白色角礫少、1～2mmの黒色針状多・白色粉少、そうい平高	
500	縄文土器Ⅱa	A23	B24	V	深鉢	口縁部一部			外側	内側	顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付、顔面圧痕(椀方向のナデ)付	椀方向のナデ(黒化済み)	2mm以上の白色角礫少・黒色針状少、1～2mmの黒色針状多・白色粉多、そうい平高	
501	縄文土器Ⅱa	Y30	S127	深鉢	底面				外側	内側	ナデ	ナデ	2mm以上の片状くずほか、2mm以上の白色角礫多・褐色角礫少、そうい平高	
502	縄文土器Ⅱa	Z27	IV	深鉢	底面		(5.90)		明褐色	外側	ナデ(黒化済み)の工具痕、底面に顔面圧痕の欠損による凹凸	ナデ、工具痕(黒化済み)の工具痕、底面に顔面圧痕の欠損による凹凸	1～2mmの白色角礫少、そうい平高、黒色針状くずほか、そうい平高、1mm以下の白色粉少、そうい平高	
503	縄文土器Ⅱa	A23	V	深鉢	口縁部	(18.80)			赤褐色	暗褐色	椀方向のナデ	椀方向のナデ、顔面圧痕	2mm以上の白色角礫くずほか、1～2mmの黒色粉多・褐色角礫少・白色粉少ほか、そうい平高	
504	縄文土器Ⅱa	D26	V	深鉢	口縁部				外側	内側	ナデ	ナデ	2mm以上の白色角礫くずほか、1～2mmの黒色針状少・黒色粉少、1mm以下の白色粉少、そうい平高	
505	縄文土器Ⅱa	C25	V	深鉢	口縁部				赤褐色	赤褐色	ナデ	ナデ、顔面圧痕	5mm程度の褐色角礫1個、1～2mmの黒色針状少・褐色針状くずほか、1mm以下の白色粉少、そうい平高	
506	縄文土器Ⅱa	B25	IV	深鉢	口縁部一部				外側	内側	椀方向のナデ、ナデ、工具痕	椀方向のナデ、工具痕	1～2mmの黒色針状少・黒色粉少・白色粉くずほか、そうい平高	

第31表 土器観察表2

報告番号	種別 など	出土 層位	遺構 部位	器種	部位	法量			色調		調整・文様ほか		胎土 粒度・高度	備考	
						口径	底径	高さ	外面		内面				
									外面	内面	外面	内面			
507	縄文土器Ⅱa	C25	V	深鉢	口縁部 →胴部				灰黄褐色	灰黄褐色	ナデ、斜方向のナデ、 口縁部付近に一部深い 工具痕。一部窯変	横方向のナデ、縦筋 筋	1mm以下の黒色粒少・白色粒多、そろい平直	断面に粘土結合痕あり	
508	縄文土器Ⅱa	Z22	V	深鉢	胴部				灰褐色	にがい・赤褐色	縦方向のナデ	横方向のナデ	1～2mmの黒色粒少・白色粒わずか、そろい平直 1mmの黒色粒状わずか、そろい平直	断面に粘土結合痕あり	
509	縄文土器Ⅱa	S24	SP1	V	深鉢	ほぼ実形	11.15	7.05	15.73	にがい・赤褐色	にがい・赤褐色	横方向のナデ縦方向 のナデが、断面に25回 交互出現。一部窯変	横・縦、斜方向の工具ナ デ（底に一部深くて 交互出現）。一部窯変	2mm以上の乳白色角礫わずか、1～2mmの黒 色粒少、1mm以下の黒色粒状わずか、そろい平 直	
510	縄文土器Ⅱa	A26	V	深鉢	胴部				灰褐色	赤褐色	横、斜方向のナデ	斜方向の工具ナデ	2mm以上の白色角礫ごくわずか、1～2mmの 黒色粒状少・黒色粒少・白色粒少、そろい平直		
511	縄文土器Ⅱa	C25	V	深鉢	口縁部 →胴部				にがい・赤褐色	褐色	ナデ、穿孔	ナデ	1～2mmの黒色粒少・白色粒わずか・黒色粒状 ごくわずか、そろい平直		
512	縄文土器Ⅱa	B35	Ⅱ	深鉢	口縁部 →胴部				にがい・赤褐色	赤褐色	横方向のナデ、工具痕	ナデ	1～2mmの黒色粒少・白色粒わずか・黒色粒状 ごくわずか、そろい平直		
513	縄文土器Ⅱb	C25	V	深鉢	口縁部				褐色	にがい・赤褐色	斜方向の角礫条線	ナデ、横方向の角礫条 線縦斜方向の条線	1mm以下の白色粒多・黒色粒多・黒色粒状少、 そろい平直		
514	縄文土器Ⅱb	C25	V	深鉢	口縁部 →胴部				赤褐色	褐色	斜方向の角礫条線	ナデ、横方向の角礫条 線	2mm以上の白色角礫ごくわずか、1～2mmの 黒色粒多、1mm以下の白色粒少・黒色粒状わず か、そろい平直		
515	縄文土器Ⅱb	C25 D04	V	深鉢	口縁部 →胴部				褐色	褐色	斜方向の角礫条線	横、斜方向の角礫条線	2mm以上の褐色角礫ごくわずか、1mm以下の 白色粒多・黒色粒少・黒色粒状少、そろい平直		
516	縄文土器Ⅱb	C26 D06	V	深鉢	口縁部 →胴部				明赤褐色	明赤褐色	斜方向の角礫条線、一 部条線後縁方向のナデ 、垂直条線	横、斜方向の角礫条線、 一部条線後縁方向のナ デ、垂直条線	2mm以上の白色角礫わずか、1mm以下の黒色 粒多・白色粒多・黒色粒状少、そろい平直	断面に粘土結合痕あり	
517	縄文土器Ⅱc	Z27	V	Ⅱ	口縁部				褐色	褐色	口縁部に縦3列の刺 突文、ナデ	ナデ	1～2mmの黒色粒状少・白色粒少、そろい平直		
518	縄文土器Ⅱc	A23	V	深鉢	口縁部 →胴部				灰褐色	褐色	口縁部に「V」字状の 文様、横、斜方向のナ デ、一部ナデ角礫条線	横、斜方向の角礫条線、 工具による凹凸多量	2mm以上の白・黒色角礫少、1～2mmの黒色粒 多・黒色粒少、1mm以下の白色粒多、そろい 平直	断面に粘土結合痕あり	
519	縄文土器Ⅱc	A26	SZ1 Ⅱ	深鉢	口縁部				赤褐色	明赤褐色	口縁部に「V」字状 の文様、横、斜方向 のナデ	ナデ	2mm以上の白・黒色角礫ごくわずか、1～2 mmの黒色粒少・白色粒少・黒色粒少・若干こ とわずか、そろい平直		
520	縄文土器Ⅱa	A25	V	深鉢	胴部 →底部			17.00	にがい・赤褐色	にがい・赤褐色	ナデ、一部工具痕	ナデ、縦筋圧痕	1～2mmの黒色粒少・黒色粒状少・白色粒わず か、そろい平直		
521	縄文土器Ⅱa	A28	V	深鉢	口縁部				にがい・赤褐色	明赤褐色	ナデ、縦筋圧痕	斜方向のナデ、縦筋 筋	2mm以上の白色角礫少、そろい平直、1～2 mmの黒色粒状少、1mm以下の白色粒少、1mm以下の黒 色粒状ごくわずか、そろい平直		
522	縄文土器Ⅱa	D26	V	深鉢	口縁部				にがい・赤褐色	灰黄褐色	ナデ（黒化著しい）	斜方向のナデ（黒化著 しい）	1mm以下の白色粒わずか、そろい平直、黒色粒 状わずか、そろい平直		
523	縄文土器Ⅱa	D27	V	深鉢	口縁部				黒褐色	灰黄褐色	横、斜方向のナデ	ナデ（黒化著しい）	1～2mmの白色粒、黒色粒状わずか、そろい平 直、1mm以下の黒色粒わずか、そろい平直		
524	縄文土器Ⅱa	A05	V	深鉢	口縁部				灰黄褐色	灰黄褐色	ナデ、斜方向の工 具痕、黒筋	横、斜方向のナデ	2mm以上の白色粒少、1mm以下の白色粒少・黒 色粒状ごくわずか、そろい平直		
525	縄文土器Ⅱa	B04	V	深鉢	口縁部				灰黄褐色	灰黄褐色	横、斜方向のナデ、一 部スス付痕	横、斜方向のナデ	1mm以下の白色粒わずか・黒色粒状ごくわず か、そろい平直		
526	縄文土器Ⅱb	Y25	V	深鉢	胴部				褐色	黒褐色	縦方向のナデ、工具痕	ナデ	1～2mmの黒色粒状少・白色粒少・褐色粒わず か・黒色粒ごくわずか、そろい平直		
527	縄文土器Ⅱb	D27	V	深鉢	口縁部				にがい・赤褐色	にがい・赤褐色	口縁部に縦方向の角 礫条線、黒筋、割傷 著しい	ナデ、黒筋	2mm以上の白色角礫ごくわずか、1～2mmの 黒色粒状少、1mm以下の白色粒多、そろい平直		
528	縄文土器Ⅱb	D25	V	深鉢	口縁部				黒褐色	にがい・赤褐色	ナデ、口縁部に斜め 方向の角礫条線、割 傷著しい	ナデ、接合痕、割傷 著しい	2mm以上の白・褐色角礫ごくわずか、1～2 mmの黒色粒状少・若干少、1mm以下の若干少、 そろい平直		
529	縄文土器Ⅱb	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	口縁部				にがい・赤褐色	黒褐色	斜方向の条線（原料ま み）、工具痕が、穿孔 一部スス付痕、接合痕	横、斜方向のナデ	2mm以上の白色角礫少・褐色粒ごくわずか、1 ～2mmの黒色粒状わずか、白色粒少、そろい平 直		
530	縄文土器Ⅱb	Y22	V	深鉢	口縁部 →胴部				灰黄褐色	黒褐色	斜方向の条線、一部窯 変	ナデ、横方向のナデ、 工具痕、スス付痕	1～2mmの白色粒少・黒色粒状わずか、そろい 平直		
531	縄文土器Ⅱb	B25	IV	Ⅱ	口縁部 →胴部				黒褐色	黒褐色	口縁部に斜方向の角 礫条線、黒筋、割傷 著しい	横、斜方向の条線、黒 筋、縦筋圧痕	1～2mmの黒色粒状少、1mm以下の白色粒少、 そろい平直		
532	縄文土器Ⅱa	A25	V	深鉢	底部			5.50	明赤褐色	にがい・赤褐色	ナデ	ナデ（黒化著しい）	2mm以上の白色粒ごくわずか、1～2mmの白色粒 ・黒色粒状少、そろい平直		
533	縄文土器Ⅱa	C27	IV	Ⅱ	底部				褐色	にがい・赤褐色	ナデ	ナデ	1～2mmの白色粒少・若干ことわずか、1mm以 下の黒色粒状ごくわずか、そろい平直		
534	縄文土器Ⅱa	D26	V	深鉢	底部			16.00	明赤褐色	にがい・赤褐色	ナデ（黒化著しい）、縦 筋圧痕	ナデ、縦筋圧痕	2mm以上の若干ことわずか、1～2mmの白色粒 少・黒色粒状わずか、そろい平直		
535	縄文土器Ⅱa	B28	V	深鉢	底部				にがい・赤褐色	褐色	黒化著しく調整不明、 スス付痕	ナデ	1～2mmの白色粒多、1mm以下の黒色粒わず か、そろい平直		
536	縄文土器Ⅱc	C26	IV	Ⅱ	口縁部				褐色	にがい・赤褐色	口縁部に縦方向の角 礫条線、黒筋	ナデ	2mm以上の褐色角礫ごくわずか、1～2mmの 黒色粒状少・白色粒わずか、そろい平直		
537	縄文土器Ⅱc	C25	V	深鉢	口縁部 →胴部				にがい・赤褐色	褐色	口縁部に斜方向、横、 斜方向の工具ナデ、一 部窯変	横、斜方向の工具ナデ、 接合痕	1～2mmの黒色粒状わずか、1mm以下の白色粒少、 そろい平直		
538	縄文土器Ⅱc	A24	V	深鉢	口縁部				褐色	褐色	横方向のナデ、横方向 のナデ後3列の縦条線	ナデ、黒筋	1～2mmの黒色粒状少・白色粒少、そろい平直		
539	縄文土器Ⅱc	Z22	Ⅱ	Ⅱ	胴部				にがい・赤褐色	明褐色	山形刺突文	ナデ	1mm以下の白色粒多・黒色粒少・褐色粒わず か、そろい平直		

第32表 土器観察表3

報告番号	類別 など 構造	出土 地点	遺構 種別	各種	部位	法量		色調		調整・文様ほか		胎土	備考	
						口径	底径	高さ	外面	内面	外面			内面
540	縄文 土器 Ⅱa	D25	V	深鉢	胴部				にがい焼	横	横方向の山形押型文	ナデ	1～2mmの白色粒わずか、1mm以下の黒色針状ごくわずか、それい平良	
541	縄文 土器 Ⅱa	Y22	Ⅳ	鉢	胴部				焼	明確	山形押型文	ナデ	1mm以下の白色粒少々、褐色面片わずか、黒色針状ごくわずか、それい平良	
542	縄文 土器 Ⅱb	D23	Ⅲ	深鉢	胴部				明赤焼	焼	横方向のナデ（中央部のみ）、工具痕	ナデ	2mm以上の白色多量角礫わずか、1～2mmの白色粒少々、1mm以下の黒色針状少々、それい平良	断面に粘土結合痕あり
543	縄文 土器 Ⅱa	B27	V	深鉢	胴部				焼成	にがい焼	ナデ	2mm以上の褐色多量角礫ごくわずか、1mm以下の黒色針状少々、面片ごくわずか、それい平良		
544	縄文 土器 Ⅱの 付立	B31	Ⅳ	鉢	胴部				にがい焼	にがい焼	ナデ	5mmの黒色片1枚、1～2mmの面片ごくわずか、1mm以下の白色粒少々、黒色針状わずか、それい平良		
725	縄文 土器 Ⅱb	A28	SC16	Ⅱ	深鉢	口縁部 →胴部			焼	にがい焼	ナデ	2mm以上の白色多量角礫ごくわずか、1～2mmの白色粒わずか、1mm以下の黒色針状少々、それい平良		
726	縄文 土器 Ⅱb	A28	SC16	Ⅱ	深鉢	口縁部			にがい焼	にがい焼	横方向のナデ、変態	ナデ	2mm以上の白色多量角礫ごくわずか、1～2mmの白色粒少々、黒色針状わずか、面片ごくわずか、1mm以下の白色粒ごくわずか、それい平良	
727	縄文 土器 Ⅱb	Z18	SC11	Ⅱ	深鉢	口縁部			にがい焼	にがい焼	口縁部に工具痕、ナデ、貼付痕等	ナデ	1～2mmの面片、黒色針状、白色粒・黒色粒ごくわずか、それい平良	
728	縄文 土器 Ⅱb	Z30	SC19	Ⅱ	深鉢	口縁部	(25.40)		焼	にがい焼	ナデ、斜方向のナデ、貼付痕等、工具痕、一部スチヤ	ナデ	1～2mmの黒色粒ごくわずか、それい平良、黒色針状ごくわずか、1mm以下の白色粒ごくわずか、それい平良	
729	縄文 土器 Ⅱb	Z30	SC18	Ⅱ	深鉢	口縁部			にがい焼	明赤焼	横方向のナデ、貼付痕等	ナデ	1mm以下の面片わずか、白色粒わずか・黒色粒ごくわずか、それい平良	
730	縄文 土器 Ⅱb	C29	SC23	Ⅱ	深鉢	口縁部			明赤焼	明赤焼	ナデ、貼付痕等	ナデ	2mm以上の白色多量角礫ごくわずか、1～2mmの白色粒少々、面片ごくわずか、黒色針状ごくわずか、それい平良	
731	縄文 土器 Ⅱb	Z22	SE17	深鉢	口縁部				焼	焼	横・斜方向のナデ、貼付痕等、ナデ	ナデ	2mm以上の白色多量角礫ごくわずか、1～2mmの面片・白色粒少々、黒色針状ごくわずか、1mm以下の透明粒ごくわずか、それい平良	
732	縄文 土器 Ⅱb	Z28	SE12	深鉢	口縁部				焼	黒焼	ナデ、貼付痕等	ナデ	1～2mmの白色粒少々、黒色針状少々、黒色粒・面片ごくわずか、それい平良	
733	縄文 土器 Ⅱb	C28	S22	深鉢	口縁部				にがい焼	焼成	ナデ、斜方向のナデ、貼付痕等、工具痕、一部スチヤ	ナデ	2mm以上の白色多量角礫、面片ごくわずか、1～2mmの白色粒少々、黒色針状少々、それい平良	
734	縄文 土器 Ⅱb	C28	S22	深鉢	口縁部				にがい焼	焼成	ナデ、斜方向のナデ、貼付痕等、工具痕、一部スチヤ	ナデ	2mm以上の白色粒少々、白色粒少々、黒色針状、黒色粒、面片、それい平良	
735	縄文 土器 Ⅱb	B29	S23	Ⅱ	深鉢	口縁部			にがい焼	反焼	横方向のナデ、工具痕、変態	横方向のナデ、工具痕	1～2mmの黒色針状少々、白色粒少々、それい平良	
736	縄文 土器 Ⅱb	Z20	Ⅱ	鉢	口縁部				反焼	焼成	ナデ、工具痕、斜向貼付痕等、スチヤ	ナデ、黒焼	1～2mmの面片、白色粒少々、1mm以下の黒色粒わずか、それい平良	
737	縄文 土器 Ⅱb	B26	Ⅱ	深鉢	口縁部 →胴部	(46.60)			明焼	暗焼	ナデ、口縁部に変態、工具による横方向の軌跡・ナデ	ナデ	1～2mmの黒色針状少々、白色粒少々、それい平良	
738	縄文 土器 Ⅱb	B29	S23	Ⅱ	深鉢	口縁部			反焼	反焼	ナデ、横・斜方向の文	ナデ	1mm以下の白色粒少々、黒色針状わずか、それい平良	
739	縄文 土器 Ⅱb	C27	Ⅲ	鉢	胴部				にがい焼	焼成	横・斜方向の文、スチヤ、一部黒焼	ナデ	1mm以下の白色粒少々、黒色粒わずか、それい平良	断面に粘土結合痕あり
740	縄文 土器 Ⅱb	Z18	SC11	Ⅱ	深鉢	底部	(9.40)		にがい焼	にがい焼	ナデ、部分的に黒焼	ナデ	2mm以上の白色多量角礫ごくわずか、1～2mmの白色粒、黒色粒・透明粒・白色粒ごくわずか、それい平良	
741	縄文 土器 Ⅱb	C29	SC25	深鉢	底部		(10.00)		にがい焼	焼	ナデ、指窪印	ナデ、工具痕	2mm以上の面片ごくわずか、1～2mmの白色粒わずか、それい平良	
742	縄文 土器 Ⅱb	C26	I	深鉢	底部		(9.80)		にがい焼	焼成	横方向のナデ、工具痕	ナデ	1～2mmの白・灰・黒色粒少々、1mm以下の黒色針状ごくわずか、それい平良	
743	縄文 土器 Ⅱb	B26	SC2	深鉢	底部		(8.00)		焼	にがい焼	ナデ、黒焼	ナデ	2mm以上の白色多量角礫ごくわずか、1～2mmの白色粒少々、面片わずか・黒色針状ごくわずか、それい平良	
744	縄文 土器 Ⅱb	Z30	SC19	Ⅱ	深鉢	底部	(11.00)		にがい焼	にがい焼	ナデ、指窪印、縁合痕	ナデ	1～2mmの白色粒少々、黒色粒少々、面片わずか、黒色針状ごくわずか、それい平良	
745	縄文 土器 Ⅱb	A28	SC16	Ⅱ	深鉢	底部			にがい焼	にがい焼	ナデ	1～2mmの黒色粒少々、面片ごくわずか、黒色針状ごくわずか、1mm以下の白色粒ごくわずか、それい平良		
746	縄文 土器 Ⅱb	Z30	SC19	Ⅱ	深鉢	底部	(10.00)		にがい焼	にがい焼	ナデ、工具痕	ナデ	1～2mmの白色粒わずか、それい平良、黒色針状ごくわずか・黒色粒ごくわずか、それい平良	
747	縄文 土器 Ⅱb	B26	Ⅱ	深鉢	口縁部 →胴部				焼	にがい焼	横方向の条線、口縁部には反焼成、スチヤ	横方向のナデ、指窪印	2mm以上の白色・白色多量角礫ごくわずか、1mm以下の黒色粒わずか、それい平良	
748	縄文 土器 Ⅱb	I	鉢	胴部	胴部				にがい焼	反焼	縁合痕?	ナデ	1～2mmの面片、白色粒少々、1mm以下の黒色針状わずか、それい平良	
749	縄文 土器 Ⅱb	A28	SC16	Ⅱ	深鉢	口縁部 →胴部			にがい焼	焼成	横方向のナデ、貼付痕等、スチヤ	横方向のナデ	2mm以上の褐色・黒色多量角礫ごくわずか、1～2mmの黒色針状・黒色粒・面片ごくわずか、1mm以下の白色粒ごくわずか、それい平良	
750	縄文 土器 Ⅱb	Z18	SE18	深鉢	胴部				黒焼	にがい焼	横方向の条線文、縁合痕、スチヤ	横方向の条線文	2mm以上の白・褐色多量角礫わずか、1～2mmの黒色粒少々、白色粒少々、面片ごくわずか、それい平良	
751	縄文 土器 Ⅱb	B27	SC13	Ⅲ	ほぼ円形		32.50	20.70	にがい焼	反焼	切跡、口縁部・底面に反焼成、中央部縁部に反焼成、口縁部、底面にスチヤ	横・斜方向の条線、ナデ（縁合痕）、スチヤ、黒焼、黒焼	2mm以上の白色多量角礫、褐色粒わずか、1～2mmの黒色針状少々、白色粒、それい平良	
752	縄文 土器 Ⅱb	A28	SC16	Ⅱ	深鉢	口縁部			にがい焼	黒焼	とがき、赤褐色斜付痕、一部黒焼	横方向のとがき、赤褐色斜付痕	1mm以下の白色粒わずか・黒色針状ごくわずか、それい平良	

第33表 土器観察表4

報告番号	類別 など	出土 地点	遺構 部位	器種	部位	法量				色調		調整・文様ほか		胎土		備考		
						口径		底径	高さ	外面	内面	外面	内面	粒径・色調・量・高度				
						口径	底径											
753	縄文土器 土器類	D25	II	鉢	口縁部													
754	縄文土器 土器類	Z2B	SE12	鉢	口縁部 一断面													断面に粘土層含みあり
755	縄文土器 土器類	C29	SC23 II	鉢	口縁部													
756	縄文土器 土器類	A26	S21	浅鉢	口縁部													
757	縄文土器 土器類	Z30	SC19	II	口縁部													
758	縄文土器 土器類	B26	IV	ほぼ 定形	ほぼ定形	19.50		9.20	灰青褐色	灰青褐色								
759	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	胴部 一断面		2.90		にがい青褐色	青								
760	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	胴部 一断面		14.00			黄褐色	黄褐色							
761	弥生土器	D06	SA1 SM1	Ⅲ	胴部 一断面 付託				にがい青褐色	灰青褐色								
762	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	胴部		14.00		灰青褐色	にがい青褐色								
763	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	小型 土器		(5.90)	(3.00)	にがい青褐色	明黄褐色								手捏土器
764	弥生土器	D27	SM2	Ⅲ	胴部 一断面				にがい青褐色	灰青褐色								
765	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	口縁部 一断面		(14.20)	3.40	13.70	青	青							
766	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	口縁部 一断面		(11.40)	4.30	17.50	青	青							
767	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	口縁部 一断面		4.00			黄褐色	黄褐色							
768	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	ほぼ定形		(11.80)	3.90	14.40	青	にがい青褐色							
769	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	底部			4.80		青	青							
770	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	底部			4.30		青	青							
771	弥生土器	D06	SA1	Ⅲ	口縁部 一断面		10.30	3.70	11.50	にがい青褐色	にがい青褐色							
777	弥生土器	D27	SM1	Ⅲ	口縁部				にがい青褐色	にがい青褐色								
778	弥生土器	D27	SM1 SM2	Ⅲ	底部			(4.70)	にがい青褐色	にがい青褐色								
779	弥生土器	D27	SM1	Ⅲ	胴部 一断面			(5.65)	にがい青褐色	青								
780	弥生土器	D27	SM1 SM2	Ⅲ	胴部 一断面			(3.50)	浅黄褐色	浅黄褐色								
786	弥生土器	C26	SC4	Ⅲ	口縁部 一断面		(16.40)		にがい青褐色	にがい青褐色								
787	弥生土器	C29	SC21	Ⅲ	口縁部		(6.50)	2.40	13.60	明黄褐色	青							
788	弥生土器	C26	SC4	Ⅲ	口縁部 一断面		(25.70)			青	浅黄褐色							
789	弥生土器	A29	SC20	Ⅲ	高坪 坏部					青	青							
790	弥生土器	C29	SC21	Ⅲ	底部				にがい青褐色	明黄褐色								
791	弥生土器	C29	SC21	Ⅲ	底部			(5.70)	にがい青褐色	明黄褐色								
792	弥生土器	D28	II	Ⅲ	胴部 一断面			(6.80)	にがい青褐色	青								
793	弥生土器	D08	II	Ⅲ	口縁部 一断面				にがい青褐色	にがい青褐色								
794	弥生土器	D08	II	Ⅲ	胴部 一断面			5.80	にがい青褐色	青								

第34表 土器観察表5

報告書 番号	種別 など	出土 地点	遺構 部位	部材 部位	法量		色調		調整・文様ほか		胎土		備考		
					口径	高さ	器高	外面	内面	外面	内面	軽石・色調・量・陶次第			
														器底	器底
795	弥生 土器	C27	I	底	底面	(10.20)			焼	明褐色	ナデ、工具痕、深くて 大赤い凹みあり。器高 部	横方向のナデ（黒化さ ま）。底面付近に横方 向の工具痕	横方向のナデ（黒化さ ま）。底面付近に横方 向の工具痕	2mm以上の灰色変異層少。褐色変異層わずか。 1～2mmの褐色粒少。そろい不具	
796	弥生 土器	C28	I	鉢	胴部 ～底面		2.80	にぶい焼	にぶい焼	斜方向のナデ（黒化さ ま）。底面付近に横方 向の工具痕	斜方向のナデ（黒化さ ま）。底面付近に横方 向の工具痕	2mm以上の白・灰・褐色変異層少。灰けわずか。 1～2mmの褐色粒少。そろい不具			
802	弥生 土器	SH I		つまみ				黒焼	褐色	磨転ナデ。自然釉。捺 合痕	磨転ナデ。自然釉。捺 合痕	1mm以下の白色粒ごくわずか。そろい不具			
803	土器	C28	SZ2	皿	口縁部 ～底面		1.50	焼	焼	ナデ。糸切り底	磨転ナデ	1mm以下の褐色粒わずか。白色粒・褐色粒状こ くわずか。そろい不具			
804	青銅			小皿	口縁部 ～体部	(11.20)		明緑灰	オリーブ灰	磨転。彫刻文	磨転	精良。胎土色は灰白			
805	青銅			俵	体部			オリーブ灰	オリーブ灰	磨転。縁部分文	磨転	精良。胎土色は灰白	(14c～19c)		
806	青銅	C28	SZ2	瓶	口縁部 ～体部	(11.25)		淡青	淡青	磨転。貫入。縁部捺 合文	磨転。貫入	精良。胎土色は灰白			
807	青銅	C28	SZ2	皿	口縁部 ～底面	(11.30)	(5.25)	2.45	オリーブ灰	オリーブ灰	磨転。口縁部捺合文。 貫入。貫入	磨転。貫入。輪郭分 文	精良。1mm以下の褐色粒少。そろい不具。胎土 色は灰白	検定目 (15c 部～16c 中)	
808	青銅	IV		皿	口縁部 ～体部	(14.60)		灰オリーブ	灰	磨転。貫入	磨転。貫入	精良。胎土色は灰	検定目 (15c 部～16c 中)		
809	青銅	629	SZ3	瓶	口縁部 ～体部	(13.70)		オリーブ灰	灰オリーブ	磨転。縁かい貫入	磨転。縁かい貫入	精良。胎土色は灰	検定目 (15c～16c)		
810	青銅	Y27	SH	瓶	底面		5.20	オリーブ灰	オリーブ灰	磨転。貫入。貫入。器 内凹みや歪みなど多 く磨転痕。褐色粒付	磨転。貫入	精良。胎土色は灰	検定目 最大厚は7.5mm 最小厚は3.5mm。(14c～ 15c 部)。器内径で磨転		
811	青銅	C28	SZ1 SZ2	俵	口縁部 ～体部	(18.00)		灰	灰オリーブ	磨転。貫入	磨転。貫入。捺合文か	精良。胎土色は灰白			
812	青銅	C28	SZ1	俵	体部 ～底面	4.40		明緑灰	明緑灰	磨転。体部に花文。貫 入。器内凹み「糸巻 痕」の跡	磨転。反応に花文の文 様	精良。胎土色は灰白	(16c～17c)		
813	青銅	A26	SZ1	俵	体部 ～底面			明緑灰	明緑灰	磨転。体部に梅花文	磨転	精良。胎土色は灰白			
814	青銅	C28	SZ2	俵	体部 ～底面	(5.87)		明緑灰	明緑灰	磨転。体部に葉草文 貫入	磨転。反応に文様	精良。胎土色は灰白			
815	白銅	C28	SZ2	瓶	口縁部			灰白	灰白	磨転	磨転	精良。1mm以下の褐色粒。胎土色は灰白	検定目 (14c～16c)		
816	天目	B30	SH	瓶	口縁部 ～体部	(11.15)	(4.05)	6.05	にぶい焼	黒	磨転。磨転。黒色の 下の差が表出している	磨転	2mm以上の褐色変異層ごくわずか。1～2mmの 褐色粒少。そろい不具。胎土色は灰白		
817	陶器	B29	SH SZ3	俵	口縁部 ～体部	(36.40)		明焼	焼	ナデ。一部スス付	横・斜方向のナデ。口 縁部に輪郭分文	横・斜方向のナデ。口 縁部に輪郭分文	横・斜方向のナデ。口 縁部に輪郭分文	2mm以下の白色変異層わずか。1mm以下の 褐色・灰白粒少。そろい不具	
818	陶器		SH I	磨鉢	口縁部			黒焼	灰黒焼	磨転ナデ	磨転ナデ	磨片ごくわずか。1mm以下の白色粒少。そろい 不具	検定目		
819	陶器	A26	SH	磨鉢	口縁部 ～体部	(27.20)		明黄焼	明黄焼	ナデ。磨転ナデ	横方向のナデ。七条の 磨目	横方向のナデ。七条の 磨目	1～2mmの白色粒ごくわずか。そろい不具	検定目 (明石・磨)	
820	陶器		磨鉢	体部 ～底面				にぶい赤焼	にぶい赤焼	ナデ。スス付	磨転ナデ。十条の磨目	磨転ナデ。十条の磨目	2mm以上の白色変異層ごくわずか。1～2mmの 磨片ごくわずか。1mm以下の白色粒多。そろい 不具	検定目	
821	陶器	南1	磨鉢	体部 ～底面	(10.40)			灰焼	にぶい焼	磨片ナデ。十一条の磨 目。自然釉	磨転ナデ。十一条の磨 目。自然釉	磨転ナデ。十一条の磨 目。自然釉	精良。1mm以下の白色粒	検定目	
								最大径	最大径	最大径	重量	色調			
822		A26	SZ1	土鉢	土鉢	3.70	1.40	1.35	7.90	にぶい黄焼					
823		C28	SZ2	土鉢	土鉢	4.20	1.30	1.25	7.20	にぶい黄焼					
824		C28	SZ2	土鉢	土鉢	3.20	1.58	1.30	5.90	にぶい黄焼					
825			土鉢	土鉢	土鉢	3.75	1.35	1.30	6.00	にぶい黄焼					
826		A26	V	土鉢	土鉢	4.60	1.40	1.32	8.40	にぶい黄焼					
827		B26	I	土鉢	土鉢	2.80	1.25	1.10	3.50	にぶい赤焼					
828			土鉢	土鉢	土鉢	3.00	1.30	1.20	4.40	焼					
829		SH I		土鉢	土鉢	4.80	1.25	1.20	7.00	焼					

第35表 土器・陶磁器・土鉢観察表



横断面 : 0.4mm
1. A区 No4 トガサワラ



放射断面 : 0.1mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.4mm
2. A区 No5 トガサワラ



放射断面 : 0.1mm



接線断面 : 0.2mm



横断面 : 0.4mm
3. B区 No4 アサダ



放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm

山田遺跡の炭化材



1 ツブラジイ子葉



2 ツブラジイ子葉

10mm



3 コウゾ種子

0.1mm



4 サンショウ属種子

1.0mm



5 クマノミズキ核



6 クマノミズキ核



7 クマノミズキ核

10mm



8 カヤツリグサ科? 果実

0.5mm



9 タデ属果実



10 タデ属果実



11 タデ属果実

0.5mm



12 アカネ科? 種子

0.5mm

山田遺跡の炭化種実



旧石器時代Ⅰ期 Z26G炭化物集中部1



旧石器時代Ⅰ期 統合資料Ⅰ-③出土状況



旧石器時代Ⅰ期 遺物番号33出土状況



旧石器時代Ⅰ・Ⅱ期 D27G出土状況



旧石器時代Ⅰ・Ⅱ期 A21G出土状況



旧石器時代Ⅱ期 礫群



旧石器時代Ⅲ期 D28G礫層出土状況



旧石器時代Ⅲ期 1号礫群と礫層石器ブロック



旧石器時代Ⅲ期 2号礫群と石器ブロック



旧石器時代Ⅲ期 2号礫群



旧石器時代Ⅲ期 3号礫群



旧石器時代Ⅲ期 4号礫群



旧石器時代Ⅲ期 5号・6号礫群



旧石器時代Ⅲ期 7号礫群



旧石器時代Ⅲ期 D26G出土状況①



旧石器時代Ⅲ期 D26G出土状況②



旧石器时代Ⅲ期 D25G炭化物集中部



旧石器时代Ⅲ期 D25G炭化物①



旧石器时代Ⅲ期 D25G炭化物②



旧石器时代Ⅲ期 Z22G炭化物集中部 2



旧石器时代Ⅳ期 1号陥し穴状遺構



旧石器时代Ⅳ期 2号陥し穴状遺構



旧石器时代Ⅳ期 6号陥し穴状遺構



旧石器时代Ⅳ期 7号陥し穴状遺構①



旧石器時代Ⅳ期 7号陥し穴状遺構②



縄文時代早期 D24GIV層散礫



縄文時代早期 集石遺構第1グループ検出



縄文時代早期 1号集石遺構



縄文時代早期 2号・3号集石遺構



縄文時代早期 2号集石遺構



縄文時代早期 4号・5号集石遺構



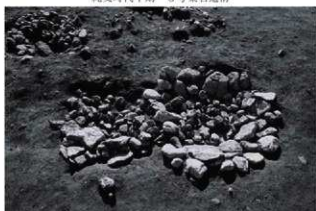
縄文時代早期 4号・5号集石遺構配石



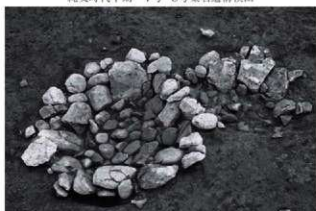
縄文時代早期 6号集石遺構



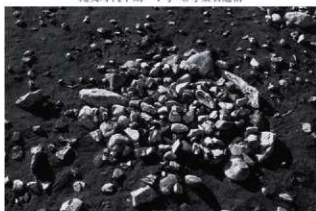
縄文時代早期 7号・8号集石遺構検出



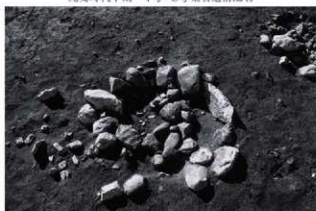
縄文時代早期 7号・8号集石遺構



縄文時代早期 7号・8号集石遺構配石



縄文時代早期 9号集石遺構



縄文時代早期 9号集石遺構配石



縄文時代早期 10号・11号・12号集石遺構



縄文時代早期 11号・12号集石遺構配石



縄文時代早期 10号集石遺構配石



縄文時代早期 13号・14号集石遺構



縄文時代早期 13号集石遺構配石



縄文時代早期 15号集石遺構



縄文時代早期 15号集石遺構配石



縄文時代早期 17号集石遺構



縄文時代早期 17号集石遺構配石



縄文時代早期 19号・20号集石遺構配石



縄文時代早期 21号集石遺構



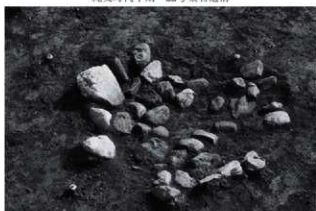
縄文時代早期 21号集石遺構配石



縄文時代早期 22号集石遺構



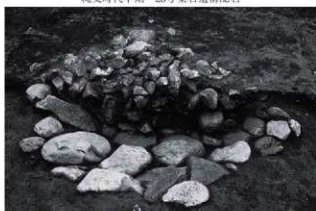
縄文時代早期 22号集石遺構配石



縄文時代早期 23号集石遺構配石



縄文時代早期 24号集石遺構



縄文時代早期 25号集石遺構



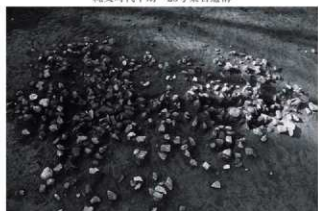
縄文時代早期 25号集石遺構配石



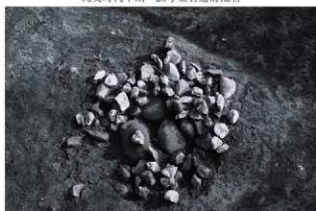
縄文時代早期 26号集石遺構



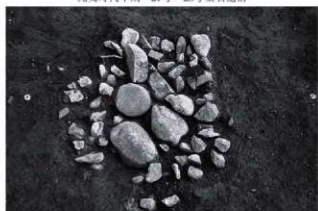
縄文時代早期 26号集石遺構配石



縄文時代早期 27号・28号集石遺構



縄文時代早期 29号集石遺構



縄文時代早期 29号集石遺構配石



縄文時代早期 31号集石遺構配石断面



縄文時代早期 31号・32号集石遺構



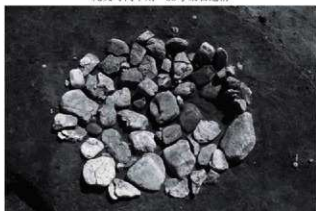
縄文時代早期 31号・32号集石遺構配石



縄文時代早期 33号集石遺構



縄文時代早期 34号集石遺構



縄文時代早期 34号集石遺構配石



縄文時代早期 34号集石遺構配石断面



縄文時代早期 36号集石遺構



縄文時代早期 37号集石遺構配石



縄文時代早期 38号集石遺構



縄文時代早期 38号集石遺構配石



縄文時代早期 39号・40号集石遺構



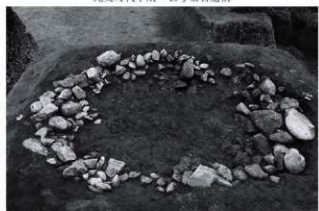
縄文時代早期 39号集石遺構配石



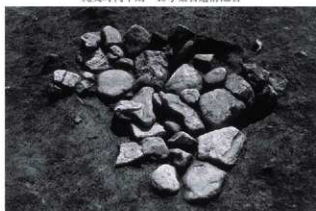
縄文時代早期 40号集石遺構



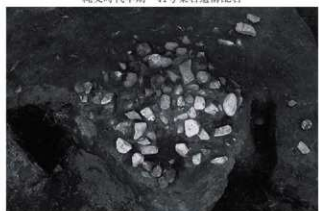
縄文時代早期 40号集石遺構配石



縄文時代早期 41号集石遺構配石



縄文時代早期 42号集石遺構配石



縄文時代早期 43号集石遺構



縄文時代早期 44号集石遺構



縄文時代早期 1号炉穴群完掘



縄文時代早期 1号炉穴群焼土



縄文時代早期 2号炉穴群北部検出



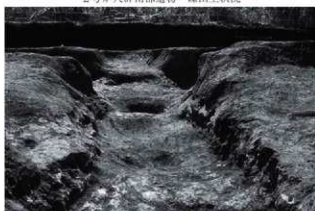
縄文時代早期 2号炉穴群北部完掘



2号炉穴群南部遺物・焼土状況



縄文時代早期 2号炉穴群南部完掘



2号炉穴群南部 焼土の段構造



縄文時代早期 4号炉穴群完掘



5号炉穴群遺物・確出土状況



8号炉穴群と2号円形配石遺構



9号炉穴群遺物・確出土状況



9号炉穴群完掘



9号炉穴群ブリッジ検出



10号炉穴群完掘



11号炉穴群上面確出土状況



11号炉穴群完掘



縄文時代早期 1号円形配石遺構



縄文時代早期 1号円形配石遺構完掘



縄文時代早期 2号円形配石遺構



2号円形配石断面C-D



2号円形配石断面E-F



縄文時代早期 3号円形配石遺構



縄文時代早期 4号円形配石遺構



縄文時代早期 壑穴状遺構



V層検出 陥し穴



VI層検出 ビットを伴う16号土坑



弥生時代 壑穴住居跡・1・2号周溝墓検出



弥生時代 2号周溝墓検出



弥生時代 1号周溝墓主体部完掘



弥生時代 2号周溝墓完掘



弥生時代 土壙墓分布状況



弥生時代 1号土壙墓完掘



1号円溝墓副溝上の土塚墓 (SM3) 完掘



弥生時代 3号土塚墓完掘



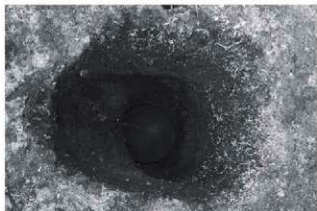
5号土塚墓 段構造確認状況



弥生時代 5号土塚墓完掘



中世 掘立柱建物跡



掘立柱建物跡柱穴 傘状石製品出土状況



中世 6号溝状遺構



中世 11号溝状遺構



中世 17号溝状遺構



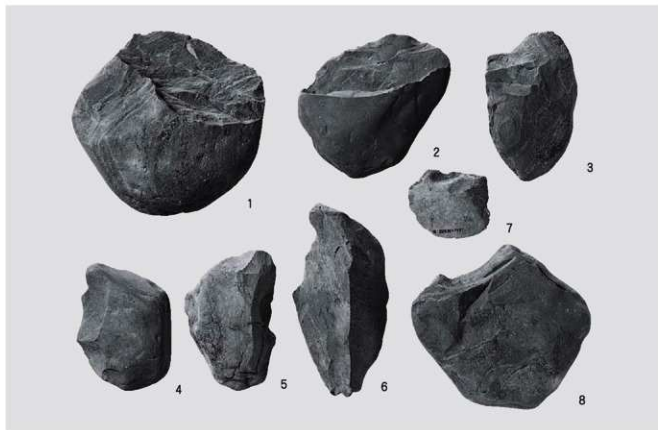
2号不明遺構



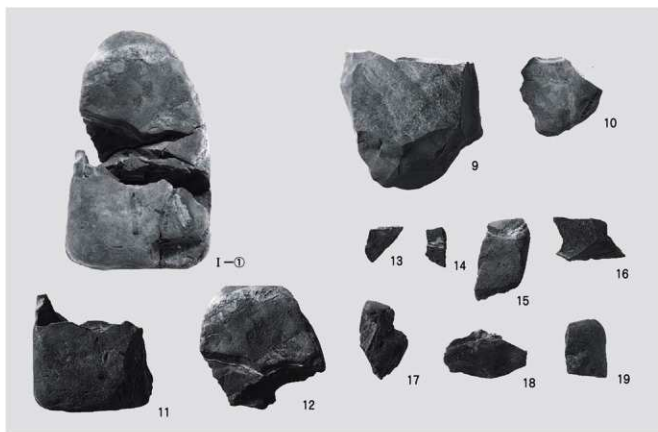
3号不明遺構



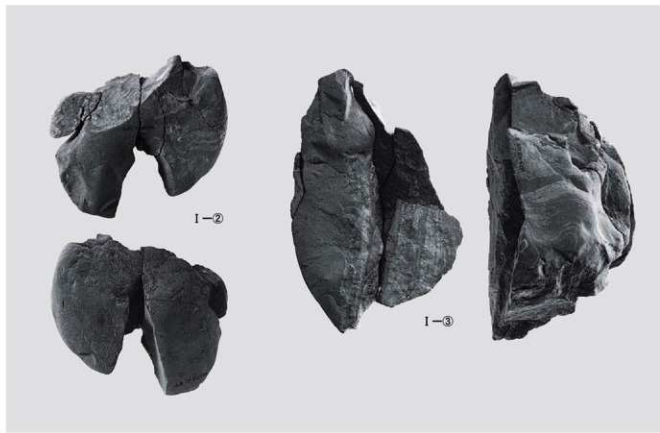
4・5・6号不明遺構



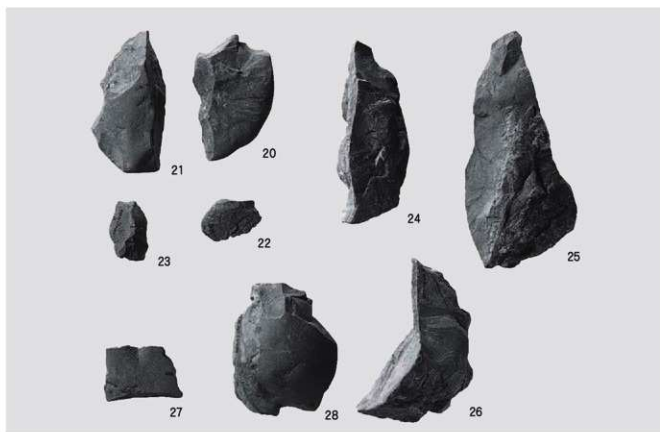
旧石器時代 I 期遺物 (1~8)



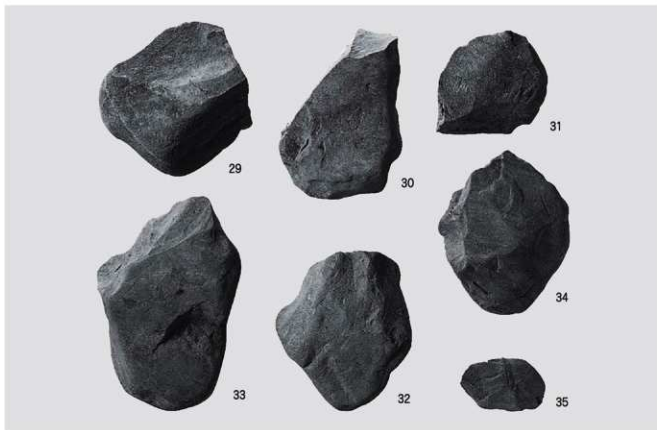
接合資料 I-①・旧石器時代 I 期遺物 (9~19)



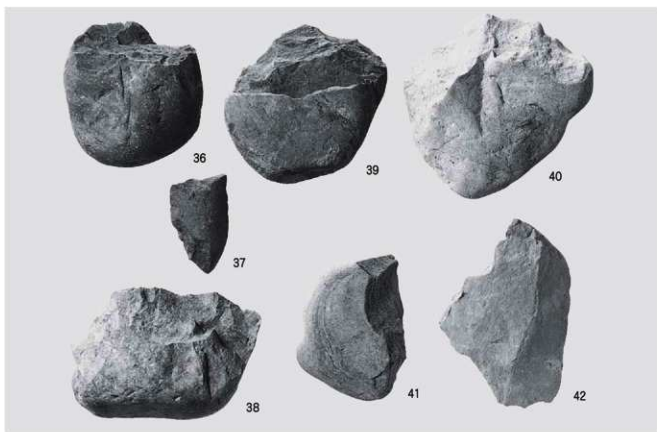
接合資料 I-2、I-3



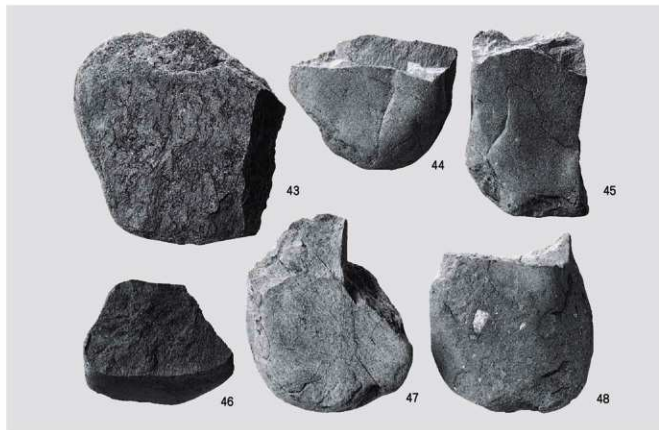
旧石器時代 I 期遺物 (20~28)



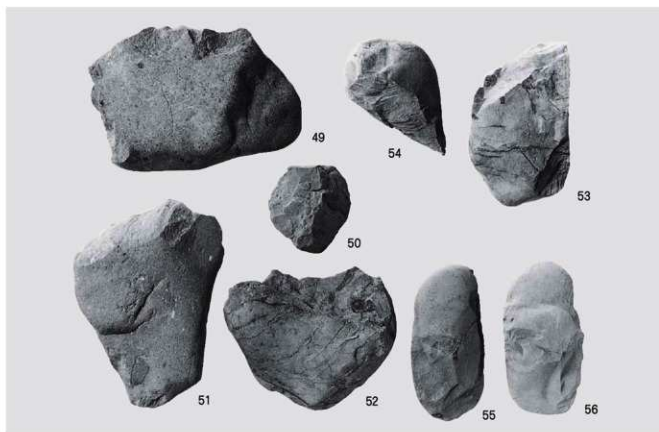
旧石器時代 I 期遺物 (29~35)



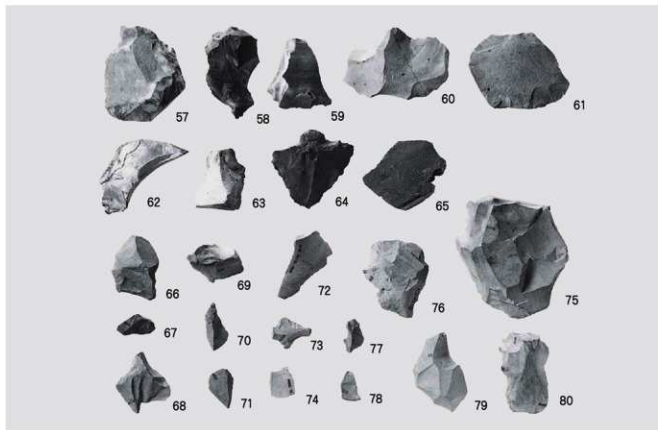
旧石器時代 I 期遺物 (36~42)



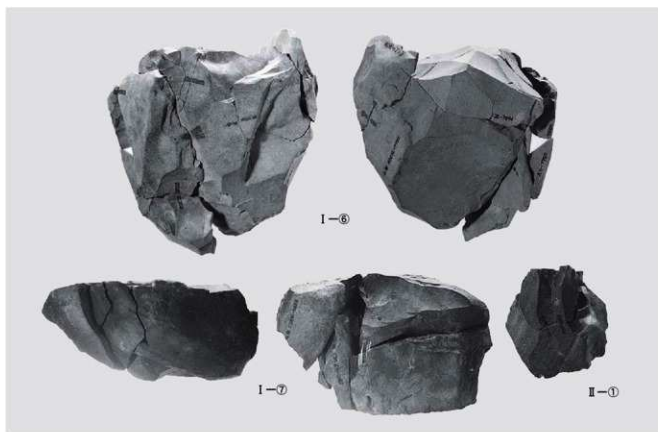
旧石器時代 I 期遺物 (43~48)



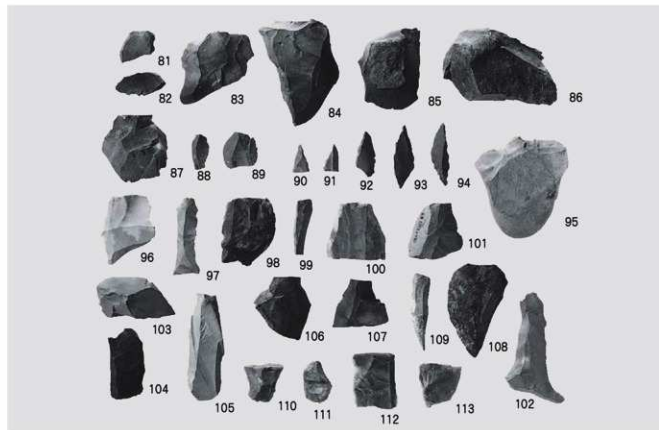
旧石器時代 I 期遺物 (49~56)



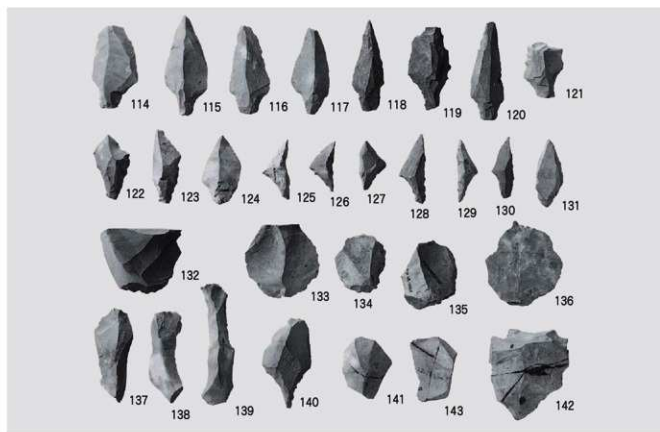
旧石器時代Ⅰ期遺物（57～80）



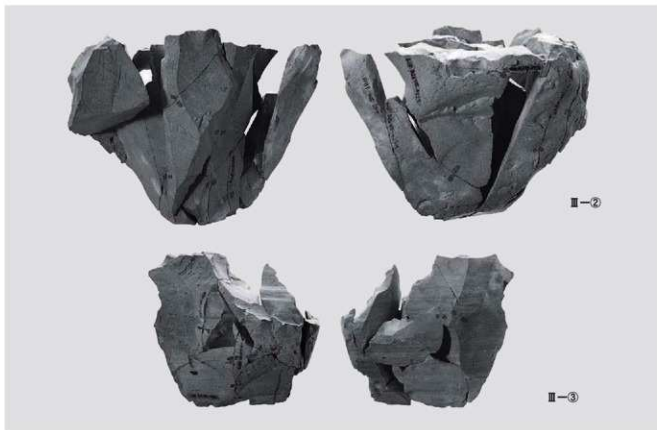
接合資料Ⅰ-⑥、Ⅰ-⑦、接合資料Ⅱ-①



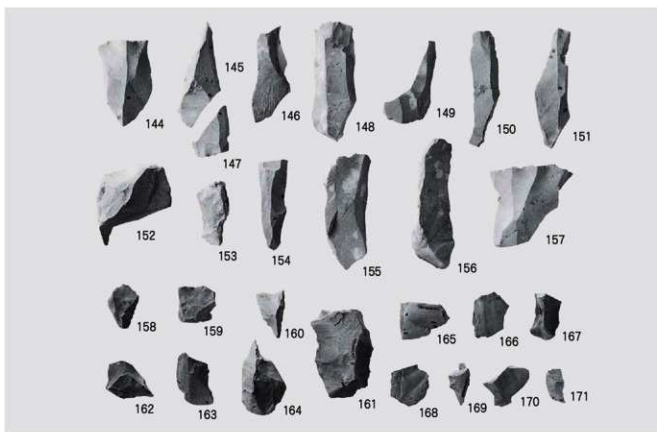
旧石器時代Ⅰ期遺物(81~86)・Ⅱ期遺物(87~113)



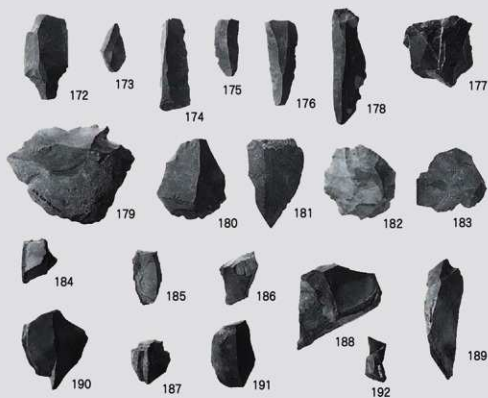
旧石器時代Ⅲ期遺物(114~143)



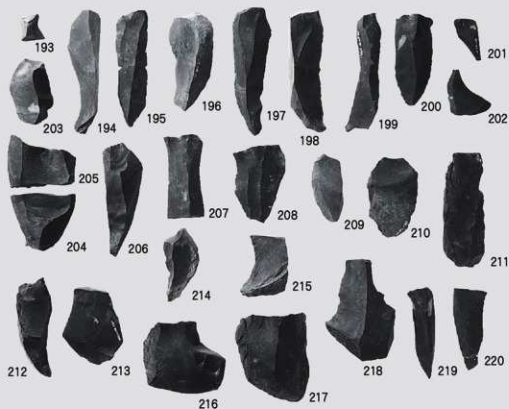
接合資料Ⅲ-②、Ⅲ-③



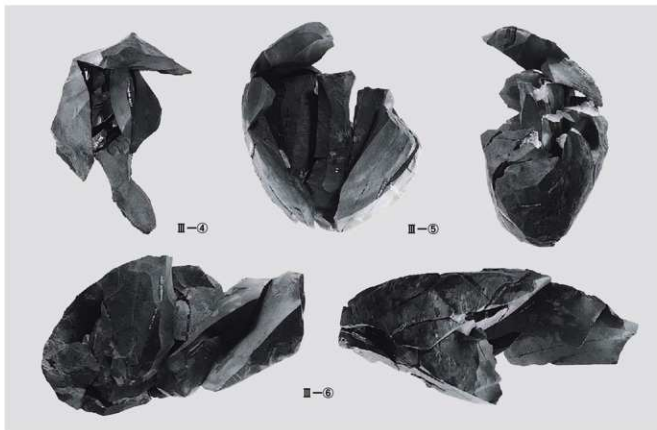
旧石器時代Ⅲ期遺物 (144~171)



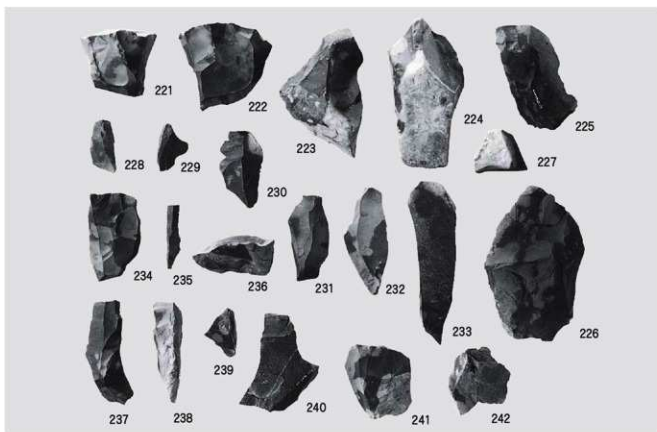
旧石器時代Ⅲ期遺物 (172~192)



旧石器時代Ⅲ期遺物 (193~220)



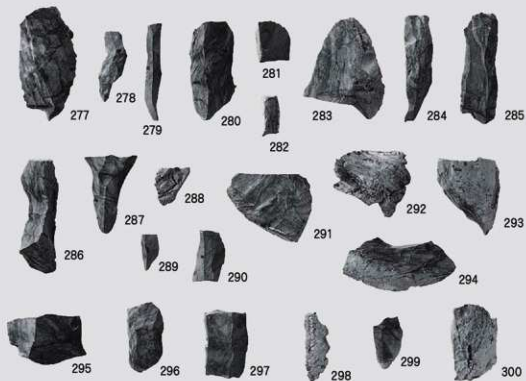
接合資料Ⅲ-④、Ⅲ-⑤、Ⅲ-⑥



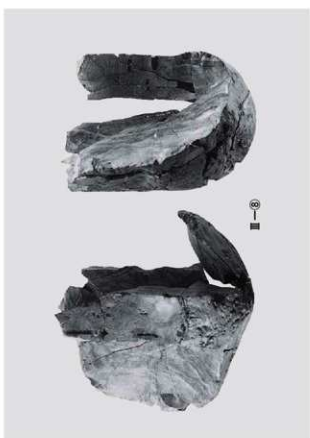
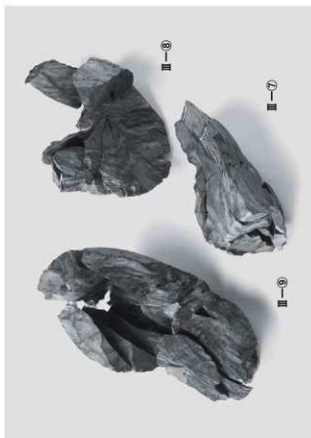
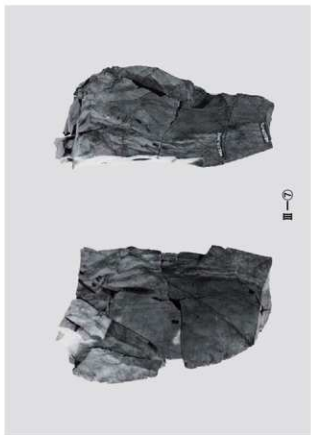
旧石器時代Ⅲ期遺物 (221~242)

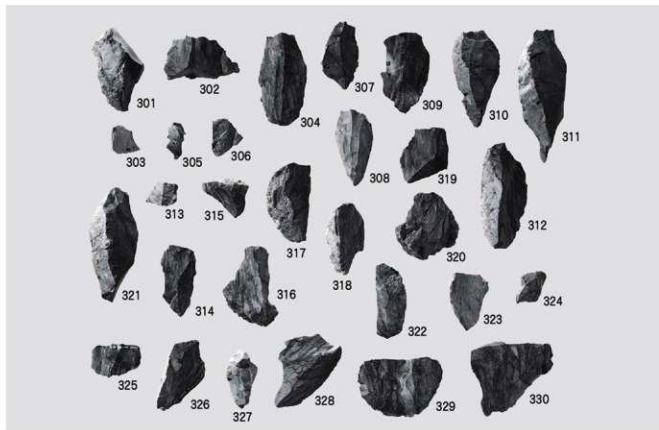


旧石器時代Ⅲ期遺物 (243~276)



旧石器時代Ⅲ期遺物 (277~300)

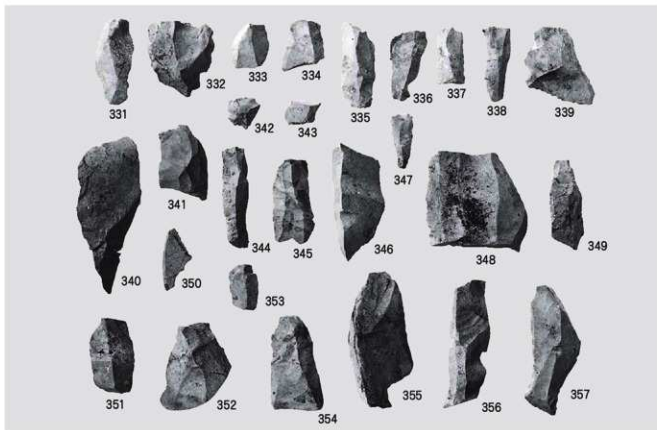




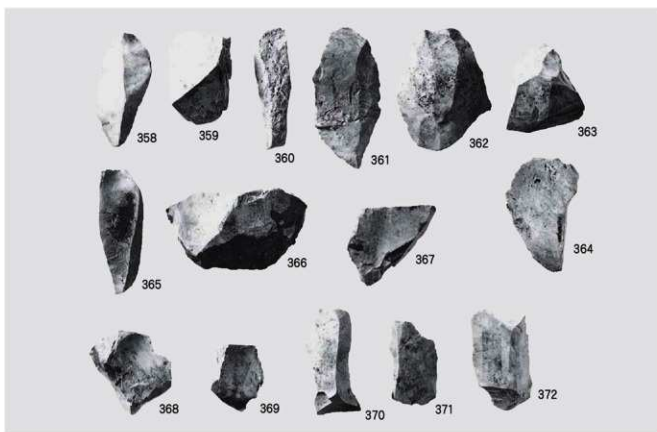
旧石器時代Ⅲ期遺物 (301～330)



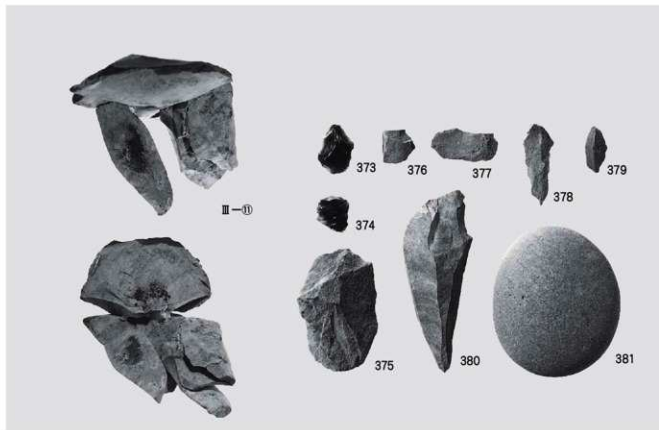
接合資料Ⅲ-⑩



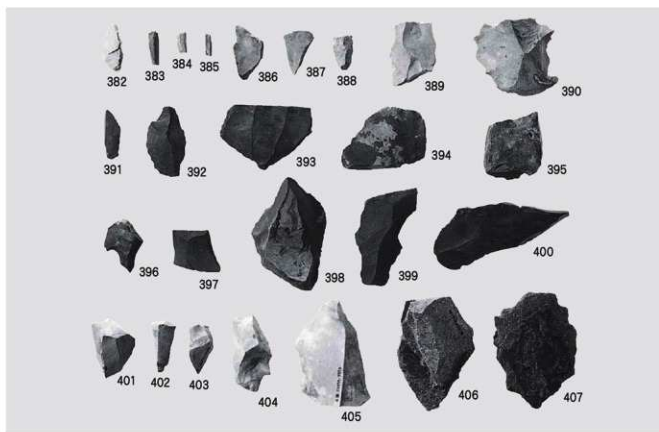
旧石器時代Ⅲ期遺物 (331~357)



旧石器時代Ⅲ期遺物 (358~372)



接合資料Ⅲ-①・旧石器時代Ⅲ期遺物 (373~381)



旧石器時代Ⅳ期遺物 (382~407)